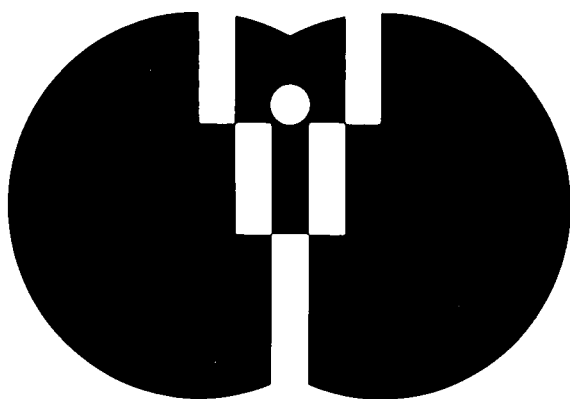


こどもの城

事業年報

平成2年度



財団法人 日本児童手当協会

こどもの城

事業年報

平成 2 年 度



財団法人 日本児童手当協会

こどもの城事業年報 2 年度

目 次

I 事業の概要

1 事業と運営	1
(1) 基本構想	1
(2) 運営の基本的な考え方	1
(3) 勸日本児童手当協会組織機構図	4
(4) 平成元年度の活動の概要	5
1) 入館者数	5
2) 一般来館者のための活動	5
3) グループ活動	6
4) 講座・クラブ活動	6
5) 劇場事業	6
6) 各種の普及・協力活動	6
(5) 活動時間・入館料	7
(こども活動エリア)	
1) 平常期間	7
2) 学校の季節休み	8
3) その他	8
4) 入館料	8

II 活動状況一覧

1 入館者数	11
2 団体入館実績	12
3 事業・催し	14
4 グループ活動	24
5 講座・クラブ活動	26
6 視察・見学実績	29
7 事業経理収支計算書	30

III 各部の活動(1)

1 体育事業部	31
2 プレイ事業部	42
3 造形事業部	61
4 音楽事業部	74
5 AV 事業部	88
6 保育研究開発部	105
7 小児保健部	115
8 企画部	127
9 劇場事業本部	134

IV 各部の活動(2)

1 広報部	147
2 研修教養部	152
3 国際交流部	174
4 営業部	177

V その他の活動

1 こどもの城全国連絡協議会	183
2 チャリティー事業	186
3 こどもの城友の会	187
4 開館5周年記念事業	188
5 アンケート調査結果	197
・主要年表	9
・内部施設の概要	2
・建築概要	3
・勸日本児童手当協会役員	3

I 事業の概要

I 事業の概要

1 事業と運営

「こどもの城」は、厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画、建設したものである。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万平方メートルの敷地に、昭和56年11月、着工された。以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階の、ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、60年11月1日に開館した。厚生省の委託を受けて、財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。この経営委託契約の締結は同年9月14日に行われた。

「こどもの城」は、新生児から高校生までの全児童を対象にした、幅広い福祉と文化活動を行うとともに、当然、ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。親たちをはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者などのためにも開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的に、常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及させていくこと、そして、国際的視野に立ち、世界各国の子供たちと、福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

(1) 基本構想

「こどもの城」の創設に当たって、昭和54年、厚生省により、「こどもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ、委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年6月、この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ、児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年、わが国の社会の都市化、工業化に伴い、児童の健康や安全が損なわれており、また、核家族化、家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって、さまざまな問題が生じている。一方で、高年齢化が急速に進んでおり、この中で、豊かな活力ある社会を維持していくために、未来を担う児童の健全育成の必要性が高まってきている。このときにあたり、わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し、明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは、時宜に適したものである。（要約）」と述べ、「こどもの城」の性格、機能、運営に関して積極的な提言がなされ、基本方針が打ち出された。

以来、厚生省と財団法人日本児童手当協会は、この「基本構想に関する意見」を踏まえ、協力しながら、「こどもの城」の建設に当たり、運営に取り組んできた。

(2) 運営の基本的な考え方

(1) 出生率の低下傾向による人工構造の急速な高齢化、青少年の非行問題、体位に追い

I 事業の概要

つかない子供の体力、その心をむしばむ要因の増加など、我が国の児童を取り巻く環境は、活力のある未来社会を期待するうえで、憂慮すべき現状にある。こうした、重要な課題に対応していくためには、単に国や自治体の行政に頼るだけではなく、家庭、学校、地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかなければならない。

「こどもの城」はこのような多くの問題を克服し、明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉、文化の拠点でありたいと願っている。

(2) 「こどもの城」は、全国の児童を対象とした施設であり、東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち、「こどもの城」における事業について広く全国各地に情報を伝え、更には各地の児童センターなどでの児童福祉、文化活動を全国に照会するといった全国的な広がりを持つ「こどもの城」として運営している。

(3) 「こどもの城」は、いわゆる幼児のみを対象とするのではなく、幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに、ハンディキャップを持つ児童も当然参加し、ともに活動する施設である。

更に、「こどもの城」は、親をはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者など、子供の幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4) 「こどもの城」は、既製のプログラムだけではなく、先駆的、実験的なプログラムを企画し、実践する。また、国内だけでなく、国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5) 以上のように「こどもの城」は、①芸術、文化、科学、スポーツなどの活動による児童の健全育成、②児童福祉関係者の研修、現任訓練、③児童福祉に関する研究、開発、④国際交流、といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させながら、総合的な運営を図ることが、肝要であると考えている。

内部施設の概要		
こども活動エリア	○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー	[1・1～2階]
	○プール・体育室・健康開発室	[地下2階]
	○プレイホール・コンピュータプレイルーム	[3階]
	○造形スタジオ	[3階]
	○音楽スタジオA、B・音楽ロビー・シンセサイザー室	[4階]
	○AVライブラリー	[4階]
	○屋上（ともだち広場・ふしぎが丘・プレイポート）	[3～5階]
	○パソコンルーム	[10階]
	○小児保健・診療・相談室	[5階]
	○保育研究開発・保育室Ⅰ、Ⅱ	[5階]
保育園	○青山劇場	[1・2階]
	○青山山形劇場	[3階]
劇場	○駐車場	[地下2・3・4階]
	○フリーホール（休憩室・催し場）	[地下1階]
サービスエリア	○カフェテラス「アンファン・ひさご亭」	[1階]
	○コーヒーラウンジ「アミティーエ」	[2階]
	○売店	[1・3階]
	○ホテル	[6・7階]
	○レストラン「ラブニール」	[8階]
	○研修室	[8・9階]

1 事業と運営

こどもの城の建築概要

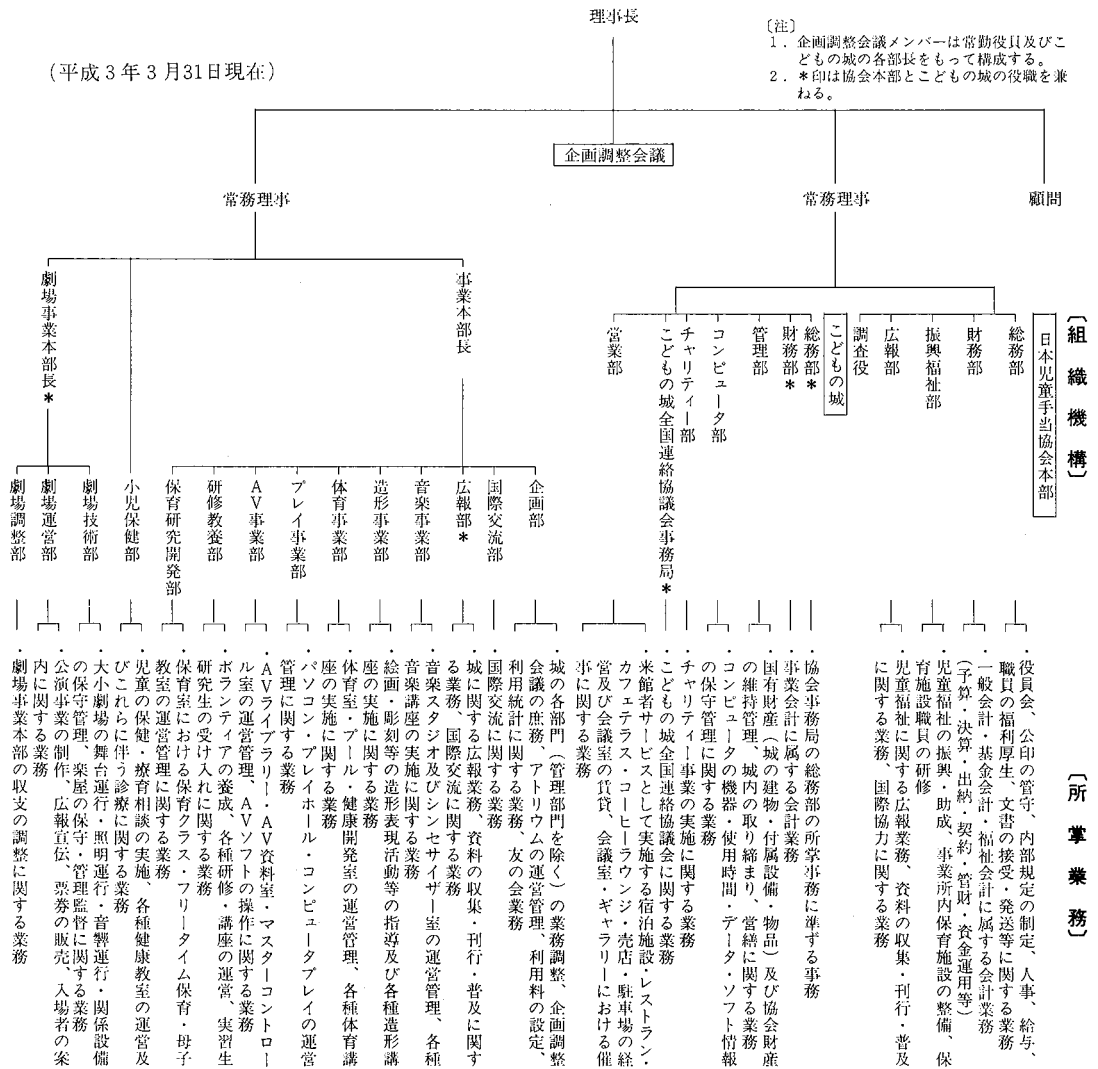
所在地……東京都渋谷区神宮前5丁目53番1号
 地域・地区……住居地域・商業地域（特定街区指定）・
 防災地域・準防火地域・一部第2種文教
 地域
 建築主……厚生省
 敷地面積……9,923.39㎡
 建築面積……6,001.5㎡
 延床面積……41,690.4㎡
 建ぺい率……60.48%
 容積率……347.22%
 階数……地下4階・地上13階・塔屋1階
 最高高さ……GL+57.6m
 基礎下端……GL-28.5m
 主要構造……高層部 鉄骨造
 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造
 地下 鉄筋コンクリート造
 設計・管理……株式会社 山下設計
 着工……昭和56年11月
 完成……昭和60年9月

(財) 日本児童手当協会役員（平成34年3月31日現在）

役職	氏名	
会長	翁 久次郎	(財) 厚生年金事業振興団理事長
理事長	小 島 弘 仲	
常務理事	田 代 實	
常務理事	大 野 出 穂	
理事	石 野 清 治	資生堂取締役会長
理事	谷 村 昭 一	日本商工会議所専務理事
理事	花 村 仁 八 郎	経済団体連合会相談役
理事	松 崎 芳 伸	日本携帯電話株式会社社長
理事	河 合 三 良	経済同友会副代表幹事
理事	竹 内 嘉 巳	(社福)日本肢体不自由児協会理事長
理事	金 平 輝 子	東京都社会福祉振興財団理事長
理事	平 田 寛 一 郎	早稲田大学政治経済学部教授
理事	平 山 宗 宏	日本総合愛育研究所所長
監事	松 尾 正 人	(財)厚生年金事業振興団常務理事
監事	杉 本 敏 雄	元(財)日本児童手当協会常務理事

I 事業の概要

(3) (財)日本児童手当協会組織機構図



職員数				職員数				職員数			
部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計
総務	5		5	営業	14	1	15	研修教養	2		2
調査(役)	3		3	企画	9		9	保育研究開発	9		9
振興福祉	1		1	国際交流	0		0	小児保健	8		8
広報	2	1	3	音楽事業	6	1	7	劇場技術	7		7
財務	7		7	造形事業	6		6	劇場運営	9		9
管理	2	1	3	体育事業	7	1	8	劇場調整	2		2
コンピュータ	4		4	プレイ事業	8		8				
				AV事業	7		7	合計	118	5	123

(4) 平成2年度の活動の概要

「こどもの城」の開館5周年目に当たった平成2年度は、発足以来の実績の集約と見直しを行いながら事業内容の一層の充実、向上に努めた。次の発展段階へ向けての基盤の確立という年度の目標はほぼ達成された。

また、これまでの活動の成果や、これから「こどもの城」が目指すものなどをアピールする各種の5周年記念事業を実施した。

1 事業活動

1) 入館者数 (11ページの表参照)

平成2年度の年間入館者数は、一般来館者が481,350人、劇場入場者が420,272人、これに保育、小児保健、講座・クラブ関係のほか、研修・会議関係の来館者を加えた総数は1,133,383人と、平成元年度に引き続いて110万人台を確保した。

2) 一般来館者のための活動 (14～23ページにプログラム一覧表)

ア 平常期間

文化体育事業(体育、プレイ、造形、音楽、AV)は、各部とも一般来館の児童・家族が楽しく参加し、体験できるプログラムの開発、提供に努めた。

特に平常期間の週日に多い幼児・母親のためのプログラムに力を注ぐ一方、小学生をひきつけ、その仲間づくりを促進するようなプログラム作りと運営に心がけた。

また、幼児の来館が多いことを考慮して平常期間の週日の開館時間午後1時を9月から午後0時30分に繰り上げることとした。これに伴い閉館時間を年間を通じて午後5時30分とした(従来は4月下旬～9月中旬の期間に限り午後6時閉館)。

保育研究開発部は、3つの柱である幼児グループ、保育クラブ及び母子教室を実施したほか、保育相談カンファレンス研修会も本格的な実施に入った。

小児保健部は、日常の診療・相談を行う一方、他部との連携事業である健康教室(太りすぎクラス)、母と子のリトミック(ダウン症クラス)、マタニティ・スイミングなどの活動を継続して実施した。また、新たに育児に関する講座を開設した。

イ 特別期間

学校の季節休み(春休み、夏休み、冬休み)の期間及び児童福祉週間を特別期間とし、各部協力による大型の催しを含む各種の行事を集中的に行ったほか、こども活動エリア入館券と劇場入場券を共通にして相乗効果を図った。

春休みからゴールデンウィークまでの期間と夏休み特別期間には、こどもの城、NHK展示プラザ、東京電力の電力館、たばこと塩の博物館の4館(夏休みには東京都児童会館も加わり5館)共催で「渋谷スタンプラリー」を実施した。

3) グループ活動 (24ページ参照)

平日の午前中に、保育所、幼稚園、小学校などを単位とした児童及びハンディキャップを

持つ児童グループの活動を積極的に受け入れ、年間110グループ（2,482人）を迎えた。

4) 講座・クラブ活動（26ページ参照）

継続的、体系的に「こどもの城」を利用できるプログラムとして講座、クラブを実施し、その充実と活発化を図った。

講座は43種・92コース、受講者数2,521人、クラブは13種で会員数1,089人にのぼった。このほか夏休み、春休み特別期間には体育を中心に短期集中講座を開いた。

一般来館者、講座・クラブの受講者、会員を対象に講座・クラブに関するアンケート調査を実施（7月）、今後の計画立案、運営改善の資料とした。

5) 劇場事業（134～138ページに公演名一覧）

自主公演として青山劇場で5公演、青山円形劇場で40公演を開催した。このうち青山劇場における5周年記念の自主公演、日本のミュージカル「龍の子太郎」は日本芸術文化振興会基金の助成対象に選ばれた。

劇場の貸与は青山劇場が18件、青山円形劇場が41件で、両劇場とも年間フルに使用された。

6) 各種の普及・協力活動

「こどもの城」の活動の趣旨・内容を広く知ってもらい、関係団体との交流を進めるために各種の事業を行った。

主なものは、児童厚生員等実技指導講習会（5月・11月）、肥満児指導者講習会（9月・3月）、ぐんまこどもの国児童会館（太田）でのブルーノ・ムナリー展開催（10・11月）、保育セミナー「私の保育から私たちの保育へ」（8月）、栃木県子ども総合科学館（宇都宮）などでの合唱コンサート（8月）、小児保健セミナー「子どもの生活を考える」（11月）などである。

2 開館5周年記念事業

10月20日から11月30日までを記念月間とし、集中的に行事を行った。また、記念月間外でも記念事業とするにふさわしい行事については、「5周年記念」のタイトルをつけた。実施の概況は下記のとおり。

〔シンポジウム・セミナー〕

- | | | |
|--------------|--------|------|
| ◦ 健全育成シンポジウム | | |
| <今、こどもたちは> | 11月5日 | 青山劇場 |
| ◦ 小児保健セミナー | | |
| <子どもの生活を考える> | 11月17日 | 研修室 |

〔展示〕

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| ◦ 田沼武能写真展 | | |
| <遊ぶ 世界の子ども> | 4月27日～5月27日 | 造形スタジオ |
| ◦ フランツ・チゼック展 | 11月1日～30日 | ギャラリー・造形スタジオ |

1 事業と運営

- 同記念シンポジウム 11月11日 青山学院大学
- 。以上のほか、11月から12月中にパソコンソフト作品展、ボランティア活動写真展など。

〔催し〕

- 。あそびフェスティバル 4月29日～ 5月6日 音楽ロビーほか
- 。ぼくらのサウンド
5周年記念スペシャル 10月20日～21日 青山円形劇場
- 。以上のほか、11月中に人形劇上演、ビデオ上映など。

〔劇場公演〕

- 。演劇「子午線の祀り」 4月 4日～ 8日 青山劇場
- 。「第5回青山バレエフェスティバル」 8月 3日～ 5日 青山劇場
- 。バレエ「カナダ・ブリティシュ・コロンビア」 9月28日～30日 青山劇場
- 。日本のミュージカル「龍の子太郎」 11月 3日～15日 青山劇場
- 。「第3回五線譜のなかの動物たち」 11月 2日～ 4日 青山円形劇場

以上のほか、本年報は「こどもの城」の運営ならびに趣旨の普及・推進にとって重要な活動である下記の項目について報告している。

①広報 ②国際交流 ③こどもの城友の会 ④こどもの城全国連絡協議会 ⑤ボランティアの養成、実習生・研修生の受け入れ ⑥チャリティー事業 ⑦利用者サービス事業。

(5) 活動時間・入館料（こども活動エリア）

開館日数310日

1) 平常期間

平 日 開館（午後0時30分～午後5時30分）

土曜日 }
日曜日 } 開館（午前10時～午後5時30分）
祝 日 }

月曜日 休館（祝日または振り替え休日に当たるときは開館＝午前10時～午後5時30分＝翌日の火曜日が休館）。

(注) 1 9月から開館時間、閉館時間を変更

① 平常期間の平日の開館時間の変更

午後1時から→午後0時30分から

② 夏時間の廃止

4月下旬～9月中旬

閉館時間を30分繰り下げ

→通年午後5時30分まで

I 事業の概要

2 入館券の発売 閉館時間の30分前（午後5時）まで。

2) 学校の季節休み

曜日にかかわらず土・日曜日・祝日なみの午前10時～午後5時30分。

年末年始の休館

12.29（土）～1.2（水）休館。1.3（木）は正午開館。

休館日の特例

夏休みの休館日は隔週月曜日（7.23, 8.6, 8.20）。9月4日（火）、9月5日（水）に振り替え休館。

春休み・冬休みの月曜日は開館。4月6日（金）、1月8日（火）、1月9日（水）に振り替え休館。

3) その他

4月30日（月）は振り替え休日のため開館、翌5月1日（火）はゴールデンウィーク中のため開館。5月8日（火）に振り替え休館。

東京都および近隣県・市の記念日は、平日でも午前10時開館

千葉県民の日・6月15日（金）、都民の日・10月1日（月）、埼玉県民の日・11月14日（水）。

（注）2年度の場合、横浜開港記念日・6月2日（土）および川崎市制記念日・7月1日（日）は、土曜日と日曜日に当たるので、午前10時開館。

都民の日・10月1日（月）は開館、翌2日（火）に振り替え休館。

11月12日（月）は、「即位の礼」（祝日）のため開館、翌13日（火）に振り替え休館。

アトリウムにおける講座、クラブ、友の会の申し込み受け付け＝平日・土・日曜日・祝日とも午前10時～午後5時（休館日を除く）。

4) 入館料

(1) 文化体育事業部門（こども活動エリア）を利用する一般来館者を対象とした入館料
一般 18歳未満310円（保護者に同伴される6歳未満児は無料）、18歳以上410円。

団体 20人以上の団体は割引き。18歳未満250円、18歳以上330円

（注）いずれも消費税込み。

なお、講座の受講者およびクラブの会員について設けられている入館の特例（受講証またはクラブ員証を提示することにより入館できる）は、従来どおり。

(2) 団体見学科（一般団体・こどもの城の要員により案内）1人当たり210円（消費税込み）。

(3) 2年5月5日（こどもの日）および11月1日（こどもの城開館記念日）は18歳未満児の入館料は無料。

主 要 年 表

3.24～4.5	春休み特別期間	11.5	健全育成シンポジウム「今、子どもたちは」(青山劇場)
3.24～5.6	第6回渋谷春のスタンプラリー	11.9	青山国際村誕生式典(青山劇場)
4.28～5.6	児童福祉週間特別期間(こどもの日は18歳未満入館無料)	12.8	第9回肢体不自由児・者の美術展に常陸宮殿下ご来館
4.28～5.27	田沼武能写真展「遊ぶ 世界の子ども」	12.11	第24回ねむの木賞・高木賞の贈呈式に常陸宮・同妃両殿下ご来館
5.20	入館者500万人を突破	12.22～3.1.7	冬休み特別期間
7.13	津島厚生大臣視察	3.1.25	インド国営放送取材
7.21～9.2	夏休み特別期間	2.2	NBC テレビ(KCNC. デンバー)取材
7.21～9.2	第7回渋谷夏のスタンプラリー	2.9	モスクワテレビ取材
7.25	ニュージーランド子供記者取材	2.28	こどもの城全国連絡協議会平成3年総会
8.18	ソビエト・エズベスチャ紙取材	3.7	ドイツ・ハーレンブーク誌取材
11.1	開館5周年記念(18歳未満入館無料)	3.26～4.5	春休み特別期間
11.1～30	フランス・チゼック展		
11.3～15	日本のミュージカル「龍の子太郎」(青山劇場)		

Ⅱ 活動状況一覧

1	入館者数	11
2	団体入館実績	12
3	事業・催し	14
4	グループ活動	24
5	講座・クラブ等	26
6	視察・見学実績	29
7	事業経理収支計算書	30

1 入館者数

Ⅱ 活動状況一覧

1 入館者数

	一般来館者			劇 場			そ の 他	計
	有	料	総 数	青山劇場	青山円形劇場	小 計		
4 月	大こども	15,215 人 12,001 5,022	(人) 34,763 推計	(人) 30,969	(人) 7,009	(人) 37,978	(人) 20,068	(人) 92,809 推計
	小 計	32,238	(49,978)					(108,024)
5 月	大こども	17,016 人 8,278 5,962	(人) 41,289 推計	(人) 28,143	(人) 7,325	(人) 35,468	(人) 20,982	(人) 97,739 推計
	小 計	31,256	(54,312)					(110,762)
6 月	大こども	8,993 人 5,646 1,307	(人) 16,925 推計	(人) 29,837	(人) 7,309	(人) 37,146	(人) 25,576	(人) 79,647 推計
	小 計	16,946	(25,918)					(88,640)
7 月	大こども	11,946 人 8,246 2,805	(人) 24,533 推計	(人) 34,623	(人) 8,092	(人) 42,715	(人) 21,787	(人) 89,035 推計
	小 計	22,997	(36,479)					(100,981)
8 月	大こども	26,538 人 20,439 8,060	(人) 58,573 推計	(人) 24,713	(人) 8,380	(人) 33,093	(人) 14,256	(人) 105,922 推計
	小 計	55,037	(85,111)					(132,460)
9 月	大こども	12,254 人 6,571 198	(人) 20,286 推計	(人) 19,363	(人) 4,338	(人) 23,701	(人) 20,065	(人) 64,052 推計
	小 計	19,023	(32,540)					(76,306)
10月	大こども	8,346 人 4,828 1,331	(人) 16,160 推計	(人) 35,507	(人) 7,434	(人) 42,941	(人) 22,929	(人) 82,030 推計
	小 計	14,505	(24,506)					(90,376)
11月	大こども	13,549 人 6,728 997	(人) 23,244 推計	(人) 19,035	(人) 8,059	(人) 27,094	(人) 19,918	(人) 70,256 推計
	小 計	21,274	(36,528)					(83,540)
12月	大こども	7,434 人 4,645 680	(人) 13,616 推計	(人) 23,238	(人) 7,119	(人) 30,357	(人) 15,810	(人) 59,783 推計
	小 計	12,759	(21,050)					(67,217)
1 月	大こども	11,126 人 5,992 3,335	(人) 21,813 推計	(人) 27,418	(人) 8,716	(人) 36,134	(人) 13,931	(人) 71,878 推計
	小 計	20,453	(32,939)					(83,004)
2 月	大こども	10,874 人 4,845 1,513	(人) 18,446 推計	(人) 27,046	(人) 6,546	(人) 33,592	(人) 18,817	(人) 70,855 推計
	小 計	17,232	(29,320)					(81,729)
3 月	大こども	15,206 人 11,197 7,234	(人) 37,463 推計	(人) 30,408	(人) 9,645	(人) 40,053	(人) 17,622	(人) 95,138 推計
	小 計	33,637	(52,669)					(110,344)
計	大こども	158,497 人 99,416 38,444	(人) 327,111 推計	(人) 330,300	(人) 89,972	(人) 420,272	(人) 231,761	(人) 979,144 推計
	小 計	296,357	(481,350)					(1,133,383)

Ⅱ 活動状況一覧

2 団体入館実績

区 分	件 数	月 別 内 訳												地域別内訳	
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	東京都	その他
こ ども 会	48	5	3	9	10	8	2	2	5	3	1			15	33
ガールスカウト ボーイスカウト	5	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0			1	4
幼稚園・保育園	11	1	0	3	0	0	0	1	5	0	1			5	6
幼稚園・保育園に 関係するグループ	6	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0			2	4
学 校	16	3	4	1	1	0	0	3	3	1	0			8	8
学 校 に 関係するグループ	15	5	0	1	3	0	1	2	1	1	1			12	3
学 童 グ ル ー プ	15	0	0	1	0	7	0	3	1	1	2			9	6
旅行会社による団体	13	0	0	1	7	4	0	1	0	0	0			0	13
家 族 グ ル ー プ	14	1	1	2	2	0	1	3	1	3	0			11	3
そ の 他	41	1	2	6	10	9	0	3	6	2	2			16	25
合 計	184	19	12	25	35	28	4	19	23	12	7	0	0	79	105

(注) この表は団体入館(2割引)による入館の件数及び人数の実績である。

2 団体入館実績

人 数 別 内 訳								人 数		備 考
20 ～ 29 人	30 ～ 39 人	40 ～ 49 人	50 ～ 59 人	60 ～ 79 人	80 ～ 99 人	100 ～ 149 人	150 人 以上	延べ数	1 件 当たり	
17	5	12	4	8	2	0	0	2,040	42.5	PTA等 PTA等 学童保育クラブ 児童館等 社会福祉協議会 青少年育成会等
3	1	1	0	0	0	0	0	145	29.0	
6	2	1	0	0	1	1	0	450	40.9	
4	1	1	0	0	0	0	0	165	27.5	
3	2	3	2	2	2	1	1	1,040	65.0	
8	3	3	0	1	0	0	0	492	32.8	
9	3	0	2	0	1	0	0	508	33.9	
4	3	2	1	1	1	1	0	614	47.2	
8	3	1	2	0	0	0	0	421	30.1	
20	10	5	3	0	2	0	1	1,555	37.9	
82	33	29	14	12	9	3	2	7,430	40.4	

II 活動状況一覧

3 事業・催し

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
平 常 期 間	プール利用 毎日 (火曜日を除く)	プラモデル模型工作教室 (小・中学生向け) 毎週日曜日	やってみよう!つくって みよう! 絵本と造形① 4. 10～5. 13	ロビー一般利用 みんなでライブ 毎週火曜日
	健康体力測定 毎週土・日曜日・祝日	おはなし紙芝居の集い (幼児向け) 毎週火曜日	やってみよう!つくって みよう! 絵本と造形② 5. 15～6. 1	ロビー一般利用 水ようコンサート 毎週水曜日
	バスケットボール 第1日曜日と前日の土曜 日	チャレンジゲーム大会 (小学1年生以上) 毎週水曜日	やってみよう!つくって みよう! 絵本と造形③ 6. 2～15	ロビー一般利用 みんなであそぼう木曜広 場 毎週木曜日
	ニュースポーツ 第2日曜日と前日の土曜 日	おはなし人形広場(幼児 向け) 毎週木曜日	やってみよう!つくって みよう! 絵本と造形④ 6. 16～29	ロビー一般利用 手作り楽器で遊ぼう 毎週金曜日
	卓球 第3日曜日と前日の土曜 日	みんなで遊ぼうゲーム大 会 (小学校低学年向け) 毎週金曜日	やってみよう!つくって みよう! 絵本と造形⑤ 6. 30～7. 20	ロビー一般利用 のりのりどうようコン サート 週替わり土曜日
	ミニサッカー 第4日曜日と前日の土曜 日	サタデープレイタイム (小・中学生向け) 毎週土曜日	やってみよう!つくって みよう! オープンスタジオ 9. 6～12. 16	ロビー一般利用 ほっとひといきコンサ ート 週替わり土曜日・日曜日
	ユニホック 第5日曜日と前日の土曜 日	パソコン一般利用 毎日	やってみよう!つくって みよう! まちのえをかこう 1. 9～27	ロビー一般利用 アフリカタンタムであ そぼう 元気がでるリズム サンバ・コンサート みんなで遊ぼう音楽広場 週替わり日曜日
	こどもデパート 6. 10	バンパー大会 4回 6. 23・24 5回 11. 17・18 6回 3. 16・17	やってみよう!つくって みよう! まちをつくろう 2. 5～24	
	母と子のふれあい広場 9. 24 11. 23 1. 15 2. 10	小学生パソコン教室Ⅰ A 4. 15～5. 20 B 10. 14～11. 18 C 3. 26～3. 30	やってみよう!つくって みよう! どうぐばこをつくろう 3. 5～17	わいわいスタジオ (音楽スタジオB) 毎週日曜日
	水泳記録会 (プール) 3. 17	小学生パソコン教室Ⅱ A 6. 17～7. 15 B 1. 20～2. 17	遊びと造形発想展 (ギャラリー) 5. 28～6. 21	みんなでひなまつり 3. 2・3
	新体操発表会 (体育室) 3. 21		こども歳時記 クリスマス 12. 22～25	チャレンジ・ザ・親子ラ リー 6. 16・17

3 事業・催し

A V	小児保健・保育	企画・国際交流・研修	そ の 他
A Vライブラリー自由利用 毎日	幼児グループ（保育） （5 F 保育室） 毎週月～金曜日	児童厚生員等実技指導 講習会（研修教養） 11.30～12.2	
ぱたぱたアニメを作ろう 年間39回	保育クラブ（保育） （5 F 保育室） 毎週月～土曜日	ボランティア講習会（研修 教養） 第18期6・7月、第19期11 ・12月、第20期2・3月	
バンダイビデオ試写会 （フリーホール） 毎週日曜日・祝日	母子教室（保育） 月曜日 12回コース・年3回	ボランティア・グレード・ アップ講習会（研修教養） 6.23～24 11.17・18	
マックTV こどもの城情報局 毎週日曜日	診療・相談（小児） 総合健康・育児生活発達・ 神経・心理・精神・言語・ 耳鼻科・ダウン症・アレル ギー喘息	婦人ボランティア講習会 （研修教養） 第6期10.9～19 全4回	
おもしろビデオ館・世界 のおはなし大集合 4.13～7.13毎金曜日12回		L I T 高校生ボランティア 研修（研修教養） 毎月1回	
おもしろビデオ館・世界 絵本箱 9.7～12.14 毎週金曜日13回	マタニティ コンサート（小児） 4.7～8	L I T 合宿 夏 7.14・15 冬 1.19・20	
おもしろビデオ館・世界 の絵本箱第2弾 1.11～3.15 10回	新しい時代の育児（保育） 5・10・2月 （各5回）	日赤救急法認定講習会 （研修教養） 5.22～6.2 全27時間	
おもしろビデオ館 （音楽スタジオB） 世界の絵本箱1.13・15	保育活動展（保育） 2.19～3.4	あそびガヤガヤ研究所 （研修教養） 毎月1回	
A Vライブラリー スポーツソフト特集 10.1～31	保育青空プレイ大会 （保育） 10.14	あそびガヤガヤ研究所合宿 （研修教養） 4.14・15 8.24・25	
しねまていく カナダ・ アニメーション 4.22 6.24 7.15 9.15 10.10 12.9	保育フェスティバル （保育） 11.19	おもちゃ図書館 （研修教養） おもちゃ展 10.19～24	
おもしろビデオ館 おたのしみマンガ映画 2.10・11	育児相談のケースカンファ レンス（保育） 5月～3月 全6回	こどもデパート（企画） 6.10	

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
平 常 期 間	肥満児指導者講習会 9.1・3.22		こども歳時記 節分 1.29～2.3	こどもデパート 6.10
			こども歳時記 ひなまつり 2.19～3.3	こんな楽器やってみよう 毎日
春 休 み	母と子のふれあい広場 4.1	プレイホール・パソコン 自由利用 4.1～5	素材との出会い展－木と 造形 スタジオワークショップ (小1～) 4.1～8	ロビー一般利用 楽器ワンサカ！ 4.1～5
	バトミントン 4.2～5		素材との出会い展－木と 造形 ギャラリーワークショップ (親子) 4.1～8	
	健康開発室・プール 自由利用 4.1～5			
	スキースクールⅡ (尾瀬岩鞍) 3.27～30			
児 童 福 祉 週 間	健康開発室・プール 自由利用 4.28～30・5.3～6	みんなで作ろうデカデカ 鯉 4.29～5.6	こども歳時記 「こどもの日」ワーク ショップ 4.27～5.6	こども遊びのフェスティ バル「キャッスル・クエ スト'90」 4.28～5.6
	こども遊びフェスティバ ル キャッスルクエスト 4.28～29・5.3～6	こどもの日人形劇フェア 5.4～6	田沼武能 「遊ぶ世界の子ども写真 展」 4.27～5.27	
		プレイホール・パソコン 自由利用 4.28～5.6	造形スタジオワーク ショップ 4.27～5.27 (フリーホール)	
夏 休 み	健康開発室・プール 自由利用 7.21～9.2	プレイホール・パソコン 自由利用 7.21～9.2	造形発見展「絵本と造 形」ムナリーさんのプレ ゼント 7.21～9.2	音楽広場 7.21～31

3 事業・催し

A	V	小児保健・保育	企画・国際交流・研修	そ の 他
AV実験室 ビデオであそぼう 4.15 5.20 6.17 9.9 12.2 1.27 2.17 3.17			アートスケープ展 (国際交流) (ギャラリー使用) 4.24～5.6	
AV実験室 アニメおもちゃであそぼう 9.30				
バンダイビデオ試写会 (研修室) 4.1～5	春休み 子育て相談(小児) 4.1		ジュニア・スキーキャンプ (研修教養) 3.31～4.4	国際ジュニアデザインコン ペティション 展覧会 (フリーホール) 3.25～4.2
AVライブラリー インフォビジョン特集 4.1～5	1・2歳の遊び場 自由利用(保育) 4.1～5		春休みチャレンジゲーム大 会(企画・研修教養) (屋上ふしぎが丘) 4.1～8	渋谷4館スタンプラリー 4.1～5.6
マックTV こどもの城情報局 4.1～5				
ぱたぱたアニメを作ろう (音楽スタジオB) 4.2～5				
AVライブラリー 日本の童話特集 4.28～5.6	子育て相談コーナー (小児) 4.28～5.3		こども遊びのフェスティバ ル 「キャッスルクエスト'90」 を含む。 4.28～5.6	
バンダイビデオ試写会 (研修室) 4.29～5.6	1・2歳の遊び場 自由利用(保育) 4.28～5.6		おもしろピロティ劇場 4.29・30 5.3～6	
マックTV こどもの城情報局 4.28～5.6			円形ファミリーイベント (国際交流) 5.4～6	
			アートスケープ展 (国際交流) ギャラリー 4.24～5.6	
AVライブラリー オリジナルソフト特集 7.21～9.2	子育て相談コーナー(小児) 7.21・22・28・29 8.4・5・11・12・18・19・ 25・26		エンジョイレク広場 (企画・研修教養) 7.24～27	おまつり劇場 (円形劇場) 8.13～16

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
夏 休 み	母と子のふれあい広場 7. 21・22	キャッスルキャンプⅠ 7. 24・25	造形発見展「絵本と造形」ムナリーさんのプレゼント (造形スタジオ) 7. 21～9. 2	「音楽市場」 8. 1～19
	屋上プール 7. 21～9. 2	夏休み人形劇フェア (フリーホール) 8. 3～7		「夏の終わりはカーニバル」 8. 21～9. 2
	空中の演技 トランポリン 8. 25・26	ちびっこ冒険団 8. 8～11		サマーセミナー 7月中3日間
	わんぱくランド 8. 9～19	キャッスルキャンプⅡ 8. 29・30		
	こども卓球大会 8. 18・19			合宿 三味線 ユースバンド パーカッション ガムラングループ 合唱講座・合唱団7～8月
	夏休み一日ドック 実技 7. 26・27			
	合宿 新体操 7. 22～25 スポーツキャンプⅠ 7. 26～29 スポーツキャンプⅡ 7. 30～8. 2			
開館5周年記念特別期間	健康開発室・プール 自由利用 11. 3・4	プレイホール・パソコン 自由利用 11. 1～4.	第5回造形スタジオ展 フ란ツ・チゼックと子どもたち展 (造形スタジオ) 11. 1～11. 30	「音で遊ぼう big 5」 11. 1～4
	スポーツ遊びの記録会 11. 1～3	パソコンルーム特別展示 11. 1～18	5周年記念「フ란ツチゼック展」 (ギャラリー) 11. 1～30	ぼくらのサウンド (円形) 10. 20・21
		開館記念人形劇フェア (フリーホール) 11. 3・4・23～25	「こどもと造形」 シンポジウム 11. 11	

3 事業・催し

A V	小児保健・保育	企画・国際交流・研修	そ の 他
夏休み おもしろビデオ館 7.29～8.5	こども一日ドック (小児) 7.26・27	あつまれおはなし大集合 (企画) 7.28～31	児童館こども卓球大会 (体育館) 8.7・8
A Vアニメーションフェ スタ'90 8.25・26	保育セミナー・ワーク ショップ (保育) 8.23～25	ウォーターアドベンチャー (企画) 8.9～19	渋谷4館スタンプラリー 7.21～9.2
A V実験室 アニメおもちゃで遊ぼう 8.27～9.2	健康教室集中講座 (小児) 8.27～29	ミステリーハウス (研修教養) 8.24～31	
マックTV こどもの城情報局 7.21～8.31	ふとりすぎ健康教室指導者 講習会(小児) 8.27～29	アートパル(国際交流) 7.21～31	
バンダイビデオ試写会 (研修室) 8.7～19	1・2歳の遊び場 自由利用(保育) 7.21～8.31	ジュニア・アウトドア・ス クール(研修教養) 8.1～5	
A Vライブラリー 自由研究に役立つかな 8.21～31		ガヤ研夏合宿(研修教養) 8.24～26	
A Vライブラリー 青山劇場青山円形劇場 ダイジェスト 11.1～4	「変わる育児事情」 シンポジウム(小児) 11.17	ボランティア活動写真展 (研修教養) 11.1～18	
マックTV こどもの城情報局 11.3・4	1・2歳の遊び場 自由利用(保育) 11.3・4	開館5周年記念 「遊びの祭典」(企画) 11.1～4	
バンダイビデオ試写会 (8F 研修室) 11.3・4		チルドレンズミュージアム 展覧会 (5周年を祝う作品展) 10月下旬～11月中旬	

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
冬 休 み	健康開発室・プール 自由利用 12. 22～1. 6	プレイホール・パソコン 自由利用 12. 22～1. 6	こども歳時記 「クリスマス」 12. 18～25	ロビー一般利用 「クリスマス・コンサート」 12. 22～25 「うたってポカポカ」 12. 26～28 1. 3～7
	スキースクールⅠ 12. 26～29	クリスマス人形劇フェア 12. 22～27	冬休みオープンスタジオ 12. 26～1. 6	
	ジャンボかるた大会ほか 1. 3～6	お正月の遊び大集合 1. 3～6	こども歳時記 「お正月」 1. 3～6	わいわいスタジオ 土・日曜日
春 休 み	健康開発・体育室 プール自由利用 3. 26～31	プレイホール・パソコン 自由利用 3. 26～31	春休みオープンスタジオ 「おじいさんの道具箱 展」 (造形スタジオ) 3. 26～31	ロビー一般利用 楽器ワンサカ！ 3. 26～31
		春休み人形劇フェア (フリーホール) 3. 26～30		

3 事業・催し

A	V	小児保健・保育	企画・国際交流・研修	そ の 他
			児童健全育成シンポジウム (企画・研修教養) 11.5	
			5周年記念博士クイズ (研修教養) 11.3・4	
	AVライブラリー 昔のヒーロー特集 12.22～1.6	1・2歳の遊び場 自由利用(保育) 12.22～1.6	お正月の遊び大集合 (企画) 12.22～1.15	
	マックTV こどもの城情報局 12.22～1.6	子育て相談コーナー (小児) 12.22～25	クリスマスイベント (国際交流) 12.15・16	
	バンダイビデオ試写会 (フリーホール) 12.23	こども一日ドック(小児) 1.4・5		
	AV実験室 アニメおもちゃであそぼう (音楽スタジオB) 12.25～28			
	AVライブラリー インフォビジョン特集 3.23～31	1・2歳の遊び場 自由利用(保育) 3.26～31	春休みチャレンジゲーム (企画・研修教養) 3.21～31	
	マックTV こどもの城情報局 3.26～31	子育て相談コーナー (小児) 3.27～31		
	バンダイビデオ試写会 (フリーホール)	ふとりすぎ健康教室 指導者講習会(小児) 3.22		
	春休みしねまていく (音楽スタジオB) 3.31～4.1			

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
季 節 行 事	母と子のふれあい広場 ・秋分の日 ・勤労感謝の日 ・成人の日 ・建国記念日	母の日 「手作りプレゼントをつくろう」 5. 12・13		母の日 「お母さんと歌おう スペシャルコンサート」 5. 12・13
		父の日 「チャレンジ・ザ・親子 ラリー」 6. 16・17		童謡の日 スペシャルコンサート 7. 1
	体育の日 パワーギャラリー 10. 10	七夕まつり 「おねがいしよう」 6. 30～7. 8		節分 ミュージックシアター 2. 2・3
		敬老の日 「昔遊びの名人に教えて もらおう」 9. 15・16		みんなでひなまつり スペシャルコンサート 3. 2・3
		体育の日 「何でもチャンピオン シップ」 10. 10		
		節分会 「大まめまき大会」 (プレイホール・ふしぎ が丘・音楽スタジオB) 2. 2・3		
		ひな祭りゲーム大会 (プレイホール・ふしぎ が丘・音楽スタジオB) 3. 2・3		
		各記念日・祝日		
		スペシャルゲーム大会 6. 2・5 9. 23・24 10. 1 11. 14 1. 15 2. 11 3. 21		
		友の会ファミリーハイキ ング 5. 27		
		友の会ファミリーキャン プ 9. 23・24		

3 事業・催し

[illegible]

Ⅱ 活動状況一覧

4 グループ活動実施状況表

区 分	件 数	月 別 内 訳												東京都		他 府 県
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	区	市	
保 育 園	11							1	1	2		3	4	8	1	2
幼 稚 園	43	6		2				7	5		7	12	4	38	1	4
児 童 館	1												1	1		
研 究 所	6			2				2		1			1	6		
自主保育グループ	2		1							1						2
小 学 校	9		1		1			2	1		2	1	1	4		5
養 護 学 校	14			1	2			3	2	2		2	2	5	3	6
小学校特殊学級	23		4				3			3		7	6	15	1	7
養 護 施 設	1						1							1		
計	110	6	6	5	3		4	15	9	9	9	25	19	78	6	26

4 グループ活動実施状況表

参加児童数別内訳										参加児童数		引率者数	付き添者数	活動部門						
10未満	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	80～89	100～109	150以上	延べ数	1件当たり			体育	プレイ	音楽	造形	A V	プ自由	A自由
	5	5			1					260	23.6	42	25	3		8		1	11	
6	14	12	5	1	3	2				1,036	24.0	132	221	3	6	27	14	4	43	
		1								21	21.0	9	21			1			1	
	2	4								139	23.1	15		3		1	2		6	
		2								46	23.0	1	43			2			2	
				3		1	5			637	70.7	38	60	3	7	2		8		7
6	7			1						187	13.3	122	34	1	2	11	1	1	5	2
19	4									150	6.5	81	34	7	2	11	3		17	
1										6	6.0	8				1			1	
32	32	24	5	5	4	3	5			2,482	22.5	448	438	20	17	64	20	14	86	9

Ⅱ 活動状況一覧

5 講座・クラブ等

(1) 講 座

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受講者数
体 育	幼 児 ・ 母 親 水 泳	幼児・母親	1 年 2 コース	60 ^(人)	68 ^(人)
	幼 児 水 泳	幼 児	" 6	330	311
	幼 児 体 育	"	" 3	120	111
	小 学 生 水 泳	小 学 生	" 6	320	386
	シ ニ ア ・ ス イ ミ ン グ	小・中学生	" 3	90	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	"	" 1	30	35
	小 学 生 体 育	小 学 生	" 1	40	20
	小 学 生 総 合 体 育	"	" 1	40	33
	ジ ュ ニ ア 新 体 操	"	" 1	35	27
	シ ニ ア 新 体 操	小・中学生	" 1	35	38
	手足の不自由な子の水泳	小 学 生	" 1	15	14
	レ ディ ー ス ・ ス イ ミ ン グ	婦 人	" 3	180	214
	レ ディ ー ス ・ リ ズ ム & ス ト レ ッ チ	"	" 2	60	35
	幼 児 ・ 母 親 体 育	幼児・母親	3 か月 3	90	89
	幼 児 リ ズ ム 運 動	幼 児	" 3	90	89
	母と子のすくすくランド	乳児・母親	" 3	60	72
	母と子のパチャパチャスイム	"	" 3	90	89
	(小 計) (18種)		(43)	(1,685)	(1,691)
プ レ イ	小 学 生 パ ソ コ ン 教 室 I	小 学 生	2 か月 2 コース	40	41
	小 学 生 パ ソ コ ン 教 室 II	"	" 2	40	41
	(小 計) (2種)		(4)	(80)	(82)
造 形	こどもクリエイティブクラブ	小・中・高校生	1 年 6 コース	60	37
	(小 計) (1種)		(6)	(60)	(37)
音 楽	お ん が く 星 み つ け た	幼児・母親	3 か月 3 コース	70	91
	おかあさんもいっしょ(リトミック)	"	1 年 3 コース	60	54
	リ ズ ム ム ー ビ ン グ	幼 児	" 3	42	42
	リズムムービング&パーカッション	小 学 生	" 1	20	18

5 講座・クラブ等

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受講者数
音 楽	合 唱	小 学 生	1 年 3 コース	(人) 30	(人) 29
	ガ ム ラ ン	小・中・高校生	" 1	10	12
	三 味 線 I	"	" 1	12	12
	三 味 線 II	"	" 1	12	10
	三 味 線 III	"	" 1	12	5
	お と な の た め の ガ ム ラ ン	一 般	" 1	15	10
	混 声 合 唱	高 校 生 以 上	" 1	15	11
	シンセサイザー&コンピュータ・ミュージック	小・中・高校生	3 か月 6	48	50
	(小 計) (12種)		(23)	(346)	(344)
研修教養	手 話 講 座	高 校 生 以 上	6 か月 2 コース	60	57
	点 訳 入 門 講 座	一 般	1 年 1	30	23
	お 話 講 座	"	1 か月 1	30	34
	(小 計) (3種)		(4)	(120)	(114)
国際交流	パフォーミング・アーツグループ	小 学 生	1 年 1 コース	30	33
	(小 計) (1種)		(1)	(30)	(33)
保育研究 開 発	幼 児 グ ル ー プ	幼 児	1 年 1 コース	20	15
	母 子 教 室	母 親 ・ 幼 児	3 か月 3	36	39
	育児相談のケースカンファレンス	育児相談担当者	1 年 1	40	16
	(小 計) (3種)		(5)	(96)	(70)
小児保健	健康スポーツ教室<太りすぎ>	小 学 生	1 年 1 コース	25	23
	母と子のリトミック<ダウン症>	幼 児 ・ 母 親	" 1	10	11
	講 座 「新 し い 時 代 の 育 児」	一 般	2 か月 3	60	82
	マ タ ニ テ ィ ・ ス イ ミ ン グ	妊婦(16週～)	通 年 1	各月 35	34
	(小 計) (4種)		(6)	(130)	(150)
合 計	43種		92	2,547	2,521

Ⅱ 活動状況一覧

(注) 1. 以上は、個人を対象とした継続的参加の講座である。

43種 92コース

2. 表の中の「定員」及び「受講者数」の整理方法は、次のとおりである。

(1) 2コース以上ある講座については、各コースの合計数とした。

(2) 1年コースの講座については、第1期、第2期及び第3期の平均数とした。

(3) マタニティ・スイミング（小児保健）については、各月の平均数とした。

3. 表に掲げるもののほか、年間継続的に開講しているが参加者は月ごとに変わるものとして「成人集中水泳講習会」を実施した。

4. 夏休み及び春休みにおいては、次のとおり短期の集中講座を実施した。

(体 育)	こども集中水泳講習会	(夏) 6コース	(春) 2コース
	体育教室	(夏) 1コース	
(プ レ イ)	パソコン教室	(夏) 1コース	(春) 1コース
(音 楽)	音楽・サマーセミナー	(夏) 2コース	
(A V)	母と子のビデオ教室	(夏) 1コース	
(小児保健)	健康教室集中講座<太りすぎ>	(夏) 1コース	

5. 以上のほか、継続的に開講しているが参加者は1回ごとに変わるものとして次のプログラムを実施した。また、公開講座も実施した。

プラモデル模型工作教室、一日造形教室（夏休み中）

(2) クラブ

部 門	プ ロ グ ラ ム	会員数
体 育	ダイナミック・ヘルスクラブ	333
	マックロー・スポーツクラブ	10
	(小 計)	(343)
プ レ イ	パ ソ コ ン ク ラ ブ	48
音 楽	児 童 合 唱 団	80
	和 太 鼓 グ ル ー プ	3
	ユ ー ス バ ン ド	24
	ガ ム ラ ン グ ル ー プ	6
	パーカッション・アンサンブル	15
	(小 計)	(128)
A V	ファミリー・ビデオクラブ	2
研修教養	あそびガヤガヤ研究所	52
	LIT(高校生ボランティア養成)	25
	点 訳 サ ー ク ル	10
	(小 計)	(87)
保育研究 開 発	保 育 ク ラ ブ	481
計	13 種	1,089

(注) 会員数は、平成2年度末の数である。

(3) こどもの城友の会

家族単位で入会

3,832家族

<会員数の推移>

平成元年度末会員数 3,931家族

平成2年度中の増・△減 △ 99

内訳 入会者 1,151

非継続者 △1,250

平成2年度末会員数 3,832

6 視察・見学実績

(カッコ内は件数)

年 度		都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体	児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの団体	外 国 人		そ の 他		計	
60年度		(100) 1,122	(100) 1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度		(121) 714	(192) 4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度		(107) 439	(123) 2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度		(91) 598	(69) 770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成元年度		(72) 541	(71) 931	(10)	86	(25)	195	(217)	1,753
平成2年度	4月	(6) 59	(2) 54	(0)	0	(0)	0	(8)	113
	5月	(5) 15	(1) 16	(2)	54	(0)	0	(8)	85
	6月	(2) 6	(8) 104	(1)	2	(4)	15	(15)	127
	7月	(7) 65	(1) 10	(0)	0	(0)	0	(8)	75
	8月	(0) 0	(0) 0	(0)	0	(0)	0	(0)	0
	9月	(4) 68	(1) 3	(1)	42	(0)	0	(6)	113
	10月	(4) 80	(2) 52	(0)	0	(1)	40	(7)	172
	11月	(7) 147	(4) 16	(0)	0	(3)	108	(14)	271
	12月	(6) 50	(0) 0	(0)	0	(0)	0	(6)	50
	1月	(2) 21	(1) 11	(0)	0	(0)	0	(3)	32
	2月	(7) 52	(3) 15	(2)	55	(5)	25	(17)	147
	3月	(15) 42	(4) 11	(2)	3	(4)	24	(25)	80
	合計	(65) 605	(27) 292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
累計		(556) 4,019	(582) 10,093	(158)	1,328	(143)	2,103	(1,439)	17,543

備考 (1) 「外国人」 韓国、北朝鮮、中国、香港、台湾、タイ、ネパール、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシア、フィジー、スリランカ、インド、パキタン、ビルマ、オーストラリア、ニュージーランド、ヴァヌアツ、ソロモン、キリバス、トゥヴァル、西サモア、パプア・ニューギニア、イラン、イラク、クウェート、イスラエル、イギリス、フランス、西ドイツ、スイス、イタリア、デンマーク、フィンランド、ソ連、チェコ、ポーランド、カナダ、アメリカ、メキシコ

(2) 「その他」 中央官庁、中央団体、会社等

Ⅱ 活動状況一覧

7 事業経理収支計算書

事業経理収支実績

(単位：千円)

収 入 の 部		備 考
款 項	2 年 度	
	2. 4. 1～3. 3. 31	
事 業 収 入	1, 990, 158	
管 理 運 営 収 入	158, 116	入館料収入, 友の会収入 ほか
文 化 体 育 事 業 収 入	202, 719	受講料収入, 集団利用収入, 一般利用収入, 施設 使用料収入 ほか
保 育 事 業 収 入	34, 006	保育収入, 受講料収入 ほか
小 児 保 健 事 業 収 入	18, 211	診療収入, 相談指導収入, 受講料収入 ほか
劇 場 事 業 収 入	808, 121	公演収入, 劇場使用料収入 ほか
利 用 者 サ ー ビ ス 事 業 収 入	768, 985	宿泊収入, レストラン等収入 ほか
特 定 預 金 取 崩 収 入	16, 232	退職手当引当預金取崩
繰 入 金 収 入	924, 752	基金経理より繰入収入等
収 入 合 計	2, 931, 142	
支 出 の 部		
事 業 運 営 費	2, 931, 142	
役 職 員 給 与	608, 494	役員報酬, 職員給与 ほか
諸 支 出 金	69, 252	社会保険料事業者負担金
特 定 預 金 支 出	34, 661	退職手当引当金支出
退 職 手 当	16, 232	
非 常 勤 嘱 託 手 当	18, 809	
業 務 諸 費	906, 490	諸謝金, 旅費交通費, 事業庁費, 業務委託費 ほか
公 演 事 業 費	438, 583	公演費, 公演諸費 ほか
舞 台 管 理 費	308, 530	事業庁費, 業務委託費 ほか
利 用 者 サ ー ビ ス 事 業 費	520, 456	営業費, 業務委託費 ほか
協 賛 事 業 費	4, 875	協賛事業費, チャリティー事業費
こどもの城全国連絡協議会助成金	4, 760	
支 出 合 計	2, 931, 142	

Ⅲ 各部の活動(1)

1	体育事業部	31
2	プレイ事業部	42
3	造形事業部	61
4	音楽事業部	74
5	AV 事業部	88
6	保育研究開発部	105
7	小児保健部	115
8	企画部	127
9	劇場事業本部	134

1 体育事業部

1 体 育

(1) 2 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間 場所	火		水		木		金		土	
	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル
10：00		レディース スイミング A	レディース リズム＆ ストレッチ A	幼・母水泳 A		レディース スイミング B	レディース リズム＆ ストレッチ 母と子の すくすく ランド	母と子の パチャパ チャスイム A・B	一般利用	幼・母水泳 B
11：00		マタニティ スイミング	幼・母体育	保育研究 開 発 部		マタニティ スイミング				レディース スイミング C
12：00										
13：00	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	ダイナミック・ ヘルス・クラ ブ	
14：00		幼児水泳 A		幼児水泳 B		幼児水泳 C			一般利用	一般利用
15：00	幼児体育 A	幼児水泳 D	幼児体育 B	小学生 水 泳 A	幼児体育 C	幼児水泳 E	幼児リズム 運動	幼児水泳 F		
16：00	小 学 生 総合体育	小学生 水 泳 B	ジュニア・シニア新体操	小学生 水 泳 C	小学生 体育育	小 学 生 水泳総合 E	ジュニア・シニア新体操	小学生 水 泳 D	健 康 教 室 (ぜんそく・肥満)	
17：00	マックロー・ スポーツクラ ブ	小学生水泳F シニアスイミング A		シニアスイミング B	マックロー・ スポーツクラ ブ	シニアスイミング C		シニアスイミング フレッシュ		
18：00										
19：00	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ
20：00										
21：00										

Ⅲ 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
プール一般開放	水曜日～金曜日 土曜日 日曜日・祝日	16:30～17:30 13:30～16:00 10:30～17:30	プール	(円) 大人 310 子ども 210 幼児 100	(人) ガード 1～2	
体育室 一般 開放	バスケットボール	各第1日曜日と前日の土曜日	10:00～17:00 13:30～16:00	体育室	1	14:00～, 16:00～ 試合
	ニュースポーツゲーム	各第2日曜日と前日の土曜日	"	"	"	" " "
	卓球	各第3日曜日と前日の土曜日	"	"	—	—
	ミニサッカー	各第4日曜日と前日の土曜日	"	"	1	14:00～, 16:00～ 試合
	ユニホック	各第5日曜日と前日の土曜日	"	"	"	" " "
体力測定	土曜日 日曜日・祝日	14:00, 15:00 11:00, 13:00 14:00, 15:00 16:00	健康開発室	100	1	
グループ活動	毎週火・木曜日	11:00～12:00	体育室		1～2	
こどもデパート	6.10	10:00～17:00	"		"	全館合同事業
水泳記録会	3.17	10:00～12:00	プール		10	
新体操発表会	3.21	10:00～12:00	体育室		3	

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
キャスルクエスト	4.28～5.6	10:00～17:30	体育室	(円)	(人) 職 員 2	全館合同事業 4.30 5.1・2は講座のため休み
母と子のふれあい広場	4.1 7.21・22 11.23	13:30～ 15:30～	"		外部講師 2～3	
トランポリン	8.25・26	10:30～17:00	"		" 4～5	
一日ドック 夏・冬	7.26・27 1.4 ・5	15:30～	健康開発室	5,150	職 員 2	小児保健との合同事業
ドキドキ!わんぱくランド	8.9～19	10:00～17:00	体育室		" "	ミニ・パター・ゴルフ
こども卓球大会	8.18・19	9:00～17:30	"		" 6	企画, 児童館との合同事業
夏期特別健康スポーツ教室	8.27～29	16:00～17:30	"	6,180	" 1	小児保健との合同事業
スポーツ遊びの記録会	11.1～3	10:00～17:00	"		職 員 1	

1 体 育

はねつき、ジャンボかるた大会	1.3～6	10:00～17:00	〃		〃 1	
新体操、バドミントン、ユニホック、バスケットボール、ミニサッカー	特別期間中	〃	〃		〃 1	
プール一般開放	特別期間中の火曜日から土曜日（日曜日・祝日）	10:30～12:00 13:30～17:30 （10:30～17:30）	プール	大人 310 子ども 210 幼児 100	ガード 1～3	18歳以上 小学生以上 未就学児
体力測定	特別期間中の火曜日から土曜日	11:00, 14:00 15:00, 16:00	健康開発室	100	職員 1	特別期間中の11:00, 日曜日・祭日 13:00, 14:00 及び月曜日 15:00, 16:00
パワー・ギャラリー	10.10	14:00, 16:00	健康開発室 トレーニング・ジム		〃 〃	体力測定＋講義＋トレーニング
ちびっこプール	7.21～9.1	10:30～17:00	5F屋上仮設プール	大人 1人 子ども 1人 幼児 1人 210	受付及びガード 4	

4) キャンプ・合宿

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
新体操合宿	7.22～25		こどもの城内	(円) 28,840	(人) 職員、外部講師 2	
スポーツキャンプⅠ	7.26～29		グリーンピア津南	38,110	〃 〃 10	
スポーツキャンプⅡ （含む、新体操キャンプ）	7.30～8.2		ルネサンス 棚倉	〃	〃 〃 6	
スキースクールⅠ （冬）	12.26～12.29		グリーンピア津南	48,410	〃 〃 10	
Ⅱ （春）	3.27～30		尾瀬岩鞍	〃	〃 〃 5	

Ⅱ 活動状況一覧

5) 講座・クラブ

<講 座>

(入会金1,000円－3年間有効)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講 数						
幼児・母親水泳A " B	幼児・母親 " "	(組) 30 "	(組) 101 "	水曜日10:00-11:00 土曜日 "	プール "	火曜日の講座 4.10～7.17 14 9.11～12.18 1.8～3.19 10	幼母水泳 ⁽¹⁾ 1・2期各26,000 3期 18,000	職員 "	(入会金 1,000 ～3年間有効)
幼 児 水 泳A " B " C " D " E " F	3・4歳児 " " " " 4・5歳児 " "	(人) 50 " " " 60 "	(人) 103 159 98 180 199 196	火曜日13:30-14:30 水曜日 " 木曜日 " 火曜日14:30-15:30 水曜日 " 金曜日 "	" " " " " "	水曜日の講座 4.11～7.11 14 9.12～12.19 1.9～3.13 10	幼児水泳 1・2期各20,000 3期 14,000 幼児体育 1・2期各18,000 3期 13,000	" " " " " "	
幼 児 体 育A " B " C	3・4歳児 " " 4・5歳児 " "	40 " "	100 114 119	火曜日14:30-15:30 水曜日 " 木曜日 "	体育室 " "	木曜日の講座 4.12～7.19 14 9.13～12.13 1.10～3.14 10	小学生水泳 1・2期各20,000 3期 14,000	" " "	
小学生水泳A " B " C " D " E " F	小 学 生 " " " " " " " " 小2年～ "	60 " " " 40 "	223 228 235 232 126 116	水曜日14:30-15:30 火曜日15:30-16:30 水曜日 " 金曜日 " 水曜日 " 火曜日16:30-17:30	プール " " " " "	金曜日の講座 4.13～7.20 14 9.7～12.14 1.11～3.15 10 土曜日の講座 4.7～7.14 14 9.8～12.22 1.12～3.16 10	シニアスイム 1・2期各20,000 3期 14,000 小学生体育 1・2期各16,000 3期 11,000	" " " " "	
シニアスイミ ング A " B " C	小・中学生 " " " "	30 " "	66 65 48	火曜日16:30-18:00 水曜日 " 木曜日 "	" " "		総合体育 1・2期各24,000 3期 17,000	" " "	
シニアスイミ ングフレッシュ	小3～中学生	35	104	金曜日 "	"			"	
小学生体育	小 学 生	40	60	木曜日15:30-16:30	体育室		新体操 1・2期各25,000 3期 19,000	"	
小学生総合体育	小1～3年	"	100	火・木曜日 "	体育室 プール	新体操, 総合体育 1・2期 28 3期 20	手足の不自由 な子の水泳 1・2期各15,000 3期 10,000	"	
ジュニア新体操	"	35	81	水・金曜日 15:30-17:00	体育室		レディース 1単位 1・2期各20,000 3期 15,000	"	
シニア新体操	小3年～	"	114	水・金曜日 16:30-18:00	"		レディース 2単位 1・2期各30,000 3期 17,000	"	
手足の不自由 な子の水泳	小 学 生	15	41	土曜日17:00-18:00	プール			"	
レディース・ スイミングA " B " C	婦 人 " " " "	60 " "	219 218 205	火曜日10:00-11:00 木曜日 " 土曜日11:00-12:00	" " "			" " "	
レディース・ リズム&スト レッチ A " B	" " " " "	30 " "	63 41	水曜日10:00～11:00 金曜日 "	体育室 "			" 外部 講師	
健康スポーツ 教室	小 学 生	30		土曜日16:00-17:00	体育室 プール 健康開発 室			職員	小児保健との 合同事業
マタニティ・ スイミング	妊 婦	35		火曜日11:00-12:00 木曜日 "	プール		入会金 5,000 1月 10,000	"	"

1 体 育

<講習会>

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講数						
幼児・母親体育	2・3歳と母親	(組)30	(組)89	水曜日11:00~12:00	体育室	水曜日講習会 4.11~6.13 10 9.12~11.21 10 1.9~3.13 10	1期 16,000	(11) 外部講師	
幼児リズム運動	3・4歳	"	89	金曜日14:30~15:30	"	"	12,000	職員	
母と子のすくすくランド	お座りのできる子~	20	72	金曜日10:00~11:00	2Fリハサル室	金曜日の講習会 4.13~6.22 10 9.7~11.9 10 1.11~3.15 10	" 20,000	"	
パチャパチャスイム	1・2歳と母親	30	89	"	プール	"	22,000	"	
肥満児指導者講習会	成人			10:00~12:00	体育室、健康開発室	9.1・3.22			

<クラブ>

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講数						
マックロー・スポーツクラブ	小・中学生	(人)50		火・木曜日 16:30~18:00	体育室	火・木曜日の講座に準ずる	1年 20,000	(11) 職員	
ダイナミック・ヘルス・クラブ	成 人			火・土曜日 12:00~13:30 18:30~21:00 日曜日・祝日 18:00~20:00	プール 体育室 ジム ほか	通年	入会金 10,000 会費 4か月 26,000 又は1年70,000	"	

<短期講習会>

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講数						
成人集中水泳	成 人	(人)20		火・金曜日 18:00~19:00	プール	火・金曜日の講座に準ずる 月7	1か月 10,000	(11) 外部講師、職員	
こども集中水泳	小学生	50		8:30~9:30(ACE)	"	7.21~26(AB) 5 7.27~31(CD) "	7,000	職員	
						8.21~25(EF) "			
	幼 児	40		9:30~10:30(BDF)	"	4.1~5(AB) "	"	"	
ガンバ! '90	小学生	39		9:00~10:00	体育室	8.21~25 5	6,000	"	

(2) 体育事業部の活動

一般利用、講座、ダイナミックヘルスクラブの各主要活動それぞれに、一層の内容、参加人数の充実を図った。特に、ダイナミックヘルスクラブの法人利用に関しては、広報活動との連携のもとに拡充に努め、その参加数は予定数に近い結果を得ることができた。全体的に、今年度も子供の健康増進を図るために、効果的、合理的方法の開発に取り組み、その方法への理解づけを行った。

1) 平常期間

平日は講座・クラブが中心になるため、各施設の一般利用は、土・日曜日・祝日の一般開放が中心になる。利用方法、内容も定着してきたようで、多くの利用があった。

(ア) 体育室

- 第1土・日曜日→バスケットボール
- 第2土・日曜日→ニュー・スポーツゲーム
- 第3土・日曜日→卓球
- 第4土・日曜日→ミニサッカー
- 第5土・日曜日→ユニホック

以上の活動プログラムもかなり周知されて、定期的に利用する小学生が見られた。また、ボールを使うプログラムでは、親子で楽しく遊ぶ、ほほえましい光景も多く見られるようになってきた。

(イ) プール

水～金曜日→16:30～17:30

土曜日→13:30～16:00

日曜日・祝日→10:30～17:30

平日は、全体的に固定の利用者が多かった。土・日曜日・祝日は、広いところから、多くの利用があった。

(ウ) 健康開発室

土曜日の利用は少なかったが、日曜日・祝日は、「体力測定」に関心を持って利用する人が多く見られた。また、定期的に測定をして、自分の体力をチェックする子供も見られた。これは、体力測定の目的が徐々に周知されてきたことによると思われる。

2) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

例年どおり、プールの一般開放と体力測定を行った。また、体育室は、全館行事のキャスルクエストへの参加行事として行った。サーキットトレーニングの中で、いろいろな運動

種目に挑戦してもらうプログラムを実施した。簡単な方法で、運動量を上げるよう内容を工夫したため、参加者は楽しみながら、いい汗を流していた。

(イ) 夏休み

体育室で主に次のプログラムを行った。

- 母と子のふれあい広場（7.21・22）
- ユニホック（8.1～5）
- バスケットボール（8.23～31）
- こども卓球大会（8.18・19）
- どきどき！わんぱくランド（8.9～19）
- トランポリン（8.25・26）
- エンジョイレク広場（8.21～24）
- ミニサッカー（8.27～9.2）

わんぱくランドは、フィールドダーツ（吸盤付きの羽根をいろいろな条件的に当て、得点を競う）を行った。幼児には少し難しい内容もあったが、子供から大人まで楽しい内容であると好評を得た。

卓球大会は、昨年以上のチームの参加があった。1日目は小学生、2日目は小・中学生の準決勝、決勝を行ったが、スムーズな運営ができた。

プールの一般開放は昨年同様、屋上のちびっこプール（夏休みのみ）と、地下2階のプールと2か所で行った。ちびっこプールは昨年より利用者が増え、楽しく、にぎやかな光景が見られた。

(ウ) 開館記念日

平常どおりの活動内容で、利用者に対応した。バスケットボールやサッカーは小学生以上に人気が高く、特に試合では、子供たちのニーズを満たすことができた。

(エ) 冬休み

体育室で主に次のプログラムを行った。

- ミニサッカー（12.22～25）
- ニュー・スポーツゲーム（12.26～28）
- バトミントン、はねつき（1.3～6）
- ジャンボかるた大会（1.3～5）

ジャンボかるたについては、カードと内容を新しくした。子供たちよりは分かりやすい内容、形態に満足し、とても楽しそうに参加していた。

(オ) 春休み

体育室で主に次のプログラムを行った。

- エンジョイレク広場（3.26～31）
- バスケットボール（4.6・7）
- バトミントン（4.1～5）

平常期間の内容と同じ内容のものを中心に行った。エンジョイレク広場には、幼児など小さい子の参加が多かった。

(カ) 「体育の日」特別プログラム

●ギャラリー展示(10.3～12)

体育事業部の歩みを写真と説明パネルによって紹介した。

●スーパードッチボール

ドッチボールを、特別の統一ルールで行う「スーパードッチボール」を初めて行った。選手、審判ともに外部から来てもらい、説明を交えながら行った。

3) 講座・クラブ・講習会・合宿

コースの構成は前年度と変わりはないが、内容の充実を図りながら実施した。実施形態や募集方法なども、広く周知されてきたため、大きな混乱もなく、実施することができた。全体的には水泳の講座・講習会に希望が多く、一般募集時の受け付けに時間がかかるので、その短縮を図ることが望まれる。

(ア) 講座

①幼児・母親水泳、幼児プログラム

幼児・母親水泳は人気が高く、親子のふれあいの場、運動の場として評価を得ることができた。幼児水泳は、3・4歳児のクラスが定員に対し7～8割の充足率、4・5歳児のクラスはほぼ満員で実施した。幼児体育は、前年に比べ受講者が増え、充実した活動ができた。全体的に、継続して受講する子の割合が高くなってきている。

②小学生のプログラム

水泳講座は幼児からの継続者を中心に、前年度より更に受講者の増加があった。小学生水泳からシニアスイミングへの流れもでき、レベル的にも徐々に高まってきている。

体育講座は内容的に徐々に充実してきているため、受講者ひとりひとりの力の伸びが見られ評価を得た。新体操も初めて対外試合にでるなど、レベルアップし、指導の成果が1つの形に表れてきた。

③成人のプログラム

レディース・エクササイズコースは、スイミングの希望者が多く、9割～満員で実施。出席率も割と良く、各個人の健康づくりに貢献できたと思う。リズム&ストレッチも少数ながら、充実した内容の講座を実施できた。

④受講者への主な行事

例年どおり、講座の趣旨の普及と質的向上をねらって、次のことを行った。

- ・講座参観—— 各学期に1回、父母にプールサイド・体育室内で、指導や子供たちの練習の様子を参観してもらった。子供の実際の様子をじかに見ることは貴重であるとの声が多い。
- ・泳力判定—— 各学期の水泳技術の進歩を、規定のレベル表に合わせ判定し泳力判定表を

渡した。指導者の記録としても大切な資料になり、子供自身の大きな励みにもなっている。また、指導者と子供の信頼関係を形成する上でも役立った。

・ガイダンスとカウンセリング

—— 年度末、年長児（次年度就学児）を対象に、講座の選択方法や、全体的な相談、カウンセリングを行った。例年見られる傾向であるが、幼児のコースから小学生のコースへの継続希望率がとても高い。

(イ) クラブ

①マックロー・スポーツクラブ

マックロー・スポーツクラブでは、シーズン制をとり、前期はバスケット、後期はサッカーを行った。個人技の習得を経て、チームとしてのインフォメーションプレーなどを行った。

②ダイナミック・ヘルス・クラブ (D・H・C)

2年4月1日から料金を、入会金10,000円 (旧5,000円)、4か月会費26,000円 (旧22,000円)、年会費70,000円 (旧60,000円) に改定した。個人会員数は2年4月がピークで、約420人、法人会員も20社と安定してきた。なお、年度末にはPR用のチラシとパンフレットを新たに作成した。

(ウ) 講習会

・幼児・母親体育、幼児リズム運動、母と子のすくすくランド、パチャパチャスイム（4月～6月、9月～11月、1月～3月、各全10回）

この4種類がそれぞれ全10回で完結するなどの実施形態や、対象年齢（幼児・母親体育＝2・3歳、幼児リズム運動＝3・4歳、母と子のすくすくランド＝5か月以上でお座りできる子、パチャパチャスイム＝1・2歳）が周知され、スムーズに募集・実施をすることができた。この年齢のニーズは高く、口コミなどによって多くの希望があった。また、引き続き受講するケースが多かった。

・春のこども集中水泳（2コース）、夏のこども集中水泳（6コース）

特別期間の集中講習会は人気が高く、ほぼ満員で実施された。短期間集中的に行うため成果も著しく、参加者や父兄の期待に添うことができた。引き続き第2期の講座を受講する流れも少しずつできてきた。

・ガンバ！'90（夏期体操教室）

器械体操（跳び箱、マット、鉄棒、トランポリン）を軸に、さまざまな動きを加えた内容で行った。3年目を迎え広く周知されてきたようで、参加者も小学校低学年を中心に満員であった。

・成人集中水泳（各月7回）

月7回で完結のプログラムであり、また20人という限定された定員のため、初心者から上級者まで、幅広く充実した指導がなされ、好評を得た。

・指導者講習会

小児保健部との協力事業として、肥満児指導者講習会を、9月1日と3月22日の2回、講義（摂取エネルギーと消費エネルギーについて）と、実技（ストレッチ、ユニホック、エアロバイク）を併せて実施した。

(二) 合 宿

①新体操合宿（7.22～25、こどもの城）

初めて参加する「ジュニア新体操選手権」（7.26・27）の選抜メンバーのみで行われた。初めての試合参加ということで、子供たちにも緊張感があり、試合演技の最終調整として、有意義な内容になった。

②スポーツキャンプⅠ（7.26～29、新潟・グリーンピア津南）

5年目を迎えた津南でのキャンプは、受講者と外部からの参加者を合わせ、ほぼ満員で行われた。内容的には、水泳プログラムを増やしたことで、時間的に余裕を持たせ自然に親しむ時間を多く持った事が特徴であった。

③スポーツキャンプⅡ（7.30～8.2、福島・ルネサンス棚倉）

初めてルネサンス棚倉で行う。参加者の3分の1は新体操講座の受講生、残りが一般の参加者。内容も、新体操と水泳中心のグループに分かれたが、合同での野外ゲームでは、全員が一丸となり、盛り上がった。有意義な4日間であった。

④スキースクールⅠ（12.26～29、新潟・グリーンピア津南）

心配された雪不足も、出発前日から大雪が降り解決した。今年はスキーの技術習得に主に力を入れ、独自のカリキュラムに添って行った。また、事後には、スキー技術進捗表を作成し、個人個人に配布した。

⑤スキースクールⅡ（3.27～30、群馬・尾瀬岩鞍スキー場）

2年目ながら、多数の参加があった。場所も新しく尾瀬岩鞍スキー場を選んだ。雪の状態は良かったが雨の日が多く、ベストコンディションとまではいかなかった。

4) グループ活動

今年も、第3期の利用が多く、昨年に比し第1・2期の利用が伸びていない。内容的には新体操の希望が徐々に増えてきている。グループ活動全体のPRを更に考えていきたい。

5) 研究活動

今年度は、講座での活動を踏まえて、また、講座での指導に反映させるよう、活動を行った。その主なものは、次のとおりである。

① 国際肥満学会（1990.11）

「THE CHARACTER OF THE MOVEMENT FOR OBESTIC CHILDREN THROUGH INDOOR SOCCER GAME WITH DIFFERENT NUMBER OF TEAM CONSTITUTION」

「THE CHARACTER OF THE MOVEMENT OF OBESE CHILDREN THROUGH

SPORTS GAME AND ADAPTIVE ARRANGEMENT OF SPORTS」(シンポジウムでの講演)

—— 羽崎泰男, 秋元宏之 ——

②体育学会

「スポーツゲームにおけるルール・アレンジメントのための考案

第1報 屋内サッカーにおけるチーム編成による動きの差異について」

—— 羽崎泰男, 秋元宏之, 下村 ——

③ジャーナル

・ “スポーツチャイルド・プログラム” 健康と環境 1990・8 東京顕微鏡院発行
(羽崎)

・ “運動が苦手な子どもたち” 児童手当 1991・2 厚生省児童家庭局監修
日本児童手当協会発行 (羽崎)

2 プレイ事業部

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 平成2年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区 分 時間	火		水		木		金		土		日		
	プレイ ホール ほか	パソコ ンルー ム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルー ム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルー ム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルー ム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルー ム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルー ム	
10：00	グループ活動 フアンタジックドラマ パソコン体験教室 （グループ活動 フアンタジックエー ション）		グループ活動 フアンタジックドラマ パソコン体験教室 （グループ活動 フアンタジックエー ション）		グループ活動 フアンタジックドラマ パソコン体験教室 （グループ活動 フアンタジックエー ション）		グループ活動 フアンタジックドラマ パソコン体験教室 （グループ活動 フアンタジックエー ション）		一 般		一 般	パソ コン クラ ブ 用 室	
11：00													
12：00									利 用		利 用		
13：00	一般利用 プレイホール・ふしが丘 コンピュータプレイ・屋上遊園		一 般 利 用		一 般 利 用		一 般 利 用						プラモデル模型工作教室
14：00							場Ⅱ おはなし人形広			一			
15：00	おはなし紙しば いの集い		一 般 利 用		場Ⅰ おはなし人形広		一 般 利 用		一 般 利 用				マックロー人形劇場 サタデープレイタイム
16：00									みんなであそぶ うゲーム大会				
17：00											一 般 利 用		
18：00													

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
プラモデル模型工作教室	毎週日曜日 ・祝日	13:00～ 15:00	プレイホール	(人) プラモデル協会 指導員 職員・ボラン ティア	プラモデル工業協同組 合の協力で、手作り工 作の基礎を学ぶ教室。
おはなし紙しばいの集い	火曜日	15:00～ 15:30	“(幼 児 コー ナー)”	職員1 ボランティア	こどもの城婦人ボラン ティアの協力により、 幼児向けの30分ぐら いの楽しいお話の時間。
チャレンジゲーム大会	水曜日	15:30～ 16:30	プレイホール	職員2	年齢に関係なく、だ れでも練習すれば上 手になっていく「セー フティダーツ」の大 会。
おはなし人形広場Ⅰ	木曜日	15:00～ 16:00	“	職員2 ボランティア	プレイ事業部のスタッ フとボランティアが、 幼児に向けて人形劇 や影絵やパネルシア ターの楽しい集い。
みんなであそぼうゲーム 大会	金曜日	16:00～ 17:00	“	職員2	だれでも参加できる ことを目標に「ビン ゴゲーム」を中心と したゲーム大会
おはなし人形広場Ⅱ	土曜日	14:00～ 15:00	音楽ロビー	職員1 外部人形劇サー クル	外部のサークル、ボ ランティア集団によ る人形劇の集い。水 曜日の広場より少し ゆっくりとした時 間で実施。
マックロー人形劇場	第2土曜日 月1回	15:00～ 16:00	プレイホール	職員1 ボランティア	こどもの城の青年ボ ランティアによる、 こどもの城キャラク ターの楽しい人形 広場の集い。
サタデープレイタイム	土曜日	15:00～ 17:00	“	“	自分の手で作って遊 ぶ「遊びは自分で作 り出すもの」を合い 言葉に、じっくり遊 んでみようという小 学生のためのクラ ブ的な活動。
(母の日) 手づくりプレゼントを作 ろう	5.12・13	ワークショッ プ 11:00～ 16:00	プレイホール	職員2 ボランティア	エプロン型のカード 作り。

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(父の日) チャレンジ・ザ・ 親子ラリー	6.16・17	11:00～ 16:00	プレイホール 音楽ロビー	(人) プレイ職員2 企画職員2 研修職員1 ボランティア	企画部、研修教養部の 共同事業 協力、AV事業部
(七夕まつり) おねがいしよう	6.30 ～7.8	ワークショッ プ 11:00～ 16:00	プレイホール	職員2 ボランティア	協力、AV事業部
(敬老の日) 昔あそびの名人に教えて もらおう	9.15・16	11:00～ 16:00	プレイホール 屋上ふしぎが 丘	職員2 渋谷区老友会	
(体育の日) なんでもチャンピオン シップ	10.10	11:00～ 16:00	屋上ふしぎが 丘 コンピュータ プレイルーム	プレイ職員2 企画職員2 研修職員1 ボランティア	企画部、研修教養部と の共同事業
(節分会) 大まめまきゲーム大会 オニエンターリング	2.2・3	ワークショッ プ 11:00～ 15:00 ゲーム大会1 日1回	プレイホール 屋上ふしぎが 丘	プレイ職員2 企画職員2 研修職員1 音楽職員1 ボランティア	企画部、研修教養部と の共同事業 協力、AV事業部
(ひなまつり) みんなでひなまつり	3.2・3	ワークショッ プ 11:00～ 15:00 ゲーム大会 1日1回	プレイホール 屋上ふしぎが 丘 音楽スタジオ B	プレイ職員2 企画職員2 研修職員1 音楽職員2 ボランティア	企画部、研修教養部、 音楽事業部との共同事 業 協力、AV事業部
(各記念日・祝日) スペシャルゲーム大会	6.2・15 9.23・24 10.1 11.14 1.15 2.11 3.21	1日2回	プレイホール	職員2 ボランティア	
第4回・5回・6回 バンパー大会	6.23・24 11.17・18 3.16・17	土曜日(小学 生の部) 日曜日(中学 生の部)	〃	職員2 ボランティア	

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<児童福祉週間> みんなでつくろう デカデカ鯉	4.29～ 5.6	ワークショップ 11: 00～16: 00	プレイホール	(人) 職員 2 ボランティア	
こどもの日 人形劇フェア	5.4～6	1日2回公演 13: 00 15: 00	研修室	職員 1 外部協力団体	(出演者) 劇団みのむし 人形劇団ほっぴい コロソ団
<夏休み> 人形劇フェア	8.3～7	1日2回公演	フリーホール	職員 1	
<開館記念> 人形劇フェア Part 1 Part 2	11.3・4 11.23～25	ワークショップ 11: 00～16: 00 1日2回公演 13: 00 15: 00	〃	職員 1 ボランティア 外部協力団体	(出演者) 人形劇団ほっぴい 人形劇団あゆたみ 青年・婦人ボランティ ア
こどもたちのパソコ ンソフト作品展	11.1～18	平日 14: 00～17: 30 土曜日 13: 00～17: 30 日曜日 10: 00～17: 30	パソコンルーム		
<冬休み> クリスマス 人形劇フェア	12.22～27	1日2回公演 13: 00 15: 00	フリーホール	職員 1 外部協力団体	(出演者) 人形劇団空中分解, ばねるっば, 劇団は てな, テアトルジア スターゼ, 青年・婦 人ボランティア
お正月の遊び大集合	1.3～6	11: 00～15: 00	プレイホール 屋上ふしぎが丘 音楽スタジオ B	プレイ職員 2 企画職員 2 研修職員 1 音楽職員 1 ボランティア	企画部, 研修教養部, 音楽事業部との共同事 業 協力, AV 事業部
<春休み> 人形劇フェア	3.26～30	ワークショップ 11: 00～16: 00 1日2回公演	フリーホール	プレイ職員 1 ボランティア 外部協力団体	和気ちゃんとツパメ君 ばねるっば どんぶりこ たけとんぼ 青年・婦人ボランティ アグループ

Ⅲ 各部の活動(1)

4) キャンプ・合宿プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ファミリーハイキング	5. 27	8:00～17:30	茨城県筑波山	職員 (人) 4 ボランティア 6	参加者 33人
キャッスルキャンプⅠ期	7. 24・25	1泊2日	プレイホール 屋上ふしが丘 ほか	職員 6 ボランティア 11	参加者 5・6歳児 35人
Ⅱ期	8. 29～30	〃	〃	〃	参加者 5・6歳児 38人
ちびっこ冒険団	8. 8～8. 11	3泊4日	福島県国立那須 甲子少年自然の 家	職員 4 ボランティア 21	参加者 小1～小3 95人
ファミリーキャンプ	9. 23～24	1泊2日	横浜市こどもの 国キャンプ場	職員 4 ボランティア 6	参加者 17家族58人

5) 講座・クラブ

名 称	対 象	曜 日 時 間	場 所	期 間	人 数		料 金	講師等	備 考
					定 員	受講数			
小学生パソコン教室Ⅰ	小4 ～ 6年	I-A コース 日曜日10:30～12:30 I-B 〃 I-C 連続5日 10:30～12:30	パソコン ルーム	4. 15～ 5. 20 10. 14～ 11. 18 3. 26～ 30	(人) 20	(人) 22 19 20	(円) 5,000	小倉康仁	
小学生パソコン教室Ⅱ	小4 ～ 6年	Ⅱ-A コース 日曜日10:30～12:30 Ⅱ-B コース 〃	パソコン ルーム	6. 17～ 7. 15 1. 20～ 2. 17	20	22 19	5,000	小倉康仁	小学生パソコン教室Ⅰの修了者
小・中学生パソコン教室	小5 ～ 中3	連続5日 10:00～12:30	パソコン ルーム	8. 21～ 25	20	15	5,000		
パソコンクラブ	小4 ～ 高3年	水・木曜日 14:00～17:30 土曜日 13:00～17:30 日曜・祝日 10:30～17:30	パソコン ルーム	1年	—	—	4,000		

(2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部は、前年度と同様に、遊びの場とプログラムの提供をするとともに、過去5年間の活動のまとめを中心として事業展開を行った。特にプレイホールの「幼児コーナー」については、全面的な改修を行い、乳幼児のニーズに合わせた「乳幼児コーナー」として春休みからオープンした。また、開館以来、5年間にわたって実施してきた季節行事についてもマニュアル化を図り、他の児童館との情報交換の資料となるようにまとめを行った。

一方、パソコンについても、これまでの「パソコン親子体験教室」をとりやめた代わりに、「パソコン通信」を中心とする夏休みの特別教室を開催するなど新しいプログラム開発に力を注いだ。

更に、屋上プログラムについては、子供たちが安全に、清潔な環境で遊べるようにするため、プレイボートの清掃、乗り物の修理など細やかな配慮を行ってきた。

「こどもの城」が子供の自由利用を推進する一方で、子供たちとより緊密な結び付きをつくり、真に成長の場となるため、キャンプ・合宿等を実施し、高い評価を得てきた。特に「ちびっこ冒険団」は、希望者も多く、少子化時代に集団生活、特に異年齢の集団の中で学び合うことが多かった。今後もこれを発展させる必要があると考えている。

また、友の会会員を対象にしたファミリーハイキング（5月）とファミリーキャンプ（9月）を実施し、定員以上の参加者を得た。友の会の強化策の一環として会員のサービスプログラムの推進を図る必要がある。

1) 平常期間

(ア) プラモデル模型工作教室

昭和61年の3月から始まったプラモデル模型工作教室は、プラモデルやさまざまな模型を子供たちの身近にある材料と考え、手作り工作をする楽しさ、完成させる喜びを体験してもらおうという目的で実施してきた教室である。

日本プラスチックモデル工業協同組合の後援で、毎回各メーカーから指導員が来て、丁寧な指導をしてもらっているが、「こどもの城」の青年ボランティアの指導補助も大きな支えとなっている。

本年度は、43回開催され、延べ1,300人が参加した。常連の子供たちが友達を連れてくる、又は友達と一緒に予約をするというように、プラモデル模型工作教室が子供たちの間に広く定着してきたことがうかがえる。

(イ) 紙芝居

「こどもの城」婦人ボランティア、青年ボランティアの協力による幼児向けの楽しい紙芝居の集いである。

1回に2,3作、年間124作を演じた。子供たちの中では常連が増え、始まりのテーマソングなどをいっしょに歌っている姿が目につき、定着した催しとなってきたことを感じる。

(ウ) チャレンジゲーム

セーフティダーツによるゲーム大会である。本年度はダーツを、ピンポン玉の周りにマジックテープがついているものから、矢の先にマジックテープのついたダーツへ、そして本格的なプラスチックの針がついているダーツへと変えていった。本格的な矢にしたことで、上級生の参加者が増え、本来の目的であった低学年から高学年まで楽しめる大会となった。

(エ) おはなし人形広場Ⅰ

幼児を対象にスタッフが交代で人形劇・パネルシアター・ペープサートなどを実施した。今年は、上演中にシンセサイザーで伴奏やBGMをつけ、リズムをもたせるなどの変化をつける工夫をした。そのため、今までと異なり流れにアクセントがついていて、より一層楽しめる展開となった。

また、第3木曜日は、青年ボランティア・婦人ボランティアによる影絵とパネルシアターを定期的に実施した。

(オ) ゲーム大会

1年間「ビンゴゲーム」を実施した。

このゲームは、年齢や力に関係なく楽しめるので毎回、幼児・小学生・母親といった広い層の参加が多いのが特徴である。クイズ形式のビンゴを中心に行い、参加者とのコミュニケーションに力を入れた。クイズを解くことで、ゲームへの参加性が高まり、毎週の参加を楽しみにする子供たちが目立って増えた。

(カ) サタデープレイタイム

小学校3年生から高校生までの子供たちが、いろいろな遊びを通して交流を深めていくプログラムである。

今年は、手作り工作的なプログラムに力を入れた。その内容も昨年までの紙や木を材料とした伝承的な遊具の工作だけでなく、ビーズやプラバンを使ったアクセサリー作り、野外に出てのパン作りなどプログラムに変化を持たせるように工夫した。その結果、女の子の参加が多くなり、毎週の参加を楽しみにする子供が増えた。

また、ニュースポーツやボードゲームの日をねらって参加してくるリピーターの子供たちも多くなってきた。

こうした常連の子供たち同士や、それらの子供たちとたまに來たり参加する子供たちを結び付けていくためのグループワーク的な視点で活動していくことが必要になってきた。

(キ) おはなし人形広場Ⅱ

おはなし人形広場Ⅱは、外部の人形劇団やサークルによる人形劇の集いである。本年度はプレイホールから音楽ロビーに場所を移して実施した。プレイホールと違って音楽ロビーは構造的に、見る、聞くということに集中できる点が非常に良い効果を生んだ。また、人形広場の時間前後の音楽ロビーの活動と雰囲気とうまくマッチし、相互に良い状況を醸し出していたようである。

3) 季節行事・その他の特別行事

(ア) 母の日プログラム

「お母さんに手作りプレゼント」

日時： 5月12日 13:00～17:00 117人

5月13日 11:00～16:30 228人

エプロン型のカードを作り、お母さんにプレゼントした。エプロンのデザインは、スタイルを2種類用意し、好きな型紙から作れるようにした。エプロンの型・色・リボンの色・ポケットの柄などの組み合わせによって個性的なカードに仕上げられるよう工夫した。お母さんの参加もあり、おばあちゃんあてのカードと一緒に作っている姿もみられた。

(イ) チャレンジ・ザ・親子ラリー

参加者： 6月16日（土）13:00～16:00 77組

6月17日（日）11:00～16:00 172組

お父さんと子供が一緒になって、さまざまな課題を解きながら全館を回るラリー形式のプログラムを実施した。ジェスチャーやカラオケコーナーなど、前年よりもパフォーマンス的な要素が多くなっているのが今年の特徴である。父の日行事ということで親子2人で楽しめるゲームを心がけたが、実際には父子ペアでの参加は非常に少なく、子供同士、又は母と子供というペアが多かった。父親の姿も多く見られただけに残念であった。

ラリー課題

- ① パパと呼ばないで…借り物競争形式のゲーム。
- ② 減点パパ…親は子の、子は親に関するクイズを解く。
- ③ 24時間戦えますか…ファミコンゲームに挑戦する。
- ④ 親の心子知らず…親がジェスチャーで出題した問題に子供が答える。
- ⑤ 5時から男のカラオケコーナー…親子で生伴奏に合わせて歌うコーナー。

(ウ) 七夕プログラム

「みんなでねがいごと」ワークショップ

日時： 6月30日 11:00～16:30 215人

7月1日 11:00～16:30 632人

3日 14:00～16:30 133人

4日 14:00～16:30 155人

5日 14:00～16:30 91人

6日 14:00～16:30 76人

七夕プログラムでは、短冊に願い事を書く「ワークショップ」コーナーと、「星空めいろ」コーナーを設けた。

「星空めいろ」コーナーは、プレイホールに常設されている「めいろくん」の天井・通路を黒塗りの段ボールで囲い、コーナーを特設した。「めいろくん」の入り口から紙芝居を利用し

た「のぞきまどー七夕のはなし」・ブラックライトで天の川や笹の葉が光る「ひかる空」・エコマイクによる「ボイスチェンジ」・ジオラマなどを設置し、視・聴覚を通して楽しめる空間をつくった。

ワークショップのコーナーから、「星空めいろ」の入り口まで笹を並べて立て、竹林を抜けて、めいろの中に入れるように演出を行った。

ワークショップの短冊には、心をこめた願い事が書かれ、中には外国人の参加もあり、それぞれの言葉による短冊も多く、伝統行事に興味を示してもらえた。

(エ) 敬老の日

今年は、9月15日(土)と16日(日)の2日間を実施日とした。

1日目は、「おじいちゃん、おばあちゃんの子供のころの遊び」ということで、お手玉、あやとり、将棋、めんこ、竹馬などの伝承遊びを来館した子供たちに体験してもらうプログラムを行った。祝日ということもあり、朝から親子の来館が多く、母子や父子と一緒に活動する姿が多く見られた。

2日目は、「渋谷区老友会」のおじいちゃん、おばあちゃんに来ていただき、昔遊びや手品ショーなどを通して、子供たちとの交流をもってもらった。例年よりも今年は、手作り遊び的なものを多く取り入れてもらい、子どもたちはもとより、お父さんやお母さんも熱心に作り方を覚えて帰っていった。

(オ) 体育の日「なんでもチャンピオンシップ」

屋上遊園で「自転車選手権」、3階のコンピュータプレイルームで、昨年同様「NCC 杯熱気球レース」を行った。

「熱気球レース」では、ペア戦で10レース74組の参加で行った。

「自転車選手権」では、三輪車、手でこぐパワーカート、後輪操舵のムーンカートを使い、F1顔負けのホットなレースが展開された。観客にも、どのチームが勝つか予想をしてもらい、レースを楽しんでもらった。

(カ) 節分行事

「鬼 VS 福の神・豆まき対決」鬼エンターリング 2月2日(土)・3日(日)

毎年恒例になってきた豆まき「鬼 VS 福の神・豆まき対決」を鬼と福の神の対決を通し、日本の伝統行事である節分の意味を伝える目的で実施した。

「鬼エンターリング」では、地図を頼りに、「こどもの城」のさまざまな場所に隠れている鬼を探して、それぞれのポイントごとにゲームをするラリー形式のゲームを行った。今年は鬼に勝つとスタンプがもらえるポイントの中に、無人ポイントや秘密のポイントを作り、ポイント数を増やしてだれもが楽しめるよう工夫をした。ゴールでは、スタンプの多い子に大福袋、少ない子には小福袋をプレゼントした。

(キ) ひなまつりプログラム「みんなでひなまつり」

日時: 3月2日 13:00~16:30 195人

3月3日 11:00~17:50 352人

プレイホールと音楽ロビーの2か所で、ラリー形式のプログラムを行った。

プレイホールでは、ひなまつりの伝承行事として「ながしびな」づくりを体験した。作ったおひなさまで体をこすり、健康を祈願した。参加した子供たちは、初めのうちはおひなさまで厄払いをすることにちゅうちょしていたようであった。

音楽ロビーでは、ひな段に上がりスタッフの三味線や琴の演奏に合わせて、うちわ太鼓や桶胴（おけどう）などの和太鼓をたたき、五人ばやしを体験した。

最後まで参加した子供たちには、自分で折った角香箱にひなあられを入れてもらえるように、演出をして好評を得た。

(ク) ファミリーゲーム大会

祝日や近隣県・市の記念日には、午前中から多くの家族連れが「こどもの城」を訪れる。このような家族に楽しい時間を過ごしてもらうプログラムとして、昨年途中から「スペシャルゲーム大会」を改め、「ファミリーゲーム大会」として実施をしてきた。

今年は、幼児でも無理なく参加でき、だれでも一度は遊んだことのある「わなげ」と、多くの人が同時に楽しめる「ビンゴゲーム」との組み合わせにより、一層家族単位での参加が容易になるように演出をして実施した。

実施日：

横浜開港記念日：6月2日（土）

千葉県民の日：6月15日（金）

秋分の日：9月23日（日）

都民の日：10月1日（月）

埼玉県民の日：11月14日（水）

成人の日：1月15日（火）

建国記念日：2月11日（月）

春分の日：3月21日（木）

(ケ) バンパー大会

本年度バンパー大会を3回実施した。

第4回大会：6月23日 小学生 参加数7人。 24日 中・高生 参加数8人。

第5回大会：11月17日 小学生 参加数10人。 18日 中・高生 参加数11人。

第6回大会：3月16日 小学生 参加数10人。 17日 中・高生 参加数11人。

第5回大会から、中・高生大会を日曜日に行うように変更した。このことにより、一時参加率が落ちていた中・高生大会だったが、参加人数の増加が図られた。また、この中・高生大会は会場を、それまで会場としていたプレイホールから音楽スタジオの中へ移し、館内中継も併せて行った。参加者の反応は、緊張感をもって熱をこめてやれたとのことであった。

第6回大会には、初参加の子とそれまで何回も参加してきた子供たちの中で一番成績の良かったものに、新人賞を与えた。これによって初参加の子たちにも、より一層やる気が出ていたようであった。

4) 特別期間

(ア) デカデカ鯉

4月29日(日)～5月6日(日)

本年度は、鯉の内側にグラフィックライトを仕込み、ウロコを蛍光塗料で光らせた。ホール内を暗くすると、ピンク、黄、青、緑のウロコがきれいに光り、鯉のトンネルの中に多くの親子が入っていった。最終日には5,000枚を超えるさまざまなデザインのウロコが全長15m、高さ2.5mの鯉を彩った。

(イ) 新年行事

12月22日(土)～1月7日(月)

昨年と同様、全館行事である「お正月の遊び大集合」のプログラムのうち「昔あそびの自由体験」というテーマで、プレイホールの中では、かるた、すごろく、ジャンボ福笑いを、また、屋上ふしぎが丘では、こま、三馬、竹馬を用意した。できない子供たちにはボランティアが遊び方を指導した。また、今年は、ジャンボ福笑いのパーツなど遊び道具に改良を重ね、例年起こる頻度の高さによる消耗などを減らし、より多くの子に一層楽しんでもらえるよう工夫をした。

(ウ) 人形劇フェア

昭和60年の11月2日の開館記念日からスタートした人形劇活動も、「おはなし人形劇場」、「人形劇のつどい」、「人形劇フェスティバル」と名前を変え、5年目の現在では「人形劇フェア」の名称で子供たちに親しまれるようになっている。

初めから現在のようなスタイルができていたわけではなく、開館当初はプレイ事業部職員の手による上演と、さまざまな大学の人形劇サークルによる上演が中心であった。

各大学の人形劇サークルへの呼びかけは、和気瑞江さんを中心とする「パペットマーケット」の協力によるところが大きかったが、人形劇サークルの学生の卒業などにより、コンスタントなフェアへの参加は難しかった。

昭和62年ごろから、「こどもの城」の活動に賛同してくれるセミプロ若しくはプロの人形劇団体が多くなり始め、人形劇の公演は徐々にグレードの高いものになってきた。特に前出の「パペットマーケット」と「人形劇団木ぐつ木」の2団体は、「こどもの城」の活動に対して非常に深い理解を示し、現在まで人形劇フェアやおはなし人形広場などのプロデュースに協力してもらっている。

昭和62年冬ごろから、「こどもの城」内部でも人形劇や影絵をやってみようというボランティアグループが現れた。この年の人形劇フェスティバルは、婦人ボランティアグループが影絵による「くるみわり人形」を、翌年には青年ボランティアグループによる「マックロー人形劇場」が活動を始めている。後にパネルシアターや大型紙芝居、大型絵本などさまざまなグループができ、本年度にはボランティアグループだけによる人形劇フェアも行えるようになった。

外部人形劇団体と内部ボランティアグループという仲間を得た人形劇フェアであるが、これからは学生人形劇サークルのネットワーク化も考え、広く児童文化の1つとしての人形劇をアピールしていきたい。

① こどもの日人形劇フェア

日時：5月4日～6日 ①13:00 ②15:00

場所：8階研修室

	出演団体	演目
4日	糸あやつり人形劇団みのむし	「あかずきんちゃん」「ああ白雪姫」「腹話術」
5日	人形劇団ほっぴい	「動物コンサート」「空色のタネ」「ねずみばあさんの話」
6日	コロ団	「だるまちゃんとてんぐちゃん」「ボードビル春夏秋冬」

今回、初めて8階の研修室を使用してフェアを行ったが、児童福祉週間の混雑時の来館者の分散を図ることについては、B1フリーホール以上の効果があった。

人形劇の上演のほかに、乳酸飲料の空きビンや封筒などを使って人形を作るコーナー、そして有料(500円)でウレタン、目玉、布切れなどを買って人形を作る、ラリー形式のワークショップ「パペットラリー」のコーナーを設けたことも新しい試みであった。

② 5周年記念人形劇フェア PART 1

日時：11月3・4日 ①13:00 ②15:00

場所：B1フリーホール

	出演団体	演目
3日	人形劇団ほっぴい	参加劇「ジャングル族の村祭り」 影絵「つばからでてきた鬼」「何ができるかな」
4日	人形劇団あゆたみ	人形劇「いっすんぼうし」 紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」ほか

③ 5周年記念人形劇フェア PART 2

日時：11月23日～25日 ①13:00 ②15:00

場所：B1フリーホール

	出演団体	演目
23日	婦人ボランティア影絵グループ 青年ボランティアパネルシアターグループ 青年ボランティア人形劇グループ	影絵「さるカニ合戦」 パネルシアター「カレーライス」 「マックロー人形劇場」
24日	婦人ボランティアサンバグループ 青年ボランティアパネルシアターグループ 青年ボランティア人形劇グループ	みんなでサンバ(演奏と楽器作り) パネルシアター「カレーライス」「ふしぎなポケット」 「かわいそうな怪獣」「3匹のこぶた」「森のくまさん」ほか 「マックロー人形劇場」

Ⅲ 各部の活動(1)

25日	婦人ボランティア紙芝居グループ ボランティア読み聞かせグループ 青年ボランティア人形劇グループ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型絵本「三匹のヤギのガラガラドン」 「マックロー人形劇場」
-----	---	--

今回の人形劇フェアは、外部の人形劇団体を中心としたPART1と、「こどもの城」のボランティアグループによるPART2の2回に分けて行った。

PART2では青年ボランティアの協力により、人形作りのワークショップを行った。このときの人形は、頭から割箸（わりばし）を差し込んで操作するペープサートタイプのもの。人形を作ってから、遊びに発展させるのは非常に難しいものであるが、ボランティアのグループは、机の上にビルや道路のミニチュアを作り、多くの子供たちを上手に遊びの世界に引き込んでいた。

④ クリスマス人形劇フェア

日時：12月22日～27日 ①13:00 ②15:00

場所：B1フリーホール

今年のクリスマス人形劇フェアはワークショップを無くし、公演のみとした。全6日間のうち、2日は「こどもの城」ボランティアグループによるものである。人形劇グループとパネルシアターグループ、紙芝居グループなどそれぞれのグループが自分たちだけで凝り固まってしまうずに、ボランティア全体としてフェアに臨もうという姿は好感がもてた。

今回は、外部人形劇団体もすべて「こどもの城」で何回か公演を重ねてきたグループであり、この人形劇フェアのために新作を準備してきた団体も多かった。

	出演団体	演目
22日	婦人ボランティア紙芝居グループ 青年ボランティアパネルシアターグループ 青年ボランティア人形劇グループ	大型紙芝居「ごきげんの悪いコックさん」 大型紙芝居「大きく大きく大きくなあれ」 パネルシアター「カレーライス」「コンコンクシャン」 「森のクリスマス」 「マックロー人形劇場」
23日	人形劇団空中分解	人形劇「三角君海へ行く」「たぬどんのはなし」
24日	青年ボランティアパネルシアターグループ 青年ボランティア人形劇グループ	パネルシアター「カレーライス」「コンコンクシャン」 「森のクリスマス」 「マックロー人形劇場」
25日	ばねるっば	パネルシアター「しゃぼんだま」「ちいさなお庭」「ふしぎなポケット」 「あわてんぼうのサンタクロース」ほか
26日	テアトルジアスターゼ	パネルシアター「変身」人形劇「トンカチマン」
27日	劇団はてな	人形劇「フーとブーツの何して遊ぼう」腹話術、歌遊び

⑤ 春休み人形劇フェア

日時：3月26日～30日 ①13:30 ②15:30

場所：4階音楽スタジオB

	出 演 団 体	演 目
26日	青年ボランティアパネルシアターグループ	パネルシアター「山の音楽家」「3匹のこぶた」「スミとワラとマメ」
27日	和気ちゃんとツバメ君	「3匹のこぶた」
28日	ばねるっば	パネルシアター「わたしのワンピース」人形劇「アヒルのおさんぽ」ほか
29日	人形劇団どんぶりと	人形劇「こぶとり」
30日	たけとんぼ	パネルシアター「なぞなぞの島」「南の島のハメハメハ大王」ほか

今回の人形劇フェアは、音楽事業部の「わいわいスタジオ」の枠で行った。

ロケーションの問題からワークショップは行わなかったが、小劇場のような雰囲気が演出でき、それでいて舞台への参加度が高い、アットホームな空間となった。

スタジオの音響や照明も多用し、劇効果も面白いものとなった。AV 事業部の協力により、リアルタイムで館内テレビに放映した。

4) 野外プログラム

(ア) 友の会ファミリーハイキング 5月27日(日)

友の会会員へのサービスとして、企画部、プレイ事業部そして保育研究開発部合同のファミリーハイキングを実施した。場所は、水郷・筑波国定公園の筑波山である。幸いにも晴天に恵まれ、絶好のハイキング日和となった。第1回目のファミリーハイキングということで申し込みに若干の不安もあったが、24組63人も参加者があり、ボランティアの助けもあった楽しく実施することができた。

この時期の筑波は、パープルラインの名のとおり、ピンクや紫のツツジが咲き乱れる美しい景観を見せてくれ、ハイキングコースも出船入船、弁慶七戻、ガマ石などの巨大怪石群や関東平野を一望する大パノラマなど変化に富み、ファミリーには最適のコースであった。

後日、ある父兄から「まだまだ赤ちゃんだと思っていた自分の娘が先頭集団で山へ登っていく姿を見て、人間の成長に感動した」という主旨の手紙をいただいた。ふだん、「こどもの城」で行われている活動は、子供中心になりがちであるが、新たにこうしたファミリー企画が催されるようになったことは、子供にとっても親にとっても、そして我々にとっても非常に意味の深いことであるように思う。

(イ) キャッスルキャンプ

I 期 7月24日(火)・25日(水)

II 期 8月29日(水)・30日(木)

幼児(5・6歳児)を対象にしたキャッスルキャンプも今年で2回目を迎えた。夏休み期間の初めと終わりに計2回実施し、I 期35人、II 期38人の計73人が参加した。屋上「プレイポート」での宝探し、夜の「ふしぎが丘」での星のかけら拾い、机やダンボールを使っ

隠れ家作りなど、ファンタジックドラマの手法を取り入れたキャンププログラムは、今年も参加した幼児に大好評であった。

(ウ) ちびっこ冒険団 8月8日(水)～11日(土)

小学1～3年生を対象に野外における集団宿泊生活を目的としたキャンプを、福島県の「国立那須甲子少年自然の家」を会場に、参加者95人、スタッフ4人、ボランティア21人、総勢120人で実施した。

今年で2年目であり、前年度の反省をもとにプログラムに追われずにゆったりと活動できるようにとの配慮から1泊増やし3泊4日にした。自然の家では、班のリーダーを中心に探検に出かけ、植物や虫、また、いろいろな場所に通じる道を見つけてきた。その成果は、班で協力し絵や模型を作り夜のミーティングで発表しあった。来年度は、台風の影響で、今年できなかった“村作り”や“野外炊事”を行っていききたい。

(エ) ファミリーキャンプ

9月23日(土)・24日(日)

神奈川県横浜市こどもの国キャンプ場

本年度から始めたハイキングに続くファミリー向けのアウトドアプログラムであった。17家族58人の参加者があり、1泊2日という短い時間であったが、事故もなく楽しいキャンプとなった。初日はテント設営、野外炊事、そしてキャンプファイヤー、2日目はハイキングやクラフト、パン作りなどの選択プログラムと盛りだくさんのプログラムを体験することができた。3・4歳の幼児の参加も多く、親子が一緒になってキャンプファイヤーのダンスや、デザート焼きりんご作りを楽しむ姿が特に印象的であった。今後野外のプログラムとしてより自然を楽しむためには環境やサイトをもう少し配慮する必要があるろうし、「こどもの城」の特色としてのキャンプというものも考えていくべきであろう。

5) パソコンルームの活動

(ア) 一般活動

本年度も多くの子供たちがパソコンルームの活動に参加した。パソコンルームの活動は、参加者が自分でプログラムを入力したり、機械を操作するというのが基本になっている。年間の活動の中でより複雑なプログラム作りや、パソコンで時計を作るプログラムなどのメニューを増やした。また新しい内容の活動としてワープロも利用できるようにしたところ、小学校高学年以上の子供たちに利用希望が増えている。

11月に行った「こどもたちのパソコンソフト作品展」以後、そのソフトやパソコンルームに親しみを持った幼児から小学校低学年の利用も多くなった。また、逆にワープロなどの利用を目的に50～60歳代の年配の方の利用も少しずつであるが増える傾向にあり、より幅広い対象の利用を考慮する必要があると出てくるであろう。

コンピュータプレイ利用実績

(1) 個人・集団別

	個人プレイ	集団プレイ		計
		組数	人数	
4月	4,337	239	689	5,026
5月	3,585	196	619	4,204
6月	3,910	223	666	4,576
7月	4,966	288	918	5,884
8月	8,577	391	1,402	9,979
9月	3,165	180	537	3,702
10月	3,480	190	608	4,089
11月	4,312	234	730	5,042
12月	3,620	188	592	4,212
1月	3,943	204	644	4,587
2月	4,157	192	574	4,731
3月	5,224	271	854	6,078
計	53,276	2,796	8,833	62,109

(2) 年齢層別

	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中	高	大人	合計
男	5,006	3,081	3,395	3,686	3,238	2,925	2,467	1,557	182	3,802	29,339
女	3,548	1,960	2,733	4,195	3,582	3,281	2,423	1,538	307	9,203	32,770
合計	8,554	5,041	6,128	7,881	6,820	6,206	4,890	3,095	489	13,005	62,109

(イ) パソコンソフト作品展

「こどもの城」開館5周年行事のプログラムとして、11月1日から11月18日までパソコンルームとその前面の廊下壁面を利用して、子供たちの作ったプログラムの作品展示を行った。これは、「こどもの城」開館以来開催してきたパソコン教室で、子供たちが作ったグラフィックスの作品展示と、パソコンクラブのメンバーが作ったさまざまなプログラムのデモンストレーションを行ったものである。多くのグラフィックスの写真や、カラープリント、ゲームやクイズ、コンピュータミュージックのプログラムなどは実際に動作させて展示した。来館者の反応も、「こんなことができるのか」、「私もやってみたい」などと、子供たちの成果とパソコンルームの活動をうまく紹介することができた活動となった。

(ウ) パソコン教室

パソコン教室は、小学校高学年を対象とした初級コースである「小学生パソコン教室Ⅰ」を3コース、そしてその修了者を対象とした「小学生パソコン教室Ⅱ」を2コース実施した。また、夏休み期間には、小学5年生から中学3年生までを対象に、パソコン通信を中心テーマにした「夏休みパソコン教室ーパソコン通信を利用してー」を実施した。これは、パソコン通信のネットワークを利用して、この新しいコミュニケーション手段を体験すること、ま

Ⅲ 各部の活動(1)

た、ネットワークにつながるデータベースを利用して、子供たちが自分たちで考えた「宇宙人とは？」とか「学校とコンピュータ」といったテーマについて調査し、レポートをまとめるという活動を行った。教室の最後の日、全国の子供たちに向けて送っていたメッセージに神戸から返答があり、よりコミュニケーションの楽しさを実感することができたようであった。

小学生パソコン教室Ⅰカリキュラム

	内 容
1 日目	「パソコンの操作とロゴの基本命令」 キーボードの操作から、ロゴ言語で絵を書く仕組み。
2 日目	「繰り返し命令を使った図形」 繰り返し命令を使い、多角形や円の作図を楽しむ。
3 日目	「プログラムの作り方」 いろいろな命令を組み合わせて使い、図形を書くプログラムを作る。 また、フロッピーディスクの使い方。
4 日目	「プログラムの組み合わせ」 小さなプログラムを組み合わせ、大きなプログラムを作る。
5 日目	「グループでの共同製作プログラム」 グループでみんなが協力して、大きなプログラムを作る。

小学生パソコン教室Ⅱカリキュラム

回	内 容
1	・復習（基本命令，エリアの意味，ツールボックスの使い方など） ・「変数」を使ったプログラム。
2	・いろいろな繰り返しの方法（リピート，再帰呼び出し） ・条件文（IF 文）の使い方。 ・テンキーでタートルを動かす方法。
3	・ゲームでキャラクターを作る。 ・複数のタートルを動かす（マルチタートル機能）。 ・ゲームプログラム作り。
4	・ゲームプログラム作り。
5	・ゲームプログラム作り。

夏休みパソコン教室カリキュラム

	内 容
1 日 目	◆パソコン通信とは？ パソコン通信システムの基本的な仕組みと通信用ソフトウェアの使い方を学びます。
2 日 目	◆パソコン通信ネットワークの探検方法 実際にネットワークに参加し、「情報の迷宮（宝庫?）」であるネットワークを上手に探検する方法を身につけます。 また、データベース（電子図書館）の利用法についても考えます。
3 日 目	◆ネットワークへの積極的参加（掲示板、電子メール、電子会議…） ネットワークにある情報を「読む」だけではなく、今度は自分の意見やメッセージをネットに「書き込み」ます。
4 日 目	◆ダウンロードの方法とデータの収集・分析 ネットワークから情報をまとめて取り出す方法と、そのデータを整理し、その持つ意味を考えます。
5 日 目	◆アップロードの方法とネットワークの総合利用 ネットワークへ情報をまとめて送り出す方法を体験します。 またパソコン通信の総合的な活用を考えます。

(エ) パソコンクラブ

パソコンクラブには、小学4年生から高校生までの約50人のメンバーが所属している。

本年度は、延べ920人が活動に参加した。

小学校でクラブに入会したメンバーも、もう中学生や高校生になった。各自の活動内容もよりレベルの高いものとなってきている。プログラミング、コンピュータミュージック、ワープロ、データ処理など活動の種類も多岐にわたっている。クラブ全体の活動も毎年恒例の「こどもデパート」の出店（店名「パソコンカジノ」子供たちが作ったパソコンゲームのお店）、初心者のためのパソコン操作の講習会、パソコン通信の講習会、そしてメンバー交流のための焼きいもの会を実施した。

6) グループ活動

本年度は、今まで実施したプログラムの中で特に要望が多かったファンタジックドラマの中の「森へいこう」（主に幼児対象）、グループレクリエーションの中の「スペシャルジャンケンゲーム」（小学生対象）、「忍者の修業」（親子対象）、それに「パソコン体験教室」（小学校高学年、中学生対象）の内容をそれぞれ検討し、改良を行った。これによって、それぞれの年齢に対して充実したプログラムが行えるようになった。また、障害のある子に対するプログラムもファンタジックドラマを中心に、それぞれのグループに合ったプログラムを提供した。

○ 実施状況

グループレクリエーション（幼・小）4回

ファンタジックドラマ（幼・小）8回

パソコン体験教室（小）5回

プレイホール・プレイポート自由遊び（幼・小）86回

7) そ の 他

(ア) 幼児コーナーの新設

従来、33畳の畳敷きオープンスペースであったため、日曜日・祝日ともなると疲れた親がゴロ寝をしているといった状況であった。また、子供たち自身もあまりに広い空間であるため、親密な遊びのエリアといった感じを抱くことができず、利用されにくかった。そこで、今の子供たちの生活感覚に近いシステムキッチンのコーナーを中心に、小刻みに区切ったスペースを作り、その周りには保護者が座りながら我が子の遊ぶ姿が見られるよう、ベンチをめぐらせた。併せて、一番広いエリアには、絵本やブロックなどの遊具で親子が対話をしながら遊ぶことができるよう配慮した設計をした。我々スタッフのラフスケッチをもとにデザイナーの手によって完成した乳幼児のコーナーは、今、親と幼児にとって、一番の遊び場となっている。

(イ) 『あそびでみるこどもの城の四季』の発行

「こどもの城」の開館5周年に当たり、プレイ事業部が中心となり、各事業部との協力で実施してきた季節行事の報告書を発行した。内容的には、1年12か月の季節行事について文章・写真・イラストでまとめることにより、「こどもの城」と同種の児童厚生施設である児童館向けのプログラムマニュアルともなるよう編集に工夫をこらした。記されているプログラムの基本的な考え方は、①幼児から参加できる、②知らない子供同士、又は親子が遊びを通して交流を深められる、③活動に参加した実感を得られる、といったことを目標に企画、立案された内容になっている。

(1) 2 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火	水	木	金	土	日
9:00						
10:00	プログラム準備	プログラム準備 および プログラム検討会	プログラム準備 および グループ活動	プログラム準備 および グループ活動		こどもクリエイティブ クラブ （リサイクルアート） こどもクリエイティブ クラブ （リサイクルアート）
11:00						
12:00						
13:00	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム	来館児プログラム
14:00						
15:00						
16:00		こどもクリエイティブクラブ （クレイワーク）		こどもクリエイティブクラブ （ゆかいな造形）	こどもクリエイティブクラブ （アニメ体験） こどもクリエイティブクラブ （版画で表現する）	
17:00						
18:00						

Ⅲ 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称		期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
第3回 遊びと造形発想展		6. 2～6.17	児童活動 エリア 開館時間中	ギャラリー	(人) おもしろ発想 法の会 スタッフ アルバイト	無料
やってみよう！ つくってみよう！	(ステップ1) 絵本と造形 (ステップ2) (ステップ3) (ステップ4) (ステップ5)	4.10～5.13 5.15～6. 1 6. 2～15 6.16～29 6.30～7. 20	〃	造形スタジオ (4.24～27, 5.9～5.29) はフリーホール	スタッフ アルバイト	こどもの 城入館料
	オープンスタジオ (きってはてみよう ねんどであそぼう なにをつくろうかな？ ほか)	9. 6～12.16	〃	造形スタジオ	〃	〃
	まちのえをかこう ほか まちをつくろう ほか どうぐばこをつくろう ほか	1. 9～27 2. 5～24 3. 5～17	〃	〃	〃	〃
こども歳 時記	クリスマス お正月 節分 ひなまつり	12.22～25 12.26～1. 6 1.29～2. 3 2.19～3. 3	〃	〃	〃	〃
〃	こどもの日 (特別期間)	4.27～5. 5				

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
「遊ぶ 世界の子ども」 田沼武能写真展	4.27～ 5.27	児童活動 エリア 開館時間中	造形スタジオ	(人) スタッフ アルバイト	こどもの 城入館料
造形スタジオワークショップ	〃	〃	フリーホール		
造形発見展 「絵本と造形」 ～ムナーリさんのプレゼント～	7.21～ 9.2	〃	造形スタジオ ギャラリー	〃	〃
フランツ・チゼック展	11.1～11.30	〃	ギャラリー	〃	〃
フランツ・チゼックと子どもたち展 第5回造形スタジオ展	11.1～11.30	〃	造形スタジオ	〃	〃
冬休みオープンスタジオ	12.22～1.6	〃	〃	〃	〃
おじいさんの道具箱	3.16～4.7	〃	〃	〃	〃

3 造 形

4) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
こどもクリエイティブ クラブ クレイワーク (粘土体験)	小1 高3年	(人) (1) 10	(人) 7	水曜日 16:00~17:30	造形ス タジオ	4.11・18 5.30 6.6・ 13・20・27 7.4・11	(円) 18,000	湯浅祥平 造形事業部 スタッフ
		(2) "	9	"	"	9.12・19・26 10.3・10・17・24	14,000	
		(3) "	10	"	"	1.16・23・30 2.6・ 13・20 2.27 3.6・13	18,000	
" (ゆかいな 造形)	"	(1) 10	9	金曜日 16:00~17:30	造形ス タジオ	4.13・20 6.1・8・15・ 22・29 7.6・13	18,000	造形事業部 スタッフ
		(2) "	5	"	"	9.7・14・21・28 10.5 12.19	14,000	
		(3) "	4	"	"	1.18・25 2.1・8・15・ 22 3.1・8・15	18,000	
" (アニメ体 験)	小3 高3年	(1) 10	7	土曜日 15:00~16:30	造形ス タジオ	4.14・21 6.2・9・16・ 23・30 7.7・14	18,000	造形事業部 スタッフ A V事業部 スタッフ
		(2) "	10	"	"	9.8・22・29 10.6・ 13・20・27	14,000	
		(3) "	"	"	"	1.19・26 2.2・9・16・ 23 3.2・9・16	18,000	
" (版画で表 現する)	小2 高3年	(1) 10	6	土曜日 15:00~16:30	造形ス タジオ	4.14・21 6.2・9・16・ 23・30 7.7・14	18,000	造形事業部 スタッフ
		(2) "	"	"	"	9.8・22・29 10.6・ 13・20・27	14,000	
		(3) "	"	"	"	1.19・26 2.2・9・16・ 23 3.2・9・16	18,000	
" (はじめて の版画)	小1 高3年	(1) 10	4	日曜日 10:30~12:00	造形ス タジオ	4.15・22 6.3・10・ 17・24 7.1・8・15	18,000	"
		(2) "	3	"	"	9.9・16・23・30 10.7・14・21	14,000	
		(3) "	"	"	"	1.20・27 2.3・10・ 17・24 3.3・10・17	18,000	
" (リサイク ルアート)	小2 高3年	(1) 10	4	日曜日 10:30~12:00	造形ス タジオ	4.15・22 6.3・10・ 17・24 7.1・8・15	18,000	"
		(2) "	3	"	"	9.9・16・23・30 10.7・14・21	14,000	
		(3) "	4	"	"	1.20・27 2.3・10・ 17・24 3.3・10・17	18,000	

(2) 造形事業部の活動

造形事業部は、開館5周年を迎えて、特別事業として従来の一般活動のほかに、次の2つの記念事業を行った。

(1) 田沼武能写真展「遊ぶ 世界の子ども」

(2) 美術教育の先駆者「フランツ・チゼック展 子ども・感性・環境」

(1)は造形活動の中で、大切にありながら軽視されがちな鑑賞行為と、同時代に生きるさまざまな国の子供たちの現状を子供たちに啓もうするため、試みた事業であった。

この事業で特に重点的に行ったことは、写真を見ることだけではなく、スタッフの用意した「ワークシート」をもとに、子供たちが展示されている写真の中へより深くかかわれるようにしたことである。つまり、ともすれば見るだけに終わってしまう鑑賞ということを、制作を通じて展示品の伝える内容に少しでも接近できるような仕掛けを設け、子供たちが積極的に作品と出会うように動機付けたことであろう。もう1つ大切なことは、さまざまな国の子供たちが、昔ながらの自然を利用したり、素朴な材料で遊んでいる現状を日本の大人と子供に伝えることであった。豊かさの中で日本人はともすれば「遊び心」を忘れてしまいつつあるのではないか、そんなことを暗示するような、子供たちのはつらつとした遊びが横いつした展示であった。

(2)は、子供の造形とは、子供の造形指導とは、を基本的に考える催事であった。私たちは5年前の開館記念事業としてブルーノ・ムナリー展を行った。ムナリーは現存のアーティストが子供たちに対して行うべき社会的義務と、子供の創造力を引き出し育てるのには、どのようなことを行うべきかを提案した。この提案は、その後の造形事業部の活動の中で、「寛容にみちた精神」という面で生かされてきている。チゼック展は、このムナリー展に続く事業として計画された。チゼックは子供の造形的表現を単なるいたずら書きでなく、1つの創造的表現と理解し、子供たちを指導した造形指導者として、戦後日本の斯界に大きな影響を与えている人物である。私たちは現在のムナリーから、源流のチゼックへとさかのぼり、造形教育とは何かを顕彰しようとした。ムナリー展とチゼック展の2つの事業によって、子供の造形、造形教育について過去と現在を検討し、未来への足がかりを築いたと言えるであろう。

この2つの特別事業のほかに従来どおり(1)一般来館児への対応プログラム (2)クラブ活動 (3)グループ活動、を行った。

また、造形スタジオの5年間の活動を、初めて外国で紹介するため、マンハッタン・チルドレンズ・ミュージアムにおいて約1か月、造形スタジオに遊びに来た子供たちの作品を展示した。これは、造形スタジオでの初めての海外との文化交流であり、今後の発展が期待される。

昨年暮れに、I・R・ジャパンという国際奉仕団体から、クリスマス活動に協力してほしいとの要請があり、東京駅のホールを子供たちの作品で飾ることもあった。国の内外を問わ

ず、このような交流は、「こどもの城」の実質的な紹介であり、今後積極的な展開が望まれるのではなからうか。

1) 平常・特別期間

(ア) 造形発見展＜絵本と造形＞～ムナーリさんのプレゼント 平常期間(4.10～7.20) 夏休み(7.21～9.2)

「造形発見展」では、これまでに、＜音と造形＞(昭和61年, 62年)＜光と造形＞(昭和63年, 平成元年)を実施してきた。本年度は子供たちにとって大変身近な存在である＜絵本＞をテーマとした。子供たちの周りには、既にさまざまな形の絵本があり、それらに触れ、見つめ、読むことで成長してきた。＜絵本と造形＞では、絵本を受け手としてではなく、自らの手で作ることをきっかけに、造形表現の領域の広がりを楽しさを体験し、造形の新鮮な視点を発見することを目的とした。

昭和60年の「こどもの城」開館記念として招へいた、イタリアのアーチスト、ブルーノ・ムナーリ氏は、優れた絵本作家としても知られている。「暗い夜に」をはじめ「きりのなかのサーカス」、「たんじょうびのプレゼント」などの数々の絵本は、いずれも、素材・技法・内容・形式などにおいて、従来の絵本の概念をはるかに超えたものである。それらは、子供たちの創造力を刺激する無限の要素を秘めている。また、ムナーリ氏の制作した芸術作品、デザイン作品、子供遊具の中や、更に世界各地で実践されている「アートとあそぶ」のプログラムの中にも、子供たちが絵本づくりを行う上で重要なヒントが、数多く含まれている。

4月から7月の平常期間には、夏休みの「造形発見展」の前段階として、これらの内容や要素をきっかけにした次のような「絵本をつくる」プログラムを実施した。“シースルーブック”、“あなあきえほん”、“どんなかお？なんのかお？”、“ひらけポン！”、“まどのある本”、“なににみえるかな？”、“手でみる本”、“クルクルえほん”、“オリジナルのコピーの本”、“木の本”、“みんなでつくるアイウエオの本”など。これらは、実際に子供たちが制作する中で、さまざまな検討が加えられた。

いつもと同じ方法で絵を描いたとしても、2枚を閉じてページをめくすることで、そこに時間の経過が生まれ、「絵本」の領域へと入り込む。更に、素材・技法・テーマなどの変化は子供たちの心を動かし、新しい表現の世界へと発展する。

夏休み特別期間は「造形発見展」の本番であり、この期間には、1・2階のギャラリーを展示・体験のコーナー、3階の造形スタジオを制作のコーナーとした。展示・体験のコーナーでは、ムナーリ氏の絵本の世界の全容を子供たちが全身で体験できるよう、次のような環境設定を行った。

○ムナーリ氏の絵本の世界への導入部として、その中に登場する“ひと”、“どうぶつ”、“もの”などを立体的に拡大制作をしたオブジェの設置。

○「きりのなかのサーカス」から、霧の場面を表した6枚の半透明の大スクリーン。

○ムナーリ氏の遊具から、絵本に結び付く要素を持つもの4種による遊びのコーナー。

- ・「ぼうしはどこかな」、「トン、トン」の2種の本は、約1mの拡大絵本として制作。
- ・「暗い夜に」から、ほら穴の場面を実際に子供たちがぐぐり抜けられるように約2m×2m×12mに拡大して制作。その内部には、場面の内容がよりリアルに伝わるように、音・映像・光・感触による仕掛けもいろいろ設置した。
- ・約25種類のムナリー氏の実物絵本の展示のほか、日本で未発表の7種の全ページをパネル化して展示。
- ・「お互いに見つめあおう」「みんなともだち」「暗い夜に」の3冊は、ビデオで内容を紹介。
- ・水曜日以外には、子供たちといっしょに絵本を読む“えほんのひろば”も設けた。

上記のほか、ステップ期間中に制作された、子供たちの作品の展示も行われた。

3階造形スタジオの制作コーナーは、子供だけで作るコーナーと、子供と親で作るコーナーに分け、ムナリー氏の絵本の世界をきっかけにして作られた8つのプログラムを実施した。子供と親で作るコーナーのプログラムは (1)まどのあるほんをつくろう (2)シースルーブックをつくろう (3)ひらけポン! (4)なににみえるかな?。子供だけで作るコーナーのプログラムは (5)手でみる本をつくろう (6)クルクル絵本をつくろう (7)オリジナルのコピーの本をつくろう (8)木の本をつくろう、であった。

(7)のオリジナルのコピーの本では、初めての試みとして、子供たちにワープロを操作させ、絵本の場面に付ける「ことば」を作った。予想を超えキーボードを通して、あふれるように子供たちの「ことば」が生み出された。

いずれのプログラムとも、子供たちにとって新鮮なイメージを発見するきっかけとなったようである。子供たちは熱心に制作に取り組み、それぞれ力作を完成させた。

絵本の原点である《ページをめくる楽しさ》を、子供たちが、生き生きと実感できたワークショップ活動となった。

(イ) 夏休み一日造形教室(7.31~8.31)

7月31日~8月31日の間の火曜日から金曜日まで、有料の一日造形教室を実施した。テーマは、<プログラムA>は、パイルパズルをつくろう、<プログラムB>は、くみたてる本をつくろう、<プログラムC>は、スマイル・イン・ブックをつくろう、である。

木、ウレタン、プラスチック、各種の紙へのシルクスクリーン版画など、通常の活動では扱いにくい内容を、子供たちは時間をじっくりとかけて制作した。

(ウ) オープンスタジオ「やってみよう、つくってみよう」(9.6~12.16)

オープンスタジオは、子供たちが素材、道具、技法の関係が分かりやすく体験できるように設定したワークショップである。

今回、一般コーナーでは2つのプログラムを実施した。1つは紙を素材に使った<きってはてみよう>である。紙はその可塑性において、造形素材として最も魅力的なものの1つである。赤ん坊が身の回りの紙をつかんでおもちゃにしたり、子供たちが新聞紙を丸めたり、ちぎったりして遊んだりする。こうした紙への興味を積極的に方向付けたのが今回のプログ

ラムである。いろいろな種類の紙をただ使って作るのではなく、まず、しわくちゃにしたときの「音の違い」、ちぎったときの「切り口の違い」、表面を触ったときの「感触の違い」を体験した。「ゆっくり、ゆっくりちぎって、次は速く」、「おだんごみたいにクルクル丸くして」、「グルグルと筒に巻いて」と指導員の言葉に紙と格闘したり、遊びながら子供たちは制作した。このような過程の中で子供たちはそれぞれの紙の特長を自然に知り、平面だった紙が立体になることを学ぶ。そして、個々のイメージしたものを表現することによって、その行為を再認識する。切って、はっていくという単純な行為でありながら、子供たちは紙についての体験を深め、楽しい作品を数多く制作した。約1か月ずつ、プログラムを提示する方法や道具、紙の種類を変えながら、＜きって、はってみよう＞を実施した。

もう1つのプログラムは、油粘土を使った＜ねんどであそぼう＞であった。粘土は紙と同様に可塑性に富んだ素材である。粘土を「たたいて伸ばす」、「丸めて球にする」「指だけでつまむ、押す、ひっかく」、「ころがして、ひもにする」など道具を使わず手だけで粘土の可塑性を体験した。そして、板、球、ひも、テクスチャーを使って子供たちは人、動物、ビル、果物など個々のイメージするものを制作した。

これらのプログラムは、子供たちにより分かりやすく素材の違いと技法を伝えるために時間制（1時間）、定員制で実施した。これは、子供たちが落ち着いて、じっくりと制作できる環境をつくるためである。子供たちは指導員とのコミュニケーションをより深め、表現したものを再確認し、より充実した体験、制作になったと思われる。また、時間制、定員制は、父母からも好評であった。これは、来館者がプログラム内容だけでなく、制作環境も質的に高いものを求めている表れではないだろうか。

高学年コーナーでは、小学3年生以上を対象にして＜なになをつくろうかな＞を実施した。これは紙、木、アルミ、針金、毛糸、廃材などで子供たちが自分で考えたものを作っていくプログラムである。子供たちは、まず自分の作ってみたいものを図にして、材料や方法を指導員に相談する。指導員は、その子供が今までに経験した道具や技法を聞き、また、どんなイメージを持って子供が作りたがっているのかを話し合い、材料、道具、方法を考えながら制作をした。素材が子供のイメージを喚起したり、指導員との話し合いでテーマが広がったり、思いもかけないユニークな作品が数多く生まれた。

冬休み特別期間には、上記のプログラムのほかに小学1年生以上を対象に、スポンジ、ひも、紙などを張った版を作り、刷る＜コラグラフ＞（12.18～21、12.26～1.7）と、《こども歳時記》として＜紙ねんどでつくるクリスマス＞、＜ししまいをつくろう＞も実施した。

（エ） やってみよう！つくってみよう！（1.9～3.15）

一般コーナーでは、テーマを「まち」として、次のようなプログラムを実施した。ここで制作された子供たちの作品は、すべて造形スタジオの壁面や床面につなげて展示され、それぞれの大きな町が作り上げられた。

「まちのえをかこう」＝黒のクレヨン、黒のペン、黒の絵の具の濃淡だけで町の建物のいろいろな形を描いた。色彩を黒に限定することで、建物の形の面白さが際立った。

「まちをつくろう①」＝台紙の上に、いろいろな紙、厚紙、巻きダンボール、スポンジなどを張り合わせ、にぎやかな平面の建物を制作した。

「まちをつくろう②」＝あらかじめ台紙にシルクスクリーン印刷された太い線を道に見立て、その上にウレタンボードを立体的に組み合わせて建物を作った。台紙と台紙をつなげることで、道路が続き、大きな町が完成した。

「まちをつくろう③」＝アルミ板や、金網、クギ、針金などを使ってベニヤ板の上に立体的な建物を作った。金属の質感から、組み合わせられた作品は、未来都市のようにも見えた。このプログラムのみ、小学1年生以上のコーナーとした。

子供だけで作るコーナーでは、次のプログラムを実施した。

「日本の昔の家をつくろう」＝日本の昔の家についての資料を調べ、木、布、わら、和紙、縄などの材料を用いて民家や、農家、店などを制作した。完成した作品はすべて展示され、昔の村や町の雰囲気が作り上げられた。

「日本の昔の人々をつくろう」＝昔の家のプログラムと同様、昔の人々の姿や、様子を調べながら制作をした。色付きの紙粘土を中心に、布やわら、枝なども利用しながら働く農村の人、職人、家事をする人などが制作された。これらもすべて、昔の家々の作品の中に置かれることで、楽しいジオラマとなった。

(オ) 春休み特別プログラム

「おじいさんの道具箱」展（3.16～4.7）

昔から伝わり、以前はどこの家でも容易に見かけることのできた生活用具や、生産用具をきっかけに、子供たちが「道具」について改めて見つめ直すことを目的としたプログラムである。ここで扱われる道具は、使う人が自らそのものを作ることのできた時代のもので、人間の知恵が具体的な形になって表れているものばかりである。今ではもう使われなくなった道具もあるが、それらは現在の人間が共通の記憶の中にとっておくべき宝でもある。

昔の道具が展示され、併せて道具を使っている人々の写真も並べられたスタジオ内は、さながら「道具箱」のようであった。

その中で子供たちは、道具を見つめ、触れ、また自ら道具を使う体験をすることで、それらの道具についての理解を深めた。

子供たちのための制作プログラムとして、次のようなものを実施した。

<子供と親でつくるコーナー>

「どうぐばこをつくろう」＝道具箱に見立てた画用紙にカラフルな仕切りの線を引き、そこにいろいろな道具の形のスタンプを押した。見慣れた道具の形、展示されている珍しい道具の形など、ひとつひとつのスタンプに興味を持って、楽しく制作をした。またその道具箱の表には、クレヨンや色紙で、作ってみたいものの絵を描いた。

<子供だけで作るコーナー>

1年生以上のコーナーでは、10～20cmぐらいの丸太を10cmほどの厚さに、のこぎりで輪切りをしたあと、太さ、長さの異なるいろいろの種類のくぎを使って、模様を描いた。

のこぎりや金づちなどの道具の正しい使い方を楽しく体験できるプログラムであった。

3年生以上のコーナーでは、小刀やなたを使って、竹や木を削って作る制作をした。小刀は、まず、正確に研ぐことから始め、正しい用い方について十分時間をかけて指導した。職人さんの仕事場に似た環境を用意して床板の上の集中できる場所で、落ち着いて制作に取り組んだ。

5年生以上のコーナーは、伝統的な道具との、より深い出会いの場である。展示された道具や、昔の道具についての本やビデオの資料をもとに、興味を持った道具のミニチュアを、鉛やアルミなどの金属や木を使って制作した。その道具の形だけでなく機能についてまで追体験をするプログラムであった。

(カ) 季節行事

「こども歳時記」として特に次のようなプログラムを実施した。

① 児童福祉週間（4.28～5.6）

子供と親のコーナーでは、フロッタージュによる模様をつけた「ぼうしのこいのぼり」を制作した。また、小学3年生以上のコーナーではアルミ板の打ち出しによるこいのぼりを弓状の構造体に取り付けた「アルミでつくるユラユラごい」を制作した。

② クリスマス（11月下旬～12.24）

オープンスタジオ＜きってはってみよう＞の中で、テーマを“クリスマス”として制作をした。1年生以上のコーナーでは、「ネンドでつくろうクリスマス」を実施した。

大勢の子供たちによって制作されたこれらの作品は、I・R・ジャパンの奉仕活動に協賛して、東京駅の大ホールに飾られた。

③ お正月（12.26～1.7）

②と同様、オープンスタジオの中で、「ししまいをつくろう」を行った。色画用紙をしわくちゃにして、柔らかくしたものを使って楽しいしし舞を作った。

④ 節分（1.29～2.3）

「オニカブトをつくろう」を実施した。大きな紙の上部をしぼり、それを角（つの）に見立てて、頭にかぶる帽子にした。カラフルに着色もされて、子供たちが鬼に変身をするためのユニークな小道具となった。

⑤ ひなまつり（2.19～3.3）

ひなだんの付いたかわいらしい「おひなさま」を制作した。

2) 講座・クラブ

① こどもクリエイティブクラブ

「クレイワーク～粘土体験」

粘土がどのような可能性を持った素材なのか、特に火を通して焼成するためには何に注意をして制作するべきかを、子供たちが自然に体験していくことを目的としたクラブである。

土を手のひらでたたいて延ばす。転がして棒を作る、ひねりだす、ひもを作る、棒状の粘

土を積んで組み立てる、粘土の塊をくり抜く、板を張り合わせる、ひもをリングにして立体を作るなど、皿や茶わんなどの使うものを作る“陶芸”ではなく、基本的な要素から発展をして、陶によるオブジェや立体作品の表現へと向かった。

焼成方法についても、原始的な野焼きによる土器の体験から始め、低温による楽焼き、本焼きなど、それぞれの差が実感できるようにプログラムが構成された。

また、素焼きに靴クリームで着色して磨いたり、樹脂絵の具で着色をしたり、陶芸の絵付けのルールを学びながら、楽焼きの鮮やかな釉薬（ゆうやく）の色彩も体験した。

本年度は、工事の関係で陶芸がまが使用できず、思うように焼成することができなかったが、それぞれのユニークなテーマの中で、子供たちは思う存分土と遊んだ。

焼成窯が完成したので、次年度以後の活動に期待したい。

② こどもクリエイティブクラブ

「ゆかいな造形」

4月から始まった「ゆかいな造形」の1期では、「魚」という身近な生き物の本来の形や構成要素を明確にする、という目的でプログラムが組まれた。調理された魚、あるいはスーパーに並んでいる魚などしか見たことのない子供たちが、実際に自分の手で魚を分解する。骨や肉を分解していくことは、その感触を体験するとともに構造を知るきっかけとし、想像力を大きく広げるための導入となった。

2期目は発泡スチロールを型にした大きな張り子のお面を作った。面というものは、日常の表情を消し去ることで自分以外のものへと変身し、周囲の世界を一転させる楽しさがある。ラシャ紙を張ったり着色したりして、思い思いに作り上げた面をかぶり、「こどもの城」の中を練り歩いて遊んだことで、大いに子供たちの変身願望を満たしたようだ。

3期目は実際に水族館を見学してから、水槽を箱庭に見立て、海の中の生物を配置して水槽を制作した。水族館での魚たちのさまざまな様子を目に焼き付け、その印象を大切に持ち帰って制作に取り組んだ。木で作った水槽に水の色を塗り、紙粘土で作った魚を針金に刺して泳がせる。子供たちが演出家となって、次々に水中のステージを展開させていった。自由に演出できる面白さが分かったようで、制作中の表情はとても生き生きしていた。

材料や形、表現方法などを自分自身で確認しながら制作を進めることでかなり完成度の高いものができ上がったと思うし、子供たちの充実感も深かったに違いない。

③ こどもクリエイティブクラブ

「アニメ体験」

「アニメ体験」では、体験内容から3グループが同時進行することになった。Aグループは今までに経験のない子供たち、Bグループは昨年1年間継続して体験してきた子供たち、そしてCグループは2年間継続して長い作品も手がけた子供たちである。

Aグループでは、B、Cグループが体験してきたように、＜動く＞を簡単な2枚の絵から経験し、切り紙、ストーリーぱたぱた、粘土アニメの制作を順次、子供の性格と制作速度によって、個々の作業に合わせて対応した。Bグループは第I期に、しりとりアニメ、粘土アニメ、

そしてCグループと共同の人間アニメを制作し、第Ⅱ期からは長い作品を作ることを前提にキャラクター設定、絵コンテ、本制作とイメージの世界を具体化するための手順を踏んで進行的に進めた。Cグループは自分の考えたイメージを広げていく作業を行った。

子供たちの体験が深まると、それぞれに個性を伴う方向に広がっていった。また、参加した子供たちは小学3年生から中学1年生までと幅も広く、また、経験年数も3年目になる子供たちと、初めて体験する子供たちとが一緒になって作業を進めていった。子供たちはひとりひとりが持っているイメージの世界を具体化していくことでお互いを知り、刺激を受け合っていたようである。

④ こどもクリエイティブクラブ

「リサイクルアート」

毎日、たくさんのものが生産され、そして捨てられていく。その捨てられたもののほとんどが、リサイクルアートの素材となる。

空き缶、空き瓶、ビニール製品、プラスチック、ゴム、発泡スチロール、電気製品や機器の部品などを、もう一度見つめ直して、それぞれのものを生かして作品を作るプログラムである。子供たちは、さまざまな材料の中から、自分のイメージに合ったものを選び出し、それにふさわしい道具や用具の使用法を体験しながら、ジオラマや標本箱を制作した。

リサイクルアートは、子供たちの想像の世界を広げるための、すばらしいきっかけとなるテーマである。

3) グループ活動

<かげをうつそう>、<木をつくろう>とも初年度から実施しているものである。そして一昨年、障害児プログラムのシミュレーションとして実施した<粘土でジャングル旅行>をプログラムに加えて実施した。これは、土練機で練った10cm×30cmの円筒の粘土を使う。指導員の話に合わせ、子供たちは人型（子供自身）、飛行機、テント、木、動物を作ること、ジャングル旅行をする。粘土の可塑性を、ひも、くし、のばし棒などの道具を使って体験するプログラムである。このプログラムは指導員がストーリーテラーとなり進行していくため外人の子供の場合、通訳を介して実施した際にスムーズさに欠けていた。これは他の2つのプログラムにも同じようなことが見受けられていたが、インターナショナルスクールを受け入れていくときに通訳する人との打ち合わせがないとプログラム進行の流れがどうしてもギクシャクしがちである。内容的には、話の内容を練り直し、技法内容を整理していき、子供たちの年齢や状況に合わせて組み直したい。

4) 開館5周年記念行事

① 田沼武能写真展「遊ぶ 世界の子ども」

「遊ぶ 世界の子ども」は、田沼武能氏の膨大なフィルムライブラリーから、さまざまな状況の中で無心に遊ぶ子供の姿ばかりを写したカラー写真109点が厳選され、構成された展覧

会である。造形とは、造ることばかりでなく、「見る」ことも大切な活動の1つと考え、本展を企画した。多くの写真家の努力によって、写真はそこに存在する物をただ写しとるだけでなく、人間のさまざまな感情を《表現》できる道具として活用されてきた。田沼氏の写真の発するメッセージをより分かりやすく子供たちに伝えるため、ワークシートを用意した。ワークシートとは、主に子供たちの《体験》（見る、聞く、触る、感じる、理解する）を深めていくためのきっかけになるよう考えられた「ノート」（練習帳）である。「どんなあそびどうぐをつかっているのかな?」、「なんでできているのかな?」、「どこのくになかな?」…などの設問に参加した子供たちは、ただ写真を見ていくのではなく、積極的に写真を見、自分たちと比べてみたり、なぜ写真の子供たちが、そんな表情をしているのか、なぜそんなに明るくて楽しい表情をしているのか、友達や父母と話し合いながら一緒に鑑賞していたようである。自然を上手に利用して遊ぶ子供たち、手づくりのおもちゃで遊ぶ子供たち、写真の中の遊ぶ子供たちの無心の表情は輝くばかりである。ひとりひとりの生活のありさまが違っていても、遊ぶ子供たちのさまざまな表情や動作を見れば、彼らにとって遊ぶことは、生きていることそのものであることが分かる。

田沼氏のこれらの映像を通じて《子供たちの真実》と《忘れかけた遊びの原型》を多くの人々に提供できたことは、極めて意義深いことであった。なお、会期中の入場者は11,300人を数えた。

② 美術教育のパイオニア フランツ・チゼック展

1865—1946 子ども・感性・環境

美術教育の先駆者フランツ・チゼック（1865—1946）の実践活動を日本で初めて本格的に紹介するとともに彼の教育理念を顕彰するため展覧会およびシンポジウムを開催した。この事業は、「こどもの城」開館5周年を記念して、また長年美術教育者の育成に当たってきた武蔵野美術大学がその教育の一環として共催で行ったものである。

事業の概要

- 1 名称 美術教育のパイオニア フランツ・チゼック展
1865—1946 子ども・感性・環境
- 2 会期 1990年11月1日（木）～11月30日（金）
- 3 会場 こどもの城 ギャラリー
- 4 シンポジウム 「こどもの創造性と造形教育について」
1990年11月11日（日） 青山学院大学総合研究所ビルディング12階大会議室
- 5 主催 財団法人日本児童手当協会「こどもの城」 武蔵野美術大学
- 6 後援 厚生省 文化庁 オーストリア大使館 朝日新聞社 日本教育美術連合 全国造形教育連盟
- 7 協賛 松下電器産業株式会社 ローバー・ジャパン株式会社 株式会社三陽商会
- 8 協力 ウィーン市立博物館 ウィーン市立歴史博物館 ウィーン市立州立図書館
全日空株式会社

なお、同時に3階造形スタジオでは、「フランツ・チゼックと子どもたち展 造形スタジオ展」を開催した。

注) チゼック展及び関係行事の詳細については、別項「開館5周年記念行事」中の188～189ページを参照。

4) そ の 他

① 第3回「遊びと造形発想展」(6.2～6.17)

元筑波大学教授、高山正喜久氏を代表とする「おもしろ発想の会」との共催で行った展覧会である。氏の30年間にわたるデザインの基礎教育の実践活動から得られた造形指導の全容を3回にわたって展開する3度目の催事であった。

今回は学生たちの作品、約150点と自然の中に見られる円と球など、氏のコレクションの一部が展示された。テーマは「円からの発想」、「素材と形体の関係」、「平面(二次元)から立体(三次元)」などであった。造形事業部が日ごろ試行している領域と隣接しているところもあり、共催で事業を行った。なお、本展を見に造形教育関係者が1,000人ほど来館した。このことは「こどもの城」にとって、来館者の層が広がるなど、極めて有意義であると思われる。

② マンハッタン・チルドレンズ・ミュージアム

ニューヨークにあるマンハッタン・チルドレンズ・ミュージアムが行っている「アートパル'90」の展覧会に、造形スタジオの子供たちの作品が初めて参加した。開館以来実施してきたプログラムの中から、6プログラムをパネル化し、版画クラブの子供たちの作品とともに展示した。日常生活の中で使われているガムテープ、使い終わったセロテープの芯(しん)やその他廃材を利用したプログラム、あるいは、葉っぱや小枝などの自然物を利用したプログラム、また、日本古来の遊び道具のでんでん太鼓や張り子を模したプログラムなど、いろいろな側面から楽しめるものを選択し、展示用に構成したものである。

日本で子供たちがどのように造形活動を行っているかを分かりやすく伝えるために、制作風景のカラー写真パネル(半切)および英文によるプログラム解説パネルも展示した。初めての試みであり、規模としては大きいものではないが、本来の子供たちの国際交流の一端として意義深いものであった。来年の依頼もきており、これを機会に、今後更により関係を保ちつつアメリカばかりでなく、世界各地との交流を目指していきたい。

展示期間 1990年(平成2年)6月7日～6月14日

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 2 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火			水			木			金		土			日																					
	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー	スタジオ		ロビー	スタジオB	ロビー	スタジオ		シンセ室	ロビー	スタジオ		シンセ室	ロビー																	
	A	B		A	B		A	B				A	B			A	B																			
10：00	(グループ活動) (施設貸与)			(グループ活動) (施設貸与)			(グループ活動) (施設貸与)			(グループ活動) (施設貸与)						一般来館プログラム																				
11：00																						おんがく星 みつけた														
12：00																																				
13：00													一般来館プログラム																							
14：00																			リズムムービングA			一般来館プログラム			一般来館プログラム			合唱			ガムラン			シンセサイザー&コンピュータミュージックI		
15：00																																				
16：00	リズムムービングC			一般来館プログラム			一般来館プログラム			合唱団I			ガムラングループ																							
17：00																			リズムムービングD &ハーカッション			一般来館プログラム			一般来館プログラム			合唱団II			ガムラン					
18：00	パーカッション アンサンブル			一般来館プログラム			一般来館プログラム																													
19：00																																				
20：00																																				
21：00																																				

4 音 楽

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
みんなでライブ	4月～3月 毎週火曜日	14:30～15:00	音楽ロビー	(人) 3	
水ようコンサート	4月～3月 毎週水曜日	15:00～15:30	〃	5	
みんなで遊ぼう木曜広場	4月～3月 毎週木曜日	16:00～16:30	〃	〃	
手作り楽器で遊ぼう	4月～3月 毎週金曜日	15:00～15:30	〃	6	
ほっとひといき コンサート	4月～3月 毎週日曜日 週替わり土曜日	16:30～17:00 15:30～16:00	〃	5	
のりのりどうよう コンサート	4月～3月 週替わり土曜日	15:30～16:00	〃	6	
アフリカンタムタム であそぼう 元気がでるリズム！	4月～3月 週替わり 日曜日	14:30～15:00	〃	5	
サンバコンサート	4月～3月 週替わり 日曜日	14:30～15:00	〃	6	
みんなで遊ぼう音楽広場	4月～3月 週替わり 日曜日	14:30～15:00	〃	〃	
わいわいスタジオ	4月～3月 毎週日曜日	13:30～14:00 15:30～16:00	音楽スタジオB	3～8	AV事業部と共同
みんなでひなまつり	3.2・3	11:00～17:00	音楽ロビー	8	プレイ事業部と共同
チャレンジ・ザ・ 親子ラリー	6.16・17	11:00～16:30	〃	6	〃
こどもデパート	6.10	11:00～16:00	音楽ロビー 音楽スタジオBほか	—	
いろんな楽器 やってみよう	毎日	開館時間中	音楽ロビー	3	

Ⅲ 各部の活動(1)

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
楽器ワンサカ!	春休み 3.29～4.5	開館時間中	音楽ロビー 音楽スタジオ A	(人) 8	
キャッスルクエスト'90	児童福祉週間 4.28～5.6	"	音楽ロビー 音楽スタジオ A 音楽スタジオ B	15	
音楽広場	夏休み 7.21～31	"	音楽ロビー	10	
音楽市場	8.1～19	"	音楽ロビー 音楽スタジオ A 音楽スタジオ B	"	
夏はとってもリズムカル	8.21～31	"	音楽ロビー	"	
音で遊ぼう Big 5	開館記念 11.3・4	"	"	8	
クリスマス・コンサート	冬休み 12.22～25	"	"	5	
うたってボカボカ	12.26～1.7	"	"	6	

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 時 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
リズム ムービング A	3 歳児	(人) 12	(人) 15	火曜日 13:30～14:30	音楽 スタジオ A	(1) 4 月～7 月	(円) 11,000	(人) 柳沼輝子
		"	14	"	"	(2) 9 月～12 月	12,000	米原敬子
		"	13	"	"	(3) 1 月～3 月	7,000	河辺桐子 のうち 1
リズム ムービング B	4 歳児	15	17	火曜日 14:30～15:30	"	(1) 4 月～7 月	11,000	"
		"	"	"	"	(2) 9 月～12 月	12,000	"
		"	18	"	"	(3) 1 月～3 月	7,000	"

4 音 楽

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
リズム ムービング C	5 歳児	(人) 15	(人) 12	火曜日 15:30～16:30	〃	(1) 4 月～7 月	(円) 11,000	(人) 柳沼輝子
		〃	11	〃	〃	(2) 9 月～12 月	12,000	米原敬子
		〃	〃	〃	〃	(3) 1 月～3 月	7,000	河辺桐子 のうち 1
リズム ムービング& パーカッション	小 1 ～ 4 年	20	20	火曜日 16:30～17:30	音楽 スタジオ B	(1) 4 月～7 月	11,000	〃
		〃	18	〃	〃	(2) 9 月～12 月	12,000	〃
		〃	16	〃	〃	(3) 1 月～3 月	7,000	〃
パーカッション アンサンブル	小 4 ～ 高 1 年	15	16	火曜日 17:30～19:30	〃	(1) 4 月～7 月	16,000	柳沼輝子
		〃	17	〃	〃	(2) 9 月～12 月	19,000	米原敬子
		〃	15	〃	〃	(3) 1 月～3 月	10,000	河辺桐子 名倉誠人 のうち 1
おかあさんも いっしょ 初級	3 ～ 5 歳児	20	21	水曜日 13:30～14:30	音楽 スタジオ A	(1) 4 月～7 月	14,000	吉村温子
		〃	22	〃	〃	(2) 9 月～12 月	〃	川口あづさ
		〃	15	〃	〃	(3) 1 月～3 月	11,000	
おかあさんも いっしょ II	〃	20	19	水曜日 14:30～15:30	音楽 スタジオ B	(1) 4 月～7 月	14,000	〃
		〃	17	〃	〃	(2) 9 月～12 月	〃	〃
		〃	18	〃	〃	(3) 1 月～3 月	11,000	
おかあさんも いっしょ III	〃	20	16	水曜日 15:30～16:30	音楽 スタジオ A	(1) 4 月～7 月	14,000	〃
		〃	〃	〃	〃	(2) 9 月～12 月	〃	〃
		〃	18	〃	〃	(3) 1 月～3 月	11,000	
和太鼓グループ	小 3 ～ 高 3 年	12	6	水曜日 17:00～19:00	〃	(1) 4 月～7 月	13,000	川島佑介
		〃	6	〃	〃	(2) 9 月～12 月	〃	
		〃	3	〃	〃	(3) 1 月～3 月	10,000	

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時 日 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
おんがく星 みつけた	就園前 2 ゝ 3歳 子ども と母親	(人)	(人)	木曜日 10:30～11:30	音楽 スタジオB	(1)4月～7月	(円) 11,000	(人) 吉村温子
		20	30			(2)9月～12月	11,000	
		20	31			(3)1月～3月	11,000	音楽事業部 スタッフ
合唱講座	小1 ゝ 4年	30	31	土曜日 13:30～15:30	〃	(1)4月～7月	14,000	吉村温子
		30	30	〃	〃	(2)9月～12月	11,000	吉村真理
		27	27	〃	〃	(3)1月～3月	11,000	
合唱団Ⅰ	小2 ・3年	30	28	土曜日 15:30～17:30	〃	(1)4月～7月	14,000	吉村温子
		25	25	〃	〃	(2)9月～12月	11,000	川口あづさ
		〃	〃	〃	〃	(3)1月～3月	11,000	
合唱団Ⅱ	小4 ゝ 中3年	60	57	土曜日 17:00～19:00	〃	(1)4月～7月	4,000	〃
		56	56	〃	〃	(2)9月～12月	11,000	〃
		55	55	〃	〃	(3)1月～3月	11,000	
混声合唱	高校生 以上	15	12	土曜日 19:00～21:00	音楽 スタジオA	(1)4月～7月	14,000	〃
		11	11	〃	〃	(2)9月～12月	11,000	〃
		10	10	〃	〃	(3)1月～3月	11,000	
三味線Ⅰ	小2 ゝ 高3年	12	11	日曜日 10:00～11:15	〃	(1)4月～7月	16,000	田島佳子
		〃	〃	〃	〃	(2)9月～12月	13,000	川原江里子 小林雅子 のうち1
		13	13	〃	〃	(3)1月～3月	13,000	
三味線Ⅱ	〃	12	10	日曜日 11:15～12:30	〃	(1)4月～7月	16,000	〃
		〃	〃	〃	〃	(2)9月～12月	13,000	〃
		〃	〃	〃	〃	(3)1月～3月	13,000	

4 音 楽

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
三味線Ⅲ	小2 高3年	(人) 12	(人) 5	日曜日 12:30～13:45	音楽 スタジオA	(1)4月～7月	(円) 16,000	(人) 田島佳子
		"	"	"	"	(2)9月～12月	"	川原江里子 小林雅子
		"	"	"	"	(3)1月～3月	13,000	のうち2
ユースバンド	小5 高3年	28	27	日曜日 10:00～12:00	音楽 スタジオB	(1)4月～7月	19,000	山本武雄
		"	"	"	"	(2)9月～12月	"	山本真理子 三田村健
		"	24	"	"	(3)1月～3月	16,000	太田聡 のうち2
シンセサイザー &コンピュータ ミュージックⅠ	小5 高3年	8	10	日曜日 13:30～15:30	シンセサイ ザー室	(1)4月～7月	21,000	岩下哲也
		"	7	"	"	(2)9月～12月	"	
		"	"	"	"	(3)1月～3月	15,000	
シンセサイザー &コンピュータ ミュージックⅡ	"	8	10	日曜日 15:30～17:30	"	(1)4月～7月	21,000	"
		"	8	"	"	(2)9月～12月	21,000	
		"	"	"	"	(3)1月～3月	5,000	
ガムラン講座	小1 高3年	10	11	日曜日 14:00～16:00	音楽 スタジオA	(1)4月～7月	16,000	田村史
		"	12	"	"	(2)9月～12月	"	福岡正太
		"	"	"	"	(3)1月～3月	13,000	
ガムラン グループ	小4 高3年	15	10	日曜日 16:00～18:00	"	(1)4月～7月	16,000	田村史
		"	7	"	"	(2)9月～12月	"	佐々木 美奈子
		"	6	"	"	(3)1月～3月	13,000	
大人のための ガムラン	高校生 以上	15	11	日曜日 18:00～20:00	"	(1)4月～7月	19,000	田村史
		"	10	"	"	(2)9月～12月	"	福沢達郎
		"	8	"	"	(3)1月～3月	16,000	

(2) 音楽事業部の活動

開館5周年を迎えた本年度の事業は、講座・クラブに関してはおおむねこれまでの大枠を継承しながらも、内容面での充実発展を図ることとしたが、一般来館児対応（主にロビー活動）の面では、新たな展開を見ることができた。

本年度の事業は次のように大別される。

(a) 一般来館児対応

- ① 音楽ロビー活動
- ② 日曜日・祝日イベント
- ③ 特別期間プログラム
- ④ 全館・他部合同プログラム
- ⑤ 音楽特別セミナー

(b) メンバー対応事業

- ⑥ 音楽講座・クラブ活動
- ⑦ 「こどもの城」の外での活動

(c) グループ活動

(d) その他 音楽施設レンタル業務

講座・クラブに関しては、「おながく星みつけた」を新設した。この講座は就園前の2・3歳児を対象にしたリトミックで、その特色は、新たな年齢層を対象とするプログラムを開拓し、すべて音楽事業部職員の手で行われたところにある。これは、今後の講座・クラブをどのような方向付けをし、運営していくかについて貴重な経験であり、大きな成果をもたらしたということができる。

講座・クラブについては、本年度中、約1年間にわたって10周年を見据えての、反省見直しを個別に行ってきたが、具体案としては来年度に、職員主導型の講座を1コマ新設するほか、一部のコースについて内容の改善をする計画を立てたのみにとどまり、引き続いて抜本的な改善、活性化をより積極的に取り組んでいくことを確認した。

一般来館児活動の中心である、ロビー活動については、昨年度以上に力を注ぎ、良い成果が現れたということができるだろう。平日の核となるプログラム（火曜日「一みんなでライブ、水曜日一水ようコンサート、木曜日一木曜広場、金曜日一手作り楽器で遊ぼう、を日替わりで実施し、定着化させ、音楽ロビー全体の活動を活性化し、充実させてきた。これとは別に、夏休み特別期間に実施した「音楽市場」では、今まで音楽事業部で行ってきたイベントを総合的にまとめることにより、幅広い年齢層（大人も含まれる）に対し、音楽の楽しさ、面白さをいろいろな角度から伝えることができた点は特筆に値する。

サマーセミナーは、本年度新たに子供を対象とするコースを設け、シンセサイザーと南米パーカッション「サンバ」については、職員が講師となって積極的な活動を行った。

全体的に、本年度は、音楽事業部職員ひとりひとりが、一般来館児活動、グループ活動、

講座・クラブ活動の細部にわたり、積極的に新しい可能性を求めて活動した年であったといえるだろう。

1) 平常期間

<音楽ロビー活動>

本年度から各曜日ごとにテーマを決めたメインプログラムを定期的実施した。

① みんなでライブ！（毎週火曜日14:30）

童謡・アニメソングなどをスタッフがドラムやキーボードで演奏し、それに合わせて、歌ったり、踊ったりするプログラム。リズムカルな曲を4、5曲選曲し、それぞれにオリジナルな振り付けを考案した。リーダーの動きに合わせて、子供たちもまねをしながら約20分ユニークなダンスを体験した。

② 水ようコンサート（毎週水曜日15:00）

トランペット・フルート・アルトサックス・キーボード・ドラムによるバンドスタイルの編成で、童謡やアニメソングを演奏し、子供たちも打楽器を中心にリズムをとって演奏に参加するプログラム。特に子供に人気のある曲で構成し、親子で楽しめる雰囲気づくりを大切にした。

③ 木曜広場（毎週木曜日16:00）

手遊び・歌遊び・絵書き歌を中心にしたプログラム。他の曜日のプログラムと比較して、のんびりと家庭的な雰囲気での活動を目指した。年度の後半には、リトミックやムーブメントの要素を徐々に取り入れ、中国の笛（笛子）などの生演奏を活用することも試みた。

④ 手作り楽器で遊ぼう（毎週金曜日15:00）

身近にある素材を使って楽器を作り、それを使って演奏して遊ぼうというプログラム。紙皿を素材にした「豆デイロ（タンバリン）」「カエルのカスタ（カスタネット）」、紙コップを素材とした「プー・タ君（キューカ）」、フィルムのケースを活用した「ガンザ（マラカス）」などの楽器作りを月替わりで提供した（婦人ボランティア共同プログラム）。

⑤ のりのりどうようコンサート（週替わり土曜日15:30）

スタイルとしては、水ようコンサートと同じだが管楽器ではなく、歌のお姉さんが中心となってプログラムを進行させる。演奏が中心だが、歌遊びを織り込んだり、リクエストにこたえたり、子供もマイクで歌うことに参加したりという活動も加えた。

⑥ ほっとひといきコンサート（週替わり土曜日15:30、毎週日曜日16:30）

いろいろな楽器の演奏を紹介する鑑賞型プログラム。主に紹介したのは、タマ（西アフリカのトーキングドラム）、スチールドラム（トリニダードトバゴ）、ジョゲットブンブン（インドネシア）、ビリンバウ（ブラジル）、笛子（中国）、タムタム、ジェンベ（西アフリカ）などの民族楽器のほか、三味線、琴などの和楽器やマリンバ、フルート、トランペット、サックスなどの洋楽器も織り交ぜて演奏した。

⑦ 元気がでるリズム（週替わり日曜日14:30）

アフリカの太鼓，タムタムによるシンプルなビートに乗って展開するリズム遊び。前年度から実施しているオリジナルプログラムである。前年度は毎週日曜日に実施していたが，本年度は次のプログラムと週替わりで行った。

⑧ みんなで遊ぼう音楽広場（週替わり日曜日14:30）

手遊び・歌遊び・リズム遊びを中心に展開するプログラム。平日の「みんなでライブ」と「木曜広場」を組み合わせた型で，親子で参加するメニューを織り込むことも1つの目的とした。具体的には「トントンパ！」などの手遊びで，親子のスキンシップが図れるよう試みた。

⑨ サンバ・コンサート（9月から週替わり日曜日14:30）

2年前から取り組んでいるサンバだが，本年度の夏休み特別期間を経てようやく1つのプログラムとしてまとまりつつある。打楽器だけの演奏でなく，ブラジルの歌など，メロディーも織り込み，子供たちの参加の仕方も，ダンス・ステップのバリエーションを考案していくことで，より楽しく能動的にかかわれるようになってきた。

⑩ いろんな楽器やってみよう（毎日）

上記①～⑨は各曜日のメインプログラムであるが，その他の時間帯は「いろんな楽器やってみよう」というタイトルでの楽器の自由体験のスペースとして運営した。スタッフの1人が必ずキーボードを担当し，リクエストにこたえて子供たちが皆で演奏できるよう演出したり，マイクで歌いたい場合には伴奏をしたりと，ロビーにいる子供たちが一体感を持って遊べるよう，常に司会をしながらコーディネートする役割を担った。子供が自由に触れる楽器は，タンバリンや鈴，カスタネットやガンザなどの小楽器，シンセサイザー，シロフォンやコンガ，ボンゴ，サイン・ワイン，クンダンなどの打楽器，手作りのタムタムなどである。

⑪ みんなでひなまつり（平成3年3月2・3日）

前年度同様，プレイ事業部との共同企画で，音楽ロビーで「うれしいひなまつり」の曲に合わせてみんなで和楽器（打楽器）を演奏した。

⑫ おはなし人形広場（毎週土曜日14:00）

プレイ事業部との共同プログラム。導入部での手遊びや，出演者の依頼による音楽的サポートなどを共同で行った。

＜スタジオイベント活動＞

平常期間は例年と同じく音楽スタジオBを使った「わいわいスタジオ」を毎週日曜日と祝日にAV事業部と共同で行った。本年度の新しいものとして，外部ゲストのコンサートは「おもしろコンサート・中国の楽器たち」と「とびだせリズム！～南の国のタイコたち」と「ひょうたん楽器でひょっこりこ」の3つを，オリジナルのスタッフプログラムは「ガラクタ楽器でコンサート」と「シンセサイザーコンサート」の2つを新たに実施した。これらを含めて今年度は14タイトルで22回実施した。

以上のように，平常期間に定期的なプログラムを実施してきたことで，来館児の中にもそれぞれのプログラムに参加することを目的に来る子供たちが徐々に増えてきたようである。

また、これらのプログラムでの経験が特別期間行事を企画する上で役立っている。それぞれの企画はまだ完成されたものではなく、来館者のニーズにこたえて常に見直ししながら工夫していく必要がある。

2) 特別期間

(ア) 春 休 み

平成2年の春休みは、体験型楽器展示である「楽器ワンサカ！」を実施（平成元年度版年報参照）。

平成3年の春休みも昨年に引き続き、「楽器ワンサカ！」を行った。今年のプログラムは昨年に比べて、より「体験」が重視され、楽器体験コーナーが楽器展示コーナーとは違ったものとなっている。具体的には、音楽ロビーを楽器体験中心のスペースとして使用し、和太鼓、洋太鼓、手作りタムタム、木琴、シンセサイザーなどの各コーナーに分けた。一方、音楽スタジオAの内部は、琴体験コーナーと、楽器展示及び楽器紹介ビデオのコーナーとに分けた。そのほか、このプログラムの特徴は次のような点にあるといえる。つまり、昨年のように個々の楽器の音色や奏法を体験するだけでなく、スタッフが行う「うた（童謡やアニメソングなど）」の演奏に合わせて、好きな楽器で合奏に参加できるようになったことである。

また、イベントとして「わんさかカーニバル」と「わんさかコンサート」（平常期間プログラム「ほっとひといきコンサート」参照）とを1日に1回ずつ行った。特に「わんさかカーニバル」は、子供たちがスタッフによるサンバの生演奏に合わせてステップで参加するものであり、両者が一体となって音楽を楽しむプログラムとなっていた。更にこの中では、ビデオも紹介されていたサンバの楽器をじかに演奏してみせる「楽器紹介」のコーナーを通して、それらの楽器を子供たちにとってより身近なものに感じさせることができた。

以上のことから、「楽器同士の音の隔離」という昨年の反省点は、ロビーとスタジオAのスペース配分を工夫したこと、「音の混じり合い」という欠点を「合奏への参加」という積極的な形に変えたことなどにより改善されたといえるだろう。しかし、ロビー全体の活動の中に、和太鼓をうまく取り入れることができず、個人的な楽器体験コーナーとなってしまった点が反省として残る。したがって、世界のさまざまな楽器を体験するプログラムにおいて、各楽器の特性をどう生かしていくかについては、今後も検討していく必要があろう。

(イ) 夏 休 み

夏休みは期間を大きく3つに分けて、それぞれ異なるメインテーマを設けた。7月21日～31日は歌をメインとした「音楽広場」、8月1日～19日は楽器体験をテーマとした「音楽市場」、そして8月21日～31日はブラジルのサンバがテーマの「夏はとってもリズムカル」である。

① 音楽広場

日曜日のメインプログラムの1つである「音楽広場」を11時からと15時からの2回実施。子供が自分の好きな歌を、生バンドの伴奏をバックにマイクで歌う「わいわいうたがっせん」を、13時～14時に期間中毎日実施した。伴奏可能な曲をあらかじめ申し込み用紙にリスト

アップし、子供は好きな曲を1曲選んで申し込み、ステージで歌う。親子で楽しめ、聞いている子供たちもいろいろな楽器を演奏しながら一緒に歌ったりと、ロビー全体に一体感のあるプログラムとなった。

② 音楽市場

音楽事業部が過去にイベントとして行ってきた要素を総合的に組み合わせることをテーマとして実施し、以下の3つを目的の柱とした。

- (1) 音楽の楽しさをアピール。人と音楽がさまざまな形で楽しく出会える場。音楽を通して人と人とのコミュニケーションの場としての環境づくり。
- (2) 幅広い年齢層に対応できる多岐の要素を含むプログラム設定。
- (3) 音楽が生活の中に溶け込み、楽しく音楽と付き合っている人々の住む街。別世界としてのドラマ設定をして、スタッフと来館児がより積極的にかかわりあえるようにする。

プログラムのメインとなったのが「楽器屋」である。それぞれ独立した店として素材別や国別の楽器を担当し、個性を持たせた。その店に合った個性的な装飾を施し、必ず店長がいて楽器指導などを行った。

《竹 屋》

竹の素材の楽器を集めた店。店の外壁もすべて竹で作られ、アングルンやジョゲットブン、クプラ、ココロアトム、ピンジャカンなどの楽器指導・体験が行われた。

《ガムラン屋》

神秘的な店の中に、ガムラン楽器を配置。ゴングアングルンなどによる簡単なアンサンブル指導を行った。

《金物屋》

金属を素材とした楽器、スチールドラムやチャイム、アゴゴ、ヘコヘコ、カリンバなどの展示と体験。

《皮 屋》

インドネシア、タイ、日本、ミャンマー、トルコ、西アフリカなど各国約30種類の太鼓の展示と体験。

《ガラクタ屋》

空き缶やフィルムのケース、紙皿、紙コップ、植木鉢やストローなど身の回りにある素材で作った手作り楽器の展示、体験のほか、作り方の説明も行った。

《琴、電気館》

音楽スタジオ B 内に、琴とシンセサイザーを配置し、体験してもらうコーナーで、ほかにシタールやアジェンなどの珍しい楽器の展示も行った。

《音楽乃街公園》

音楽スタジオ A 内に、幼児向けのコーナーを設けた。シロフォンや、カスタネット、鈴、タンバリンなどの小楽器を置き、歌のお姉さんによるミニ・コンサートを随時実施した。

以上の「楽器屋」での活動のほか、管楽器などによる童謡コンサートや、各店の自慢の楽

器をデモ演奏するミニ・コンサートも随時実施した。

全体的に装飾や衣装などで、いままでの音楽ロビーと全く違う雰囲気が出せ、店を隔離して配置を工夫した結果、ある程度音のぶつかり合いは避けられた。店長として担当係を専門に配置したことで、より丁寧に積極的に楽器の説明や指導をすることができた。また、子供たちもそれぞれの店を巡り、いろいろな店長と出会うことで「探検のおもしろさ」も味わい、のれんをくぐって店に入ることによってフロア展示とは違った目的意識を持って楽器体験を楽しめたのではないと思われる。

③ 夏はとってもリズムカル

8月後半は、今年もサンバをテーマとしたプログラムに取り組んだ。音楽市場の利点を活用し、ロビーに「シャカシャカ道場（ガンザ体験）」、「タンタン道場（タンバリン・アゴゴ体験）」、「ノリノリ道場（サンバステップ体験）」の各コーナーを設置した。

本年度は、打楽器だけでなく、ブラジルの歌も取り入れたので、よりメロディアスな雰囲気となり、ダンスリーダーによるステップ指導によって、今までの楽器体験的なプログラムから体を動かすプログラムへと発展した。また、個々の楽器紹介もテンポ感のある演出を施して、より楽しめる内容となり完成された。

④ サマーセミナー

昨年に引き続き、1コース3日間で3種類、音楽が体験できる成人向け短期集中講座「サマーセミナー」2コースを次のとおり設定した。対象は主に音楽を教えている先生。

A コース 三味線—表現活動—ガムラン

B コース 金管楽器—表現活動—シンセサイザー

A コースは定員を上回り好評だったが、B コースは定員に足りず開催できなかった。募集の遅れと、B コースの科目の組み合わせが受講者のニーズに合っていなかったことによるものと思われる。今後、改善を図っていきたい。

また本年度から2日間で4種類の音楽が体験できる子供向け短期集中講座を開講した。

対象は小学校5年生～中学校3年生で、興味津々の子供たちが集まり、新しい楽器に、音楽に触れられたようでたいへん満足していた。

⑤ 開館記念

開館5周年記念行事として、10月20・21日の2日間、円形劇場において、「ぼくらのサウンド5周年スペシャル」を実施した。例年、年度末に行っていたものだが、本年度のみ5周年特別事業として秋に繰り上げた。各講座1年間のまとめといった内容とは異なり、5年間の集大成的に、他の講座・クラブとの合同演奏を主として、子供たち、講師、助手、音楽事業部スタッフの協力のもとで行われた。

⑥ 冬休み特別期間

① 年 末

12月22～25日、毎年恒例となっている「クリスマス・コンサート」を行った。これは、幼児に親しまれている「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」などの歌をスタッフがメドレーで演

奏し、来館児が歌や打楽器と一緒に演奏に参加するものである。このイベント以外の時間にも、クリスマスにふさわしい楽器（グロッケン、ハンドベル、鈴など）で遊べるようにしたため、友達同士でハンドベルの合奏をして楽しむ姿なども見られた。また、音楽スタジオ B では、昨年までと同様、ユースバンド卒業生による「ハートフル・クリスマス・コンサート」を実施した。

12月26～28日には、冬にちなんだ歌や童謡、アニメソングを、一緒に歌ったり遊んだりする「うたってポカポカ」を行う。ここでは、子供たちのリクエストにこたえてスタッフが演奏する「リクエスト・コーナー」も随時取り入れた。

② 正月

1月3～7日は、年末に引き続き「うたってポカポカ」を実施したのに加え、子供がマイクで歌うプログラム「わいわいうたがっせん」を1日1回行った。これは、昨年父の日に行ったものがベースとなっている。初めのうちは、恥ずかしさから消極的な子もいたが、1度歌うと次々に何度も歌うようになるケースが多かった。また、ステージで歌っている子を応援することで、親子あるいは知らない子同士のコミュニケーションが生まれたことは、たいへん有意義であったといえる。今後も、幅の広い年齢層に対応できるプログラムにするよう、選曲の工夫などを考慮しながら、内容の充実化を図っていきたい。

「うたってポカポカ」では、リクエストコーナーの定着が見られるようになった。加えて、スタッフを核とした「踊りの輪（サンバステップなど）」が自然発生的に生じるようになり、音楽を通した「遊び」の可能性が更に広がったと思われる。今後もそうした身体運動的な音楽遊びを、より良い形で発展させていきたい。

なお、ロビーの「うたってポカポカ」と並行して、音楽スタジオ A では「琴体験コーナー」も実施した。子供の人数が少ないときには、琴の合奏といった今までにない活動を行うこともできた。

3) 講座・クラブ

本年度の講座は9種17コース、クラブは5種6コース、合計23コースであった。

特に大幅な方向転換は行わず、「リズムムービング C」の増設、「おかあさんもいっしょーリトミック（初級クラス）」を、就園前のリトミックのコースとして「おんがく星みつけた」に変更したのにとどまった。「おんがく星みつけた」は音楽事業部職員のみで行われた講座で、職員ひとりひとりの音楽的技術、経験を生かし、週替わりでテーマを決めパネルシアター、太鼓の合奏、おしゃべり楽器などを、メインとなるリトミックに織り交ぜて行った。

5周年を機に講座・クラブを1つずつ見直す作業を約1年にわたり行ってきたが、潜在的な問題、「技術を詰め込む場ではないが、技術を積み重ねないと楽しめない」といったことについても決定的な解決策は出せなかった。10周年をメドに積極的に改善を図っていきたい。

<合宿> 講座・クラブの夏季合宿は、特別期間中の他の事業とのバランスから、「実施可否か」とさまざまな課題を残しているが、例年どおりの規模で実施した。

合唱講座、合唱団はスタッフを含め総勢117人。8月16日から3泊4日の日程で「栃木県立高原山少年自然の家」を中心に実施した。合宿中、「こども総合科学館」でのイベントに参加し、そのスタッフ、ボランティアの人たちとの交流を深めた。ユースバンドは今年も「こどもの国」内の自然研修センターで、8月28日から2泊3日で実施した。昨年までユースバンドと合同合宿を行ってきた三味線講座は単独で、「川崎市青少年の家」で実施した。期間は7月31日から2泊3日であった。楽器の運搬などの問題から、例年館内合宿を行っているガムラングループとパーカッションアンサンブルは、それぞれ7月27日から1泊2日と8月22日から2泊3日で実施した。

4) グループ活動

グループ活動は、平日の午前中に10人以上のグループ対象に行うプログラム活動であり、本年度の音楽プログラム利用率は、総利用件数の5割弱を占め、その大半が幼稚園、保育園、養護学校、小学校特殊学級であった。従来からのプログラムに加え、オリジナルプログラム「楽しくサンバ」「アフリカの太鼓タムタム」は人気が高く、幼児、就学児、障害児に対応できるプログラムに成長した。また、「和楽器に触れてみよう」「やってみようアンクルン」は、主に小学生以上のプログラムなので、利用件数は少ない。これらのプログラムと新しく開発中の「世界の太鼓」を幅広い対象年齢に対応できるプログラムにしていきたい。障害児対応のメインプログラム「ガムランで遊ぼう」は毎回好評を得た。

5) 劇場の催しなど

本年度は「第5回ぼくらのサウンド5周年スペシャル」(10月20・21日円形劇場)を開催した(開館記念特別期間の項を参照)。

「おまつり劇場」(子供たちによって守られ、受け継がれている日本の伝統芸能を広く紹介する催し)は、前年度から劇場事業本部が実施しているが、音楽事業部の講座から三味線講座、和太鼓グループの子供たちが演目の一部に参加した。

<参助出演> 外部団体主催の催し及びTV収録に、和太鼓、三味線、合唱団が出演を依頼され、出演した子供たちにとって貴重な経験となった。主なものは次のとおり。

① 4月18日 和太鼓グループ、三味線講座出演

NHK教育TV「芸能花舞台」(5月5日放映)のための撮影収録(NHK放送センター)

② 5月11日 合唱団出演

中央児童福祉審議会表彰式(朝日生命ホール)

6) そ の 他

前年度同様、音楽事業部・AV事業部及びこどもの城内部(主に劇場事業本部)利用以外の時間帯を一般に貸し出す業務を行った。こどもの城の内部利用を優先しているため、時期や時間が限定されていたが、固定利用者もあった。

(1) 2 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	トロール室 マスターコン	A V ライブラリー	ビデオ活動 映像調整室・ マスターコン	ビデオ活動 映像調整室・ ライブラリー	ビデオ活動 映像調整室・ マスターコン	ビデオ活動 映像調整室・ ライブラリー	ビデオ活動 映像調整室・ マスターコン	ビデオ活動 映像調整室・ ライブラリー	ビデオ活動 映像調整室・ マスターコン	ビデオ活動 映像調整室・ ライブラリー	ビデオ活動 映像調整室・ マスターコン	ビデオ活動 映像調整室・ ライブラリー
10：00												
11：00		グループ活動	グループ活動	グループ活動	グループ活動	ファミリー・ ビデオ・クラブ	グループ活動	グループ活動	部 ミー ティ ン グ 内		自由利用	マックTVこどもの城情報局
12：00	収 録		収 録		収 録		収 録				収 録	
13：00	・		・		・		・		収 録	自 由 利 用	・	
14：00	ビ デ オ	自 由 利 用	企 画 ・ 撮 影 ・ 編 集	自 由 利 用	ビ デ オ	ファミリー・ ビデオ・クラブ	自 由 利 用	ビ デ オ	・	自 由 利 用	ビ デ オ	わいわいスタジオ
15：00	編 集 等				編 集 等		編 集 等	おもしろ ビデオ館	ビ デ オ		編 集 等	
16：00									造形クリエイティブク ラフアニメ体験 ばたばたアニメをつくろう			
17：00												
18：00												
19：00												
備考	A V 資料室は10：00～18：30(A V ライブラリーの支援業務)											

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
A V ライブラリー 自由利用	平常期間 毎日(開館日)	開館時間中	A V ライブラ リー	(人) 平日 職員 1 アルバイト 2 土曜日 職員 1 アルバイト 3 日曜日・祝日 職員 1 アルバイト 5	
A V ライブラリー スポーツ・ソフト 特集	10. 1~31	"	"	平日 職員 1 アルバイト 2 土曜日 職員 1 アルバイト 3 日曜日・祝日 職員 1 アルバイト 5	体育の日に関連させ、 スポーツ・ソフトのカ タログを更新する。
バンダイ・ビデオ 試写会	平常期間の 日・祝日	12: 45~17: 15	フリーホール 又は 8・9 階 研修室	職員 1 アルバイト 2	バンダイと提携の、人 気ビデオ作品の上映 会。 42日間・292回実施 利用者数16,066人
しねまていく カナダの アニメーション	4. 22	13: 30~14: 10 15: 30~16: 10	音楽 スタジオ B	職員 2 アルバイト 2	上映作品 『ヨットの幻想』『スク ェア・ダンス』『アニ マル・ムービー』
"	6. 24	"	"	"	上映作品 『コズミック・ズーム』 『スクエア・ダンス』 『海底の宝物』
"	7. 15	"	"	"	上映作品 『E (イー)』『めんど り踊り』『星とストラ イプ』『欲ばりブルー ジェイ』
"	9. 15	"	"	"	上映作品 『いたずら椅子』『都会 ネズミと田舎ネズミ』 『ゼア』
"	10. 10	13: 30~14: 00 14: 30~15: 00 15: 30~16: 00	"	"	上映作品 『開会の辞』『小鳥の ファンタジー』『隣人』
"	12. 9	"	"	"	上映作品 『クラック!』『スクエ ア・ダンス』『ふくろ うとねずみ』

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おもしろビデオ館 (日・祝日版) 世界絵本箱 ーアンコール上映	1. 13・15	13:30~14:00 14:30~15:00 15:30~16:00 16:30~17:00	音楽 スタジオB	(人) 職員 2 アルバイト 2	13日=「とりのおはなし」「トミー・ アンゲラーのミ ステリアス・ス トーリー」 15日=「ふしぎワール ド」「ちいさな ぼうけん」
“ おたのしみ まんが映画	2. 10・11	“	音楽 スタジオB	職員 2 アルバイト 2	A『こねこのらくがき』 『ねずみのよめいり』 B『こねこのスタジオ』 『もぐらのモトロ』 AとBを交互に上映
AV実験室 ビデオであそぼう	4. 15	13:30~14:30 15:30~16:30	音楽 スタジオB	職員 2 アルバイト 2	対象=小学生以上 ビデオ・カメラを持つ て、撮影を体験するプ ログラム
“ “	5. 20	“	“	“	“
“ “	6. 17	“	“	“	“
“ “	9. 9	“	“	“	“
“ アニメおもちゃで あそぼう	9. 30	13:30~15:00 15:30~17:00	“	“	だれもができるくくる アニメ>と、小3 以上を対象としたくプ ラクシノスコープ>
“ ビデオであそぼう	12. 2	13:30~14:30 15:30~16:30	“	“	対象=小学生以上 ビデオ・カメラを持つ て、撮影を体験するプ ログラム。
“ “	1. 27	“	“	“	“
“ “	2. 17	“	“	“	“
“ “	3. 17	“	“	“	“
おもしろビデオ館 (平日版) 世界のおはなし 大集合	4. 13~ 7. 13 (4. 27を除く 毎週金曜日。 全12回)	15:30~16:00	音楽 スタジオB	職員 2 アルバイト 1	<人形アニメ>で作ら れた作品を特集。
“ 世界絵本箱	9. 7~12. 14 (11. 2を除く 毎週金曜日。 全13回)	“	“	“	㈱ヤマハの協力を得 て、同社発売のビデオ ・シリーズ<世界絵 本箱>の作品を上映。
“ 世界絵本箱第2弾	1. 11~ 3. 15 (毎週金曜日。 全10回)	“	“	“	“

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ばたばたアニメをつくろう	4. 7～平3. 3. 23 (特別期間及び祝日を除く 毎週土曜日。 全39回)	16:00～閉館	音楽ロビー	(人) 職員 1 アルバイト 2	2枚の絵を描かせ、それを交互にコマ撮りし、その場で再生してみせる。2枚の絵によるアニメーション作りのプログラム。
マックTV こどもの城情報局 + わいわいスタジオ	日曜日、祝日	10:30～閉館	映像調整室・ 音楽スタジオ B	職員 2 アルバイト 2 (音楽事業部との 共同)	アトリウムをはじめ館内に設置してある案内テレビを有効利用するため、催事案内情報を来館児・者に提供すると同時に、音楽スタジオBで行われる各種イベントを中継。

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
AVライブラリー 自由利用	特別期間中 毎日(開館日)	開館時間中	AVライブラリー	(人) 職員 1 アルバイト 5	
バンダイ・ビデオ試写会	特別期間中の 混雑日	〃	フリーホール 又は8・9階 研修室	職員 1 アルバイト 2	バンダイと提携の、人気ビデオ作品の上映会。 45日間・400回実施 利用者数19,159人
マックTV・こどもの城情報局	特別期間中 毎日	10:30～閉館	映像調整室ほか	職員 2 アルバイト 2	特別期間中のさまざまな活動プログラムの情報を館内案内テレビを通して、来館児・者へ提供。
<春休み> AVライブラリーインフォビジョン特集	4. 1～ 5	〃	AVライブラリー	職員 1 アルバイト 5	新作の加わったインフォビジョンを特集し、新作の浸透を図る。
<春休み> ばたばたアニメをつくろう	4. 2～ 5	11:00～12:30 13:30～15:00 15:30～17:00	音楽 スタジオB	職員 2 アルバイト 3	毎週土曜日の定番プログラム「ばたばたアニメをつくろう」を拡大して実施。
<夏休み> AVライブラリーオリジナルソフト特集	7. 21～ 8. 19	〃	AVライブラリー	職員 1 アルバイト 5	新作の加わったオリジナルソフト及びインフォビジョンを特集し、浸透を図る。
<夏休み> 夏休みおもしろビデオ館 世界絵本箱	7. 29～ 8. 5	11:00～11:30 12:00～12:30 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30 17:00～17:30	音楽 スタジオB	職員 2 アルバイト 2	「世界絵本箱」のビデオ・シリーズ5巻を特集した。 原作の絵本を忠実に映像化したシリーズ。 発売元のヤマハ㈱の協力を得て実施。

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ＡＶライブラリー 自由研究に役立つかな	8. 20～31	〃	ＡＶライブラリー	(人) 職員 1 アルバイト 5	夏休み後半に宿題と関連したソフトを特集し、話題づくりを図る。
＜夏休み＞ ＡＶアニメーション フェスタ' 90	8. 25～26	11:00～11:30 13:30～14:00 14:30～15:00 15:30～16:00 16:30～17:00	音楽 スタジオＢ	職員 2 アルバイト 3	11時と２時30分の１， ２回は、やまむら浩二 さんのアニメ上映会。 １時30分と３時30分は、 やまむらさんを招いて アニメ作りのお話と実 演。４時30分はアニメ 作りを題材として作ら れた著作権の大切さを 訴える映画の上映。
		12:00～13:00 14:00～15:00 16:00～17:00	音楽 スタジオＡ		アニメーション作家の 峰岸恵一さんを招いて ＜ピカピカスコープ＞ という視覚玩具に挑戦 した。映像ワーク ショップ。
＜夏休み＞ ＡＶ実験室 アニメおもちゃで あそぼう	8. 27～ 9. 2	11:00～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	音楽 スタジオＢ	〃 〃	低年齢の児童はくくる くるアニメ＞作り、小 ３以上は＜プラクシノ スコープ＞を作って楽 しんだ。
	8. 27～31	12:00～13:00 14:30～15:30 16:30～17:30	音楽 スタジオＡ		アニメーション作家の ＩＫＩＦを招いて、 くきりぬきアニメ盤＞ ＜手まわしフィルム＞ ＜歯車アニメ盤＞作り の３つのワークショップ を交代に実施した。
＜開館記念＞ ＡＶライブラリー 青山劇場・青山円形 劇場公演ダイジェス ト'89-'90	11. 1～ 4	〃	ＡＶライブラリー	職員 1 アルバイト 5	開館６周年を記念し て、青山劇場・円形劇 場の公演ダイジェスト のビデオソフトを製作 する。
＜開館記念＞ おもしろビデオ館 世界絵本箱第２弾	11. 1～ 4	13:30～14:00 14:30～15:00 15:30～16:00 16:30～17:00	音楽 スタジオＢ	職員 2 アルバイト 2	夏休みに上映して好評 だった「世界絵本箱」 のニューリリース作品 を上映した。 協力ヤマハ(株)
＜冬休み＞ ＡＶライブラリー 昔のヒーロー特集	12. 22～ 1. 7	〃	ＡＶライブラリー	職員 1 アルバイト 5	日ごろ子どもに番組選 択の主導権を握られ、 ブースで寝ているお父 さんお母さんの子ども 時代のテレビ番組の特 集し、親子で一緒に見 てもらい親子の共通の 話題を提供する。

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<冬休み> A V実験室 アニメおもちゃで あそぼう	12. 25～28	11: 00～12: 30 13: 30～15: 00 15: 30～17: 00	音楽 スタジオ B	(人) 職員 2 アルバイト 2	低年齢児童はくるくるアニメ>, 小3以上はくプラクシノスコープ> 作りのワークショップ。
<春休み> A Vライブラリー インフォビジョン特集	3. 26～31	開館時間中	A Vライブラリー	職員 1 アルバイト 5	新作の加わったインフォビジョンを特集し, 新作の浸透を図る。
<春休み> しねまていく	3. 31～ 4. 1	11: 00～12: 10 13: 30～14: 40 15: 30～16: 40	音楽 スタジオ B	職員 2 アルバイト 2	カラー長編アニメーション『森を守ろうー動物たちのゆかいな大作戦』を上映。

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
ファミリー ビデオ・クラブ	母と子	(組) 12	(組) 5	木曜日 10:30～12:30 13:30～15:30	音楽スタジオ B & 映像調整室	(1) 4. 19～ 7. 12 (5. 3を除く全12回)	(円) 15,000	講師 木辺高敏 昼間行雄 助手(職員)
		"	6	"	"	(2) 9. 13～12. 6 (11. 1を除く全12回)	"	
		"	2	"	"	(3) 1. 11～ 3. 15 (全10回)	12,000	
造形こども クリエイティ ブクラブ 「アニメ体験」	小3以上	(人) 10	(人) 7	土曜日 15:00～16:30	造形スタジオ	4. 14～ 7. 14 (4. 28～ 5. 26を除く。全9回)	18,000	木辺高敏 昼間行雄 造形事業部 スタッフ
		"	10	"		9. 8～10. 27 (9. 15を除く全7回)	14,000	
		"	"	"		1. 19～ 3. 16 (全9回)	18,000	
(夏休み集中) 母と子の ビデオ教室	母と子	(組) 8	(組) 6	7. 27～28 10:30～12:30	音楽 スタジオ B	7. 27～28 (2日間)	4,000	木辺高敏 昼間行雄

Ⅲ 各部の活動(1)

5) 分類別視聴回数・番組数 (平成2年度4月～3月)

分 類		回 数 比 %		番組数比 %	
01	こどもの城オリジナル作品	159	0.20	43	0.64
02	インフォビジョン	1,519	1.90	10	0.15
03	青山劇場・円形劇場1	633	0.79	170	2.51
04	青山劇場・円形劇場2	633	0.79	170	2.51
06	日本アニメフェスティバル	0	0.00		0.00
小 計		2,357	2.95	324	4.79
10	数学	11	0.01	13	0.19
11	天文学・地学	190	0.24	70	1.03
12	物理・化学	38	0.05	45	0.67
13	生物全体・微生物	27	0.03	18	0.27
14	水中の生物	169	0.21	30	0.44
15	哺乳動物	455	0.57	88	1.30
16	鳥・へび・かえるの仲間	89	0.11	38	0.56
17	昆虫・その他	181	0.23	45	0.67
18	からだのしくみ	17	0.02	15	0.22
19	植物	19	0.02	25	0.37
小 計		1,196	1.50	387	5.72
20	世界	42	0.05	81	1.20
21	アメリカ大陸	69	0.09	23	0.34
22	アジア・オセアニア	63	0.08	32	0.47
23	ヨーロッパ・アフリカ	55	0.07	22	0.33
24	世界の歴史・文学・美術	61	0.08	39	0.58
25	日本の歴史	95	0.12	61	0.90
26	日本の自然と旅	47	0.06	35	0.52
27	日本の風俗	1	0.00	25	0.37
28	日本の文化	22	0.03	85	1.26
29	産業・くらし・地図	36	0.05	31	0.46
小 計		491	0.62	434	6.42
30	あそびとおもちゃ	239	0.30	47	0.69
31	幼児とことば	83	0.10	33	0.49
32	海と空ののりもの	319	0.40	35	0.52
33	陸ののりもの	1,678	2.10	78	1.15
34	スポーツ	772	0.97	139	2.05
35	福祉と健康	9	0.01	33	0.49
36	看護と性	28	0.04	38	0.56
37	発達と保育・しつけ	23	0.03	44	0.65
38	おかあさんの勉強室	180	0.23	27	0.40
39	趣味	65	0.08	90	1.33
小 計		3,396	4.26	564	8.34
40	童謡	261	0.33	34	0.50
41	音楽	21	0.03	32	0.47
42	クラシック音楽	108	0.14	61	0.90
43	バレエ・舞踏	47	0.06	16	0.24
44	ロック・ポップス	271	0.34	98	1.45
45	ジャズ	31	0.04	27	0.40
46	日本の音楽1 ソロ	661	0.83	133	1.97
47	日本の音楽2 グループ	764	0.96	89	1.32
48	芸能1 落語	74	0.09	53	0.78
49	芸能2 その他	81	0.10	40	0.59
小 計		2,319	2.91	583	8.62

50	アニメ 1 ディズニー	5,736	7.19	216	3.19
51	アニメ 2 アンデルセン・グリム童話	3,577	4.48	104	1.54
52	アニメ 3 その他童話	2,845	3.56	213	3.15
53	アニメ 4 メイヤー・スキヤリー・ローゼンバーク	50	0.06	46	0.68
54	アニメ 5 日本のおとぎ話	376	0.47	96	1.42
55	アニメ 6 日本の昔話	95	0.12	100	1.48
56	アニメ 7 日本の童話	86	0.11	40	0.59
57	アニメ 8 歴史・伝記	160	0.20	58	0.86
58	アニメ 9 長編	716	0.90	128	1.89
	小 計	13,641	17.09	1,001	14.80
60	アニメ 11 名作アニメ	4,628	5.80	132	1.95
61	アニメ 12 ポリアンナ・赤毛のアン	630	0.79	73	1.08
62	アニメ 13 クオレ・若草物語・小公女セーラ	1,434	1.80	142	2.10
63	アニメ 14 ハイジ・カトリ・アンネット	419	0.53	77	1.14
64	アニメ 15 三銃士・宝島・ニルス	1,332	1.67	100	1.48
65	アニメ 16 フランダースの犬・一休さん	806	1.01	90	1.33
66	アニメ 17 あだち充	999	1.25	81	1.20
	小 計	10,248	12.84	695	10.27
70	アニメ 21 マンガ	6,237	7.81	222	3.28
71	アニメ 22 ゲゲゲの鬼太郎	1,505	1.89	130	1.92
72	アニメ 23 ルパン三世	1,917	2.40	86	1.27
73	アニメ 24 手塚治虫	2,773	3.47	154	2.28
74	アニメ 25 藤子不二雄	2,243	2.81	13	0.19
75	アニメ 26 宇宙 SF マンガ	5,692	7.13	395	5.84
76	アニメ 27 スポーツマンガ	1,333	1.67	89	1.32
77	アニメ 28 ちばてつや	196	0.25	96	1.42
78	アニメ 29 少女マンガ	5,028	6.30	100	1.48
79	その他アニメ	897	1.12	86	1.27
	小 計	27,821	34.86	1,371	20.27
80	特撮 TV 1 海外	152	0.19	64	0.95
81	特撮 TV 2 ウルトラマン	9,078	11.37	188	2.78
82	特撮 TV 3 仮面ライダー	3,192	4.00	204	3.02
83	特撮 TV 4 変身ヒーロー	2,234	2.80	267	3.95
84	特撮 TV 5 ロボット	224	0.28	74	1.09
85	特撮 TV 6 時代劇・妖怪	619	0.78	103	1.52
86	特撮 TV 7 その他	1,208	1.51	182	2.69
	小 計	16,707	20.93	1,082	15.99
90	映画 1 特撮	507	0.64	70	1.03
91	映画 2 童話	251	0.31	25	0.37
92	映画 3 その他	179	0.22	74	1.09
93	外国語 1 子供向	544	0.68	101	1.49
94	外国語 2 映画	137	0.17	23	0.34
95	外国語 3 その他	15	0.02	31	0.46
	小 計	1,633	2.05	324	4.79
	合 計	79,809	100	6,765	100

注：(1) この表の視聴回数は申し込み回数ではなく、実際にブースで視聴された数である。

(2) アニメフェスティバルは2年度は開催されなかった。

(2) AV 事業部の活動

本年度は、次の事業活動について、過去の実績を踏まえて、基本となる活動を充実させること、限られたスタッフを有効に使ったプログラム提供の方法を工夫することなど活動内容の充実、改善に努めた。

(1) 映像（作品）をくみる（みせる）>活動

①AV ライブラリー＝約6,700タイトルのビデオ・ソフトの中から、来館児・者が自ら選択して視聴する施設である。本年度も引き続いてソフト（市販ソフト、クイズ方式のオリジナルソフトであるインフォビジョン、青山劇場・青山円形劇場公演などのオリジナル作品）の充足を図った。

②AV 資料室＝AV ライブラリーの「頭脳」として、購入するビデオ・ソフトの選定、利用者のための目録の制作、コンピュータを含む機器の運用やメンテナンスを行っている。

また、AV ライブラリーの混雑時に対応するための「バンダイ・ビデオ試写会」を実施した。

③ビデオ活動＝16ミリ映画やビデオの上映会を通して、見る機会の少ない優れた映像作品に触れる場を設け、いろいろな<映像>世界を体験することによって、視野が広がるよう努めた。具体的にはカナダのアニメーションを紹介した「しねまていく」、埋もれた市販ビデオ・ソフトを紹介した「おもしろビデオ館」といったプログラムを提供した。

(2) 映像（作品）をくつくる>活動

①ビデオ活動＝一般来館児を対象とした「ビデオであそぼう」（ビデオ・カメラの撮影を体験）、「アニメおもちゃであそぼう」（動いて見える映像のルーツを体験）などを通して、くつくる>側から映像に触れるプログラムを提供した。グループ活動や講座・クラブなどでもくつくる>側からの活動を実施した。

(3) 映像を記録・製作する活動

①マスターコントロール室＝劇場の公演の収録（販売用、AV ライブラリー公開用）、館内案内テレビの映像送出、「こどもの城」の活動（キャンプ・講座）の記録作成などの活動を行った。

②ビデオ活動＝日曜日・祝日・特別期間の館内案内テレビの映像（文字）情報の作成・提供に努めた。

(4) 設備・機器の更新

近い将来 AV 関係の機器の更新時期を迎える。本年度から、それに向けて、本格的な検討に着手した。

1) AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロール

AV ライブラリーは、子供たちが自分でソフトを選ぶことによって、主体的に映像に接す

するための視聴施設である。選んでもらう以上、子供が視聴する際にソフト選択のうえで支障を来すことのないようなソフト調達を心がけている。当初は利用客層の予測が困難だったため、子供向けに限らず、あらゆる分野のソフトを網羅したが、それ以降は、現場での感触と視聴実績データをもとに購入ソフトを決定している。

このようにして蓄積してきたソフトは、平成3年3月現在6,725タイトルに及んでいる。

最近では、低年齢層の利用者が圧倒的に多く、この層が利用するアニメや特撮作品が不足しがちである。一般的にみてもアニメや娯楽作品の視聴希望は非常に多い。

また、「こどもの城」のAVライブラリーは、1人用のブースが少なく（8ブース）、ほとんどが3～5人用のブース（27ブース）である。これは、友達同士や家族がそろって同じ映像を楽しんだあと、帰路または帰宅後に共通の話題に花を咲かせてほしい、つまり、映像の視聴を通じて友達や家族の触れ合いを深めてほしい、との願いの現れである。

AV資料室は、AVライブラリーの頭脳であり、後方支援部門である。新規ソフトを選択購入し、試視聴（不良品はないか、内容的に不適当な部分がないかの最終チェック）をしたうえでデータ登録をする。また、「こどもの城」のオリジナルソフトである対話型ソフト「インフォビジョン」の制作・プログラミングも行っている。「バンダイ」と提携して行っている「バンダイ・ビデオ試写会」も前年度に引き続き、ウルトラマンなどの人気作品を中心に年間を通して実施した。このほかAVライブラリー用目録の製作、AVライブラリー機器のメンテナンス、館内放映用週間催し物案内の製作、マスターコントロールのビデオ収録の支援なども行った。

本年度のソフトの充足状況は、市販ソフト1,082タイトル、インフォビジョン2タイトル、青山劇場・青山円形劇場公演などのオリジナル作品23タイトルであった。

マスターコントロールは、AVライブラリーの映像製作部門であり、AVライブラリー用の番組製作（劇場の自主企画公演収録）、外部依頼による劇場公演の有料収録、キャンプ・講座などの記録ビデオ製作・販売、アトリウム映像・案内テレビ映像の送り出し、館内映像機器のメンテナンスなどを行っている。

本年度の課題と実績は、以下のとおりである。

① AVライブラリーの特色の強化

近年、図書館や児童館などの各公共施設がビデオコーナーやビデオライブラリーを設けるなど「こどもの城」AVライブラリーの類似施設が増加してきたので、AVライブラリー独自の特色を打ち出す必要がある。

オリジナルソフトであるインフォビジョンの利用回数は順調に増えており、その利用者数は過去5年間のランキングで上位を占める。インフォビジョンは、自前の著作権の作品で、他の施設にない、独自の対話型番組である。対応する子供の回答によって結果が変わるといった仕様は、AVライブラリーの、「子供の映像に対する主体性を育てる」という目的と一致する。

本年度に関しては、『ホントにホント！ クイズへんてこりん』『音の消えた村』の2タイ

トルの幼児向けインフォビジョン（視聴時間は、各10数分程度）を製作した。最近の「こどもの城」の利用客層は、開館当初に比べて低年齢化しているが、幼児向けの市販ソフトは、アニメーションなどを除けば数が少ない。したがって、その補完という意味でも、また、ボタンを押すのが好きという幼児の一般的傾向からみても、インフォビジョンを特に幼児向けに製作することは、AVライブラリーに特色を持たせるための最も強力な手段であるといえる。来年度以降も小さいものを毎年2タイトル程度は製作していきたいと考えている。

マスターコントロール製作の「こどもの城」オリジナルソフトについては、前年度実績の44タイトルから、23タイトルに減少した。今後、マスターコントロールの収益も配慮しながら、毎年浮き沈みはあるものの、なんとか50～60タイトルを目指したいと考えている。人手を増やさずに仕事量の増加に対応するには、現在ネックとなっているテロップの製作専用機導入が必要である。

ソフトの充足計画は、「子供の主体性を重視する」ということと直結するものである。つまり子供たちの需要に添ったソフトの充実、主体的なソフト選択のすそ野を広げることにつながる。

AVライブラリーのソフト利用率を分野別に見ると（別表参照）、先に挙げたインフォビジョン」「陸ののりもの」「アニメ」「特撮もの」の人气が高いことが分かる（視聴率が番組数比を上回っている）。

したがって、ソフトの新規購入は、これらの不足しがちなソフトを優先してなされなければならない。また、他の分野、例えば「音楽」「スポーツ」「動物」などの視聴も多く、これらの分野についてもよい作品の充足を心がける必要がある。今期購入した市販ソフトについても、購入したものは、ほとんどが、子供向けの作品である。相変わらず著作権の問題はあるものの、内容及び分野的配分については、ほぼ満足できる内容であった。新規ソフトは人气が高く、何を購入するかは、AVライブラリーの魅力に直結する。毎年消耗ソフトの代替分が増えており、限られた新規分購入枠の中で、できるだけ子供向けで希望の多い、しかも良いソフトを集めるよう、努力している。

付け加えて言えば、本年度についても、予算決定が遅れた関係で、その購入時期は大幅に遅れ、2月～3月にかけて品物を入手することになった。購入ソフトの試視聴・登録は前年度から持ち越してきたものを含め約730本以上をさばいたが、本年度購入分については大部分を、来年度に残してしまった。毎度同じ主張になるが、来年度はもっと早く購入する必要がある。

ソフトの本数とともに、それらを選択・視聴しやすい環境を整えることも、AVライブラリーの魅力を増すために重要な点である。

AVライブラリーの目録は、①特集カタログ②総合カタログ（35分以内版・全件版）③年齢別カタログ（3・4歳向け、5・6歳向け）④新着ソフトカタログ⑤外国語カタログの5種類を常備しているが、このうち①の特集カタログは、字の読めない幼児の利用者が多いことを考慮し、実際の画面写真・イラストなどを駆使して、視覚的に分かりやすいものを製作

している。この特集カタログおよびポスターについては、特別期間・平常期間の AV ライブラリーのテーマに合わせ、本年度は、「インフォビジョン」「のりもの」「オリジナルソフト」「自由研究」「スポーツ」「昔のヒーロー」の 6 種類を更新製作した。また総合カタログ、年齢別カタログ、新着ソフトカタログは傷みが早いのでほぼ月 1 回の割で更新している。

そのほか、本年度に購入したソフトの収容スペースを確保するため、機器裏側のデッドスペースにラックを増設し、また、ソフト自体の置き方を工夫して、収容能力を 30% 以上増やした。その作業に併行して、過去の視聴頻度データに基づき、利用者の多いソフトの収容位置を、より再生機器に近い場所へ移し、申し込みから視聴までのトータル時間の短縮を図った。また、それまで内部スタッフによって自主的に製作していた利用案内などの掲示物を、外注によってより見やすいものに変えたり、存在を知られていないソフトを知らしめるためのリストやポスターを製作するなど、サービスの向上に努めた。

② AV ライブラリーとバンダイ・ビデオ試写会の利用者増

AV ライブラリーの本年度の利用回数は 79,809 回、利用人数は 185,382 人で前年度とほとんど変わらなかった（前年度 80,188 回、184,823 人）。これを休日（土・日・祝・特別期間などの午前 10 時開館日）と平日（通常期間の午後開館日）に分けてみると、休日は利用回数で前年度比 1% 増（59,255 回）、利用人数で 1 % 増（137,876 人）、平日は利用回数で 4 % 減（20,554 回）、利用者数で 3 % 減（45,506 人）であった。全利用者の 74% が休日に、26% が平日に利用している（前年度は 73%、27%）。

「こどもの城」の入館者数（有料・招待の合計、6 歳未満は含まれていない）は 4 % 増（327,111 人）、休日 3 % 増（280,221 人）、平日 9 % 増（46,890 人）である。全入館者の 86% が休日に、14% が平日に利用している（前年度と同じ）。

AV ライブラリー利用者数が、総体で前年度と同じレベルに維持できたのは、おおむね満足できる結果と言える。つまり、利用者数の大部分を占める休日利用者は、AV ライブラリーの利用者収容力が既に限界に達しているため、いくら入館者数が増えても機器を増設しない限り、大幅な利用者増は望めないからである。

なお、平日の入館者数が 9 % 増なのに対し、AV ライブラリーの利用者数が 3 % 減なのは原因不明である（休日と平日では 1 % の重みが違うので、休日の利用者の 1 % 増が補って全体では変わらず、ということになってはいるが）。過去には、平日の AV ライブラリー利用者数は、入館者数を上回っていたが（これは入館者が平均して 1 回以上 AV ライブラリーを利用することによる）、本年度は、この関係が逆転してしまった。

平日は学校があるため、利用者増が期待できるのは幼児が中心であると思われる。

したがって今後も、低年齢層に希望の多い、しかも良い作品をそろえ、環境を整える必要があると考えられる。

バンダイ・ビデオ試写会は、実行日数 87 日（前年度比 4 % 減）、回数 692 回（前年度比 15% 減）にもかかわらず、利用者数は 35,225 人と前年度を 25% も上回った。これはバンダイから提供されるソフトの内容に変化を与えたこと（より子供たちに人気のある作品を上映プログ

ラムに加えたこと)と、過去の利用者数データを分析し、より利用されやすい期間と時間帯に集中して上映を行った結果と考えられる。試写会は、AVライブラリーの混雑時に利用者をさばくという意味でも大きな機能を果たしており、これからも、より適切な日の、より適切な時間帯に開催していくことを心がけたい。

③ マスターコントロールの収支の改善と業務の効率的運営

マスターコントロールの収入は前年度比10%減であった。これは、前年度、青山劇場・青山円形劇場を合わせ76回あった収録回数が70回に減少したのに加え、総収録回数中における有料収録の割合が、前年度の34%から21%に減少していることによる。

また、キャンプ・講座の記録ビデオテープ販売は年8回行い、回数、収入ともに前年度なみの実績となっている。今後も劇場公演やキャンプ・講座関係の収録を通じて、AVライブラリーの自主ソフトの充実を図るとともに収入増に努めていきたい。

以上がAVライブラリー、マスターコントロール及びAV資料室(バンダイビデオ試写会業務を含む)の本年度の課題と実績である。運営面では、より一層の効率化を図り、これらの運営を3人で行ってきたが、来館者サービスの向上やマスターコントロール収録番組の質的維持を図る上で、限界点にさしかかっていると思われる。

④ 機器更新のための準備

来年度には、コンピュータ関係・AV関係の各機器提供メーカーとのメンテナンス契約が切れ、加えて機器の老朽化・陳腐化が甚だしいため、機器の更新が必要となる。そのために関係各部のスタッフによる検討会を設け、5回にわたってミーティングを行い、技術面から更新計画の骨子を固めた。来年度は、その機器更新について、更に具体的な検討・準備に取り組む必要がある。

2) ビデオ活動

本年度のビデオ活動は、内容的に、前年度に比べて際立った特徴を持ったものではない。むしろほとんど変わりがない、といったほうが適切であるかもしれない。しかし私たちとしては、今まで以上にビデオ活動の存在をアピールしたつもりである。

「AV実験室・アニメおもちゃであそぼう」「同・ビデオであそぼう」などの〈つくる〉プログラムの実施回数の増加と定着化を図ったこと、「おもしろビデオ館」で取り上げる作品を独自に開拓した(今まではAVライブラリーの枠の中で考えていた)ことなどがあげられる。

「こどもの城」の枠の中で活動をしていくとき、とかく消極的になりがちであったことを反省し、私たちは専門家(少なくとも「こどもの城」の中では)であるのだから、私たち自身を信じて活動を展開していくことにしたのが本年度である。

(ア) 平常期間

① おもしろビデオ館

9月からの「おもしろビデオ館」では、夏休みに上映して好評だったヤマハ(株)の新しいビ

デオ・シリーズ《世界絵本箱》を取り上げた。発売されたばかりのビデオで、この時点では、まだAVライブラリーに購入されていないものであった（年度末には購入）。

AVライブラリーにある、ないにこだわらず、＜見せたい＞＜見てほしい＞作品を取り上げることにした。

《世界絵本箱》のシリーズは、ほとんどがアメリカのウェストン・ウッズ社の作品で、日本でも一部の作品が別の会社から以前ビデオ化されていた。原作はすべて絵本。原作絵本の味を損なわないようにして作った10分前後の＜動く絵本＞。トミー・アンゲラーやモーリス・センダック、エズラ・J・キーツなどの作品が映像化されている。どれも優れた＜映像作品＞になっていて、だれが見ても子供たちに＜見せたい＞＜みてほしい＞と思うはずのものである。

このような＜映像作品＞を子供たちに提供したいという私たちの願いと、パブリシティの効果を期待する外部の団体・企業（ヤマハ側）の利益が一致して、上映に至った。

このときに注意したのは、公共的な性格を持つ「こどもの城」が外部の“営利”事業に一方的に“利用”されないようにすることである。互いに利益をもたらすものでなければならぬが、その利益の内容や質を考慮して、慎重に打ち合わせをしなければならない。

「こどもの城」で上映するに値する作品（私たちが上映したい、しても良い作品）であるかどうかということ、協力することで互いのプラスのイメージを強調することができるかどうかなどを慎重に検討した。

外部との共同事業なので、すべてにこちらの意見を押し通すわけにはいかないが、基本姿勢（譲れない部分）をはっきりさせて対応した。今回は、上映の主体（番組や上映の方法の決定など）は私たちにあり、「こどもの城」という場所で上映会を行うことでパブリシティの第一義的な役割を果たすので、＜冠（かんむり）＞上映会など会社名を前面に強調するようなことはしない、販売促進につながるようなチラシ・ポスターなどは置かないということなどで話し合った。幸い、私たちの考え方が理解され、ヤマハ側側の全面的な協力が得られたので、スムーズな上映を行うことができた。

外部の団体・企業と協力してさまざまなプログラムを実施していく機会が増えると思うが、どのような協力体制で臨めばよいのか、試行錯誤しながら、望ましい在り方を研究していきたい。

② しねまていく

みんなで楽しむ映画の上映会。本年度も月1回の割合で実施した。映画として作られたものを本来の形（映画）で視聴するのが目的。同時に、子供たちに人気があるからとアニメや、特撮ものが多いAVライブラリーの所蔵作品に対し＜しまねていく＞の作品には、＜映像＞の世界はもっと広いものであり、アニメーション1つをとっても多様な表現があること、アニメーションだけでなく実写の作品（ドラマやドキュメンタリーなど）があること、そしてそれらの作品がすばらしい世界を見せてくれることを体験してほしいという思いがある。

＜映像＞のさまざまな世界を知ってほしい、そのための場を「こどもの城」に来る子供た

ちに提供したいという願いの下に〈しまねていく〉を行っている。

平成元年度から、カナダ大使館の協力を得てカナダ国立映画製作庁（National Film Board of CANADA）の作品を上映している。子供たちにも好評で、「こどもの城」としてもこれらの映画作品のライブラリーを持つ意味は少なくないと考え、本年度に6タイトルの作品を購入した。

また、平成3年の春休みには昨年と同様に富士写真フィルム株式会社の協力を得て科学映像のエッセンスを集めた『サイエンスグラフィティ 科学と映像の世界』という科学映画の上映を行った。科学技術映画祭グランプリや日本産業映画コンクール大賞などを受賞した作品である。

③ わいわいスタジオ

音楽事業部と協力して実施しているプログラムで、AV事業部は毎月1, 2回企画を担当している。本年度は、〈みる〉をキーワードにした「しまねていく」と、〈つくる〉をキーワードにした「AV実験室・ビデオであそぼう」「同・アニメおもちゃであそぼう」のプログラムを中心に実施した。

「ビデオであそぼう」は、当初小学3年生以上を対象としていたが、本年度からは小学生以上に対象を変更した。低学年の来館児が多いこと、プログラムに慣れてきて低学年の子供たちにも指導できるメドがついたことなどから、対象を拡大することにした。

映像による「しりとり」を中心とするプログラム内容は変わらないが、子供たちは撮影するものを探して館内を飛び回っている。自分で撮影することの面白さを体全体で感じているようである。

④ ぱたぱたアニメをつくろう

土曜日の定番プログラムとして、本年度も特別期間と祝日を除いて実施した。時間は閉館時間の変更に伴い、年間を通して4時から5時30分まで。閉館時間ぎりぎりまで参加を受け付けている。

⑤ その他

直接的に来館児・者に接するものではないが、ビデオやテレビに関連するさまざまな活動を行っている。

たくさんの来館児・者がある日曜日・祝日や特別期間には、「マックTV こどもの城放送局」という名称で、館内案内テレビを通して催事情報を提供している。

できるだけ「生（なま）」の情報（テレビ・ニュースのような）を提供したいと考えているが、人手や設備の問題もあり、十分な活動ができていたとは言い難い。「こどもの城」全体の情報提供サービスと絡んでくるものであり、全館的な課題として考えていく必要がある。

〈放送〉というシステムとは別に、ビデオ機器を単独で、あるいは組み合わせて使う方法もいろいろある。催し物の案内を会場の入り口で、繰り返しビデオで提供するなどの使い方で、プレイ事業部のバンパー大会（平成3年春休み）などがその一例である。

また、児童福祉週間のプログラム「キャスルクエスト」でも、ビデオ機器などを利用し

てゴール会場（魔王との対決の場）の演出に協力した。

ビデオと直接のつながりはないが、ビデオ活動の広報の1つとして、チラシなどの製作がある。「マック TV プレス」という B4 版の新聞形式のチラシを毎月 1 回（特別期間には、チラシ兼プログラムとして臨時に増刊）程度発行し、活動の内容や私たちの目指しているものを紹介した。

日曜日・祝日などにプログラムを行うときは、アトリウム部門の協力を得て、入館時にチラシを配付してもらった。このチラシは、簡単に捨てられないように、全館の催し物の案内も併せて掲載してある。全館の情報提供システムを補足するものとして効果をあげている。

(イ) 特別期間

ほぼ前年度と同様のプログラムを、平常期間の活動を時間的、場所的に拡大して実施した。平常期間と大きく異なるものは、夏休みに行った「AV アニメーションフェスタ '90」で、本年度は「AV 実験室・アニメおもちゃであそぼう」と関係させて、特別プログラムのワークショップを行った。

「AV アニメーションフェスタ '90」では、作家のやまむら浩二氏を招き、TV の幼児番組用に作った作品を含む作品集の上映と、粘土を使ったアニメ作りの実演、やまむら氏をモデルにして作られたドキュメンタリー『どうしてあるのかな 著作権』（アニメ作りを通して著作権の大切さを訴える作品。製作はアメリカ映画協会日本支社）の上映をメイン会場の音楽スタジオ B で行った。また、音楽スタジオ A では、峰岸恵一氏を招いて、『ぴかぴかスコープ』作りのワークショップを 8 月 25・26 日の両日行った。

引き続いて 27 日から 9 月 2 日まで「AV 実験室・アニメおもちゃであそぼう」を音楽スタジオ A・B の 2 会場（音楽スタジオ A は 8 月 31 日まで）で、動かない絵が動いて見えるというさまざまな「アニメおもちゃ」作りに挑戦した。音楽スタジオ B では、幼児から楽しめる「くるくるアニメ」と小学校 3 年生以上を対象とした「プラキシノスコープ」作り。音楽スタジオ A では、映像作家の I, K, I, F 氏によるワークショップ「切り抜きアニメ盤」「歯車アニメ盤」「手回しフィルム」の 3 プログラムを時間を決め、定員制で行った。

音楽スタジオ A・B の 2 会場を 1 週間にわたって同時に使うのは、初めての試みである。来館児・者の動線は若干問題があったが、イベントとしてのアピール度は高かったと思う。

本年度の夏休みは、映画の上映会<しねまていく>は行わず、代わりに 8 日間にわたって、ヤマハ(株)の協力を得て、「おもしろビデオ館」を行った。新しく発売されたビデオ・シリーズ《世界絵本箱》5 タイトルを毎日 2 本ずつ上映。1 タイトルが約 30 分で、1 時間おきに 7 回ずつ上映した。絵本として評価を得たものを映像化したもので、原作の味を損なわないように、丁寧に作られている。たいへん好評であった。

(ウ) 講座・クラブ

受講者は少なかったが、例年どおり「ファミリー・ビデオ・クラブ」を開講した。また、造形事業部と一緒にくこどもクリエイティブクラブ「アニメ体験」>も開講した。

「ファミリー・ビデオ・クラブ」では、ビデオ編集機の操作を完全にマスターして、自由に

「我が家のビデオ・アルバム」作りに励んでいた。家庭で撮影してきたビデオを見ると、お母さんと他の人（お父さんなど）が撮影したものと歴然とした差がある。ビデオという道具を＜使っている＞のか、＜使われている＞のかの差が出てくるのである。

機械文明が発達した今、いろいろな道具（機械）があふれている。それらとどのように接していけばよいのか——ビデオという道具を通して、その一例を見るような気がした。使う側の人間が重要であるということである。

参加人数は決して多くはないが、お母さんたちは子供の姿を映像に記録することを通して、＜映像＞との新しい関係を作り出しているに違いない。その意味では意義のある講座であると思う。

「アニメ体験」は、継続して受講する子供が多く、その指導をどのようにしていくかが大きな課題になってきている。当初、クラブ名にあるように「体験」を念頭に置き、短期間の講座として準備された。ところが継続者が多く、「体験」の次のものを用意しなければならなくなり、その準備が十分にできていなかったということである。今は子供たちと一緒に試行錯誤しているが、指導する側の責任として、早急に対応策を提示しなければならないと考えている。

(1) 2年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00							
10:00							
11:00	母子 教室	保 育 ク ラ ブ	幼 児 保 育 グ ル ー プ	幼 児 保 育 グ ル ー プ	幼 児 保 育 グ ル ー プ	保 育 ク ラ ブ	保 育 室
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							

Ⅲ 各部の活動(1)

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	スペース	要 員	備 考
親子えんそく	5. 22	10:00～14:00	都立砧公園	職員	保育クラブ親子プログラム
〃	6. 22	10:00～14:00	こどもの国	〃	〃
青空プレイ大会	10. 14	10:00～13:00	代々木公園	〃	〃
保育フェスティバル	11. 19	14:00～15:30	青山円形劇場	〃	〃
講演会	2. 25	13:00～15:00	研修室	たけながかずこ	〃
親子えんそく	3. 1	10:00～14:00	葛西臨海水族園	職員	〃
保育活動展	2. 19～ 3. 4	12:30～17:30	4 F ロビー	職員	〃

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	スペース	要 員	備 考
保育セミナー・ ワークショップ	8. 23	10:00～16:40	研修室	お茶の水女子大 教授 黒田 淑子 ほか 2	
保育セミナー・セミナー	8. 24 25	9:30～17:50 10:00～14:30	青山円形劇場	日本女子大教授 森上 史朗氏 松山東雲短大教授 吉村真理子氏 東大教授 佐伯 胖氏 元川崎市みなみ生 田保育園保母 今井 和子氏 国学院大助教授 斎藤こずゑ氏 別府市教育委員会 指導主事 後藤 節美氏 松山東雲幼稚園教 諭 菅田 栄子氏	対象：保育園保 母，幼稚園教 諭，自治体担当 者など

3) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 時 日 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
母子教室	1歳児 母子	(人) 12	(人) 13	月曜日 10:30~12:30	保育室 I	5月7日 ~7月23日	(円) 27,600	講師 小児保健部長 巷野悟郎 ほか	
		12	13	"	"	9月23日 ~12月16日	"		
		12	13	"	"	1月6日 ~3月23日	"		
育児相談の ケースカン ファレンス	保育所, 児童館 等の電 話相談 担当者	40	16	土曜日 14:00~17:00 (全6回)	研修室	5月~3月	6,000	明治学院 大教授 山崎美貴子氏 全国社会福祉 協議会 山田美和子氏	
幼児 グループ	幼児	20	15	10:00~14:00	保育室 I ほか	4月~3月	保育料 (月) 30,000 給食費 (月) 4,000		
保育クラブ	幼児		481	10:00~17:30	保育室 I, II	4月~3月	年会費 3,000 保育料 1時間 2歳児 900 3歳児 700		

(2) 保育研究開発部の活動

保育研究開発部の事業活動は、前年度に引き続き月曜日から土曜日を活動期間とし、保育事業、研修事業、研究活動の3本の柱によりプログラムを行った。

1) 保育事業

(ア) 母子教室

1歳児の母子を対象とした母子教室は前年度までのプログラムに引き続き、17・18・19期の講座を実施した。各期はそれぞれ13組の母子が参加した。募集に当たっては熱心な応募者が定員を上回り、1歳児を持つ母親からこうしたプログラムが強く望まれていることが実感された。母親の育児の状況について、応募の際にアンケートを行い、それを得点化して母親の育児不安の目安とし、また受講登録者については講座の開始前に面談を行い、親子の様子を把握した。

本年度はメキシコ、コロンビアなどの外国籍を持つ母子の受け入れも試み、言葉の壁を越えたコミュニケーションを工夫した。

プログラムは各期12回で構成した。全回を通じ、母子遊びを中心に展開した。後半の母親活動も、母子の分離については無理をせずに子供が母の側を行ったり来たりしながら遊ぶうちに、自然に離れて過ごせるよう、同じ部屋をアコーディオンカーテンで仕切ったり、保育室の扉を開放したままで活動するなどの工夫をした。13組の親子に4人の保育者がついて個別の対応を丁寧に行い、活動終了後にはそれぞれの母子の活動についてカンファレンスを行って次のプログラムの計画を立てた。

母子教室終了後、希望者は保育クラブに受け入れ、母子参加の保育プログラムなどを利用しながら次のステップとしての母子分離活動につないでいった。

(イ) 保育クラブ

前年度、保育クラブの登録に当たってその入会動機（育児不安、集団遊びの場を必要としている、母親の就労、緊急な用件など）を明確にした。それにより目的意識のはっきりしたプログラム利用が行われるようになり、本年度は更にそれを進展させて、プログラムを利用目的別にA、Bと区分した。Aプログラムは集団への参加が目的であり、集団の場を提供したり親子活動を行い、Bプログラムは週1～3回程度のパートタイム就労や社会参加をする場合の保育援助を行うものとした。実際の保育活動は、2歳及び3～5歳のグループ編成によりA、Bプログラム一緒に、10時から14時までは年齢別保育、14時以降は2～5歳のBプログラムの保育を行う形をとった。Aプログラムには3か月期間の定期予約と、その都度予約するフリー予約を受け入れ、Bプログラムは6か月の定期予約のみの受け入れとした。

母 子 教 室 第17期プログラム

回	月 日	テ ー マ	講 師
1	5. 7 (月)	お母さんと遊ぼう (1) オリエンテーション	保育研究開発部
2	5.14 (月)	お母さんと遊ぼう (2) ー動いて遊ぼう 1ー	〃
3	5.21 (月)	お母さんと遊ぼう (3) ー動いて遊ぼう 2ー	〃
4	5.28 (月)	お母さんと遊ぼう (4) ー粘土で遊ぼうー	〃
5	6. 4 (月)	お母さんと遊ぼう (5) ー紙で遊ぼうー	〃
6	6.11 (月)	お母さんと遊ぼう (6) ー母子で楽しくー	〃
※ 7	6.17 (日)	お母さんと遊ぼう (7) お父さんの子育て講座	〃 駒沢大学 井上孝代
8	6.25 (月)	子どもの発達と子育て 1	東京外国語大学 田島信元
9	7. 2 (月)	子どもの発達と子育て 2	〃
10	7. 9 (月)	子どもの発達と子育て 3	〃
※ 11	7.15 (日)	子育ての医学	小児保健部長 巷野悟郎
12	7.23 (月)	お別れパーティー, お母さんの自主企画で遊ぼう	保育研究開発部

※第7回, 第11回は, 父と一緒に参加させるプログラムである。

(注) 第18期と19期も同内容のプログラムである。

① 2歳児の活動

月曜日から土曜日にかけて週6日間活動した。月曜日と土曜日には2歳児のAプログラムのみを行い, 母子分離の困難な親子は母親も保育に参加しながらスムーズな分離を目指すなどの方法をとった。火曜日から金曜日の保育はAプログラム, Bプログラムのメンバーと一緒に受け入れて活動した。定期的に保育参加する子供, フリー予約で参加する子供, 3時間保育又は6,7時間保育に参加する子供, 母子一緒に又は母子分離して参加する子供など, グループメンバーの個別的な条件がさまざまである保育実践を行った。

担当保育者は週4日勤務の非常勤職員2人を含む6人がチームを組んで, 曜日ごとのローテーションで保育に当たった。14人の子供に対し, 4人の保育者を配置した。2歳児の発達上の特徴に沿ったプログラムの展開に努め, また, 観察室を定期的に開放して保育中の子供の様子を親に見てもらったり, 迎えのときのコミュニケーションに十分時間をとって, 親との信頼関係を深めるよう努力した。

日々子供のメンバーが変わり、またその条件もいろいろある中で、複数担当制による保育体制をとりながら、個別的な配慮を重視した保育実践を行うには、特に保育者間の十分な意思疎通が重要であることが実感された。

② 3～5歳児の活動

3～5歳児のプログラムは火曜日から金曜日の週4日間行った。10時から14時までは幼児グループ（後述）の4・5歳児と一緒にA、Bプログラムがともに活動した。対象児はほとんど3歳児で、フリー予約で時々4・5歳児が参加する程度であった。幼児グループ4歳児、5歳児の登録児が定員を欠いて17人であったため、希望の多い3歳児を余分に受け入れ、3歳児の多い縦割り集団での活動となった。

発達に遅れのある3歳児2人がそれぞれ週1回ずつ保育に参加した。幼児グループの4・5歳児と同じテーマで活動する場合も年齢に沿ったねらいによって活動が展開できるよう配慮した。

担当保育者は幼児グループ2人、保育クラブAプログラム1人、Bプログラム2人の計5人のチームによる複数担当制の保育を行った。3歳児の集団参加希望が多く、フリー予約がなかなか取りにくい状態であった。

③ 長時間保育（Bプログラム）

6か月の定期メンバーによる保育で、午前中は2歳児、3～5歳児の年齢別活動に参加し、3時のおやつ以降の時間を2～5歳が合流して活動するという形態の保育を行った。

Bプログラムの参加者は、1日当たり10人（2歳児5人、3～5歳児5人）とし、原則としてフリー予約は無しとした。しかし、前年度からのつながりで、やむをえない場合の長時間フリー利用については、状況に応じて受け入れる暫定的対応をした。

保育者は朝から保育に入る長時間担当者、午後から保育に入る午後担当者、16時から17時30分の時間を担当する延長保育担当者をローテーションにより配置した。

週1～3日の断続的な長時間保育であるため、母親と面接したり、短時間の保育から始めて徐々に保育に慣れさせていくなど子供の安定に留意した。それぞれの子供の生活リズムに合わせて、必要な子供には昼寝をさせたり、小人数の特徴を生かしておやつ作りを取り入れるなど、家庭的な雰囲気をつくることに留意した。

Aプログラムのメンバーと統合して保育を行う方法は、先に帰る子供たちにつられて、残るのを嫌がる場面もあり、実践の中での検討課題であった。

④ 親子プログラム

前年度に引き続き、親と保育者とのコミュニケーションを深めること、親子のスキップを深めること、会員同士の交流を図ることなどを目的として、次のように親子プログラムを行った。

◇5月22日 都立砧公園への親子遠足（59組参加）

◇6月22日 「こどもの国」への親子遠足（42組参加）

◇10月14日 代々木公園における青空プレイ大会（42組参加）

◇11月19日 こどもの城青山円形劇場における保育フェスティバル（150組参加）

◇2月25日 講演会「イキイキ子育て」＝たけながかずこ氏（20組参加）

◇3月1日 葛西臨海水族園への親子遠足（45組参加）

青空プレイ大会は、親子ゲームやミニオリエンテーリング、レクダンスなどを盛り込んで家族ぐるみで参加し、楽しい集いとなった。

保育フェスティバルは3～5歳の活動の中で取り組んだ国際交流の視点を取り入れたプログラム構成とし、世界のまつりを音楽に託して親子で鑑賞したり、参加したり、表現したりして楽しんだ。

(ウ) 幼児グループ

4歳児9人、5歳児9人、計18人でスタートしたが、転居などに伴う転出があり、最終的には15人のグループ編成となった。

保育クラブの3歳児と統合して3～5歳の異年齢混合保育を行った。前年度から行ってきた運動遊び、自然の素材体験、ごっこ遊び、外国人との触れ合いなどの活動を本年度も引き続き発展させながら実践した。

夏には8月31日、9月1日の両日、5歳児の野外宿泊保育を横浜市くろがね青少年活動センターで実施した。5歳児のみの宿泊体験は生活面、行動面、活動面での自信につながり、9月以降の活動に向けて、良いステップとなった。

1. 保育クラブ

(1) 居住地域分布

		会 員 全 体		利 用 者							
都道府県	市 区	人数	%	人数	%						
東 京 都	港 区	(人)		(人)		足 立 区 文 京 区 葛 飾 区 江 戸 川 区 荒 川 区 中 野 区 墨 田 区 練 馬 区 23 区 外	0	0.0	0	0.0	
	渋 谷 区	82	17.0	45	21.6		14	2.9	3	1.4	
	世 田 谷 区	81	16.8	40	19.2		3	0.6	0	0.0	
	目 黒 区	87	18.1	42	20.2		0	0.0	0	0.0	
	新 宿 区	29	6.0	9	4.3		1	0.2	0	0.0	
	大 田 区	26	5.4	12	5.8		8	1.7	2	1.0	
	品 川 区	17	3.5	8	3.8		1	0.2	0	0.0	
	杉 並 区	9	1.9	3	1.4		2	0.4	1	0.5	
	台 東 区	11	2.3	2	1.0	5	1.0	0	0.0		
	千 代 田 区	2	0.4	0	0.0	27	5.6	5	2.4		
	板 橋 区	21	4.4	10	4.8	神 奈 川 県	川 崎 市	8	1.7	3	1.4
	豊 島 区	4	0.8	2	1.0		横 浜 市	17	3.5	9	4.3
	江 東 区	2	0.4	0	0.0		そ の 他 の 市	0	0.0	0	0.0
	中 央 区	4	0.8	2	1.0	静 岡 県 千 葉 県 茨 城 県 埼 玉 県 そ の 他 の 県	0	0.0	0	0.0	
	北 区	2	0.4	1	0.5		7	1.5	4	1.9	
		3	0.6	0	0.0		1	0.2	0	0.0	
							5	1.0	2	1.0	
							7	1.5	3	1.4	
						合 計	481	100.0	208	100.0	

Ⅲ 各部の活動(1)

(2) 性別・年齢分布 (%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合 計
男 児	57 (11.9)	61 (12.7)	60 (12.5)	36 (7.5)	24 (5.0)	0 (0.0)	238 (49.5)
女 児	51 (10.6)	55 (11.4)	57 (11.9)	51 (10.6)	29 (6.0)	0 (0.0)	243 (50.5)
合 計	108 (22.5)	116 (24.1)	117 (24.3)	87 (18.1)	53 (11.0)	0 (0.0)	481 (100.0)

(3) 利用頻度 (%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合 計
一度も利用していない	78 (72.2)	38 (32.8)	54 (46.2)	59 (67.8)	44 (83.0)	0 (0.0)	273 (56.8)
今まで数回利用している	6 (5.6)	13 (11.2)	31 (26.5)	23 (26.4)	5 (9.4)	0 (0.0)	78 (16.2)
月1回以上利用している	20 (18.5)	31 (26.7)	7 (6.0)	4 (4.6)	3 (5.7)	0 (0.0)	65 (13.5)
週1回以上利用している	4 (3.7)	34 (29.3)	25 (21.4)	1 (1.1)	1 (1.9)	0 (0.0)	65 (13.5)
合 計	108 (100.0)	116 (100.0)	117 (100.0)	87 (100.0)	53 (100.0)	0 (0.0)	481 (100.0)

(4) 利用目的 (%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合 計
集団保育	351 (57.7)	1,713 (66.1)	1,263 (57.5)	144 (81.8)	39 (20.5)	0 (0.0)	3,510 (60.9)
緊急時	4 (0.7)	6 (0.2)	9 (0.4)	5 (2.8)	20 (10.5)	0 (0.0)	44 (0.8)
就労・就学	85 (14.0)	417 (16.1)	552 (25.1)	3 (1.7)	115 (60.5)	0 (0.0)	1,172 (20.3)
用事	162 (26.6)	436 (16.8)	341 (15.5)	15 (8.5)	16 (8.4)	0 (0.0)	970 (16.8)
講座・サークル	3 (0.5)	17 (0.7)	29 (1.3)	8 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	57 (1.0)
保育相談	0 (0.0)	4 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (0.1)
その他	3 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.1)
合 計	608 (100.0)	2,593 (100.0)	2,195 (100.0)	176 (100.0)	190 (100.0)	0 (0.0)	5,762 (100.0)

2. 幼児グループ

4歳児7人(年度途中で2人転出9-2)
5歳児8人
計15人

3. 母子教室

第17期	13組
第18期	13組
第19期	13組
計	39組

2) 研修事業

(ア) 保育セミナー

子供への理解を深めるという視点に立ち、コミュニケーションをテーマとして第1回から展開してきたが、本年度は第4回となり、8月23～25日の3日間にわたりこどもの城青山円形劇場及び研修室で『わたしの保育からわたしたちの保育へ』と題し、自分の保育実践をどう見るか、それをどう記録するのか、また園内研修や保育カンファレンスにおいてそれぞれの実践をいかに表現し、それを受け止め合うにはどうしたらいいか、そのための材料として記録を生かす方法は、などについて検討した。

第1日目のプログラムは黒田淑子お茶の水女子大学教授によりワークショップを行った。それぞれが自分に気付き、人に伝える、またそれを受け止め合うためのサイコドラマ（心理劇）を体験的に学習した。

第2日目は佐伯胖東京大学教授による基調提案が「こどもをみること、わかること」と題して行われ、引き続き2つのシンポジウム「保育実践をどうみてどう記録するか」(Ⅰ)、「保育者の成長と保育カンファレンス」(Ⅱ)が行われた。シンポジウムⅠでは森上史朗日本女子大学教授の司会により、吉村真理子氏（松山東雲短期大学教授）、今井和子氏（川崎市みなみ生田保育園元保母）、斉藤こずえ氏（国学院大学助教授）をシンポジストとして、またシンポジウムⅡでは吉村真理子氏の司会により、後藤節美氏（別府市教育委員会学校教育課指導主事）、菅田栄子氏（松山東雲幼稚園教諭）、樋口恵氏（新潟県十日町市立下条保育所保母）をシンポジストとして実践報告を交えながらの活発な論議が交わされた。18時からの懇親会では講師の各氏を交えて参加者が自由に懇談する時間を用意し、現場の事情についての情報交換が活発に行われた。

第3日目は3つの分科会に分かれて、「保育計画について考えよう」「実践の中での保育者の役割とは」「保育実践の記録のために——ビデオカメラの操作と撮り方——」のテーマのもとに実践の中での問題点、課題について話し合いがなされた。

全国各地の保育所保母、幼稚園教諭、各自治体所管課、養成校など関係機関から、ワークショップに44人、セミナーに110人の参加が得られた。

(イ) 育児相談のケースカンファレンス

前年度から引き続き保育所などの電話相談担当者がそれぞれの保育相談事例を持ち寄り、スーパーバイザーに山崎美貴子氏（明治学院大学教授）を、コメンテーターに山田美和子氏（全国社会福祉協議会）を迎えてカンファレンスを行った。前年度からの継続者に新規参加者を加えてビデオを使ったり、ロールプレイの技法を取り入れるなど、相談の在り方について、事例に即して具体的に掘り下げた検討が深められ、またそれぞれの問題提起により、育児をめぐる今日のさまざまな状況についての情報交換も行われた。

3) 研究事業

(ア) 母子分離に際しての母子関係について

低年齢児（1歳半から2歳）で母子分離を行う場合、それまでの母子関係の質が母子分離時の子供の反応に関係していると考えられる。母子分離の様子、母子関係について観察、調査を行いその関連を明らかにすることと、子供を保育に参加させる場合、保育者、母親として分離時にどのような配慮が必要なのかを検討し、保育の分離プログラムの開発など母子関係の指導に役立てることを目標として研究を行った。質問紙、保育日誌に基づく評定、母子相互交渉場面の観察などの方法により行ったが、その分析については次年度に継続して実施中である。

(イ) 母親の情緒傾向が子供の情緒発達に及ぼす影響について

母子教室（1歳半から2歳）の子供たちを観察すると表情に乏しい子や、感情表出が乏しいゆえに他者とのコミュニケーションがとれない、場に適應できないといった子供が見られる。そうした子供の母親を観察すると、感情表出が少ない・緊張が高く表情に乏しいといった傾向がみられる。

母親の感情表出傾向が、子供が感情行動を学習する際の手がかりになっているからではないかと思われ、母親の感情表出傾向と、子供の感情行動との関連を検討することにより、子供の情緒発達について考察することを目的とした研究を行った。質問紙、ビデオ撮影による観察場面の分析・評定による方法により行い次年度に継続中である。

(1) 2 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

	月	火	水	木	金	土	日
9：00	休 み						
10：00							
11：00							
12：00							
13：00							
14：00							
15：00							
16：00							
17：00							
18：00							
備考							

ダウンスケジュール相談(月1回)

神経相談(月1回)

心理相談

総合健康相談

精神相談(月1回)

発達相談

総合健康相談

母と子のバチャバチャタイム

育児・生活相談(健診日)

言語相談

心理相談

総合健康相談

マタニティ・スイミング

言語相談

総合健康相談

ミーティング

ケース・カンファレンス

心理相談

総合健康相談

マタニティ・スイミング

耳鼻科相談(月1回)

喘息相談(月1回)

発達相談

総合健康相談

Ⅲ 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
診療・相談事業 <一般外来> 総合健康相談 <専門外来> 心理相談 育児・生活相談 言語相談 発達相談 精神相談 神経相談 アレルギー・喘息相談 耳鼻科（聴覚・言語）相談 ダウン症相談	通年 } 月1回	10:00～16:00 (週間事業表を参照)	5 F 小児保健部	(円) 健康保険の適応 あるいは相談料 3,500	小児保健部職員および外部講師	原則として予約制

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	スペース	料 金	要 員	備 考
<児童福祉週間> 子育て相談コーナー	4.28・29 5.3・4・5	13:30～ 16:00	小児保健部	(円) 無料 (一般来館者)	二木 武, 巷野 悟郎ほか 小児保健部職員	相談件数15件
<夏休み> 子育て相談コーナー	7.21・22・28・ 29 8.4・5・ 11・12・18・19・ 25・26	13:30～ 16:00	小児保健部	無料 (一般来館者)	二木 武, 巷野 悟郎ほか 小児保健部職員	相談件数40件
こども一日ドック	7.26・27	12:30～ 17:30	小児保健部 健康開発室	5,000 血液検査 等は実費	体育, 小児保健 部職員	対象: 小・中学生 受診=10人
健康教室集中講座	8.27・28・29	14:00～ 17:00	研修室 体育室	6,000	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育, 造形, 小 児保健部員	対象: 太りすぎの 小学生とその親 参加8組
<開館5周年記念> 第5回小児保健セミ ナー 「変わる育児事情」 -子どもの 生活を考える-	11.17	10:30～ 17:30	研修室	4,000 (消費税 込)	和洋女子大教授 坂本元子氏 瀬川小児神経学 クリニック院長 瀬川昌也氏 聖心女子大学名 誉教授 岡 宏子氏 ほか	参加者121人 保母, 看護婦, 保 健婦, 園長など
<冬休み> 子育て相談コーナー	12.22～25	13:30～ 16:00	小児保健部	無料 (一般来館者)	二木 武, 巷野 悟郎ほか 小児保健部職員	相談件数12件
こども一日ドック	1.4・5	12:30～ 17:30	小児保健部 健康開発室	5,000 血液検査 等は実費	体育, 小児保健 部職員	対象: 小・中学生 受診=11人

7. 小児保健

名 称	期 間	時 間	スペース	料 金	要 員	備 考
<春休み> 子育て相談コーナー	3.27～31	13:30～ 16:00	小児保健部	無料 (一般来館者)	二木 武, 巻野 悟郎ほか 小児保健部職員	相談件数12件
第7回こどもの城 マタニティ・ コンサート	4. 7	①13:00 ②17:00	青山円形劇場	(円) 2,100	出演者 小野リサ 野末源一, 市川 英子, 帆 足 由 美, 巻野悟郎 各氏	対象: 妊娠5～9 か月の妊婦とその 夫 将来, 子どもを持 ちたい人 参加人数3回合計 479人
	4. 8	13:30 (各回約2 時間)				
マタニティ・スイミ ング同窓会 (第5回)	11.28	①10:30～ 12:00 ②13:30～ 15:00	研修室	親子1組 2,000 (消費税込)	体育, 小児保健 部職員	対象: マタニティ ・スイミング講座 の卒業生 参加人数2回合計 80組

4) 講座・クラブ等

名 称	対 象	曜 日 間 帯 時 間	場 所	期 間 回 数	人 数		料 金	講 師 等	備 考
					定 員	受講数			
健康スポ ーツ教室 <太りすぎ クラス> 第Ⅶ期	小1～ 6年の 太りすぎ 児童	土曜日 14:00～17:00	小児保 健部 体育室 プール 健康開 発室 研修室	4.14～ 7. 7 (12回)	(人) 25	(人) 24	(円) 20,000	東京女子医大 教授 村田光範氏 和洋女子大教 授 坂本元子氏 同助教授 小林幸子氏 石井莊子氏 同助手 川野辺由美子 氏ほか 体育, 造形, 小 児保健部職員	定員に 空きが あれば 学期ご との入 会可
				9. 8～12. 1 (12回)	25	23	20,000		
				1.12～ 3.16 (10回)	25	23	17,000 検査・診 察料は別 途		
				全34回			57,000		
マタニティ ・スイミ ング	妊娠16 週以降 の妊婦	水泳 火・木曜日 10:00～12:30 レクチャー 月1回(火ま たは木曜日) 13:30～14:30	プール 研修室 ホテル 和室	通年 毎月7回	各月 35	4月34 5月39 6月32 7月33 8月30 9月36 10月33 11月34 12月37 1月34 2月26 3月35	入会金 5,000 月謝 10,000 (臨月に 限りD・ H・Cビ ジター扱 い可)	日本赤十字医 療センター 産科医師, 助 産婦 体育, 小児保 健部職員	
母と子のリ トミック <ダウン症 クラス> 第Ⅶ期	3～5 歳のダ ウン症 児とそ の親	木曜日 14:15～15:15	音楽ス タジオ A	4.12～ 7.12 (12回)	(組) 10	(組) 12	15,000	吉村温子 川口あづさ ほか 音楽, 小児保 健部職員	定員に 空きが あれば 学期ご との入 会可
				9.13～12.20 (12回)	10	12	15,000		
				1.17～ 3.14 (10回)	10	9	12,000		
				全34回			42,000		

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	対 象	曜 日 時 間 帯	場 所	期 間 回 数	人 数		料 金	講 師 等	備 考
					定 員	受講数			
小児肥満のための指導者講習会(第8回)	養護教諭 栄養士 保健婦 保母など	土曜日 10:00～17:00	研修室 体育室	9. 1	(組) 50	(組) 53	(円) 8,000	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育職員	
小児肥満のための指導者講習会(第9回)	養護教諭 栄養士 保健婦 保母など	金曜日 10:00～17:00	研修室 体育室	3. 22	50	56	8,000	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育職員	
「新しい時代の育児」 Ⅰ ー役立つ情報と考え方ー	保健婦 保母 看護婦 助産婦 など	火曜日 18:30～20:30	研修室, 11F会議室	5. 15～ 6. 12 5回	20	31	10,000	東京大学助教授 早川浩氏 日本大学教授 大國真彦氏 日本ベビー用品リース業協会山崎勝義氏 職員巷野悟郎 吉田弘道	
「新しい時代の育児」 Ⅱ ー育児の実践ー	保健婦 保母 看護婦 助産婦 など	火曜日 18:30～20:30	研修室, 11F会議室	10. 9～11. 6 5回	20	28	10,000	三鷹市乳幼児保健相談室 大塚昭二氏 女子栄養大学教授 高橋悦二郎氏 松波小児科医院院長 松波昭夫氏 職員巷野悟郎 井口由子	
「新しい時代の育児」 Ⅲ ー育児の理論ー	保健婦 保母 看護婦 助産婦 など	火曜日 18:30～20:30	研修室, 11F会議室	2. 19～ 3. 19 5回	20	23	10,000	東京慈恵会医科大学教授 前川喜平氏 小児科医師 今村榮一氏 埼玉大学教授 村石昭三氏 巷野悟郎 吉田弘道	

(2) 小児保健部の活動

本年度における小児保健部の活動は、小児保健クリニックにおける診療・相談活動、「こどもの城」の他部門との連携のもとに行った講座活動及び夏休みや開館記念特別期間などに催された特別期間プログラムともに、前年度とほぼ同様に実施された。更に小児保健分野の関係者を対象とした研修・啓もう活動の一環として、新規講座「新しい時代の育児」を開設した。

1) 診療・相談活動

外来部門である小児保健クリニックでの診療・相談活動は、前年度同様に実施され、特に新しい専門相談等の開設はなかった。ここでの診療・相談は、子供の体や心の発育・発達に関して日常生活の中で生じている問題を対象としており、その背景には家庭や生活環境が大きく影響している。そこで、相談においては生育歴やその子供を取り巻く人間関係や社会環境について詳しく問診を行う必要がある。また、都市化や核家族化が進む現代において、孤立しがちである母親の育児不安に対応し、母親の訴えをよくきき、心を安定させることが重要である。したがって、小児保健部では、1人当たりには十分な時間をかけた相談体制をとっており、このことが特徴の1つでもある。更に、1人の子供の問題に医師、保健婦、看護婦、心理相談員、言語療法士、臨床検査技師などのさまざまな専門的立場から関与することも小児保健クリニックの特色である。

診療・相談への来所者の数、居住地域、来所時年齢、主訴・問題（相談内容）については、表に示した。本年度の新規来所者数は388人であり、前年度の466人に対して17%の減少であったが、再来所者を含めての月別診療・相談件数は年間延べ数で2,344件であり、前年の2,269件とほぼ同じであった。

来所者の居住地域は、地元の渋谷区を中心とした隣接区からの来所が最も多く、23区内居住者が全体の7割を占めている。次いで、交通の便が比較的良い神奈川県（川崎市、横浜市）からの来所も多かった。この傾向は、開設以来5年間ほとんど同じである。

来所時の年齢についてみると、マタニティ・スィミング受講者である成人を除くと、前年度同様、0～6歳の幼児が多く、小児の来所者の4分の3を占めた。

相談内容については、全体の件数の中で最も多かったものは、育児・健康相談であり、37%であった。次いで、精神発達や言語発達の遅れに関する相談と肥満についての相談がそれぞれ約1割を占めた。

Ⅲ 各部の活動(1)

小児保健部来所者の概要

(1) 新規来所者数

	実 数 (人)
診療	196
健診・相談	192
マタニティ・スイミング	118
合 計	506

(2) 来所者の居住地域内訳

居 住 地 域	人 数	%
渋谷区	92	18.2
世田谷区	71	14.0
新宿区	15	3.0
港区	29	5.7
目黒区	35	6.9
その他の23区内	127	25.1
都内（市部）	32	6.3
神奈川県	56	11.1
千葉県	19	3.8
埼玉県	20	4.0
その他の都道府県	10	2.0
合 計	506	100

(3) 初回来所時年齢内訳

0.....	79(人)
1.....	39
2.....	50
3.....	53
4.....	27
5.....	26
6.....	21
7.....	17
8.....	23
9.....	12
10.....	14
11.....	7
12~17.....	12
18歳以上.....	126
合 計	506

(4) 新規来所者の主訴・問題内訳（重複あり）

主 訴 ・ 問 題	人 数	%
ぜんそく・アトピー・湿疹	11	2.2
肥満	54	10.7
神経症・習癖・情緒障害等 (遺尿・夜尿・緘黙・恐怖症など)	33	6.5
言語発達遅滞（疑いも含む）	38	7.5
精神・運動発達遅滞（疑いも含む）	18	3.6
自閉症	1	0.2
微細脳障害	2	0.4
育児・健康相談	192	37.9
その他心理面の相談 (遊べない，社会的不適応など)	3	0.6
その他 身体面の相談（斜視，てんかん，脳性まひ，低身長，頭痛等）	23	4.5
ダウン症，その他の先天異常	13	2.6
マタニティ・スイミング受講者	118	23.3
合 計	506	100

(5) 月別診療・相談件数（特別期間の無料相談コーナーの相談者を除く）

診療合計 2052件 相談合計 292件 計 2344件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療	187	131	188	160	146	194	158	172	170	142	193	211
相談	19	60	26	21	31	23	27	18	13	21	20	13
合計	206	191	214	181	177	217	185	190	183	163	213	224

2) 講座

(ア) 健康スポーツ教室（太りすぎクラス）（第Ⅶ期）

前年度同様1年コースとしたが、受講者は、1期24人、2期23人、3期23人であり、延べ参加者38人、1年間通して参加した者は13人であった。

活動は、体育事業部のスタッフにより、体育室やプールを使った運動プログラムを毎週実施するとともに、各学期の始めと終わりに小児保健部のスタッフによる医学・栄養面での個別指導を行うという内容であった。

第Ⅶ期受講期間中に肥満度が減少した者は1期15人、2期13人、3期16人であり、受講者の6、7割に肥満の改善がみられた。なお教室における指導の結果により、食事内容や食べ方などの食生活面における改善は実現しやすいが、日常の生活において体を動かし運動量を増やすことを徹底させることが難しく、今後の指導上の課題であると思われた。

初めての試みであったが、講座の時間以外の活動として、全館行事である「こどもデパート」に輪投げゲームの店を健康スポーツ教室から出店した。受講している子供たち自身により計画を立て、準備を進め、実行したプログラムであった。

また、本年度は、特に本教室の見学・視察者が多くみられた。これは、厚生省が本年度から幼児の肥満予防対策事業を開始したことからも理解できるように、学校や幼稚園、保育所などの小児保健の現場において、小児成人病や肥満への関心が高まり、指導の重要性が認識されてきたためと思われる。「こどもの城」開館時から先駆的に取り組んできたこの健康スポーツ教室であるが、今後更に時代のニーズに対応しながらプログラムの充実を図っていく必要性が感じられた。

(イ) マタニティ・スイミング

この講座は、妊娠中の生活を心身ともにより快適に送ってもらうことを趣旨としている。体育事業部と小児保健部の共同事業とし、更に日本赤十字社医療センター（産科及び分娩室）の協力を得て実施した。

プログラムはこれまでと同様、毎週火曜日・木曜日に月7回実施された。水泳は、原則として、11時から12時で、検診を水泳前後に行い、そのほかに月1回レクチャーの時間を設けた（表参照）。定員は、35人であるが、冬期を除いて毎月10人前後の受講待機者がいた。

Ⅲ 各部の活動(1)

マタニティ・スイミング レクチャーのテーマと講師（敬称略）

月	講 義 テ ー マ	講 師
4月	お産の呼吸法	日赤分娩室 助産婦 加藤 真美
5月	小児科医を囲んで	小児保健部 医師 佐々木 俊
6月	育児用品のあれこれ	〃 保健婦 中澤 恵子
7月	乳首の手当	日赤分娩室 助産婦 市川 英子
8月	産前、産後のダイエット	小児保健部 栄養士 太田百合子
9月	妊婦水泳と早産について	日赤産婦人科 医局長 浦野 晴義
10月	お産の呼吸法	日赤分娩室 助産婦 市川 英子
11月	赤ちゃんと一緒に	小児保健部 部長 巷野 悟郎
12月	私達の出産と子育て	〃 梅田・上別府
1月	乳首の手当	日赤分娩室 助産婦 市川 英子
2月	上手な食生活と体重コントロール	小児保健部 栄養士 太田百合子
3月	妊娠生活のあれこれ	日赤産婦人科 医局長 浦野 晴義

マタニティ・スイミング 月別新入会生・在籍者数・出席率

月	新入会生	在籍者総数	出席率
4月	13(人)	34(人)	71%
5月	9	39	74
6月	3	32	68
7月	14	33	69
8月	10	30	65
9月	17	36	58
10月	9	33	54
11月	12	34	63
12月	11	37	71
1月	7	34	54
2月	7	26	64
3月	15	35	70

これまでの活動報告において既に述べたことであるが、マタニティ・スイミングを行うことにより、身体的な面においては、治療を受けるほどではない各種の軽い自覚症状（腰背痛、睡眠不良、疲労感、食欲不振、便秘など）の軽減に効果が考えられるようである。

特に、妊娠後期に多く訴えがみられる腰背痛は、水泳をすることにより軽減する者が多く認められた。一方、精神的な面では、教室が友人づくりやイライラの解消になるなど精神衛生面で役に立つ、毎回行う健康チェックが妊娠中の自己の健康管理に役立つなどの利点が考えられる。

る。

本教室はあくまでも健康な妊婦を対象に、より健康な妊娠生活を援助することを目的としているが、一部の受講者において、体調が悪いにもかかわらず、水泳を継続するものも見受けられた。このため、今後も妊娠経過のチェックを怠らないよう、また、主治医との連携も十分に行いながらより安全なプログラムを実施していきたいと考えている。

出産後も同じ年齢の子供を持った者同士で、子育ての仲間づくりを進めてもらうことを目的としている同窓会は、平成2年11月28日に第5回目を開催した。全部で80組の卒業生母子が集まり、にぎやかな雰囲気の中でお互いに子供の成長を喜び合い、育児についての情報交換がなされた。更に、本教室の卒業生は、小児保健クリニックの乳幼児健診の受診や、体育事業部での「すくすくランド」や「母と子のパチャパチャスイム」の受講、保育研究開発部

の活動への参加など、「こどもの城」とのつながりを通して仲間づくりを実現している場合も多い。

(ウ) 母と子のリトミック＜ダウン症クラス＞（第Ⅶ期）

3～5歳のダウン症児の親子10組を対象とし、音楽や遊びを通じて母子のかかわり方や子供の発達の見方を考えることを目的としたクラスである。音楽事業部の協力のもとに、母子一緒にリトミック活動を週1回1時間、4階の音楽スタジオで実施した。

前年度同様、1年コースで実施したが、1期12組、2期12組、3期9組の親子が受講した。通年で参加したものは9組であった。ここでの活動は、障害児のための教育・訓練というよりも、遊びを主体とした楽しい内容であり、母親や友達、スタッフとのかかわり合いの中で、自分の気持ちを表現できること、さまざまな要素のプログラムの中から最も魅力あるものを見つけてもらうことをねらいとしている。更に、何よりも重視している点は、母親自身がリラックスできることであり、このことが実現することにより、子どもの情緒が安定し、さまざまな活動に積極的に参加できるようになると思われる。

プログラムの内容は、リズムに合わせて体を動かす、母子のスキンシップ、造形活動、リラックス、手遊び・指遊び、リトミック体操などさまざまな要素の活動を取り入れている。これらの活動を通じて、音楽を媒体とした必ずしも言語によらないコミュニケーションをもつことができ、それが子供の言語能力の発達を促すことにつながっていくことが考えられる。今後も音楽の利点を生かし、参加する母子の個性や状態に合わせたプログラムを提供していきたいと考える。

(エ) 夏休み健康教室集中講座（太りすぎクラス）（8月27～29日）

これまでの、「健康スポーツ教室」や肥満外来のデータを分析した結果、肥満を主訴として来所した者の9割は、就学前の幼児期に太り始めていることが分かり、幼児期から肥満の改善や予防を指導する必要性が明らかになってきた。そこで、本年度は幼児を対象としてこの集中講座を企画した。小児肥満の原因や、肥満と健康との関係を理解させ、肥満改善の方法を身につけさせることを目的に、内容としては、母親には、医学・栄養・運動面からの講義と個別の栄養指導を行い、並行して児童には、体育室において運動プログラムを実施した。

受講したのは4～6歳の親子8組であり、肥満度は28～103%であった。このうち4例については、秋以降も継続して外来指導を行った。

(オ) 小児肥満のための指導者講習会（第8回9月1日、第9回3月22日）

主として学校保健関係者など、子供の肥満の予防と改善について指導を行う立場の人を対象とした講習会である。「こどもの城」オープン以来継続している「健康スポーツ教室」の経験を踏まえ、更に学校などでの現場指導に役立つよう、実技指導を取り入れたり、質問時間を長く設けるなど、より具体的、実践的な内容となるよう配慮をした。参加者は約半数が栄養士、3割余りが保健婦、次いで養護教諭であった。例年、学校保健関係者が多いが、保健婦などの保健所関係者も多かったことが、本年度の特徴であった。2回とも全国各地から定員を超える申し込みがあり、保育や学校現場における肥満への取り組みの重要性を改めて感

じさせられた。

(カ) 講座「新しい時代の育児」

本講座は、本年度新規に開設された。変化しつつある社会環境、情報のはんらん、そして科学の進歩によって変容してきている育児について、もう一度情報を整理し、育児の原点や理論、その実践方法を再考することにより、これからの子育てを考えることを趣旨とした講座である。対象を保健婦、保母等の小児保健関係者に絞ったが、3期とも定員を超える受講者数であり、好評であったと思われる。基礎知識、実践方法、理論と各期ごとに特色をもたせ、1年間通して受講できるような内容となるよう配慮したため、通年の受講者も7人あった。

3) 特別企画（催し）

(ア) 子育て相談コーナー（児童福祉週間、夏休み、冬休み、春休み）

館内での小児保健部PRを目的として、一般来館者を対象に無料の相談を実施した。相談件数は、ゴールデンウィーク15、夏休み40、冬休み12、春休み12であった。内容はアトピーや湿疹などの皮膚に関してや、体重の増加不良などの身体面の問題に関する相談が最も多く(33件)、次いで、夜泣き、指しゃぶり、トイレット・トレーニングなどの育児・生活面での問題が多かった(30件)。これは、前年度とほぼ同じ傾向であった。

(イ) こども一日ドック（夏休み、冬休み）

学校の休みを機会に、心身両面からの総合健診を行い、生活の見直しを図ることを目的に、体育事業部との協力事業として小・中学生を対象に実施した。内容は、医師による診察や各種の検査（呼吸機能、聴力、身体計測、尿検査、血圧測定）による医学的所見、健康開発室で行った体力テストの結果、更に生活習慣調査、食生活調査、心理検査などの分析結果を総合的に考え合わせた所見に基づき保健、生活指導を行うものである。希望者には、血液検査も追加して行った。夏休み10人、冬休み11人の受診であり、ほとんどは特に異常や問題はなかったが、小児保健クリニックにおいて再診を勧めたものが4人、精密検査のために他の医療機関を紹介したものが3人あった。

(ウ) 第5回「こどもの城」小児保健セミナー（11月17日）

本セミナーは、「こどもの城」の開館記念事業の一環として、毎年開催しているものである。開館5周年を迎えた今年は、11月17日にこどもの城9階研修室において、「変わる育児事情—子どもの生活を考える—」というテーマのもとに行われた。小児保健部では毎年「変わる育児事情」と題して、今日的な育児に関する話題をこのセミナーにおいて取り上げているが、本年度は子どもの食生活、睡眠、早期教育の3題を選び、文字どおり、「子どもの生活を考える」内容とした。3人の講師の先生方の講演と、参加者からの質疑応答で、午後1時30分から5時30分までのプログラムであった。

セミナーは、まず、和洋女子大学生生活学科教授の坂本元子先生による「子どもの食生活」と題する講演から始められた。最近の食生活の変化が、子供の健康状態に与える影響につい

て、先生が毎年実施している5歳児の健康調査における現状を踏まえた内容のお話しをいただいた。坂本先生には、小児保健部で実施している肥満児対策プログラム全般にわたってご指導をいただいているが、本講演でも、小児成人病と関連が深いとされる肥満児への食事指導の在り方について、具体的な視点からの話があった。

次に、瀬川神経学クリニック院長の瀬川昌也先生から「睡眠をめぐる」と題する話があった。瀬川先生は、小児の神経学の中でも、睡眠のメカニズムについて長年研究されており、自閉症と睡眠障害の研究では世界的に著名である。今回は、睡眠に関する新しい知見を紹介していただきながら、神経系や睡眠・覚醒リズムの発達と、夜泣きや夜間の行動異常などの実際の育児上の問題とを関連づけ、その対処方法についても含んだ内容であった。神経学や脳の生理学についての内容は、難解になりがちなので、巷野悟郎小児保健部長が聞き手となって、対談形式で話題を確認しながら進行し、分かりやすい内容となるよう配慮した。

最後に、「早期教育」というテーマで、聖心女子大学名誉教授の岡宏子先生に講演をいただいた。昨今では、どちらかという育児産業が先行する形で、早期教育という名のもとに、子供の生活にさまざまなものがどんどん入り込んできており、育児の当事者が混乱を来す場合が多くみられている。そのような現状を踏まえて、現在行われている大部分の早期教育は、「教える」ことの低年齢化現象であり、偏った教育であるにすぎないことを先生は指摘された。そして、ほんとうの意味の早期教育とは、目の効果をねらったものではなく、人がその生涯の中でどのように発達を遂げていくのかを把握した上でなされる必要があり、正しい早期教育を受けることにより人は人としての特性を作り出していくものであると述べられた。

各講演の終わりに、質疑応答が行われたが、日常困っている点について、数多くの質問が会場の参加者から寄せられた。今後も「こどもの城」の情報提供・研修活動の一環として、育児・保健指導の現場において役立つ内容のセミナーやシンポジウムを開催していきたい。

(エ) こどもの城マタニティ・コンサート(第7回)(4月7・8日)

妊婦自身が楽しみ、リラックスできることを目的に、対象は妊婦とその夫及び将来子供を持ちたい人とし、4月に青山円形劇場で行った。内容は、ブラジル・サンパウロ生まれの小野リサさんによるボサ・ノバのコンサートであった。小野さんの歌とギターに、ベース、フルート、パーカッションの伴奏で、自然の風や生き物などをテーマにした、ソフトでリズムカルな曲目を主体としたコンサートであった。これまでと同様に、音楽演奏の合間に、産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い、妊婦向けの特色ある内容とした。また、妊婦にとって安全で心地よいコンサートとなるよう、会場の椅子や空調、照明などの環境面にも十分配慮をした。

4) 研究活動

- (ア) 小児肥満に関する研究(小児肥満の要因についての一考察、小児肥満の合併症・特に肥満度と肝機能障害及び高脂血症との関連について)

昭和60年から実施している肥満児のための健康教室と外来指導において蓄積したデータをまとめた結果をもとに、今後の指導の在り方を検討した（第37回日本小児保健学会において報告）。

(イ) プレイセラピーによる発達障害児の援助ー遊びの遊具別発達段階評価表の検討（健常児及びダウン症の観察をととして）ー

日常の診療・相談の中での研究として、臨床心理相談におけるプレイセラピーで使用している遊具により発達段階を評価することを目的とした研究を行った（第37回日本小児保健学会において報告）。

(ロ) 福祉機器の安全性と標準化に関する研究

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所等と共同で、発達促進を目的とした遊具の開発を行い、その臨床評価を行った（厚生省心身障害研究「福祉機器の開発及び福祉関係情報処理に関する研究（主任研究者穴山徳夫）」の中での分担研究）。

(ハ) 地域母子保健システムと母子福祉の連携に関する研究

地域における育児に関する社会資源である保育所と保育園医、保健所等の連携の実態についての全国調査を実施した。（厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究（主任研究者平山宗宏）」の中での分担研究）。

(ニ) 障害児（ダウン症児）の環境温に対する皮膚温の変化に関する研究

環境温度の変化に対する皮膚温の変動を計測することにより、ダウン症児の体温調節機能の発達の検討を行った（「広げよう愛の輪運動基金」からの研究助成による）。

(ホ) 一般児童における「動物家族画」の研究

子供に自分の家族を動物の絵として描かせることにより、その家族関係を分析するテストの開発とその評価を行った（安田生命社会事業団からの助成研究による）。

「こどもの城」は、各種の機能を備えた総合施設であり、各部門の連絡、協調が極めて重要である。

企画部は、各部にわたる企画や活動の調整に当たり、各部協力事業の立案と実施の推進に中心的な役割を果たしている。

本年度に実施した各部協力事業とグループ活動の状況は、次のとおりである。

各部協力事業

1) 児童福祉週間（4月29日～5月6日）

本年度の児童福祉週間の諸企画は厚生省と緊密な連絡をとり、子供の文化と遊びの振興を通して、子供の健全育成を推進する目的で、「こどもの城あそびフェスティバル」を8日間にわたって実施した。

この期間、子供たちへの呼びかけのためのキャッチフレーズ「あつまれ、おもしろ体験ランド」として、全館にわたり、多彩な行事を展開した。

この間に各部協力事業として実施したプログラムの内容は、以下に述べるとおりである。

イ ベ ン ト 名	場 所	期 間	時 間
キャッスルクエスト'90	体育室	4.29～5.6	11:00～17:00
	音楽スタジオA・B	〃	
	音楽ロビー	〃	
	屋上ふしぎが丘	〃	
やってみよう！ つくってみよう！ －手作りあそび－	フリーホール	〃	10:00～18:00
おもしろピロティ劇場	ピロティ	4.29・30 5.3～6	11:00～12:30

① 「キャッスル・クエスト'90」

1. 「キャッスル・クエスト'90」の企画に当たって

子供たちはだれでも秘密の基地づくり、仲間だけに分かる合い言葉、更には仮想の敵から身を隠すスリルなどを連鎖して遊ぶ「ヒーローごっこ」が好きである。この子供の好きな遊びに物語性を導入して、一人ひとりがその物語によりイメージをつくり、仲間と相互に役割を分担し、遊びに自発的に入っていければ、それは真の遊びの体験になるとの想定からこれを企画した。

2. 物語と子供たちの動機づけ

「今、地球よりはるか彼方の宇宙の中に悪の大王が復活し、地球征服をねらっている。そして大王は、その拠点を『こどもの城』に定めた。悪の大王は憎しみや悲しみの権化。それに対抗できるのは、うれしさや楽しさを感じる素直な心を持った子供たちだけである。

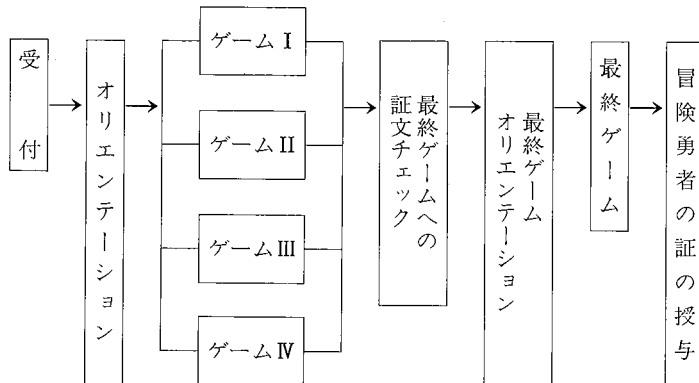
大王は、地球の邪悪な物を吸収してどんどん大きくなっている。そうして完全復活を遂げ

た後、この世を暗黒の闇（やみ）に覆い尽くしてしまう。

さあ、桃太郎14世とともに勇者となって大王を倒し、『こどもの城』と地球を救ってくれ。
頼むぞ、若き冒険者たち!!」

物語の設定とゲームの説明をして各自スタートする。

3. ゲームの展開



4. ゲームの内容

<ゲームⅠ> プレイホール

3つの秘密の言葉を見つけ出し、ほこらの中にいる仙人に伝える。言葉が正しいと、仙人から「知恵の紋章」のスタンプが与えられる。

<ゲームⅡ> 体育室

ここは体力の修行の場。10種目の修行を積み、遊びのパワーを高めると「力の紋章」が与えられる。

(修行の種類)

腕歩き・後ろ向き幅跳び・人間時計・平均台歩き・鉄棒ぶら下がり・ろくぼく大の字・片足ケンケン・シャトルラン・飛び越しくぐり

<ゲームⅢ> 劇場第2ロビー入り口

「運だめしの広場」はまず、場所を探さなければならない。広場は悪者との勝負の場になっていて、自分の運命を賭けて勝負をする。勝負に勝つと「幸運の紋章」のスタンプが与えられる。

<ゲームⅣ> 屋上ふしぎが丘

赤鬼・青鬼のさまざまなゲームに挑戦して勇気を試す場である。鬼とのゲームに勝つと「勇気の紋章」のスタンプが与えられる。

(ゲームの種類)

- ・青オニのひねくれ言葉（鬼が言葉を逆に言う）
- ・青オニのばらまかれた物語（指定された物語に関係ある絵を選び出す）
- ・赤オニの追いかけんぱ（鬼に追いつかれないようにけんぱで往復する）
- ・赤い子オニの隠れ家探し（子鬼の隠れている石を当てる）

＜最終ゲーム＞ 音楽ロビー・スタジオB

2か所以上のゲームに参加したかを確認し、参加したゲームの数によって、金・銀・木のいずれかのスティックを渡す。子供たちは数名のグループに分かれて音楽ロビーで太鼓の練習をした後、最後の決戦の場スタジオBへと移る。まず、練習した太鼓のリズムで「悪の大王」の潜む場所に進入し、対決はジャンケンで行う。

最後の戦いに勝ち「冒険勇者の証」のカードをもらってゲーム終了となる。

5. 参加状況

4月29日～5月6日は来館者が多く、毎日1,000人を超えた。特に5月3日～5日は参加者が1,200人を超え、時間を延長して実施した。

② 「やってみよう！つくってみよう！」＜手作りあそびコーナー＞

「こどもの日」は端午の節句として、子供たちの健やかな成長を祝うお祭りであった。この「こどもの日」からイメージされるものは、まず「鯉のぼり」「かぶと」「風車」であると考え、造形（手作り）コーナーではこの3つから以下の題材を設定した。

1. プログラム内容

- (1) 子供と親でつくるプログラム A：いろいろな風車 B：まわるこいのぼり
C：かぶとを折ろう

- (2) 子供だけでつくるプログラム A：いろいろなこいのぼりをつくろう（金属・木・紙などを利用）

B：こいのぼり缶バッジをつくろう C：風車かぶとをつくろう

これらのプログラムを子供たちは展示を見、作り方の解説を読み、受付の指導員の話聞いて自分で選び、材料をもらって、それぞれのコーナーで製作に取り組んだ。

③ 「おもしろピロティ劇場」

「こどもの城あそびフェスティバル」では、開館以来初めてのイベントとして、「こどもの城」入り口のピロティを利用して、子供の参加劇を中心に祝日と日曜日に6回の公演を下記のとおり実施した。

日 時	天気	劇 団 名	演 目	参加人数
4.29（祝）	曇り	たまっこ座	こっからまつり	300人
4.30（休）	晴れ	ロバの音楽座	愉快的コンサート	〃
5. 3（祝）	曇り	劇団青芸	3人で遊ぼう	〃
5. 4（休）	雨	〃	〃	350人 〃
5. 5（祝）	〃	ロバの音楽座	愉快的コンサート	300人
5. 6（日）	晴れ	劇団ひまわり	とんとむかし	250人

注 参加人数はカウンティングマシンで計算したものを計上した。

2) こどもデパート（6月10日）

「こどもの城」の講座・クラブに参加している子供たちが、1年に1度、互いに協力しながら模擬社会体験をし、相互理解を深める目的で始められた「こどもデパート」は本年度で5回目を迎えた。

子供たちの自主的な運営を尊重しながら父母、ボランティア、職員が協力しながら、しかも一人ひとりが役割を担って進められる。売店やゲームのほか、銀行、新聞社などが設けられ、450人を超える参加があった。

午前10時、音楽スタジオBに子供たちが集まり、開店式が開かれた。こどもデパートの社長であるこどもの城の小島理事長のあいさつ、各店長による店の紹介が行われた。

参加した講座・クラブは、次のとおりである。

体育事業部＝新体操

プレイ事業部＝パソコンクラブ

音楽事業部＝合唱団、合唱講座、パーカッション、リズムムービング、リトミック

保育研究開発部＝幼児グループ

小児保健部＝健康スポーツ教室

研修教養部＝あそびガヤガヤ研究所

また、このデパートの運営には、ボランティアの協力が大きな力となった。

なお、本年度の収益金の一部は、前年度に引き続いて、手足の不自由な子供たちのために、社会福祉法人日本肢体不自由児協会に寄付した。

3) 夏休み特別期間（7月21日～9月2日）

夏休みは期間も長く、子供たちも思い切り遊び、飛躍的に成長するときである。このため「こどもの城」では、来館者の状況を推測し、そこに焦点を当てたプログラム展開を行うこととした。

このため、各部が特色を生かした事業を基本としながらも、期間中の来館者層を考慮し企画部と各事業部が協力する事業を配列した。

この期間に他部と協力し実施したものは下記のとおりである。

(ア) 母と子のふれあい広場（7月21日・22日）

元NHKの体操のお兄さん・瀬戸口清文さんを招き、お母さんと幼児を対象にうた、ゲーム、リズムあそびなどの構成で遊びのプログラムを実施した。

(イ) エンジョイレク広場・あつまれ！おはなし大集合（7月24日～31日）

ボランティアの協力で人形劇、パネルシアター、絵本の読み聞かせ、ゲームなどを行い、子供たちに皆でやる楽しさ、参加・体験の楽しさをプレゼントした。

(ウ) おはなし広場（8月1日～8日）

本年で3回目を迎えた。松戸市の「おはなしキャラバン」の協力による人形劇、絵本の読

み聞かせ、人形づくり、映画などのプログラム。指導者のチームワークもよく内容の豊かな行事となった。

(エ) ウォーターアドベンチャー (8月9日～19日)

お盆を中心に全国から多くの来館者があり、しかも動きの盛んなギャング・エイジの子供が多い時期のプログラムとして、屋上ふしぎが丘で青年ボランティアが中心になり、水鉄砲を用いた大型のとりでゲームを展開した。最近、このような集団でのごっこ遊びが見られなくなっているが、子供たちは目の色を変えて参加し、一生懸命に取り組んでいた。

「こどもの城」のような室内型の施設でのこのような屋外型のごっこ遊びは、ユニークな企画といえるであろう。

(オ) ミステリーハウス (8月25日～31日)

「子供がつくる子供のためのお化けやしき」を標語に第5期「あそびガヤガヤ研究所」の子供たちが研究成果として取り組んだ。

6月から企画に入り、7月・夏休みになると、自由時間を利用して大道具や小道具を皆で協力して作り、これをフリーホールにセットして一般公開した。

ミステリーハウスの構成は、①病院手術室、お化けの医者が不気味な表情で立ち上がる。②夜泣きそば屋、屋台のなべの中から「助けて」と声とともに人の手が伸びてくる。③人玉の飛び交う墓。④落ち武者の霊が行き場を失って生暖かい風とともに迫り、足元でも何かが触れるなど、作り物と分かっていても気味悪い思いに誘われる。

ミステリーハウスではガヤ研の子供が受付、患者、ドクター、ナース、なべの中の手、伸びる首、ラーメン、火の玉、お地蔵さんなどを交代しながら担当した。そのチームワークのよさが、それぞれの場面を盛り上げ、「こどもの城」の名物行事の1つとなってきた。

一方、迫真の演技のため、残酷な印象だと指摘もあり、構成の一部を手直しするほどであった。幼児も多い「こどもの城」では気を付けなければならないと考えられる。

8月24日～26日に研究員は合宿して全力で担当し、その後は出席可能な研究員とボランティアにより運営に当たった。1日平均1,000人以上の入場者があった。

4) 開館記念・特別期間

(ア) 世界一周ジャンケン巡り (11月1日～4日)

開館5周年記念のプログラムとしてボランティアが屋上ふしぎが丘を使用したジャンケン遊びを実施した。

だれにもできるジャンケンをアレンジしたいろいろな民族衣装を着た人や、金色のいすに座って王冠をつけたジャンケン王との勝負など、バラエティー豊かなゲーム展開を行った。

(イ) ボランティア活動の写真展 (10月3日～20日)

昭和59年から始めた「こどもの城」のボランティアの活動を振り返る写真展も、実施した。約100点の写真を展示、関心を集めた。

5) 冬休み休特別期間(12月20日～1月15日)

(ア) 正月のあそび大集合

これは3部作で、「見る」、「作る」、「あそぶ」の構成である。「見る」は、「日本凧の博物館」の協力による催しで、約120点の凧の展示をギャラリーで行った。

世界と日本に伝わる面白い凧ということで、畳10枚分の大きな凧から、小指の上にも乗る小さい凧、風を受けて鳴る凧、空中での素早い動きをする凧など趣味の領域から地域文化に至るまで幅広い作品の展示を行った(協力「凧の博物館」)。「作る」は、フリーホールにおいて、凧の会の指導で凧作りをした。

「あそぶ」は作った凧を屋上で揚げて、遊ぼうというもので、予想外によく揚がり、50mの糸が足りなくなるほどであった。

(イ) 紙相撲初場所(1月4日～7日)

本物の初場所よりひと足早く、紙相撲初場所を催した。

今年も「村杉紙相撲道場」の協力を得て、子供たちが型紙を切り、マワシの色を塗って紙の力士を作り、東西に分かれて熱戦を繰り広げた。

6) 春休み特別期間

ア 入学・進学おめでとう こどもフェスティバル(3月26日～31日)

春休みは入学、進学と子供たちは胸をときめかす時期である。この時期にふさわしい催しを、「こどもフェスティバル」と題して、歌、手品、ゲームなどで楽しむ集いを小学館レクリエーションリーダースクラブの指導で実施した。

イ 春一番 記録に挑戦ーチャレンジゲーム大会(3月26日～4月7日)

おもしろ記録に挑戦する以下のゲームを屋上ふしぎが丘で実施した

①それいけ!つくしんボーリング

10本の瓶で作った土筆(つくし)をひもでつるしたボールで倒していくゲーム。

②ジグザグタッチ

1から10までの数を書き込んだカードを10m×7m四方の広さに適当に並べ、1～10の順序でタッチして帰るゲームで、時間を競うもの

③ゲーム119

幼児・小学校低学年・高学年とで長さの異なるホースを用意し、筒に巻き取るゲーム。119とはホースの一端を、炎の絵をはった壁につけているところから緊急時の動作の早さをイメージしたもの。

④10回ジャンケン

ジャンケン王と10回ジャンケンをし、何回勝つかを競うゲーム。

⑤空までカンカン

箱に入った15cm四方の中に倒さないでできるだけ多く積み上げるゲーム。

7) グループ活動

優れた設備・備品とリーダーシップを備えた「こどもの城」の事業の中で、特色ある活動を展開しているのがグループ活動である。

グループ活動は、保育所、幼稚園、小学校などが園（校）外活動として園や学校ではできない活動を「こどもの城」の職員の指導のもとで行うプログラムであり、一般来館活動、講座・クラブ活動と並ぶ「こどもの城」の重要な事業の1つである。

一方、養護学校・特殊学級の希望もあるが、学級編成が6～8人程度の学校が多く、グループでの活動を前提としているこの事業の運営上問題が残されている。

また、東京都教育委員会で標準校とされる小学校は、各学年3クラスと考えられているが、現状として45人クラス・3学級を受け入れることは困難である。各部が協力し、この程度の人件を受け入れることができるようにすることは、今後の検討課題である。

一方、職員の指導性の向上を図るとともに、新しいプログラム開発を行い、利用者の要望にこたえ得る体制を確立する必要がある。

平成2年度 グループ活動状況

幼児

プログラム	回数	利用者	担当部
	(回)	(人)	
自由遊び	66	1,531	プレイ
たのしくサンバ	21	423	音楽
まつりばやし	9	144	"
影を写そう	6	121	造形
粘土でジャングル旅行	6	83	"
ファンタジックドラマ	5	115	プレイ
たのしい体育・運動	5	121	体育
すてきな新体操	4	112	"
木をつくろう	3	68	造形
スカーフであそぼう	3	58	音楽
どうぶつえんにゆこう	3	62	"
ガムランであそぼう	2	40	"
パタパタアニメ	2	26	A V
忍者ってほんとうにいたの	2	31	音楽
アニメーションてふしぎね	1	27	A V
フィルムに絵を書こう	1	29	"
土 粘土をこねる	1	14	造形
グループレクリエーション	1	35	プレイ
アニメの絵本をみてみよう	1	53	A V

就学児

プログラム	回数	利用者	担当部
	(回)	(人)	
自由遊び	20	137	プレイ
自由遊び ライブラリー	9	345	A V
世界の太鼓	9	72	音楽
楽しくサンバ	9	58	"
見学	7	199	企画
チャレンジビデオ	6	129	A V
レクリエーションゲーム	6	109	体育
パソコン体験教室	5	130	プレイ
ガムランを体験しよう	4	37	音楽
フロアー運動	4	28	体育
アニメーションてふしぎね	3	95	A V
グループレクリエーション	3	93	プレイ
ファンタジックドラマ	3	41	"
粘土でジャングル旅行	3	16	造形
影を写そう	1	11	"
和楽器に触れてみよう	1	21	音楽
すてきな新体操	1	26	体育
やってみようアンクルン	1	16	音楽

(1) 演目一覧表

1) 青山劇場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主公演>						
<山本安英の会>公演「子午線の祀り」	4. 3～8	6	A6,000・B5,000	7,200	6,360	88.3
第5回青山バレエフェスティバル	8. 2～5	4	A6,000・B5,000	4,312	2,953	68.5
バレエ・プリティッシュ・コロンビア 初来日公演	9. 27～30	4	A8,000・B7,000	4,400	1,994	45.3
こどもの城開館5周年記念日本のミュージカル「龍の子太郎」	10. 29～ 11. 15	20	A6,000・B5,000	21,560	13,652	63.3
こどもの城開館5周年記念シンポジウム 「今、こどもたちは これからの子育てを を考える」	11. 5	1	無料	1,078	674	62.5
(小 計)	5	35				
<貸し館>						
明治生命ミュージカル「アニー」	4. 9～ 5. 6	34	S7,000・A5,000	37,740	32,778	86.9
青山劇場/東宝特別公演 「パール・ギェント」	5. 7～ 6. 28	73	S9,000・A7,000 B5,000	78,694	46,584	59.2
オペラクリエーション・イン・青山 第5回公演 ファミリーオペラS プロコフィエフ 「3つのオレンジへの恋」	6. 29～ 7. 1	2	S8,000・A7,000 B6,000	2,156	1,550	71.9
少年隊ミュージカル PLAYZONE '90 「MASK-仮面-」	7. 2～29	31	7,500	34,720	33,850	97.5
ハローマックミュージカル 「ぼくのシンデレラ」	8. 6～31	35	S6,500・A5,000	40,915	22,426	54.8
ブロードウェイミュージカル 「ピーターパン」	9. 1～16	18	S7,000・A5,000	19,404	14,776	76.1
第4回創価学生祭 「THE CAPE OF DREAM」	9. 24～26	3	無料	3,234	2,593	80.2
青山劇場10月東宝ミュージカル特別公演 「20世紀号に乗って」	10. 1～28	39	S10,000・A7,000 B4,000	43,290	35,517	82.0
服部克久 音楽畑コンサート・パートVI	11. 19～21	2	6,000	2,306	1,842	79.9
牧阿佐美バレエ団ソビエトツアー凱旋公 演第4弾「ホフマン物語」	11. 22～25	3	S8,000・A7,000	3,234	1,840	56.9
NAKURA JAZZ DANCE STUDIO 「CAN'T STOP DANCIN' PART 9」	11. 19～ 12. 2	5	A5,500・B4,500	5,550	5,164	93.0
NEC SPECIAL SHINJI TANIMURA RECITAL 90-91 「CORAZON V PRICE OF LOVE」	12. 3～25	19	S6,000・A5,000 S7,500	21,190	19,104	90.2
劇団四季三井不動産ミュージカル 「ミュージカル李香蘭」	12. 26～ 1. 27	29	SA9,000・SB7,500 A5,000・B3,000 (ウィークデーマチネ 各1,000円引)	30,508	27,408	89.8
CALBEE MUSICAL「Gankutsu OH」	1. 28～ 2. 24	24	A8,000・B5,000 C3,000	25,882	23,448	90.6
全日本舞踊連合創立15周年記念公演 「竹取物語」	2. 25～28	4	A10,000・B8,000 C5,000	4,800	3,565	74.3
劇団樹座「第18回公演」「クレオパトラ」	3. 1～3	3	S4,000・A3,000 B2,500	3,600	2,905	80.7

9 劇 場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
Kaho SHIMADA '91 CONCERT All you need is music	3. 8～10	4	S 4,500・A 3,000	4,640	3,612	77.8
伊藤園ブロードウェイミュージカル 「ピーターパン」	3.11～31	32	S 7,000・A 5,000	34,496	23,891	69.3
(小計)	18	360				
青山劇場計	23	375				

2) 青山円形劇場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主公演>						
春休みファミリー京劇「孫悟空の大冒険」中国寧夏京劇団来日公演	4. 2～5	5	2,500	1,510	1,228	81.3
第7回 こどもの城 マタニティ・コンサート	4. 6～8	3	2,100	672	479	71.3
青山円形劇場オブジェクトシアター 「エレクトラ」	5. 1・2	2	2,000	696	569	81.8
こどもの城人形劇フェア	5. 3	3	800	780	606	77.7
'90 FAMILIAR CHILDREN'S FESTIVAL IN TOKYO 「BIRTHDAY PICNIC」	5. 4～6	6	1,000	1,692	1,428	84.4
カール・ストーンによる 折田克子ダンススペシャル [ピント・ファー空間]	6. 4～6	3	3,000	825	432	52.4
NEO CLASSIC THEATRE BY yexoB MODE 「ぼくの伯父さん Mon Oncle (モノンクル)」 -A. チューホフ「ワーニヤ伯父さん」より-	6.11～17	7	3,000	2,208	1,851	83.8
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE 坂田明「てんらん会のエッ！」	7. 2	1	3,500	280	217	77.5
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE 上野耕路「私は一体、何をアピールした いのか、さっぱり判らない」	7. 3	1	3,000	282	180	63.8
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE 橋本一子「ジュ・メーム」	7. 4	1	3,000	282	214	75.9
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE 宮城聡 ミヤギサトシヨー 「香水～Das Parfum」	7. 5～8	4	3,000	746	505	67.7
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE 青春五月堂「月の斑点」	7. 9～11	2	2,000	564	384	68.1
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE 村上“ボンタ”秀一 「天上天下唯我独損～身をおとす日々」	7.12	1	3,000	418	389	93.1
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE マシュマロ・ウェーブ「SPEEDMEN」	7.13～15	3	2,500	1,274	1,118	87.8

Ⅲ 各部の活動(1)

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
MERRY-GO-ROUND '90 SOLO PERFORMANCE UNO=MAN 宇野萬「カッテとキママ Fairy tale-katte & keymama」	7. 16～18	3	3,000	534	336	62.9
こどもの城青山円形劇場 夏休みファミリーコンサート 「五線譜のなかの動物たち2」	7. 27～31	8	2,000 (前売1,800)	2,904	2,303	79.3
群上・立光学舎フェスティバル 夏の夢幻劇「伝でん奥美濃ばなし」	8. 1～7	7	3,000 (小・中割2,500)	1,731	1,201	69.4
水野政雄の「親と子の造形教室」	8. 5・6	2	500	300	113	37.7
こどもの城・キリン民話劇場第5回公演 宮沢賢治の童話より ファンタジー COSMOS「ふたごの星」	8. 8～12	10	2,000	3,120	1,595	51.1
こどもの城おまつり劇場'90 花のお江戸は夏まつり PART 2	8. 13～16	6	無料	1,692	1,422	84.0
ベルリン人形劇「グリム童話名作集」	8. 25・26	4	2,000	789	531	67.3
ベルリン人形劇場「ファウスト」	8. 25・26	2	3,000	320	279	87.2
龍の子太郎を語る会 ミュージカル化によせて	9. 24	1	無料	298	182	61.1
第4回青山演劇フェスティバル プロデュース'90=見知らぬ時間の案内人 梅田潤一プロデュース 「カクスコ with 岡本朗 さつき荘9月」	9. 25～30	5	2,800 (前売2,500)	1,376	1,063	77.3
マシュマロ・ウェーブ・プロデュース 「SANDSTORM」	10. 1～4	3	2,800 (前売2,500)	969	910	93.9
ペーパーカンパニー・プロデュース 「一人二役」	10. 5～10	7	3,000 (前売2,800)	2,198	1,926	87.6
ミヤギサトシプロデュース ＜オト・ウトビー・ク・ナウカ～空想から 科学へ＞「ハムレット」	10. 11～14	4	2,800 (前売2,500)	1,308	1,219	93.2
伊丹市制50周年記念公演 津村卓プロデュース 「砂と星のあいだに」	10. 15～19	5	3,000 (前売2,800)	1,168	858	73.5
こどもの城開館5周年記念コンサート 「五線譜のなかの動物たち3」						
(大人のためのスペシャルプログラム)	11. 1・2	1	2,500 (前売2,300)	274	187	68.2
(親子で楽しむファミリープログラム)	11. 3・4	4	2,000 (前売1,800)	1,328	1,005	75.7
dance at the gathering vol. 9 「DANCE COLLABORATION II 女たちはいま……。」	11. 7～11	5	4,000	1,370	1,124	82.0
ミクロログス	11. 20～25	6	5,000	1,578	1,032	65.4
クリスマスにいたいな TAMA and FRIENDS	12. 7～9	5	1,000	1,350	1,363	101.0
ZAZOUS THEATER PRESENTATION 10「LYNX リンクス」	12. 14～20	8	2,800 (前売2,500)	2,746	2,501	91.1
青山円形劇場プロデュース Xmas SPECIAL PRESENTS ア・ラ・カルト 「à la carte- 役者と音楽家のいるレストラン」	12. 21～26	6	3,500 (前売3,300)	2,043	1,910	93.5
オペラ・クリエーション・イン・青山 vol. 10 第3回こどもの城・キリン・ ファミリー・オペレッタ 「おとぎの国のメルヘン通り5 アリス と時間どろぼうたち」	12. 27～29	13	2,200	4,026	3,637	90.3

9 劇 場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
dance at the gathering vol. 10 「女と男のオムニバス その愛の方程式」	2. 18～24	6	4,000	1,548	1,066	68.9
Neo Classic Theatre-V 花組芝居「泉鏡花の夜叉ヶ池」	3. 1～17	17	3,800	5,899	5,528	93.7
スペシャル・プログラム 加納幸和トーク・ショー	3. 10	1	2,000	356	352	98.9
こどもの城青山山形劇場 春休みファミリーコンサート 「五線譜のなかの動物たち 4」	3. 27～31	7	2,000 (前売1,800)	2,541	2,387	93.9
(小 計)	39	198				
			(円)	(人)	(人)	(%)
<貸し館>						
COUP DE PIED by 林和子 '90 秋冬コレクション	4. 9	2	無料	656	593	90.4
童話サーカス音楽劇 「星降る夜の綱渡り」	4. 10～15	7	6,180	1,470	1,313	89.3
Dramatic Musical Theater MAGAZINE VOL. 18 ミュージカルショウボート “ドリマーズ「セイリング」Ⅱ世号” 航海記	4. 16～26	12	3,300 (前売3,000)	2,592	2,126	82.0
沼田曜一公演「良寛さん」	4. 27～30	4	3,000	1,196	1,057	88.4
劇団フジ第33回五月劇場 菊島隆三追悼公演「チャンピオン」	5. 7～12	6	3,100 (前売2,600)	1,470	988	67.2
CHOIR PAPAS IN AOYAMA ROUND THEATRE IV	5. 13	2	2,500	568	417	73.4
劇団冒険物語 5周年記念第10回公演 「新版 夢の冒険者」	5. 14～20	7	3,000	1,645	1,331	80.9
ROLAND PIANO PERFORMANCE	5. 21	1	1,500	260	184	70.8
平岡紀子プロデュースⅡ オスカア・ワ イルド「サロメ」より「ヘロデ王」	5. 22～ 6. 3	14	A7,000・B5,000	3,444	2,661	77.3
山田邦子「12 HITOE-LIVE」	6. 7～10	4	5,000	1,098	977	89.0
水織ゆみコンサート「Ole! シャンソ ンVOL. 2 カルメン・夢・想」	6. 20・21	3	4,000	906	753	83.1
谷山浩子101人 Concert Special	6. 22～ 7. 1	8	3,914通し券4日間 15,000	3,008	2,795	92.9
クリエイティブスタッフ 第6回公演「円・円」	7. 19～21	3	4,000 (前売3,500)	960	701	73.0
女ふたりの夏物語 ファーストナイト 友部裕子コンサート セカンドナイト 高橋久美子コンサート	7. 22・23	2	4,000	574	458	79.8
第2回ガラスびんフォーラム Kira Kira 壺の国物語 こんにちは ダイナ!	7. 24～26	6	無料	944	929	98.4
親と子のためのファミリー・オペレッタ 「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」	8. 17～23	9	3,000 (親子券5,000)	2,583	2,125	82.3
CHILDREN'S DANCE SYMPHONY 「STOP and GO Kid's」	8. 27～30	5	大人3,000 子供1,500	1,350	807	59.8
松本きょうじプロデュース公演 「星月夜物語」	8. 31～ 9. 9	8	3,000	1,740	1,444	83.0
No. 8 山形真紀子ダンスリサイタル 「群生Ⅶ」	9. 10・11	2	3,500	492	440	89.4
花岡陽子 スパニッシュダンスカンパニー公演No. 4 「DANZA ANDALUZA」	9. 12・13	2	3,000	564	460	81.6

Ⅲ 各部の活動(1)

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
サイケ物語・平成Ⅰ 〔Piano 3〕〔Band 3〕	9. 14～16	2	3,090	504	334	66.3
マイムトループ気球座 〔パントマイム公演〕「黎明記」	9. 21～23	3	2,800 (前売2,500)	888	415	46.7
ザ・スーパーカムパニー No.60公演 「ニュー・ミュージカル 灰かぶり夢かぶりーグリム迷宮」	10. 22～28	7	A 4,000・B 3,500	1,847	1,424	77.1
しゃまん VOL. 2	10. 29～31	4	3,000	792	442	55.8
香り文化研究協会 「香りのあるコンサート」	11. 5・6	2	4,000	624	478	76.6
トムソーヤクラブ こどもシンポジウム 「21世紀の地球はどうなるの？」	11. 12	1	無料	246	173	70.3
ギイ・グラヴィス劇団日本公演 「サン＝テグジュペリの星の王子様」	11. 13～16	11	4,000	3,729	3,075	82.5
ボフスラフ・マルチヌーのタベ	11. 17	1	2,000	290	133	45.9
三宅棒名 高橋悠治 DUO	11. 18	1	4,000	300	206	68.7
劇団冒険物語 5周年記念プロデュース公演 「海底軍艦1990」	11. 27～ 12. 3	7	3,000	1,645	1,177	71.6
芳村直樹コンサート '90愛に関する13章	12. 12	1	4,000	329	214	65.0
高橋久美子コンサート '90冬 前略「越路吹雪」様	12. 13	1	4,000	307	271	88.3
遊◎機械／全自動シアター 「僕の時間の深呼吸〔VOL. 3〕」	1. 11～ 2. 11	33	3,500	9,747	8,878	91.1
どんぐりのコンサート vol. 17 「あんなコトこんなことどんな筈？」	2. 12	1	3,500 (前売3,000)	232	164	70.7
林祐子ピアノによる ピアノ三重奏・四重奏	2. 13	1	3,000	188	134	71.3
DANCE SYMPHONY 「stop and go 4 a glass of water」	2. 14～17	5	大人3,000 小人1,500	1,195	574	48.0
パスタとかけそば	2. 25～28	6	3,500 (前売3,000)	1,440	809	56.2
ミュージカル「緑島の消えた日」	3. 21～26	8	5,000	2,256	1,414	62.7
小計 38		202				

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
			(円)	(人)	(人)	(%)	
<内部利用>							
第4回 こどもの城保育セミナー	8. 24	1	13,390	188	120	63.8	保育
第5回 こどもの城音楽クラブ 合同コンサート 「ぼくらのサウンドスペシャル」	10. 20・21	3	無料	708	655	92.5	音楽
保育フェスティバル '90 「フェスタ号へようこそ」	11. 19	1	親子券 1,500	329	329	100.0	保育
(小計) 3		5					
青山円形劇場計 80		405					
劇場合計 103		790					

(2) 劇場事業本部の活動

1) 本年度の総括

本年度は「こどもの城」の開館5周年という1つの節目の年であり、劇場事業本部にとってもこの5年間で培ってきた力を試し、次の5年間で眺望するよい機会に恵まれた充実した1年間であった。

青山劇場では自主公演が5演目あり、演劇ではく山本安英の会>公演の「子午線の祀り」、舞踊では恒例の「青山バレエフェスティバル」と海外招へいの「バレエ・ブリティッシュ・コロンビア」、ミュージカルでは「龍の子太郎」、そしてシンポジウムと多ジャンルにわたるものであった。特に開館5周年記念として上演された「日本のミュージカル 龍の子太郎」は劇場初の本格的な企画・プロデュースによるもので、その成果は多方面から非常に優れた舞台と評価されて大成功を収めた。これは青山劇場が良質の企画を選んで受け入れることはもちろん、自らよい企画を練り、良い舞台を製作する“創る劇場活動”への第一歩を踏み出したことを意味している。

一方、青山円形劇場は自主公演が過去最高の39演目あり、内容的にも優れた舞台が多かった。今年の円形劇場で特徴的だったのは、シリーズ企画の推移である。昨年立ち上げてシリーズ化した企画が5シリーズ、今年立ち上げたシリーズ企画が1シリーズ、そして今年で、一応の最終回を迎えたシリーズ企画が3シリーズある。これは青山円形劇場の自主公演が、この5年間で試行錯誤を続けながらも大きな実績を築き、自信を身につけて、その上に立て新しい5年間に向けてスタートしたことを意味するものだろうし、また、名実ともに“創る劇場活動”が定着したことのあらわれとも言えよう。

2) 過去5年間の比較データ

両劇場の活動をまとめ、数的に過去5年間を比較してみると以下のようなになる。

(ア) 青山劇場

	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
① 総演目数	30	30	32	22	23
② ジャンル別演目数					
ミュージカル	6	8	12	8	10
演劇	7	3	1	1	2
オペラ	1	1	1	2	1
コンサート	7	7	8	6	3
舞踊	1	3	6	3	5
歌舞伎	0	1	0	0	0
シンポジウム等	3	3	1	0	1
その他	5	4	3	2	1

Ⅲ 各部の活動(1)

③ 公演形態別演目数					
自主公演	10	7	7	3	5
提携公演	4	2	3	0	0
貸劇場	16	21	22	19	18
④ 対象別演目数					
一般	12	20	20	12	13
青少年	2	4	4	3	5
児童・ファミリー	12	6	8	7	5
その他	4	0	0	0	0

(イ) 青山円形劇場

	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
① 総演目数	80	82	87	86	80
② ジャンル別演目数					
ミュージカル	5	6	5	7	8
演劇	21	18	13	27	25
コンサート	22	26	32	25	23
舞踊	8	14	16	13	10
人形劇	0	0	7	2	4
シンポジウム等	4	8	3	2	4
その他	20	11	11	10	6
③ 公演形態別演目数					
自主公演	30	17	15	33	39
提携公演	6	1	5	4	0
貸劇場	44	64	67	49	41
④ 対象別演目数					
一般	42	47	48	50	30
青少年	15	13	13	17	31
児童・ファミリー	22	21	24	17	18
その他	1	1	2	2	1

3) 本年度の比較データ

次に本年度の青山劇場・青山円形劇場の劇場活動ジャンル別、公演形態別、対象別に日数と回数の数字で見てみると以下のようになる。

9 劇 場

(ア) 青山劇場（ただし、日数には仕込み・けいこ・バラシの日数を含む。）

	演目数	日 数 (%)	回 数 (%)
① 総数	23	350日 (100 %)	404回 (100 %)
② ジャンル別数			
ミュージカル	10	234日 (66.9%)	274回 (67.8%)
演劇	2	59日 (16.9%)	79回 (19.6%)
オペラ	1	3日 (0.9%)	2回 (0.5%)
コンサート	3	29日 (8.3%)	25回 (6.2%)
舞踊	5	21日 (6.0%)	20回 (5.0%)
歌舞伎	0	0日 (0 %)	0回 (0 %)
シンポジウム等	1	1日 (0.3%)	1回 (0.2%)
その他	1	3日 (0.9%)	3回 (0.7%)
③ 公演形態別数			
自主公演	5	33日 (9.4%)	35回 (8.7%)
提携公演	0	0日 (0 %)	0回 (0 %)
貸劇場	18	317日 (90.6%)	369回 (91.3%)
④ 対象別数			
一般	13	143日 (40.9%)	140回 (34.7%)
青少年	5	114日 (32.6%)	146回 (36.1%)
児童・ファミリー	5	93日 (26.6%)	118回 (29.2%)
その他	0	0日 (0 %)	0回 (0 %)

(イ) 青山円形劇場（ただし、日数には仕込み・けいこ・バラシの日数を含む。）

	演目数	日 数 (%)	回 数 (%)
① 総数	80	348日 (100 %)	393回 (100 %)
② ジャンル別数			
ミュージカル	8	55日 (15.8%)	63回 (16.0%)
演劇	25	173日 (49.7%)	191回 (48.6%)
コンサート	23	59日 (17.0%)	64回 (16.3%)
舞踊	10	36日 (10.3%)	38回 (9.7%)
人形劇	4	7日 (2.0%)	11回 (2.8%)
シンポジウム	4	4日 (1.2%)	4回 (1.0%)
その他	6	14日 (4.0%)	22回 (5.6%)
③ 公演形態別数			
自主公演	39	163日 (46.8%)	188回 (47.8%)
提携公演	0	0日 (0 %)	0回 (0 %)
貸劇場	41	185日 (53.2%)	205回 (52.2%)
④ 対象別数			
一般	30	96日 (27.6%)	109回 (27.7%)
青少年	31	181日 (52.0%)	180回 (45.8%)
児童・ファミリー	18	68日 (19.5%)	101回 (25.7%)
その他	1	3日 (0.9%)	3回 (0.8%)

以上、過去5年間の演目数の上での傾向と本年度のデータを見てみると、青山劇場ははっきりとミュージカルが主体になったこと、1本の演目が長期化（ロングラン化）したことが特徴的である。また青山円形劇場は演劇を主体にしながらもコンサートや舞踊等さまざまなジャンルのものを手がけていること、自主公演に力を入れていること、青少年が大きなターゲットとなってきたことが特徴的である。

4) 本年度の主な演目

(ア) 青山劇場

① 自主公演

1. 山本安英の会公演「子午線の祀り」

昭和61年4月の「夕鶴」に続く木下順二作、山本安英の会公演の日本を代表する作品。過去3回上演されているが、今回の青山劇場公演では4時間10分にも及ぶ初めてのノーカット版を公演した。

2. 第5回青山バレエフェスティバル

若いダンサーの祭典として毎夏恒例になっているフェスティバル。今回はヴァルナ国際バレエ・コンクールのジュニア部門入賞者を特別招へいした。協賛高島屋。

3. バレエ・ブリティッシュ・コロンビア初来日公演

カナダの新進バレエ団の初来日公演。海外のカンパニーを劇場が直接招へいするという新しい試みがなされた。

4. 日本のミュージカル龍の子太郎

こどもの城開館5周年記念の一環。原作は松谷みよ子・同名の日本を代表する児童文学。

製作委嘱を行わずに、劇場のオール・プロデュースで企画・製作した初の大型ミュージカルで、その舞台成果は大きな成功を収めた。協賛ツムラ。

5. シンポジウム「今こどもたちは これからの子育てを考える」

こどもの城開館5周年記念の一環。

② 貸し劇場公演

例年恒例（各5回目）のものとしてはファミリー向けミュージカル「アニー」、青少年向けミュージカル「少年隊 PLAY ZONE」、そして「谷村新司コンサート」があり、内容・動員ともにそれぞれ安定した力を発揮した。今年の特筆すべき舞台としては、ミュージカル「李香蘭」と舞踊「竹取物語」が挙げられる。「李香蘭」は劇団四季の新作オリジナルミュージカルで、誤った戦争の道を歩んでしまった日本の歴史をつぶさに描いた内容が演劇界のみならず社会的な話題を呼んだ。「竹取物語」は全日本舞踊連合創立15周年記念公演で、バレエや日本舞踊など舞踊ジャンルの表現が一堂に会して1つの作品を作り上げた。

(イ) 青山円形劇場

① 自主公演

1. 京劇「孫悟空の大冒険」(春休みファミリー企画)

中国・寧夏京劇団の来日公演。観客の大半を占める京劇初体験の家族連れに京劇の楽しさを知ってもらうためのファミリー向けプログラム。

2. 第7回こどもの城マタニティ・コンサート

“胎教主義ではなく、妊婦さんが心身ともにリラックスできる音楽を”というコンセプトのシリーズ企画。今回の出演者はボサノバ・シンガー、小野リサ。協賛P & G。

3. オブジェクトシアター Vol. 1「エレクトラ」

人形劇を「子供のためのもの」という概念から解放して、その新しい可能性を探ろうという新シリーズ企画の第1弾。今回は1人の出演者(人形劇団ひとみ座の判通子)が5つの仮面を演じ分ける手法でギリシャ悲劇の「エレクトラ」を上演した。

4. 折田克子ダンススペシャル「ピントファー空間」

現代音楽の雄・カールストーンの音楽とモダンダンスの折田克子の組み合わせによる前衛的な表現のアート・コラボレーション。

5. ネオ・クラシック・シアター IV (バイ・チェーホフ) ～V

“古典戯曲を現代の視点で”というコンセプトで昨年立ち上げたシリーズ企画。「バイ・チェーホフ」では、シリーズで初めて海外の古典作品(チェーホフ作「ぼくの伯父さん」)を素材に取り上げ、「ぼくの伯父さん(Mon Oncle)」のタイトルで劇団「MODE(モード)」が内容を現代的・都会的に再構築して上演した。Vではシリーズの第1回目にも登場した劇団「花組芝居」が、「泉鏡花の夜叉ヶ池」のタイトルで、泉鏡花作の「夜叉ヶ池」を文字どおり彼ら独自のネオ・カブキというスタイルで公演した。

6. MERRY GO ROUND '90～SOLO PERFORMANCE～

“今、おもしろいと思えるパフォーマーが集う時代の感性の祭典”をコンセプトに昨年立ち上げたシリーズ企画の第2弾。今年は“SOLO PERFORMANCE(ソロ・パフォーマンス)”というテーマを設けて、さまざまなジャンルからのパフォーマーが、舞台に、一人で立つことで何が表現できるかを遊んだ。協賛とらば一ゆ。出演者及びタイトルは次のとおり。

①坂田明「てんらん会のエッ！」(サックスなどのソロ・プレイ)

②上野耕路「私は一体、何をアピールしたいのか、さっぱり判らない」(ピアノ・ソロ)

③橋本一子「ジュ・メーム」(ピアノの弾き語り)

④宮城聡「ミヤギサトシショー・香水～Das Parfum」(一人語り)

⑤青春五月党「月の斑点」(一人芝居)

⑥村上“ポンタ”秀一「天上天下唯我独損～身をおとす日々」(ドラム・ソロ)

⑦マシュマロ・ウェーブ「SPEED MEN」(ソロ・パフォーマンス)

⑧宇野萬「カッテとキママ～Fairy tale Katte & Kimama」(ソロ・ダンス)

7. 五線譜のなかの動物たち2～4(夏休み/春休みファミリー企画)

動物を描いたクラシック音楽の名曲や物語りによるファミリー向けコンサート。昨年公

演し好評だった企画をシリーズ化した。内容は“動物あてクイズ”を中心にしながら、その都度「ピーターとおおかみ」や「動物の謝肉祭」などの音楽物語を加えて変化をつけていく。第2回は夏休み企画、第3回はこどもの城5周年記念、第4回は春休み企画として公演された。

8. こどもの城・キリン民話劇場第5回公演（夏休みファミリー企画）

宮澤賢治の童話より ファンタジー COSMOS「ふたごの星」

宮澤賢治の世界を、俳優と人形の共演による“立体紙芝居”という形で上演した。3歳児からの子供とその両親、又は宮澤賢治ファンの20代の若者と広い層をターゲットにした。

「民話劇場」というスタイルは今回で最終回。来年からは「ファミリー・シアター」として引き継がれる予定。

9. こどもの城おまつり劇場 '90「花のお江戸は夏祭り Part 2」（夏休みファミリー企画）

子供たちが伝える日本の伝統芸能や伝承遊び、郷土芸能などで構成したバラエティーシリーズの第2弾。今年は日本舞踊や邦楽演奏のほか、埼玉県鷲宮町に伝わる「催馬楽神楽」が特別出演した。協賛ブリタニカ。

10. ベルリン人形劇場「グリム童話名作集」（夏休みファミリー企画）「ファウスト」

人形劇が盛んなドイツから、中でも質の高さで定評のある“ベルリン人形劇場”の来日公演。グリム童話を3本集めたファミリー向けのプログラムと、人形劇に古くから伝わるファウストものによる一般向けのプログラムの2本を公演した。

11. 「龍の子太郎を語る会～ミュージカル化によせて」

青山劇場で11月に行われる「日本のミュージカル 龍の子太郎」に向けてのシンポジウム。第1部では原作者の松谷みよ子が語り、第2部では演出の遠藤琢郎や音楽の矢吹誠をシンポジストとしたシンポジウムが行われた。

12. 第4回青山演劇フェスティバル～プロデュース '90＝見知らぬ時間の案内人

今年の青山演劇フェスティバルはテーマを“プロデュース”とし、今までの劇団単位での形式から離れ、プロデュース・システムで作ったフェスティバルを構成するという新しい試みにチャレンジした。参加作品は5本。協賛とらば一ゆ。

①梅田潤一プロデュース「カクスコ with 岡本朗 さつき荘9月」

②マシュマロウェーブ・プロデュース「SANDSTORM」

③ペーパーカンパニー・プロデュース「一人二役」

④ミヤギサトシ・プロデュース「ハムレット」

⑤津村卓プロデュース「砂と星のあいだに」

13. dance at the gathering vol. 9～10

“クラシック・モダン日本舞踊など、ジャンルを取り払った新しいダンスの形と出合いを模索する。同時に若手ダンサーの発表の場とする。”というコンセプトで続けて来たシリーズのダンス企画。第9回は「ダンス コラボレーションⅡ～女たちはいま」という

タイトルで、日本の次代を担う3人の女流振り付け家による創作ダンス公演を行った。第10回は「女とおとこのオムニバス～その愛の方程式」というタイトルでシリーズの最終回を行い、芸術性と娯楽性とが高いレベルで融合した舞台として有終の美を飾った。

14. ミクロロゴス

フランスの古楽アンサンブル「ミクロロゴス」の、青山円形劇場3度目の来日公演。今回は「ヨーロッパ・ルネッサンスの古城巡り」と題するプログラムで、ヨーロッパ各国の中世・ルネッサンス音楽を演奏した。

15. LYNX リンクス

演劇のプロデュース集団「ザズウ・シアター」との共同プロデュース作品。電波や映像に取り囲まれて、他者とのコミュニケーションができなくなってしまった現代の若者の孤独と絶望を都会的・無機的に描いた。

16. ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン

演劇と音楽が解け合ったショー形式のエンターテインメント作品で、昨年に続くクリスマス恒例企画として定着した。今年はゲストも入り一層にぎやかなものとなった。劇場事業本部によるプロデュース作品。

17. 第3回こどもの城・キリン・ファミリー・オペレッタ（冬休みファミリー企画）

「おとぎの国のメルヘン通り5～アリスと時間どろぼうたち」

こどもの城のスタッフで作る正月恒例のオリジナル・ファミリー・オペレッタの5作目であり、おとぎの国シリーズの最終回。今年は「時間」をテーマにして、最終回にふさわしい楽しく夢の広がる作品に仕上がった。

② 貸し劇場公演

今年の貸し劇場公演での特徴としては劇団「遊◎機械／全自動シアター」が1か月間ロングラン公演を行ったことが挙げられる。青山劇場での1か月から2か月に及ぶ公演は普通であるが、円形劇場での1か月公演は初めてのことだった。これは劇団の側から見れば、いわゆる小劇場系の劇団が成長して力をつけてきたことの証左であろうし、劇場の側から見れば、円形劇場の新しい使い方を示唆する出来事だったと思われる。

IV 各部の活動(2)

1 広報部		147
2 研修教養部		152
3 国際交流部		174
4 営業部		177

広報部の活動

広報部は前年度に引き続き、「こどもの城」のPR活動と「児童手当」誌などの編集・発行作業に従事した。大きなポイントになったのは、開館5周年の記念行事と、入館者500万人達成の2点で、マンネリ化しがちなムードの中で、久々の活性剤となった。これらの動きもあって、マスコミ関係からの「こどもの城」に関する本年度の取材は合計187件で、前年度より23件増加した。

＜編集・発行＞ 5周年記念事業を特集

厚生省監修の月刊「児童手当」を発行、児童手当制度のPRとともに、カラーページによって「こどもの城」の活動を紹介した。本誌の発行部数は5,000部にも満たないが、官庁・図書館などに固定読者が多く、それなりの役割は果たしてきたと考えられる。

「こどもの城ニュース」も前年度どおり、隔月で年6回発行、平成2年2月号で通算32号を迎えた。「こどもの城」の発足当時は、城の設備や行事などを順次紹介していくことで、ある程度こなせたが、号を重ねるにつれて、次第に「ネタ切れ」になり、往々にして苦しい紙面作りになりがちである。その点、本年度は5周年記念事業で、大いに救われた。

5周年については7月号で4ページ特集を組み、青山劇場のミュージカル「龍の子太郎」と、造形事業部の「フランツ・チゼック展」を紹介、引き続き10月号でも別の角度で紹介した。この2大イベントについては、「児童手当」誌のこどもの城のページでも8月号と10月号に特集を組んだ。

また、「こどもの城」で開催される展覧会などから、作品を転載して紙面をつくるのも一つの手で、「こどもの城ニュース」では6月号に写真家田沼武能氏、12月号で「こどもの城」のボランティア写真展から、それぞれ何点かを選び特集した。

「こどもの城ニュース」は、各号とも25,000部（夏休み前の7月号は35,000部）を印刷、こどもの城全国連絡協議会を通じて、全国約4,000の児童施設をはじめ、こどもの城友の会会員、「こどもの城」のある渋谷区を中心とした小・中学校、保育園および一般来館者に館内で配布した。印刷・用紙代は広告収入によりほぼ賄えるところまでこぎ着けた。

印刷物関係ではほかに、従来の「こどもの城」のパンフレットが僅少になったので、新装版を作成、また例年どおりの事業年報（平成元年度版）を発行、5周年記念のシンポジウムを広報部が小冊子にまとめ、関係者に配布した。

IV 各部の活動(2)

(1) こどもの城ニュース 新聞1ページサイズ、表裏2ページ、表面カラー印刷。毎号25,000部発行

	発行日	内 容	主 な 配 布 先
第27号	4月15日	さよなら「木と造形」ほか	ネットワーク会員 ……………4,380部
第28号	6月15日	遊びの子どもいきいきとー田沼武能写真展からーほか	こどもの城友の会会員 ……………約3,800部
第29号	7月15日	夏だドンドン! あつまれドンドン! ほか	都道府県民生主管部(全国57か所) ……………1,156部
第30号	10月15日	壮大な民話絵巻そしてチゼックの世界ー開館5周年記念行事ーほか	保育園, 幼稚園, 小学校, 中学校(渋谷区, 港区) ……438部(219件×2部)
第31号	12月15日	カメラで綴った「こども大好き」ーボランティア活動写真展ーほか	渋谷町会, 渋谷区ボーイスカウト, ガールスカウトほか ……………284部(142部×2部)
第32号	2月15日	冬休みア・ラ・カ・ル・ト	その他一般入館者, 招待者, 視察・見学者などへ贈呈・配布……………約15,000部

*第29号は夏休みのため発行を1か月繰り上げ、4ページとした。35,000部発行。

(2) 児童手当誌 B5判16ページ、カラー4ページ。発行部数: 5,000。

	発行日	内 容
ネ ッ ト ワ ー ク	第22号	平成2年6月1日 遊びは子どもの原点 ほか
	第23号	平成2年9月1日 こどもの城印象記 ほか
	第24号	平成2年12月1日 必要とされる喜び ほか
	第25号	平成3年3月1日 高校生ががんばる "L.I.T." ほか

*「児童手当誌」のカラーページは6・9・12・3の各月をこどもの城全国連絡協議会機関誌として編集、会員に配布している。
これを除く各月は「こどもの城」のページとして編集、PRを行っている。

〔児童手当誌の主な配布先〕

都道府県市町村 ……3,760部 社会保険事務所 ……287部
関係省庁等 ……………251部 関係各団体 ……………151部
その他 ……………381部

	発行日	内 容
こ ど も の 城	第38号	平成2年4月1日 にぎやかに5周年の春 ほか
	第39号	" 5月1日 「木と造形」を終えて ほか
	第40号	" 7月1日 こどもの城の夏休み ほか
	第41号	" 8月1日 チゼック式教育の現在 ほか
	第42号	" 10月1日 「龍の子太郎」の魅力 ほか
	第43号	" 11月1日 子どもは社会で育てる ほか
	第44号	平成3年1月1日 講座はふれあいの場 ほか
	第45号	" 2月1日 子どもがエネルギー ほか

(3) パンフレット・チラシ類

	名 称	発行部数	内 容	備 考
1	こどもの城総合パンフレット	10,000部	従来のパンフレットを新装・改定	静和堂竹内印刷株式会社制作
2	平成元年度事業年報	5,000部	元年度の全館および各部の活動記録	ヨシダ印刷株式会社制作
3	平成3年度講座一覧	10,000部	3年度全講座・クラブの案内(A4, 12ページ)	PRコンビナート制作
4	こどもの城ご案内(和文)	250,000部	館内案内	ヨシダ印刷株式会社制作
	" (英文)	10,000部	外国人用館内案内	"
5	5周年シンポジウム記録	1,000部	B5判50ページ	静和堂竹内印刷株式会社制作
6	その他各種チラシ類	約80,000部		広報部作成

＜取材関係＞「太りすぎクラス」に人気

187件の取材の内訳は雑誌関係の55件をトップにテレビ53件、新聞35件、ラジオ8件の順で、その他の36件は社内報、会員誌、企業発行のPR誌などが含まれている。

取材の対象で人気のあったのは小児保健部と体育事業部の健康スポーツ教室「太りすぎクラス」で、テレビ、新聞など15件の取材があった。話題性とマスコミの健康もの指向という点で格好の材料になったものと思われるが、一部には興味本位の取材も現れ、対応に神経を使った。

海外からの取材も多く、NBCテレビ（アメリカ）、インド国営放送、オーストラリア国営テレビなどが来館、子供たちの遊びを収録した。また、ソビエトのゴルバチョフ大統領の来日を控え、日本の子供たちの姿をソビエト国内に伝えたいというねらいで、モスクワテレビや、ドキュメント映画製作のためにソ連政府機関紙「イズベスチャ」の撮影班が訪れた。

NHKの衛星放送にも、2度にわたって「こどもの城」が登場している。

人気が高い青山かいわいを控えているので、東京新名所といった風俗的なテレビ番組に「こどもの城」が顔を出す機会が多い。各種のガイドブックにも登場、「都内1,000か所の駐車場」には城の地下駐車場が、また「安くて得なもの何でも情報」という雑誌の特集ではプールとホテルが紹介された。季節休みにはPTA会員誌などからの問い合わせも多く、「こどもの城」はひとつの情報源として定着しつつある。

500万人目入館のシーンは、NHKのニュースなどで報道された。

	平成2 年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成3 年1月	2月	3月	計	開館以来 の総計
新 聞	1	7	2	2	4	0	1	5	1	3	4	5	35 (22)	267
テレビ	3	7	4	3	7	3	0	4	5	7	4	6	53 (53)	379
ラジオ	0	2	0	1	3	0	0	0	0	1	0	1	8 (7)	
雑 誌	5	5	3	3	3	2	6	10	2	5	6	5	55 (46)	369
その他	1	2	6	6	2	1	3	4	0	1	4	6	36 (36)	318
計 (件)	10	23	15	15	19	6	10	23	8	17	18	23	187 (164)	1,333

注：「その他」は社内報、機関誌（紙）、PR誌などである。

カッコ内の数字は前年度の件数。

＜広告関係＞「D・H・C」で車内広告

夏休み期間の来館者促進のため、7月20日前後に朝日、毎日、読売、朝日小学生新聞に全5段の広告を掲載、3年の2月には、講座募集のため朝日、毎日、読売、東京、朝日小学生新聞に全5段の広告を掲載した。6月には、体育事業部のダイナミック・ヘルス・クラブ(D・H・C)の新会員募集のため、井の頭線車内に1か月間、額面広告を掲示した。

(その1)

	掲載新聞名	掲載形式	掲載日時	配布部数	内 容	配布地域
1	朝日新聞(夕刊) 毎日新聞(夕刊) 読売新聞(夕刊) 朝日小学生新聞	全5段 " " "	平成2年7月20日(金) " 平成2年7月21日(土) 平成2年7月20日(金)	271万部 97万部 315万部 28万部	夏休み特別期間、青山劇場・円形劇場の催し物のほか、こどもの城のPR。	関東全域および静岡・山梨両県下全国
2	毎日新聞(夕刊) 朝日新聞(夕刊) 東京新聞(夕刊) 読売新聞(夕刊) 朝日小学生新聞	全5段 " " " "	平成3年2月20日(水)	97万部 271万部 50万部 315万部 28万部	平成2年度4月開講のこどもの城全講座の受講者募集と、こどもの城のPR。	関東全域および静岡・山梨両県下全国

*新聞広告は、講座・クラブ受講者募集、夏休みの来館者動員の2点に絞った。経費節減のため、昨年度より規模を縮小したが、それなりの反響は得られた。

(その2)

	種 類	サ イ ズ	掲 出 期 間	数 量	内 容	備 考
1	車内額面広告	28cm×51cm	平成2年6月5日から1か月	180枚	こどもの城のダイナミック・ヘルスクラブ会員募集。	井の頭線
2	電飾掲示版	120cm×180cm	平成2年4月1日から平成3年3月31日	1か所	"	渋谷駅通路

*D・H・Cの車内広告は、前年度の東急田園都市線に次いで2回目である。井の頭線沿線の利用者開拓に成果があったと考えられる。

*電飾掲示版は、前年度に作成したD・H・Cの画面のまま継続した。

＜渋谷スタンプラリー＞ 東京都児童会館も参加

3月24日から5月6日まで第6回渋谷春のスタンプラリーを前年度に続いて行った。渋谷地区にある「こどもの城」「NHK展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」の4館を回って各館のスタンプを集めれば、最後のところで記念品がもらえる仕組みで、期間中の来館者は4館計約63万人（「NHK展示プラザ」33万人、「こどもの城」19万3000人、「電力館」8万5000人、「たばこと塩の博物館」1万6000人）でスタンプシート7万7000枚を配布した。記念品を受け取ったのは4500人で、記念品の数は「こどもの城」の1800個が最も多かった。

第7回のスタンプラリーは7月21日から9月2日まで夏休みに合わせて行った。この回から「こどもの城」に近い「東京都児童会館」が参加し、5館となった。期間中に5館合わせて入館者は合計約60万人が入館、11万4000枚のシートを配布、記念品5700個を贈った。

スタンプラリーも東急などの私鉄が毎年夏休みに行う駅めぐりを始め、いろいろな種類と規模のものが各地で盛んだが、渋谷スタンプラリーは範囲も手ごろで、子供向きなのが好評のようだ。しかし、第7回終了後の反省会で「春休みからゴールデンウィーク終了後にわたる春の実施期間が長すぎはしないか。中だるみのおそれもあり、すぐ夏休み期間に入るので切れ目がない。夏休み一本に絞って、内容の濃いものにしてはどうか」という意見が出て各館ともこれに賛成、来年度からは夏休みのみとすることに決まった。

スタンプラリー各館の記念品		
	第 7 回	第 8 回
こどもの城	文具セット	スライドカレンダー
NHK展示プラザ	ミニメジャー	ミニホッチキス
電力館	せっけん	オリジナルせっけん
たばこと塩の博物館	フォトスタンド	ミニトラベル
東京都児童会館	——	記念バッジ

2 研修教養部

IV 各部の活動(2)

研修教養部の事業の概要は、次のとおりである。本年度においては、特別の目新しい事業はないが、内容面で充実・改善を図りながら実施に努めた。

- ① ボランティアの養成と活動
- ② 「L. I. T.」の養成と活動
- ③ 「あそびガヤガヤ研究所」の活動
- ④ 児童厚生員実技指導講習会の開催
- ⑤ 社会福祉講座の実施
- ⑥ ジュニア・アウトドアスクールなどの館外活動
- ⑦ 実習生・研修生の受け入れ

1) ボランティアの養成と活動

「こどもの城」において、子供の活動を援助し、指導するボランティアの役割は大きい。したがって、ボランティアを確保・養成し、更にその知識・技能を高めるための諸活動は、極めて重要である。

(ア) 概要

本年度は、表に掲げるとおり、大学生を中心とする青年ボランティアの第18期から20期までの3期について、募集と養成のための講習会を実施した。これらの講習会は、いずれも、社団法人日本キャンプ協会、東京都レクリエーション連盟の公認講習会の認定を受けている。これは、この講習会の修了者がこれらの団体の指導者資格が受けられるように配慮しているためで、現在までに日本キャンプ協会の初級指導者の認定を受けたリーダーは16人、東京都レクリエーション連盟から2級指導者の資格を得たリーダーは26人に達する。また、婦人ボランティアの養成も前年度に引き続いて1回、募集と養成を行った。

第1期から20期までの各期別の修了者数及び登録者数は表に掲げるとおりである、本年度末の登録者数は、青年ボランティア399人、婦人ボランティア64人となった。

こどもの城ボランティア養成状況

(平成3年3月現在)

		養成期間	登録数	修了者数			養成期間	登録数	修了者数
青年	1	昭和59年6月～7月	1	37	青年	16	" " 11月～12月	44	48
	2	" " 11月～12月	8	44		17	" " 2年2月～3月	45	45
	3	" " 60年2月	2	46		18	" " 6月～7月	55	55
	4	" " 6月～7月	8	50		19	" " 10月～11月	28	28
	5	" " 61年2月～3月	6	36		20	" " 3年2月～3月	40	40
	6	" " 6月～7月	7	35	計			399	855
	7	" " 11月～12月	9	43	婦人	1	昭和60年11月	13	19
	8	" " 62年2月～3月	12	49		2	" " 61年10月	11	15
	9	" " 6月～7月	16	42		3	" " 62年11月	10	14
	10	" " 11月～12月	8	44		4	" " 63年10月	8	13
	11	" " 63年2月～3月	19	48		5	平成元年10月	9	9
	12	" " 6月～7月	17	42		6	" " 2年10月	13	13
	13	" " 11月～12月	15	42	計			64	83
	14	平成元年2月～3月	30	47	合計			463	938
	15	" " 6月～7月	29	34					

(イ) ボランティア講習会

① 第18期ボランティア講習会

6月9日から7月3日まで実施し、宿泊研修を含めて21単位(1.5時間で1単位)とし、55人の修了者を新たにボランティアの仲間に加えることができた。

第18期 ボランティア講習会実施内容

講 習 日 程	時 間	講 師	講 義 内 容
6. 9 (土) 903号室 904号室	5:30～7:30 7:30～8:30	(協)日本児童手当協会 常務理事 大野 出穂	ボランティア希望者面接 「こどもの城建設の理念と事業展開」
6.13 (水) 904号室 905号室	6:00～6:30 6:45～8:30	明治学院大学 教 授 福田 垂穂先生	「体育事業部」事業概説 「児童健全育成とボランティア」
6.14 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	東京都レクリエーション連盟 理事長 奥野 正恭先生	「保育研究開発部」事業概説 「愉快でためになる行事の企画と運営」
6.19 (火) 803号室 804号室	6:00～6:30 6:45～8:30	早稲田大学学生相談センター 専門相談員 高塚 雄介先生	「音楽事業部」事業概説 「ひとりひとりのこどもをつかむ」 ーリーダーシップのあり方を考えるー
6.21 (木) 802号室 803号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 常藤 恒良	「AV事業部」事業概説 「こどもの健康管理と安全管理」
6.22 (金) 23 (土) 24 (日) 市川少年自然の家	宿 泊 研 修	(協)東京小中学生センター 柴田 俊明先生	野外炊事・野外ゲーム グループワークトレーニング ロールプレイング等の実技指導を行い、 その中から人間交流の大切さを学びます。
6.26 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	大正大学 教 授 吉澤 英子先生	「造形事業部」事業概説 「施設ボランティアの組織づくりとチームワーク」
6.28 (木) 904号室 905号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 神谷 明宏	「プレイ事業部」事業概説 「魅力あるリーダーになるために」
7. 3 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 佐野 真一	「小児保健部」事業概説 「こどもの城のプログラム活動とボランティア」 修了式(8:15～8:30)

IV 各部の活動(2)

② 第19期ボランティア講習会

10月27日から11月29日まで実施した。ちょうど「こどもの城」の開館5周年記念月間に当たり、忙しい中で実施した講習会であったが、28人が受講し、修了した。

第19期 ボランティア講習会実施内容

講 習 日 程	時 間	講 師	講 義 内 容
10.27 (土) 902号室 903号室	5:30～7:30 7:30～8:30	(財)日本児童手当協会 常務理事 大野 出穂	ボランティア希望者面接 「こどもの城建設の理念と事業展開」
11. 6 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	淑徳短期大学 教 授 木谷 宣弘先生	「音楽事業部」事業概説 「児童施設におけるボランティア活動」 －ボランティア参加を活かすために－
11. 8 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	江東区文化センター 恩田 大進先生	「保育研事業部」事業概説 「児童健全育成ボランティア」 －生涯学習社会における青年ボランティア－
11.13 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	全国子ども会連合会 宇田川 光雄先生	「体育事業部」事業概説 「プログラムの企画と運営法」 －遊びが子どもを変える－
11.15 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 神谷 明宏	「プレイ事業部」事業概説 「ボランティアリーダーのあり方を考える」 －こんなリーダーが魅力的－
11.16 (金) 17 (土) 18 (日) 市川少年自然の家	宿 泊 研 修	市川市立第八中学校 大谷 能久先生	野外ゲーム・グループワークトレーニング・ロールプレイング等の実技指導を行い、その中から人間交流の大切さを学びます。
11.22 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 常藤 恒良	「造形事業部」事業概説 「ボランティア活動と責任」 －参加と責任の関係から－
11.27 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	こすぎ社会教育研究所 小杉 道雄先生	「ＡＶ事業部」事業概説 「現代こども論」 －今、こどもに何が起きているか－
11.29 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 佐野 真一	「小児保健部」事業概説 「こどもの城ボランティアの役割とプログラム活動」 修了式(8:15～8:30)

③ 第20期ボランティア講習会

大学生が学年末休暇に入る期間をねらい実施した。この期はあたらしく大学に入学の決まった人も受け入れることにした。また、L. I. T（次項参照）にも呼びかけ、2人が受講し、新しくボランティアリーダーの仲間入りを果たした。

第20期 ボランティア講習会実施内容

講習日程	時間	講師	講義内容
2. 2 (土) 901号室 906号室	5:30～7:30 7:30～8:30	(助)日本児童手当協会 常務理事 大野 出穂	ボランティア希望者面接 「こどもの城建設の理念と事業展開」
2. 5 (火) 902号室 903号室	6:00～6:30 6:45～8:30	大正大学 教授 吉澤 英子先生	「体育事業部」事業概説 「今、なぜボランティア活動なのか」 －ボランティア参加の意義と条件－
2.12 (火) 803号室 804号室	6:00～6:30 6:45～8:30	明治学院大学 教授 福田 垂穂先生	「保育研究開発部」事業概説 「児童健全育成とボランティア」 －こども文化の継承と創造にむけて－
2.14 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	早稲田大学学生相談センター 高塚 雄介先生	「音楽事業部」事業概説 「こどもの心をひらくボランティア」 －支援のための自己理解－
2.19 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 神谷 明宏	「プレイ事業部」事業概説 「現代リーダーシップ論」 －こんなリーダー、あんなリーダーが魅力的－
2.22 (金) 23 (土) 24 (日) 市川少年自然の家	宿泊研修	東京小中学生センター 柴田 俊明先生	野外ゲーム・グループワークトレーニング・ロールプレイング等の実技指導を行い、その中から人間交流の大切さを学びます。
2.26 (火) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	跡見学園女子大学 教授 中村 典男先生	「造形事業部」事業概説 「あそびの世界をひろげるリーダーとは」 －あそびを支援するリーダーの役割－
2.28 (木) 906号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 常藤 恒良	「AV事業部」事業概説 「ボランティア活動と安全」－参加と責任の関係から－
3. 5 (火) 902号室 903号室	6:00～6:30 6:45～8:30	協会職員 佐野 真一	「小児保健部」事業概説 「こどもの城のボランティア活動」 修了式(8:15～8:30)

④ 第6期婦人ボランティア講習会(10月9日～19日)

開館以来実施してきた婦人ボランティアの養成は本年度で第6期を迎えた。

これは家庭婦人を主な対象とし、その豊かな子育ての経験を「こどもの城」の活動に生かしてもらおうとするもので、現在では保育、音楽、体育をはじめ影絵・紙しばいなど独自の分野で活動するようになっている。また、行事に必要な衣装作りといった裏方の役も引き受けてもらうなど、多方面にわたり青年ボランティアと協力しながら、その活動を広げている。

婦人ボランティア 第6期講習会プログラム

日時・場所	内 容	講 師
10. 9 (火) 14:00～16:00	「こどもの城」 プロジェクトについて	協会理事 大野 出穂
10.11 (木) 14:00～16:00	婦人ボランティア活動	社会活動教育研究所 所長 新谷 弘子先生
10.16 (火) 14:00～16:00	「こどもの城」 ボランティアの心得	協会職員 常藤 恒良 神谷 明宏
10.19 (金) 14:00～16:00	施設における ボランティア活動	大正大学教授 吉澤 英子先生

⑤ グレードアップ講習会

既にボランティアとして活躍中のボランティアを対象に指導力の向上を目的として3回にわたって講習会を実施した。

○ 救急法講習会(5月22日～6月2日)

日本赤十字社東京都支部の協力・指導により、27時間の認定講習を実施した。参加者30人(こどもの城職員の参加者を含む。),うち19人が適任証を交付された。

○ キャンプの基礎講習(6月23日・24日)

1泊2日で千葉縣市川少年自然の家において、社団法人日本キャンプ協会常任理事中村典男氏を迎えて実施した。

今回は①キャンプにおける火を考える、②キャンプファイヤーの実習、③野外炊事徹底講習とキャンプ・合宿等に必要な実技面の向上を図った。参加者41人。

○ グレードアップ—今、心をひらいて—講習会(11月17日・18日)

1泊2日千葉縣市川少年自然の家において、①カウンセリングマインドによるこどもとのふれあい—講師、千葉商科大学教授菅沼憲治氏、②自己理解—こどもを愛するために—講師、桜美林大学学生相談室カウンセラー荒井庸子氏。参加者24人。

(ウ) ボランティアの活動

① ボランティア協議会

ボランティアの活動は、日常プログラムやイベントの企画・運営、館外合宿、キャンプのグループカウンセラーと幅広くなってきている。このためボランティア相互の情報交換と活

動の進捗状況について話し合うため、毎月1回全体協議会を開催、活動参加の原点としている。

また、婦人ボランティアは各期ごとに集会を持って活動情報の交換を行い、地味ではあるが力強い活動が続けている。

② 平常期間の活動

平常期間は、定期的活動として次の活動を実施した。

・プレイ事業

火曜日 おはなし紙しばいの集い

水曜日 チャレンジゲーム大会

木曜日 (第3のみ) おはなし人形広場Ⅰ

金曜日 みんなであそぼうゲーム大会

土曜日 サタデープレイタイム

日曜日 プラモデル模型工作教室・さよならのつどい

・音楽事業

水曜日 ロビー活動補助

金曜日 ロビー活動「サンバ」指導補助

・体育事業

土曜日 「手足の不自由な子どもの水泳」指導補助

・保育研究開発部

月曜日から土曜日まで、幼児グループ、保育クラブ及び母子教室活動の保育補助。

このほか、毎週日曜日、保育室において「絵本の読みきかせ」を行っている。また、6月に開催された「こどもデパート」では、子供たちの活動を全面的にバックアップすると同時に、手作り遊具(竹トンボ)の店などの出店も行った。

③ 特別期間の活動

○ 春休みチャレンジゲーム大会(4.1~6)

○ 児童福祉週間(4.29~5.6)

「キャッスル・クエスト」の企画、運営

「おもしろピロティ劇場」の運営補助及び5月5日マックロー誕生日の集いの運営

○ 夏休み特別期間

「エンジョイレク広場」の企画、運営(7.24~27)

「ウォーター・アドベンチャー」の企画、運営(8.9~19)

「ミステリーハウス」におけるあそびガヤガヤ研究所のリーダーとして補助

○ 開館記念特別期間

「世界一周ジャンケン巡り」の企画・運営(11.1~4)

「ボランティア活動写真展」の写真の選定、展示

○ 冬休み特別期間

「昔あそび」の指導（1. 3～7）

「紙相撲初場所」の運営（1. 4～7）

○ 春休み特別期間

「春一番，記録に挑戦・チャレンジゲーム大会」の企画，運営（3. 26～31）

④ グループリーダーとして協力

「あそびガヤガヤ研究所」のグループリーダーとして1年を通して活動

⑤ キャンプ，合宿などへの参加

①「ちびっこ冒険団」8月8日～11日，②「ジュニア・アウトドア・スクール」8月1日～5日，③「スポーツキャンプⅠ」7月26日～29日，④「スポーツキャンプⅡ」7月30日～8月2日，⑤「キャッスル・キャンプⅠ」7月24・25日，⑥「キャッスル・キャンプⅡ」8月29・30日にグループカウンセラーとして参加

2) L. I. T. (Leader in Training) の養成と活動

「こどもの城」の開館以来，その諸活動に参加し，経験がある高校生のグループをL. I. Tと呼んでいる。本年度は，これをクラブの1つとして位置づけ，次の活動を実施した。参加者は25人。

2 研修教養

L. I. T. トレーニングスクール

日 時	内 容	備 考
4.22 (日)	発足式, オリエンテーション 「L. I. T. の役割と心得」	25人参加者
5.12 (土)	①「参加・体験・リーダーシップ」 ②「バスレクリエーション徹底講習会」	講義 実技講習会
5.20 (日)	ウォークラリー	7人参加
6.10 (木)	こどもデパート	
6.16 (土)	夏の活動について話し合い	
7.14 (土) 15 (日)	奥多摩, 御岳ロックガーデンにてテントの実習	15人参加
こどもの城 夏休み特別期間	① 8月1日～5日 「ジュニア・アウトドア・スクール」 ② 8月9日～19日 「ウォーター・アドベンチャー」 ③ 8月24日～31日 「ミステリーハウス」(ギャ研)	キャンプ実習 7.22事前講習会 イベント実習 イベント実習
9. 8 (土)	夏休み活動報告会	ミーティング
10.10 (水)	ウォークラリー	11人参加
10.11 (日)	東京小中学生センターとの交流会	
11.11 (日)	「レクリエーションゲーム」 ～小学生と楽しく遊ぶために～	実技講習会, 11人参加
12.15 (土)	あそびガヤガヤ研究所クリスマス会応援 「たのしいプログラムの企画と運営」 ～子供たちの心をつかむために～	講義と実習
12.16 (日)	クリスマス会	7人参加
12.23 (日)～ 12.28 (金)	年忘れジュニアゲーム大会	イベント活動
1.19 (土)～ 1.20 (日)	L. I. T. トレーニングキャンプ 「自己啓発トレーニング」 埼玉県入間郡高相寺	15人参加
2. 9 (土)	来年度計画立案	ミーティング, 8人参加
2.16 (土)	ミーティング スキーキャンプと来年度計画	7人参加
3.31 (日)	スキーキャンプ	11人参加

3) あそびガヤガヤ研究所の活動

「あそびガヤガヤ研究所」は、昭和60年に発足。各期の活動は9月から翌年の8月までとなっている。

＜第5期・平成2年4月～8月までの主な活動＞

○ 4月14日(土)・15日(日) 春の合宿(こどもの城において)、上半期の企画会議を中心に、研修、協議、親睦を目的として小・中学生合同の合宿を行った。

○ 5月 「こどもデパート」について協議及び準備

○ 6月10日(日) 「こどもデパート」参加

「こどもデパート」でのガヤ研の役割は、次のとおりである。

① マックロー銀行：金券発行、交換、売上げ集計

② 新聞社：壁新聞の作成、取材・速報

③ マックTV：イベントの館内への中継

④ イベント：ステージの運営、ビンゴ大会の運営

⑤ サービススタンプ社：各店にスタンプを置き、そこで買い物をすると台紙にスタンプを押し、それを集めてマックローと記念撮影をするもの

⑥ クリスタル・アドベンチャー：コリントゲームをやり、景品を出す店

⑦ ミニ劇場：紙芝居の公演、入場料20円、1公演3演題、1日4回公演

○ 6月17日(日) こどもデパート反省会

各担当から、意見を出し合い反省、評価

○ 7月8日(日) ミステリーハウス企画会議

夏休み、フリーホールで実施する「ミステリーハウス」について、全体のコンセプトをまとめ、作業グループを編成し、製作日程を立て、実施に向けてスタートの時とした。その後夏休みに入ってから各グループに分かれ製作に取り組んだ。

○ 8月24日～26日 合宿、「ミステリーハウス」の仕上げと実際の運営に当たった。入場者1日1,000人以上(27日から31日まではボランティアにより運営)

8月27日、全体で第5期の修了式を実施。充実した1年間の活動を振り返り、その土台の上に、第6期に向けて活動の継続を誓った。

＜第6期・平成2年9月から3年3月までの活動＞

第6期前半の活動は、過去の活動を分析し、次の考え方に立ってスタートした。

① 定員を50人とし、継続者と新規参加者をほぼ50% ずつとして組織する。

② ボランティアは担当グループを明確にし、ワーカーとして活動に参加する。

③ 平常のプログラムは、小学生と中学生を分離して活動するのを基本とする。ただし、クリスマス会、卒業生を送る会、合宿などは合同で行う。

④ グループメンバーの関係をより親密にするため、原則として月2回の集会をもつ。

⑤ 異年齢集団の活動により、子供文化の継承と創造に意を用い、小学生から中学生、そ

して「L. I. T.」へつなげるよう心がける。

・第6期の活動

募集 10月30日～11月7日まで。ただし、定員になり次第締め切る。

費用 年会費 4,000円

・11月11日 オリエンテーション 研究員の委嘱式と保護者会を実施

<小学生>

12月23日 合同クリスマスゲーム大会

1月13日(日) 小学生の全体協議

1月27日(日) ニューススポーツ大会

2月10日(日) 卒業お祝い会準備

2月17日(日) 後楽園遊園地へあそび体験学習

3月10日(日) 卒業お祝い会

<中学生>

12月23日 合同クリスマスゲーム大会

1月13日(日) 中学生企画会議

2月10日(日) 卒業お祝い会準備

3月3日(日) 「仮装大賞」,「こどもデパート」についての協議

3月10日(日) 卒業お祝い会

1年の活動を振り返ってみると、自発的、自律的、主体的なグループ活動とはなっておらず、スタッフやボランティアが何かしてくれるのを待つ姿勢が強い。

子供の真に子供らしさを引き出し、伸ばすことのできるよう、新しい活動の創出を模索し、活動の一層の充実を図っていきたい。

4) 児童厚生員等実技指導講習会

全国の児童館などの児童厚生施設で子供の指導にあたる児童厚生員を対象に、例年、年2回実施、本年度も5月と11月に行った。1回目35人、2回目55人が参加した。

第1回目は副題として、「子どもの心を引き込む活動づくりーその実技と展開法」を掲げ、事例研究、人形劇とは何か一人形作りから演じ方まで、チャレンジ・ザ・ゲームの展開など新しい児童館活動に必要な実技の習得を目標として行った。

参加者たちからは、日常活動の中で眠っていた可能性が講習会の中で引き出され、意欲的に活動に取り組むことができるようになったと感想が述べられた。

第2回目は、同じ副題ではあったが、この時期には「こどもの城」の開館5周年記念事業の1つとして、「フランツ・チゼック展」が開催されており、これをテーマとする講義と作品展の鑑賞を通じて、有意義な体験をしてもらうことができた。また、プレイ事業部職員の協力により、ニューススポーツの紹介と実践を行った。更に「影絵をつくる」実践を行い、一人ひとりがストーリー作りから実際の上演までに1日ばかりで取り組み、新しいレパートリー

IV 各部の活動(2)

を得ることができたと思われる。

このようにして、本年度まで通算10回にわたって行われた講習会は、児童館活動に新分野を開く1つの手掛かりとなっており、今後も充実を図っていきたいと考えている。

<プログラムスケジュール>

(第 1 回)

	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目
	5月18日(金)	5月19日(土)	5月20日(日)
7:00		起 床	起 床
8:00		洗 面	洗 面
9:00		朝 食 ・ 休 憩	朝 食 ・ 休 憩
10:00	受 付 開 始 開 講 式 オリエンテーション	「What is 人形劇?」(午前の部) 一人形作りから演じ方まで— そしてあなたの個性的な 表現を見つけましょう バベットマーケット代表 和 気 瑞 江 先生	「子どもの心をつかむ 児童館のプログラム」 —チャレンジ・・ザ ゲームの展開— 全国子ども会連合会 宇 田 川 光 雄 先生
11:00	レクリエーションで自己紹介		
12:00		昼 食 ・ 休 憩	昼 食 ・ 休 憩
13:00	昼 食 ・ 休 憩		
14:00	「地域が子どもを育てる」 —地域をとりこんだ子ども活動の事例研究— 江東文化センター 恩 田 大 進先生	「What is 人形劇?」(午後の部) 一人形作りから演じ方まで— そしてあなたの個性的な 表現を見つけましょう バベットマーケット代表 知 気 瑞 江 先生	講 習 の ま と め 閉 講 式 解 散
15:00		こどもの城 見学	
16:00	夕 食 ・ 休 憩	夕 食 ・ 休 憩	
17:00			
18:00	—オプショナル・プログラム(観劇)— 東宝特別公演「ペール・ギュント」 高橋一也(男闘呼組)主演 こどもの城青山劇場	こどもたちの心を動かし、 信頼を得る職員のあり方 —ロールプレイングによる実習— こどもの城プレイ事業部長 神 谷 明 宏	
19:00			
20:00			
21:00			
22:00	消 灯 ・ 就 寝	消 灯 ・ 就 寝	

2 研修教養

(第 2 回)

月日 時間	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目
	11月30日（金）	12月1日（土）	12月2日（日）
7:00		起 床	起 床
8:00		洗 面	洗 面
9:00		朝 食 ・ 休 憩	朝 食 ・ 休 憩
10:00	受 付 開 始 開 講 式 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	「影絵をつくる PART I」 (株)テンキー チーフデザイナー 石 井 秀 明 先生	「活動の援助者を語る」 ーボランティアの 協力を得るためにー こどもの城プレイ事業部 部長 神 谷 明 宏
11:00	レクリエーションで自己紹介		
12:00		昼 食 ・ 休 憩	昼 食 ・ 休 憩
13:00	昼 食 ・ 休 憩	「影絵をつくる PART II」 (株)テンキー チーフデザイナー 石 井 秀 明 先生	講 習 の ま と め 閉 講 式 解 散
14:00	「チゼックとこども達」 こどもの城造形事業部 部長 岩 崎 清		
15:00		「影絵をつくる PART III」 (株)テンキー チーフデザイナー 石 井 秀 明 先生	
16:00	こどもの城の見学		
17:00			
18:00	夕 食 ・ 休 憩	夕 食 ・ 休 憩	
19:00	「今人気のニューススポーツ紹介!!」	「レクリエーション ダンスの指導法」 東京都レクリエーション連盟 理 事 長 奥 野 正 恭 先生	
20:00	こどもの城プレイ事業部スタッフ		
21:00			
22:00	消 灯 ・ 就 寝	消 灯 ・ 就 寝	

5) 社会福祉講座

本年度は、成人を対象にした社会福祉講座を、4講座、1サークル、1特別講座実施した。これらの講座は、財団法人「広げよう愛の輪運動基金」の協賛を得て実施しているもので、福祉の輪を広げるのに役立つと考えられる。

なお「こどもの城」主催ではないが、警視庁教養課が警察署員のための手話講座を開いた。この種の講座が「こどもの城」の中で行われたことは、この施設がこのような形で社会福祉の向上に役立てられていることの1例であり、喜ばしいことであると思われる。

2年度 社会福祉コース講座実施一覧

講 座 名	期間・曜日・時	回数・ 定 員	受講 者数	講 師	受講料	対 象	備 考
前期 手 話 講 座	4. 10～ 8. 7 火 18:30～20:00	(回) (人) 全15 30	(人) 27	(社福)トット文化 館 館長 貞広 邦彦先生	(円) 10,500	高校生以上	・初心者と継続者の混合クラス。聴覚障害の人の交流会をもつ等、広く社会福祉の情報交換の場となるような内容。
点訳入門講座	4. 10～ 2. 19 火 18:30～20:00	全24 30	20	(社福)日本点字図 書館 河井久美子先生	14,500	18歳以上	・点訳の基本を学び、日常の文章が点字で打てるように指導。ボランティア活動をはじめようとする人に好適。
お話講座 —絵本のよみき かせからのし い表現活動へ—	5. 11～ 7. 13 金 18:30～20:00	全 8 30	33	足立高等保育学院 講師／児童劇作家 蓑田 正治先生	8,000	18歳以上 保育関係等 に勤める方	・保育現場等で、すぐ役立つ絵本の読み聞かせの基本から、複数人数で行う応用的な表現活動を実習を中心にする。
後期 手 話 講 座	9. 11～ 2. 19 火 18:30～20:00	全15 30	32	(社福)トット文化 館 館長 貞広 邦彦先生	10,500	高校生以上	・(前期からの)継続者が多いが、初心者参加も可能。(進行は、前期と同様)
点訳サークル	4. 24～翌 3. 19 火または金 月1回 18:30～20:00	全12 30	10	(社福)日本点字図 書館 河井久美子先生	9,600	点訳入門講 座修了者	・点字の基礎をマスターした点訳入門講座修了者のアフターケアの場。実際に視覚障害の人から希望のあった書物等をそれぞれが点訳奉仕する。

特別講座 「子どもの心を考える講座」	① 5.26 (土) ② 7. 8 (土) ③ 7.14 (土) 14:00~16:00	全3 60	63	大妻女子大学児童 学科教授 医学博士 平井 信義先生	5,000	18歳以上 関心のある 方／一般	・前年度までの 「現代の子ども たちを考える」 公開講座に替わ るものとして新 設。平井信義先 生の講義をじっ くり伺う。 <テーマ> ①「子育てとい うこと」 ②「子どもの心 をつかむ」 ③「子どもの個 性をのばす」
-----------------------	---	----------	----	---	-------	------------------------	---

特別講座「子供の心を考える」は、子供の成育環境の変化の中で、その健全育成上多くの問題が生じていることに対応し、大妻女子大学教授・平井信義先生を招き、3回連続の特別講座を開いたものである。定員60人に対し63人の受講者で開講した。子供を育てる過程での親のかかわり方を多角的にとらえて、問題解決の糸口を明らかにして受講者に深い感銘を与えた。

6) ジュニア・アウトドア・スクールなどの館外活動

子供たちに野外活動を体験してもらう活動を通じて、職員やボランティアリーダーが子供たちと生活をともにしながら、子供と触れ合い、子供の心をつかみ、これからの健全育成のための活動に役立ててもらうことを目的として、ジュニア・アウトドア・スクールなどの館外活動を実施した。

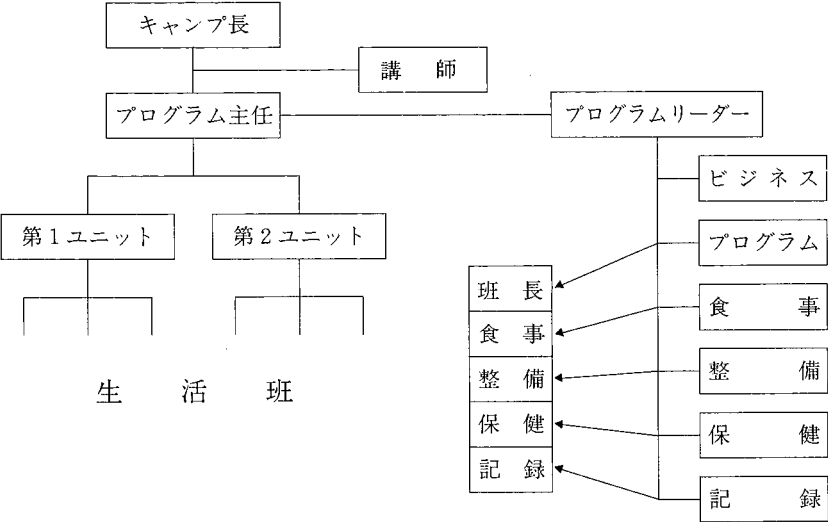
(ア) ジュニア・アウトドア・スクール（8月1日～5日）

本年度で7回目を迎えたアウトドア・スクールは、那須高原にある那須国民休暇村キャンプ場で総勢111人がテント生活を体験した。

雄大な那須の自然に囲まれて、小学校4年生からL. I. T. の高校生、大学生のボランティアまでの異年齢で構成されたキャンプは、自然の中での集団生活を通じて学ぶところが多く、日常生活では体験することのできない貴重な機会であった。

IV 各部の活動(2)

<スクールの組織と構成>



<参加者数>

参 加 者	小 学 校 4 年 生		小学校5・6年生		中 学 生		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	13	12	22	8	10	15	45	35
	25		30		25		80	
スタッフ	ス タ ッ プ		ボ ラ ン テ ィ ア		L. I. T.		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	2	0	7	18	2	2	11	20
	2		25		4		31	
合 計							男	女
							56	55
							111	

2 研修教養

<プログラム>

	第1日：7月22日(日) 〈事前講習会〉		第2日：8月1日(水) 〈キャンプ場第1日〉	第3日：8月2日(木) 〈キャンプ場第2日〉	第4日：8月3日(金) 〈キャンプ場第3日〉
	よい準備が成功のカギ		協力して楽しい班づくり	自然に楽しもう！	豊かな生活を創り出そう！
13：00	開講式 開会のことば ・主催者あいさつ ・スタッフ、リーダー紹介 オリエンテーション ・日程、現地状況、服装、持ち物、プログラム説明など 班編成発表	6：00	集合(こどもの城) 点呼、諸注意 出 発 バス車中 あいさつ、自己紹介 オリエンテーション、 レクリエーション キャンプ場到着 昼食・休憩 開村式 物品貸し出し 荷物整理 野外炊事講習 野外炊事実習 夕食・休憩	—消 灯—	—起 床—
		7：00		洗面・清掃 朝のつどい	洗面・清掃 朝のつどい
		8：00		野外炊事 朝食・休憩	原始火おこし実習 野 外 炊 事 朝食・休憩
		9：00		登山(ハイキング)	アドベンチャーゲーム
		10：00			
14：00	班別会議(参加者) ・自己紹介 ・役割分担 ・班名簿づくり 係別会議(参加者) 保護者会 ・講話 「キャンプ生活の意義」 ・班付リーダーとの懇談	12：00	非常食体験！ 昼食・休憩 帰村	野外炊事 昼食・休憩	
		13：00	フリータイム	グループタイム (バザール準備)	
		14：00	(ふるさとへのたより)		
		15：00			
		16：00			
15：30	全体会 ・出発前諸注意 ・事前連絡 ・テーマソング斉唱	17：00	給 食 夕食・休憩	真夏の夜、夢のバザール	
		18：00	ナイトウォークラリー		
		19：00			
		20：00			
		22：00	班別ミーティング 就寝準備 (中学生第1グループソロ体験)	班別ミーティング 就寝準備 (中学生第2グループソロ体験)	
16：00	閉会～解散	22：00	—消 灯— スタッフ打ち合わせ	—消 灯— スタッフ打ち合わせ	—消 灯— スタッフ打ち合わせ

Ⅳ 各部の活動(2)

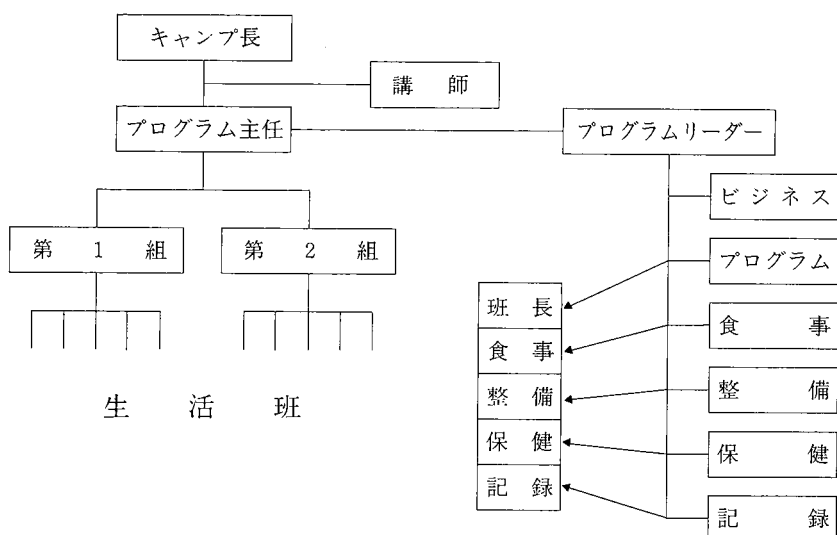
	第5日：8月4日(土) 〈キャンプ場第4日〉	第6日：8月5日(日) 〈キャンプ場第5日〉		10月7日(日) 〈事後講習会〉
	新しい発見をしよう！	よい思い出を胸に		仲間との生活をふりかえる
6：00	起 床 洗面・清掃 朝のつどい	起 床 洗面・清掃 朝のつどい	13：00	開会 あいさつ
7：00				
8：00	野外炊事 朝食・休憩	野外炊事 朝食・休憩		班会議（参加者） ・まとめ ・発表
9：00				
10：00	追跡ハイキング	撤収作業 物品返納 テントサイト整理		保護者会 ・個人記録の配布 班付リーダーとの懇談
12：00				
13：00	野外炊事 昼食・休憩	お弁当 昼食・休憩		
14：00	選択プログラム ・記念品をおみやげに！ ・おやつを作ろう！ e t c …	閉村式 —— キ ャ ン プ 場 出 発 —— バス車中 ・おやすみ ・レクリエーション ・感想発表	16：00	野営長講評 テーマソング斉唱 事務連絡 閉会～解散
16：00				
17：00	野外炊事 夕食・休憩			
18：00				
20：00	さよならキャンプファイヤー	帰着、解散（こどもの城） *プログラムは天候，その他の状況で変更があります。 *帰着・解散時刻は交通事情 その他で早くなったり，遅くなったりします。		
22：00	班別ミーティング 就寝準備 消 灯 スタッフ打ち合わせ			

(イ) ジュニア・スキー・キャンプ（3月31日～4月4日）

毎年、新潟県津南町にあるグリーンピア・津南で実施してきたスキーキャンプは本年は暖冬、雪不足で、好コンディションでの開催が危ぶまれたが、現地の努力で予定どおりのキャンプを実施することができた。

このスキーキャンプは、スキーの基礎技術を学ぶばかりでなく異年齢の集団生活、しかも1人ひとりが役割を持って参加するという形を取り、交流（スタンツナイトなど）、協力（ナイトウォークラリー）、創造（各班の生活づくり）と発展していくことをねらったもので、子供たちに大きな成長への刺激となったものと考えられる。

〈キャンプの組織と構成〉



〈参加者数〉

参加者	小学校3・4年生		小学校5・6年生		中学生		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	(12)	(11)	(8)	(20)	(11)	(14)	(31)	(45)
	(23)		(28)		(25)		(76)	
スタッフ	スキー講師		スタッフ		ボランティア		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	(3)	(4)	(3)	(0)	(7)	(13)	(13)	(17)
	(7)		(3)		(20)		(30)	
合計							男	女
							(44)	(62)
							(106)	

IV 各部の活動(2)

<プログラム>

	第1日：3月21日(水・祝) 事前講習会		第2日：3月31日(土) キャンプ第1日		第3日：4月1日(日) キャンプ第2日	第4日：4月2日(月) キャンプ第3日
	おたがいをよく知ろう		協力して愉快的な班づくり		雄大なグレンデはぼくらの教室だ	えがけ大きなぼくらのシェパードを
13：00	開講式 ・開会のことば ・主催者あいさつ ・昨年の記録ビデオ上映 ・スタッフ・リーダー紹介 オリエンテーション ・日程、現地状況、服装、持ち物・プログラム説明など 班編成発表	8：00	集合(こどもの城) 点呼、諸注意 出 発 バス車中 あいさつ、自己紹介 オリエンテーション 昼食、休憩 ↓ レクリエーション	6：30	— 起 床 — 洗面・清掃 7：15 朝のつどい 7：45 朝食、休憩 8：30 — スキーの用意 — 9：00 スキー教室開講	— 起 床 — 洗面・清掃 朝のつどい 朝食、休憩 — スキーの用意 — スキー教室
14：00	班別会議(参加者) ・自己紹介 ・役割分担 ・班名簿づくり 係別会議(参加者)	14：00	— 宿 舎 到 着 — 開校式 部屋割り当て 荷物整理 スキー貸し出し スキークラス分け	12：00	朝食、休憩 — スキーの用意 — 13：30 スキー教室 15：00 反省、注意 15：30 自由時間 入浴(班ごと)	— スキーの用意 — スキー教室 反省、注意 自由時間 入浴(班ごと)
15：30	保護者会 ・講話 「集団活動の意義」 ・班付リーダーとの懇談	18：00	夕食、休憩 19：00 スキーオリエンテーション 交歓の夕べ	18：00	夕食、休憩 19：00 ナイトウォークラリー 20：30 班会議 就寝準備	夕食、休憩 自由時間 入浴(班ごと) 夕食、休憩 スタンツナイトの夕べ 班会議 就寝準備
16：00	全体会 ・出発前諸注意 ・事務連絡 ・テーマソング斉唱	20：30	入浴 班会議 就寝準備	22：00	— 消 灯 — 本部打ち合わせ	— 消 灯 — 本部打ち合わせ
	閉会～解散	22：00	— 消 灯 — 本部打ち合わせ		— 消 灯 — 本部打ち合わせ	— 消 灯 — 本部打ち合わせ

2 研修教養

第5日：4月3日(火) キャンプ第4日		第6日：4月4日(水) キャンプ第5日		6月3日(日) 事後講習会
よい思い出を胸に				仲間との生活をふりかえる
6:30	——起—— 床—— 洗面・清掃	——到着(こどもの城)—— 解 散	13:00	開講式 開会のことば
7:15	朝のつどい			記録VTR上映
7:45	朝食・休憩			班会議(参加者)
8:30			16:00	・まとめ
9:00	みんなのデモンストレーション ボールやジャンプに挑戦!			・発表
12:30				保護者会
	昼食, 休憩			・個人記録の配付
13:30	組別対抗雪上アドベンチャーゲーム			・班付リーダーとの懇談
14:30	自由時間			野営長講評
17:00	入 浴(班毎)			テーマソング斉唱
18:00				事務連絡
19:00	夕食, 休憩			閉会～解散
21:00	荷物整理 閉講式 バス乗車,(さようならゲレンデ)			

7) 実習生・研究生の受け入れ

本年度は、実習生 6 人、研究生 1 人を受け入れた。

原稿 381 表組

平成 2 年度こどもの城実習生・研究生受け入れ状況

実 習 目 的	学 校 名	人 数	受入れ事業部	期 間
健全育成奉仕	昭和女子大学	1 (オーストラリア)	保育・プレイ・ 研修教養部	6 月 9 日～14 日
社会体育実習	国際武道大学	1	体育事業部	8 月 5 日～18 日
〃	東京健康科学専門学校	3	〃	7 月 1 日～14 日
国 際 理 解	米国ハーバート&ワイリアル スミス大学	1	プレイ・音楽・ 国際交流部	
小児保健研修		1	小児保健部	10 月～9 月 毎週 1～2 回

◎ふれあいの場 おもちゃ図書館

心身に障害のある子供たちを対象としたおもちゃ図書館は、昭和62年度に開設以来4年を経過し、順調に運営されている。利用者の定着も図られ、ボランティアと利用者の触れ合いの場として楽しい遊びを展開している。障害ある子の利用が比較的少ない時間帯における一般来館の子も受け入れる試みは、ボランティアにも利用者にもなじみ、障害ある子及びおもちゃ図書館に対する理解を広げている。

また、通常のおもちゃ図書館の運営のほか、6月2日、こどもの城研修室で「おもちゃ図書館おたのしみ会」を開催し、都内のおもちゃ図書館関係者と親子、ボランティアが楽しく交流した。更に10月20日から24日までの5日間、アトリウム・ギャラリーで財団法人日本おもちゃ図書館財団、おもちゃ図書館連絡会、各玩具メーカーの協賛を得て、各種のおもちゃの展示、相談などを内容とする「豊かな遊びをひろげるおもちゃ展」を開催し、一般の理解を得るとともに好評を得た。

◆おもちゃ図書館の運営（おもちゃ図書館マックロー）

- ①開館日 週1回毎週水曜日11:00～16:00
- ②対象 就学前の心身障害児（保護者同伴）
- ③利用料 無料
- ④おもちゃの貸し出し 1人2個、2週間程度
- ⑤対応 おもちゃ図書館ボランティア・グループ

区 市	登録者	区 市	登録者
	(人)		(人)
世田谷区	18	大田区	7
港区	17	新宿区	3
渋谷区	14	板橋区	3
練馬区	10	横浜市	15
杉並区	8	その他	16
目黒区	7	(台東区・中野区ほか)	
計		118	

	開館回数	利用者延べ数 (保護者・児童)	おもちゃ 貸出数	ボランティア 活動人数
平成	(回)	(人)	(回)	(人)
2. 4	3	20	10	12
5	5	24	16	18
6	5	38	19	15
7	4	36	15	12
8	5	58	34	15
9	3	11	3	8
10	4	16	15	12
11	4	60	30	17
12	3	160	18	7
3. 1	4	72	17	15
2	4	32	12	15
3	4	54	21	21
計	48	581	210	167

3 国際交流部

IV 各部の活動(2)

(1) 2年度活動一覧表 1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
“クリスマス” にあいたいな	12.8 (土) ～ 9 (日)	12.8 ① 2:00 ② 4:00 12.9 ① 11:00 ② 1:00 ③ 3:00	青山円形劇場	(円) 1,000 (3歳以上同一)	(人) 国際交流部 1 企画部 2 劇場事業本部 外部スタッフ	2か国語 ファミリー・ プログラム 14弾

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
ART SCAPE 展覧会	4.21 (土) ～ 5.6 (日)	開館時間中	アトリウム・ ギャラリー	(円) —	(人) 国際交流部 1 企画部 2	東京近郊のイ ンターナショ ナル・スкуль ルの美術展
BIRTHDAY PICNIC	5.5 (土) ～ 6 (日)	5.5 ① 11:00 5.6 ② 1:30 ③ 4:00	青山円形劇場	1,000 (3歳以上同一)	国際交流部 1 企画部 2 劇場事業本部 外部スタッフ	2か国語 ファミリープ ログラム 13弾
ART PALS 展覧会	7.21 (土) ～ 31 (火)	開館時間中	4 F ロビー	—	国際交流部 1 企画部 2	ニューヨーク 市立校との作 品交換展示
開館5周年 バースデー・ カード展示会	11.1 (木) ～ 11 (日)	開館時間中	エントランス ホール	—	国際交流部 1 企画部 2	アメリカのチ ルドレン・ ミュージアム の作品

3) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
パフォーミン グ・アーツ・ グループ	小1～ 小6年	(人) 30	(人) 27	水曜日 4:30 ～ 6:30	B リハーサ ル室 音楽スタジ オB	4.11～6.20 12	(円) 18,000	(人) 職員 ベイブ・ハンナ シンシア・ フィッシャー キャシー・カンパ・ ビリーナ
		30	39			9.19～12.13 12	18,000	
		30	32			1.9～3.13 10	15,000	

(2) 国際交流部の活動

国際交流部では、次にあげる2つを大きな柱として事業を実施した。

①こどもの城への外国人来館者に対する英文の広報活動と、外国人来館者増を目的とした英文雑誌・英字新聞等へのPR活動

②在日の外国人と日本人の家族単位の交流プログラムの企画・実施

「英文の広報活動」については、毎月の行事案内をトーキョー・ウィークエンダー、トーキョー・ジャーナル等に送付し記事に掲載してもらった。

そのほか、特別期間の催し案内については、それぞれ英語版を製作して印刷し、来館者に配布した。同時に英字新聞やインターナショナル・スクール、米軍基地、教会などにまとめて送付し、外国人来館者の増加に努めた。

最近では英語圏以外の国からの来館者も増え、韓国語・中国語・スペイン語などの対応が要求されることも多く、館内の放送システムや催し案内を増強していかなくてはならないだろう。

1) 平常期間

(ア) “クリスマス”にあいたいな(12月8・9日)

青山円形劇場で開催する恒例の2か国語クリスマス行事。12月後半のクリスマス・シーズンには在日外国人の多くが帰国したり、教会のクリスマスに参加するため、12月初めの週末にちょっと早めのクリスマス行事を企画した。

(株)ソニー・クリエイティブプロダクツの協力を得て、タマ・トラ(猫)、・ポチ(犬)の3体の着ぐるみを登場させ、パフォーミング・グループとのコミカルなショーを展開、ほかに観客から参加者を募ってのクリスマス・ソング替え歌カラオケ大会、ファミリー・ディスコなどで構成。

時期を早めたこと、前売開始日前に英字新聞に掲載されたことなどで、例年より多くの外国人参加者が集まった。

2) 特別期間

(ア) アートスケープ '90(4月21日～5月6日)

5回目を迎えた東京・横浜地区のインターナショナルスクールの生徒の美術作品展。参加校はアメリカン・スクール・イン・ジャパン、クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン、清泉インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクール、セントメリーインターナショナルスクール、セントモアインターナショナルスクール、横田ハイスクール、横浜インターナショナルスクール、セントジョセフインターナショナルスクールの9校。70か国を超える国籍の5年生から12年生の生徒たちの彫刻・陶芸・ガラス工芸・油絵・水彩画・デッサン・写真など約400点がアトリウム・ギャラリーに展示された。

(イ) バースデー・ピクニック (5月5・6日)

幼児から小学低学年とファミリーを対象に家族で楽しめる催しを青山円形劇場で開催。(株)ファミリアの協力で、スヌーピーやピーターラビットの着ぐるみが参加。ファミリアのキャラクターのファミリアとリア、「こどもの城」のマック・マックローも一緒になって、ピクニックにでかける設定でショーが始まった。ピクニックの途中で、持っているもの(鍵や靴)を皆で鳴らすゲームや歌遊びなどを取り入れ、観客もピクニックに参加出来るよう工夫した。大きなパラシュートのゲームを初めて取り入れたが、動きも大きく一度に多くの人が参加でき、子供たちの人気を集めていた。

(ウ) アートパル '90 (7月21~31日)

ニューヨーク、マンハッタンこども美術館の美術教室に通う57人の子供たち(10歳~12歳)との、美術交換プログラムとして実施。ニューヨークからは子供たちの作った人形と写真、自作の人形劇のビデオが届き、これを4階ロビーに展示した。「こどもの城」からはパフォーミング・アーツ・グループのメンバーなど約45人がお化粧のパフを使った指人形を作り、切り文字の名前・写真とともに台紙にはり、送った。外国では珍しい和紙を使うなどの工夫もした。

(エ) 開館5周年バースデー・カード展示会 (11月1日~11日)

アメリカの3つのチルドレンズ・ミュージアム(マンハッタン・カレイドスコープ・ロサンゼルス)の子供たちから届いた、こどもの城開館5周年のバースデー・カード、約100点をエントランスホールに展示した。やっとな字を覚えただけの小さい子供の作品や、写真入りのカードもあった。

3) 講座・クラブ

(ア) パフォーミング・アーツ・グループ

1期27人、2期39人、3期32人が受講。1期の4月から5月までは「バースデー・ピクニック」の練習、出演、6月からはダンスにベイブ・ハンナ氏(2回)、発声にシンシア・フィッシャー氏(2回)、ムーブメントにキャシー・カンパ・ビリーナ氏(1回)をそれぞれ講師に迎え、基礎を学ぶことに集中した。2期には、子供たちに人気の高かったベイブ・ハンナ氏を継続してダンスの講師に迎え「“クリスマス”にあいたいな」に向けてダンスの練習をした。日本、アメリカ、イギリス、韓国と各国からの子供たちが参加しての練習風景は国際色豊かであった。3期には「アートパル '91」のための人形作り、作った人形を使ってのオリジナル人形作り、人形劇のビデオ収録を行った。

1) 業務の概要

業 種	店 名 等	場 所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備 考
ホテル	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月29日から1月2日までを除く）	洋室24室（シングル3，ツイン10，デラックスツイン11）和室3室（4人用1，5人用1，10人用1）料金1泊6,300円から（税込み）
飲 食 関 係	レストラン・ラブニール	8 階	客席数 60	毎週月曜日休業 （開業時間） ランチタム 11：30 ～14：00 ディナータイム 17：00 ～21：30	洋食全般及びパーティー等
	カフェテラス・アンファン	1 階	客席数 140	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 7：30 ～20：30	喫茶，軽食及び弁当仕出し等 ホテル宿泊者の食事
	すし・ひさご	1 階	カフェテラス・アンファン内	無休（12月29日から1月24日までを除く） （開業時間） 11：00 ～20：30	すし，和食及び弁当・料理の仕出し等
	コーヒーラウンジ・アミティーエ	2 階	客席数60	毎週月曜日休業 （開業時間） 11：00 ～20：00	喫茶，軽食
	劇場内・スナック	青山劇場 内地下ロビー及び 2階ロビー	立 食	公演に合わせて開業 （開業時間）開演前・幕間	同上
貸し室	研 修 室	8～9階	客 室 10 （一部通して 使用できる） 利用人員350 人ぐらいまで	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 9：00 ～21：00	研修及び会議等 料金 1単位時間 9,500円から （税別）

IV 各部の活動(2)

業 種	店 名 等	場 所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備 考
貸 室	ギ ャ ラ リ ー	1階アトリウム		無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 10：00 ～18：00	各種展示会及び実演等 料金 1日 30,000円 から（税別）
	フ リ ー ホ ー ル	地下1階		無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 9：00 ～21：00	自由な企画で利用 料金 1日 55,000円 から（税別）
物 品 販 売	売 店	1階アトリウム 3階ロビー 青山劇場 地下ロビー	3か所	毎週月曜日休業（劇場ロビー売店は公演に合わせて開業） （開業時間）開館時間と同じ	絵画、造形用品、文具、遊具、玩具、印刷出版物、電気用品、音楽用品、衣料、スポーツ用品、劇場関連用品、催事関係用品、雑貨等
	自 動 販 売 機	館内各所	飲食・乳販売 12か所 たばこ販売 7か所	無 休	通常ドリンク類、牛乳類、スナック類
	酒 類 販 売	青山劇場 地下ロビー及び2階ロビー	2か所	青山劇場公演に合わせて開業	全酒類の小売り
公 衆 電 話		館内各所	16か所	無 休	
駐 車 場		地下2階 ～地下4階	約113台（業務用車両分を含む）	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 8：00 ～22：30	一般車両は地下駐車、バス等大型車両は1階ビロティに駐車 料金 普通車両の場合 1時間410円

- 注）1. この表は、平成3年4月1日以降の利用者サービス事業について掲げたものである。
2. 春休み、夏休み、冬休み等の特別期間については、「こどもの城」全館の日程に合わせて休業日にも営業を行う。
3. 劇場公演日程に合わせ、関連部門は休業日であっても休業しないで営業する。
4. 各事業部の事業上必要なときは、当該事業に合わせて可能な限り上記場所以外でも営業を行う。

2) 業種別の状況

(ア) ホテル

営業収入は、63年度1億261万円、平成元年度1億323万円、平成2年度1億990万円となっている。この増収は本年度において室料を約7%値上げしたことによるものである。

客室がどのように利用されたかを本年度についてみると、客室利用率（注1）は全体で82%、客数比率（注2）では72%となっており、前年度に比べ利用効率は横ばいの状況にある。

客数比率が客室利用率に比べて低いのは、主としてツインルーム及び和室の利用人員が客室定員より少なかったためなどの理由によるものである。今後とも利用効率の向上に努めるとともに顧客に対するサービスの向上等に努力していく必要がある。

ホテル利用状況

客 室 種 別	客 室 利 用 率	客 数 比 率
シ ン グ ル	85.1%	85.1%
ツ イ ン	83.1%	77.9%
和 室	70.1%	57.6%
計	81.9%	72.2%
総 利 用 者 数	16,542 人	

$$(\text{注1}) \text{ 客室利用率} = \frac{(\text{期間中利用室延数})}{(\text{期間中日数} \times 27 \text{ 室})} \times 100$$

$$(\text{注2}) \text{ 客 室 比 率} = \frac{(\text{期間中利用客延人員})}{(\text{期間中日数}) \times \text{定員64人}} \times 100$$

(イ) レストラン・喫茶

飲食5店舗の営業成績は、こどもの城の入館者数、劇場公演及び各種会議等によって大きく左右されることになるが、営業収入で見ると、前年度3億6,550万円、本年度4億592万円で、対前年度比11%の増収となり極めて好成績を収めた。これは、近隣企業及び会議室、ホテル利用者にチラシ等の配布をしてPRに努めたことと、各店のメニューの見直しを行い、外部の一般客の利用拡大を図ったことによるものと思われる。今後も引き続き喫茶メニューの改善、料金の低廉化とサービス向上を図っていく必要がある。

(ウ) 貸し室・ギャラリー・フリーホール

利用は開館以来、依然として増加傾向が続いている。売り上げ額は今年度9,911万円に達した。研修室の利用率も平均で70%を超えた。特に午後だけで見ると85%を超え、限界に近づいている。利用の内容は外部への有料貸しのほか、こどもの城の企画による催事等にも利用されている。とりわけ春、夏、冬休み、ゴールデンウィークなどの特別期間中は、研修室、ギャラリー、フリーホールのいずれも内部利用の割合が極めて高く、こどもの城の限られたスペースでの充実したプログラムづくりに寄与している。

研究室利用状況

区 分 項 目	年 計						
	有 料 利 用		内 部 利 用		計		
	件 数	利 用 率	件 数	利 用 率	件 数	利 用 率	
研 修 室	午 前	2,117	59.1%	354	9.8%	2,471	69.0%
	午 後	2,648	73.9%	390	10.8%	3,038	84.8%
	夜 間	1,734	48.4%	319	8.9%	2,053	57.3%
	計	6,499	60.5%	1,063	9.8%	7,562	70.4%
フリースペース	31	2.8%	589	54.8%	620	57.7%	
ギャラリー	57	15.9%	180	50.2%	237	66.2%	

注) 利用率は次により算出した。

1) 研修室は(午前・午後・夜間)の件数を358日×10室=3580で除した。

(計)については件数を358日×10室×3=10740で除した。

2) フリースペースについては件数を358日×1室×3=1074で除した。

3) ギャラリーについては件数を358日×1か所で除した。

(二) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理等については、前年度に引き続き「こどもの城」事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。これらの収入の状況は、平成元年度1億4,214万円と、本年度1億5,406万円となっている。「こどもの城」の利用を促進していく上で、これらの利用者サービス事業はどれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

フリースペース使用一覧

催 事 名	期 間	主 催	備 考
造形スタジオ	2.4.24~5.27	こどもの城造形事業部	(ギャ研) 貸しスペース
エンジョイレク広場Ⅰ	2.7.24~7.27	" 企画部	
夏休みおはなし広場Ⅰ・Ⅱ	2.7.28~8.8	" "	
ミステリーハウス '90	2.8.21~9.1	研修教養部	
第3回創価学生写真展	2.9.24~9.30	創価学生祭	
開館記念人形劇フェアⅠ・Ⅱ	2.11.3-4, 11.23-25	こどもの城企画部	
クリスマス人形劇フェア	2.12.22~12.27	" "	
お正月の遊び大集合(風作りコーナー)	3.1.4~1.7	" "	
"	3.1.13, 15	" "	

ギャラリー使用一覧

催 事 名	期 間	主 催	備 考
木と造形	2. 3. 13～4. 11	こどもの城造形事業部	
第13回全国はり絵展	2. 4. 12～4. 19	日本情操教育振興会	貸しスペース
アートスケープ' 90	2. 4. 20～5. 7	インターナショナルスクール9校	
遊びと造形発想展	2. 5. 29～6. 21	こどもの城造形事業部	
上智大美術展覧会	2. 6. 23～6. 24	上智大美術研究会	貸しスペース
MOA BRANCH KIDS SUMMER '90	2. 6. 29～7. 1	MOA	〃
光と造形	2. 7. 5～9. 9	こどもの城造形事業部	
“Portrait Gallery” 第1回展	2. 9. 7～9. 9	山手正彦	貸しスペース
草月流いけ花草映会	2. 9. 11～9. 16	草月流草映会	〃
エスポアール	2. 9. 17～9. 23	エスポアール	〃
第3回創価学生写真展	2. 9. 24～9. 30	創価学生祭	〃
東京都姉妹友好都市（州）児童生徒書画展	2. 10. 12～10. 18	（財）東京都文化振興会	〃
豊かな遊びをひろげるおもちゃ展	2. 10. 19～10. 24	おもちゃ図書館・こどもの城	共 催
造形スタジオ展	2. 10. 25～12. 6	こどもの城造形事業部	
第9回肢体不自由児・者の美術展	2. 12. 7～12. 14	（財）肢体不自由児協会	
お正月の遊び大集合	2. 12. 18～3. 1. 17	こどもの城企画部	
第14回全国はり絵展	3. 3. 1～3. 7	日本情操教育振興会	貸しスペース
第38回全国小中学生優秀作品コンクール展	3. 3. 8～3. 18	（財）児童憲章愛の会	協 賛
国際ジュニアデザインコンペティション	3. 3. 21～4. 1	べんてる(株)	貸しスペース

IV 各部の活動(2)

営業許可等の状況

業 種	店 名 等	営業許可を 受 け た 日	営業許可番号	行 政 庁	備 考
旅 館 業	こどもの城ホテル	昭60.10.30	60澁保衛環旅 第 10 号	渋谷区保健所	表示基準適合（渋谷消防署） 昭62.10.1澁予762号
飲 食 業 (飲食店)	レストラン・ ラブニール	昭60.10.22	60澁保衛食ほ 第 1552 号	〃	
〃	カフェテラス・ アンファン	昭63.11.12	60澁保衛食ほ 第 2307 号	〃	
〃	コーヒーラウンジ・ アミティーエ	昭60.10.22	60澁保衛食ほ 第 1554 号	〃	
〃	劇 場 ス ナ ッ ク	昭60.10.22	60澁保衛食ほ 第 1553 号	〃	
〃	自 動 販 売 機	昭60.10.31	60澁保衛食ほ 第2072～5号	〃	
(喫茶店)	〃	昭60.11.20	60澁保衛食ほ 第2308～9号	〃	
〃	〃	昭60.11.30	60澁保衛食ほ 第 2310 号	〃	
乳 類 販 売	〃	昭60.11.20	60澁保衛食ほ 第 2311 号	〃	
食 料 品 販 売	〃	昭61.4.28	60澁保衛食れ 第20. 21号	〃	
たばこ小売		昭60.9.30		大 蔵 省 関 東 財 務 局	
酒 類 販 売	劇場ロビー	昭62.3.9	澁間第 200 号	渋谷税務署	

注) 期間が定められている許可等については、当該期間満了後更新手続きをとっている。

V その他の活動

1	こどもの城全国連絡協議会	183
2	チャリティー事業	186
3	こどもの城友の会	187
4	開館5周年記念事業	188
5	アンケート調査結果	197

本協議会は、全国の児童の健全育成に資することを目的とし、会員相互の提携により、全国の児童センター・児童館等児童厚生施設の活動の進展を図るため、次の事業を行った。

1) 事業実施状況

(ア) 情報交換・資料提供

(1) 機関誌の発行

全国の児童館等へ年4回（6・9・12・3月）4,800部余を送付し、「こどもの城」各部門の活動状況の周知に努めた。

(2) 情報交換・資料提供等の協力援助

① こどもの城の情報

全国の児童館等へ、「こどもの城ニュース」を年6回（4・6・7・10・12・2月）4,800部余と、「こどもの城事業年報」を送付し、各地域の児童館活動の参考に供した。

② 地域児童館等の情報

次の資料を全国の児童館等へ送付し、各館の活動の振興に供した。

- ・児童館等の活動実践集（東京都児童会館発行）
- ・ジュニア・アウトドア・スクールの記録（こどもの城発行）

(イ) 児童文化・芸能等の活動

(1) こどもの城・おまつり劇場を開催（青山円形劇場）

こどもの城三味線グループ・和太鼓グループ等の子供たちが全日本郷土芸能協会等の協力を得て、「花のお江戸は夏まつり」を開催し、江戸の昔から伝わる三味線・おはやし・日本舞踊などの伝統芸能を楽しく紹介、また、埼玉県鷲宮町の郷土芸能を伝承する子供たちが、鷲宮神社に伝わる江戸神楽の原点ともいわれる素朴で優美な「お神楽」も披露した。

実施期間……………8月14～16日（3日間、6公演） 入場人員……………約1,500人

(2) こども卓球大会（こどもの城）

東京都内の児童館で活動に参加する小・中学生たちによる卓球大会を開催し、子供たちの交流を深め、児童館活動の活性化を図った。

実施期間……………8月18・19日 参加者……………48チーム、約350人

(3) ブルーノ・ムナリー展（ぐんまこどもの国児童会館）

ぐんまこどもの国児童会館の開館行事の一環として、「こどもの城」が所有している資料によって「ブルーノ・ムナリー展」の開催に協力、子供の造形を考える機会を広く県民に提供した。

主 催……………財団法人 群馬県児童健全育成事業団

展示期間……………10月20日～11月4日（16日間）

（注）ブルーノ・ムナリー氏はイタリアの著名な芸術家で、造形指導の分野で先駆的な業績をあげている。

昭和60年11月、こどもの城開館記念事業「ブルーノ・ムナリー展」に来日した。

(ウ) 児童厚生員等の研修・現任訓練

平成2年5月及び11月・12月に、各2泊3日の日程で、「こどもの心を引きこむ活動づくり－その実技と展開法－」についての実技指導講習会を開催し、たいへん好評であった。

児童厚生員等実技指導講習会プログラム

名 称	時 期	講 習 内 容
児童厚生員等実技指導講習会 (第1回)	5月18日(金) ～ 20日(日)	子供遊びの実践的な指導力の養成に焦点を合わせ、子供文化としての「人形劇」人形の作り方、演じ方等を中心に指導力を高める講習。(参加者 18都道府県, 35人)
同 上 (第2回)	11月30日(金) ～ 12月2日(日)	子供遊びの実践的な指導力の養成に焦点を合わせ、子供文化としての「影絵づくり」などを中心に指導力を高める講習。(参加者 18都道府県, 55人)

2) 総会・幹事会等

平成3年2月28日午前(幹事会)・午後(総会)をそれぞれ開催し、本協議会の事業・予算・決算について審議決定した。

なお、各都道府県(指定都市を含む)児童福祉主管課・児童館連絡協議会及び関係団体等の本会入会状況及び役員は次のとおりである。(3年2月末現在)

1. 会員数

区 分	入 会 (件)	未 入 会 (件)
県(指定都市)	51	7
団 体	6	
計	57	7

2. こどもの城全国連絡協議会役員

区分	氏 名	選出ブロック	所属する会員組織の役職名	勤 務 先
会 長	小島弘仲	こどもの城	日本児童手当協会理事会	財団法人 日本児童手当協会
副会長	柿崎茂樹	東 京	東京都公立児童厚生施設 連絡協議会長	東京都児童会館
副会長	濱上征士	近 畿	大阪府福祉部児童福祉課長	大阪府福祉部児童福祉課
幹 事	竹野内政彦	北 海 道	北海道児童館連絡協議会長	釧路市福祉部児童家庭課
幹 事	中村哲雄	東 北	宮城県市町村児童館連絡協議会長	名取市益田児童センター
幹 事	岩本憲道	中国・四国	広島県児童館連絡協議会長	く る み 園
幹 事	久々山義人	九 州	熊本県児童館連絡協議会長	本 渡 市 市 役 所
幹 事	田代 實	こどもの城	日本児童手当協会常務理事	財団法人 日本児童手当協会
会 計 監 事	原 弘孜	関 東	神奈川県公立青少年育成施設 連絡協議会長	神奈川県立 青少年センター
会 計 監 事	稲垣元保	中 部	愛知県児童館連絡協議会長	知立市福祉センター

(注) 役員の任期は、平成6年3月(定期総会時)までとする。

3) 会 計

こどもの城全国連絡協議会会計を設け、会費及び日本児童手当協会助成金を原資として、前記の業務に関する経理を次のとおり施行した。(2年度収支計算書)

(収入の部)

科 目	2 年度	備 考
	(円)	
繰越金収入	528	会費は1会員年 5,000円とする。
会費収入	285,000	
日本児童手当協会助成金収入	4,760,000	
雑収入	23,562	
計	5,069,090	

(支出の部)

科 目	2 年度	備 考
	(円)	
役員会・総会費	427,329	収支差額 1,030 円は次年度繰越 金とする。
業務諸費	24,024	
機関誌発行費	1,904,771	
協力援助費	2,711,936	
計	5,068,060	

養護施設などから1,000人を劇場招待

本年度「こどもの城」チャリティ事業は、前年度に引き続き青山劇場、青山円形劇場の観劇招待を中心に、館内見学及び夏休み、お正月などの特別企画行事の招待など幅広い活動を進めた。

本年度中の青山劇場、青山円形劇場におけるチャリティ観劇は養護施設などの児童等を対象に延べ26回、1,050人を招待した。

その内訳は、養護施設などの児童30か所、426人、母子寮の母子17か所、126人、障害児・者のグループ18か所、161人、児童相談センター等の一時保護児童69人、そのほかホームヘルパー、ボランティアなど268人となっている。

平成2年度チャリティ事業による観劇招待一覧

	実施月日	実施回数	実施場所	実 施 演 目	参加実人員	対 象 者
1	2年 7月30・31日	(回) 2	青山円形劇場	五線譜のなかの動物たち	(人) 60	養護施設等の児童 母子寮の母子
2	8月4～7日	3	〃	伝でん奥美濃ばなし	74	養護施設等の児童
3	8月10～12日	4	〃	キリン民話劇場	38	養護施設等の児童 母子寮の母子
4	8月21・22日	2	青 山 劇 場	ミュージカル 「ぼくのシンデレラ」	113	養護施設等の児童 母子寮の母子 肢体不自由児施設の児童
5	8月19～23日	5	青山円形劇場	ピノキオ	46	養護施設等の児童 母子寮の母子
6	9月6日	1	青 山 劇 場	ミュージカル 「ピーターパン」	110	肢体不自由児施設の児童 児童相談センターの児童 社協ボランティア
7	11月4～15日	4	〃	龍の子太郎	429	養護施設等の児童 母子寮の母子 児童相談センターの児童 社協ボランティア 肢体不自由児施設の児童
8	3年 1月5～7日	3	青山円形劇場	「おとぎの国のメルヘン通り」	76	養護施設等の児童 母子寮の母子 社協ボランティア
9	3月20～26日	2	青 山 劇 場	ミュージカル 「ピーターパン」	104	養護施設等の児童 母子寮の母子 肢体不自由児施設の児童
計	9件	26			1,050	

「こどもの城」を多くの人に理解してもらい、その支援の輪を広げるとともに、「こどもの城」の利用の促進を図ることを目的とした会が「こどもの城友の会」である。この会は家族ぐるみで「こどもの城」とのつながりを持ち、利用してもらうことを願い、入会は家族単位で行うこととしている。

会員数（家族数）は、平成3年3月末現在で3,832家族。前年度同時期に比べ、99家族とわずかではあるが減少の傾向が見られた。会費の有効期間（＝会員期間）は、1年又は3年となっているが、本年度の場合は新規加入が1,151家族で、これに対し期間が満了しても継続しないケースは前年度並みの1,251家族であった。今後は、新規加入の増加を図ることはもちろん、入会した会員が「入会して良かった」と感じるような、更に魅力のある「こどもの城友の会」を育てる方策を考え、会員の定着を図る必要がある。

「こどもの城友の会」をより魅力あるものとするための企画の1つとして、本年度から会員を対象としてファミリーハイキングとファミリーキャンプを催した。「友の会ファミリーハイキング」は、5月27（日）に24組63人の参加を得て筑波山で行った。また、「友の会ファミリーキャンプ」は、9月23日（土）、24日（日）の2日間にわたって横浜にある「こどもの国」キャンプ場で行い、17家族58人の参加があった。いずれも参加者の好評を得、友の会の会員相互間、また、会員と「こどもの城」の密接なコミュニケーションを図るまたとない場となった。

このほか、引き続き行われている会員に対するサービスとして青山劇場、青山円形劇場の優待が12公演と1講演、優先予約のみの公演が2公演、特別案内を行ったものが6公演あった。また、隔月の「こどもの城ニュース」をはじめ、講座・クラブの各期ごとの案内、キャンプなどの各事業部の催し物の案内などを優先的にお知らせ（発送）した。

こどもの城友の会会員地区別分布

平3.3.31現在

区 分	東 京 都					埼玉県	神奈川県	千葉県	その他	合 計
	区 部			市町村	計					
	渋谷区	港 区	その他							
家族数(世帯)	384	325	1,846	255	2,810	195	479	179	169	3,832
人 数(人)	1,446	1,246	6,872	947	10,511	743	1,811	681	532	14,379

注) (1) 「その他」の道府県別内訳（家族数）

北海道 2、青森県 1、秋田県 4、岩手県 1、山形県 1、宮城県 1、福島県 3、新潟県 3
栃木県 15、群馬県 11、茨城県 36、山梨県 1、長野県 5、石川県 1、岐阜県 4、静岡県 24
愛知県 5、三重県 1、京都府 2、奈良県 1、大阪府 4、兵庫県 5、島根県 1、広島県 2
高知県 1、福岡県 1、佐賀県 1、大分県 1、宮崎県 1、鹿児島県 2

(2) 「家族数」の「神奈川県」のうち川崎市は157、横浜市224。

(3) 「人数」は家族構成員（登録された人）の数である。

「龍の子太郎」「フランツ・チゼック展」「シンポジウム」

開館記念の3大イベント

「こどもの城」は平成2年11月1日、開館5周年を迎えた。各事業部はそれぞれ記念事業に取り組んだが、「フランツ・チゼック展」「龍の子太郎」「記念シンポジウム」は、その中の3本柱をなすものであった。いずれも5周年にふさわしく、かつ「こどもの城」らしいものになり、各方面から注目を浴びることになった。

1) 美術教育のパイオニア フランツ・チゼック展

1865-1946 子ども・感性・環境

本展は、1985年にウィーン市立博物館で行われた「美術教育のパイオニア フランツ・チゼック展」を同博物館の協力により、日本において展示したものである。チゼック自身に関する資料とともに彼の指導による子供たちの多くの作品が展示された。また同展を記念して「こどもの創造性と造形教育について」をテーマにシンポジウムも開かれた。

世紀末、ウィーンの街角で、子供たちのいたずら書きの中に、子供の感性が表出されていることを観察したチゼックは、志していた画業への道を捨てて、子供の造形指導に全生涯を捧げた。子供の自由な感性表現を確立しようとした彼の実践活動は、その後続く人たちの指標となり、造形指導の原点というべきものとなった。我が国においては、戦前山本鼎などの実践に子供の造形活動を活性化する運動が見られるが、子供自身の表現を尊重した本格的な指導は戦後を待たねばならなかった。混乱した時代は過ぎ、経済的に安定したものの、子供たちを取り巻く環境の問題は深刻の一途をたどっている。それは、子供・親・教師の心と、互いの関係における問題でもある。ウィーンでの当時の子供たちにとっては抑圧的な社会の中であって、子供たちの心が造形というメディアを通して解放され、率直な表現にまで導いていったチゼックの教師としての業績は、今日の子供たちの健全育成のために見落としてはならない全人間的なかわりを象徴的に示しているものとして、貴重な展覧会であり、シンポジウムであった。

「こどもの城」は、1985年の開館記念として、子供の創造性を開発するために子どものためのプログラムを研究し、それを実践しているイタリアのブルーノ・ムナリー氏を招へいして「こどもの創造性を考える」シンポジウム、ワークショップ、展覧会を行った。それは現代に生きる造形作家が子供の表現活動に無縁ではないことを明らかにした証であり、その自由な精神はその後の造形スタジオの実践活動に貢献することになる機会であった。この2つの事

業は、時代が順逆になるが、子供の造形指導とは何かを考える人々に大きなインパクトを与えるものといえるだろう。

また同展開催に当たって制作されたカタログには、彼自身の手になる未発表原稿ほか多数の貴重な文献、資料が掲載され、今後のチゼック研究ひいては美術教育研究に欠かせないものとなった。

会期中には教育関係者はもとより、親子連れの観客等多数来館し、またシンポジウムについては、定員をはるかに超す応募者があり、急きょ臨時の席を設けるなど、多くの反響を呼んだ。

○展覧会 11月1日（木）～11月30日（金）

入場者数 11,377人

現在ウィーンでチゼック方式を受け継いだ方々が指導した子供たちの作品52点及び1907年から1932年の間に学校で制作された作品20点を展示した。ノイラント研究所付属小学校長であり、ウィーン子どもギャラリーの責任者でもある、エリザベート・サーファー女史のご好意によるものである。また、幼いころ、ウィーンでチゼックの指導する絵画教室に通い、現在日本に住むウッタ・シュレックさんの当時の作品も展示した。

これらウィーンの子供たちの作品とともに、開館以来5周年の間、造形スタジオに訪れた子供たちがさまざまなプログラムにより制作した作品を展示した。「素材との出会い展」－紙と造形・木と造形－、「造形発見展」－音と造形・光と造形・絵本と造形－、「オープンスタジオ」－造形ファクトリー・顔－などのワークショップ活動から、素材の特質を生かした、オリジナルプログラムの変化が一望でき、子供たちの個々の個性がパネルいっぱいに飾られた作品展示であった。制作に参加した子供たちも、初めて造形スタジオに訪れた子供たちも大人も、興味深く、また楽しそうに会話のはずむ作品展示であった。1階のチゼック展の影響もあり、全国からの参加者が多数であった。

○シンポジウム 11月11日（日）

プログラム

・今、なぜフランク・チゼックなのか？

武蔵野美術大学教授 村上暁郎

・フランク・チゼックの方法と彼の理念の継承（講演）

ノイラント学校研究所付属小学校校長および子供ギャラリー責任者 エリザベート・サーファー

・わたしと美術教育

町田市立国際版画美術館館長 久保貞次郎

・＜子供の美術＞の発見と20世紀の美術創造の地平

千葉大学教授＝長田謙一

・チゼックの現在

筑波大学教授 宮崎 理

進行

こどもの城造形事業部長 岩崎 清

通訳

泉 晶子

応募総数 600人

参加総数 330人

〔 定員 250人
臨時席 80人

○関係報道及び記事 総数 28

2) 日本のミュージカル「龍の子太郎」

公演初日に5周年祝賀パーティー

いろいろな開館5周年記念事業は、青山劇場での日本のミュージカル「龍の子太郎」の公演で最高潮に達した。11月3日から同15日までの全20回公演で13,800余人の観客を集め、初日には舞台終了後、こどもの城9階の研修室で5周年のお祝いと同ミュージカルの開演披露を兼ねたパーティーが開かれた。このパーティーには関係団体などの招待客約250人が出席した。席上、財団法人日本児童手当協会翁久次郎会長が、「こどもの城」の基礎を固める草創期の5年間に寄せられた各方面の支援、協力に感謝し、この基礎に立ち創設の趣旨達成を目指して更に前進する決意を述べた。

日本のミュージカル「龍の子太郎」は5年間の「こどもの城」劇場活動の集大成であると同時に、“創り出す劇場活動”への第一歩であった。

「こどもの城」の劇場活動は、子供にも大人にも楽しく、そのうえ斬新で、レベルの高い舞台芸術の実現を目指す、という難しい課題を背負って試行錯誤を続けてきた。開館5周年を機に劇場事業本部の初めてのオール・プロデュースにより日本のミュージカル「龍の子太郎」を上演したのは、こうした課題に対する一つの答えだった。

この答えは「正解」といいだろう。「こどもの城」の劇場活動の理念がみごとに具現されていたからだ。新聞、雑誌のこのミュージカル評には「子ども向けを超えた世界」「大人こそ見るべき今年屈指の傑作」「民話ミュージカルの分野に新生面を招いた」など、制作者の願い、意図がそのままくまれた表現が多かった。

5周年記念公演の企画に当たって、まず考えたのは日本の風土に根ざしたミュージカルを、ということだった。開館以来の青山劇場の公演を分野別にみると、ミュージカルが最も多く約3分の1を占め「ミュージカルに最適の劇場」というのが定評になったが、この劇場の特色を私たちの自主制作によって更に鮮明にし、将来に向かっての力強いステップにした。そのうえ、ミュージカルといえば欧米ものがほとんどといった日本の現状の中で、私たちの血で共感できるものをつくりたい、という思いから出た企画だった。

こう考えたとき日本児童文学の名作といわれる松谷みよ子さんの「龍の子太郎」が浮かんできた。脚本・演出をお願いした遠藤啄郎さんには「龍の子太郎」の上に、あえて「日本のミュージカル」という冠(かんむり)をつけて提案した。記念作品としてのオリジナリティーをここに求めたかったからだ。

この願いもさまざまな形で実った。遠藤さんは、これを龍をシンボルとする一族のスケールの大きな国造り神話としてとらえ、更にいまの社会にも強くアピールする舞台に構成した。音楽はインドネシアや中国、インドなどの楽器も使って、日本の音楽の中にあるアジア的な旋律が強調された。舞台美術も衣裳も極めて独創的なところが観客の目を見張らせ、すべてにオリジナリティーのあふれた舞台になった。

それは、この「日本のミュージカル」が、いろいろな面で日本を超える広がりや深まりを持ったということで、「日本の…」とつけた制作者側の予期以上の成果であった。

なお、これらの点が認められて「日本のミュージカル・龍の子太郎」は月刊ミュージカル誌による平成2年の国内初演ミュージカルのベスト10選出（演劇評論家・記者の投票）で第3位に選ばれた。また堀尾幸男さんは「龍の子太郎」の舞台美術で優れた成果をあげたとして平成2年度の伊藤喜朔賞を受けた。

<主なスタッフ>

原作 松谷みよ子 脚本・演出 遠藤啄郎 音楽 矢吹 誠 振付 森田守恒 舞台美術 堀尾幸男
衣裳・仮面 緒方規矩子 照明 沢田祐二 音響 市来邦比古

<主な出演者>

中村梅雀（龍の子太郎） 松谷たくみ（あや） 順みつき（龍）
大方斐紗子（婆さま・にわとり長者） 野口 英（山人の長・里人・魚）

3) シンポジウム「今、子どもたちは——これからの子育てを考える」

こどもの城主催、厚生省・朝日新聞社後援、株式会社ツムラ協賛、全国社会福祉協議会・日本保育協会・全国児童館連合会・母子衛生研究会協力の開館5周年記念シンポジウム「今、こどもたちは——これからの子育てを考える」が、11月5日午後1時半から青山劇場で約700人が参加して開かれた。講師は木村尚三郎（東大名誉教授）、河合隼雄（京都大学教授）、岡本暁（愛育病院小児科部長）、伊藤セツ（昭和女子大学教授）、飯野奈津子（NHK記者）の5氏、司会は朝日新聞編集委員の佐藤洋子氏である。

出生率の低下により、子供の数の減少が憂慮される中で、子供たちはいま、どのような問題に直面しているのか、子育て支援はどうあるべきか、健全育成の在り方は？など、明るい豊かな21世紀を目指すための論議を展開し、社会の関心を高めようというのがこのシンポジウムのねらいである。

財団法人日本児童手当協会小島弘仲理事長のあいさつの後、佐藤氏の司会でまず木村氏が「これからの社会・家庭・子ども」と題して基調スピーチを行った。同氏は「出生率が下がれば、国力も確実に低下する」と前置きして、現在のようなアフリカやアジア諸国の人口爆発は、その国の人たちが未来に希望を持っているからだと述べ、これからの日本の子供たちにとって大切なのは、国際社会の中で友人を作っていく能力と、いかなる環境でも生きていける力強さだと、グローバルな視点で強調した。

河合氏は「健全な子供とは、どんな子か」というテーマで、臨床心理の現場から、母親に凶暴な反抗をする子供の例をあげ、「子供たちはみんな良すぎるほどいい子なのだが、現代の子供はあまりにも作られ過ぎている。豊かになった暮らしの中で、親は我が子のために度を越した気遣いと、たっぷりしたお金を子供に注ぎ込む。あの本が読みたいな、と思った途端に目の前にさっとその本が並べられる。先に先にとお母さんがやってしまう」と指摘、さらに「問題児というのは、自分の心の問題を親や先生に投げかけているわけで、そういう子供こそ本当は健全なのだ」と結んだ。

実際に子育てを体験しつつある飯野氏のテーマは「子育てと仕事」。いかに共働き家庭の子育てが難しいかを、自らの体験と取材で得たデータに基づいて話した。子供を預ける場所の悩み、子に接する時間が少ないことの心配、「今の日本には制度的にも保育環境の面でも、働くお母さんが安心して子供を預けられる状況はまったく整備されていない」と訴えた。「共働きと子産み・子育て」というテーマの伊藤氏は「これからの男女の行き方は役割分担の固定ではあり得ない、男女がともに自立した人間として家庭を造り、子供を育てるのだということが言われている」とし、「お父さんが家事に携わった時間を1とすると、お母さんの家事の時間は、アメリカやフィンランドの共働き家庭だとせいぜい2とか3とかだが、日本の場合には7という数字が出てくる。お父さんが朝7時半に家を出て12時間から14時間、家に帰ってこないという状況が浮かび上がる」と数字から見た実態を示し、「これからの子育ては、男女

平等に立って父も母も子育てに参加することを追求しなければならない」と述べた。

小児科医の岡本氏は「こ供はちっともあぶなくない」というテーマで「先ほどから、子供たちの将来を憂慮するようなお話も出ているが、私はあえて‘そんなこともないんじゃないか’という立場で話してみたい」と発言、「子供はほうっておいても自然に育つもので、そこへ人間が手を加えて、大人たちが作り出した社会の中で、(大人に)有利なように子供を育てている。そういう間違いを最初の時点で犯しているのではないか。出発点に戻って、もう一度みんな考え直してみれば‘こ供はちっともあぶなくない’と言える世の中がくるのではないか、と考えている」と結んだ。

司会の佐藤氏は「親が、あまりに子供にかかわりすぎる。父親がもっと育児に参加すれば状況が変わるのではないか—大きく分けてそのような問題提起があったと思う」と述べていったん休憩に入った。

× × × ×

再開後、さらに講師のスピーチが続き、木村氏はユーモアたっぷりに自らの学生時代の話などを交えながら、現代の子供は大事にされるあまり、自分で危険から身を守るということがなござりにされている。絶えず五感を磨いて、自分1人でも生きていける「知的な野蛮人」としての育て方が大事である、と話した。

河合氏は、日本の子供たちが学校の点数によってのみ評価されがちだとして、個性の尊重を説き、それが人生全体の中でどんな意味を持っているかということをもっともっと考えるべきだ、と述べた。

岡本氏は、会場からの「ゼロ歳から8か月の基本的信頼関係について」という質問に答え「それは母子相互作用と呼ばれているが、この理論は背景があまり語られないまま、アメリカから直輸入されてしまった。出発点をもう一度振り返る必要がある」と戒めた。

また、男性の育児参加について「いまの男性社会のシステムの中では、15歳を過ぎた大人の男に呼びかけても無理だろう」という岡本氏に対して、伊藤氏は「高校と中学校の家庭科が形を変えて平成6年度から男性も女性もともに作る家庭ということで終始一貫することになり、展望は開けている」と説明した。

飯野氏は「地域全体が子育てに結びつくような仕組みを、国か自治体が縁結び役になって実現させるべきだ」と主張、会場からは「いま地域に子育てネットワークができつつある」という意見も出された。また、会場から「友達を作る能力、どんな社会でも生きて行ける能力、そういう子供が育つためのアドバイスがほしい」という声があり、木村氏は「それには礼儀作法を教える必要がある。国際社会の中で違った文化や歴史を持った人たちの間で、お互いに結び合っていく、友達になっていく基本である」と答えた。岡本氏も「日本の心の故郷であるアジアに戻って、みんなで子育てを考えよう」と呼びかけた。

佐藤氏は最後に「子育てとは価値観の再生産もはらんでいるわけで、私たちが住みにくい社会だと思ったら、それを再生産させない子育てこそ、私たちが果たしていかなければならない役割なのではないか」と締めくくった。

語 録 抄

(1) 女性上位

日本はもともと女性が強いんです。月給は全部奥さんに押さえられてます。これは日本の「奇習」でありまして、韓国ですらやっていないことです。しかも、男女並べるとき、日本は女性を先に呼ぶんですから。ヨーロッパでは男が先でロミオとジュリエットとか、シーザーとクレオパトラとかですよ。日本は逆でお軽勘平、お染久松（笑）、全部女が先です。お蔭主税、おさん茂兵衛とかみんな女性の人たちです。

—木村氏—

(2) 頭の使い方

みんな、なんか頭のいい子が偉いように思うんですが、大学卒業してから頭を使って生きるといったら、数学者とサッカーの選手ぐらいだと思いますよ。サッカーの選手はヘディングというのがありましてね、あれは頭を使う（笑）。学者っていったって、頭使わない学者もたくさんいるんですから。自分の子供の幸福ということをもういっぺん日本人全体が考え直していくという姿勢を持たないと、ほんと、子供はかわいそうだと思います。

—河合氏—

(3) お帰りなさい

子供たちが小学校の運動会で、平日だったんですが、私も休みが取れて見に行きました。すると、近くでお母さんたちが「こういう時は、パートはともいいわよ、いつでもやすめるから。お帰りなさいって言ってやれるのも、パートだからですよ。そうでなければ母親とはいえないわ」と私の耳元でささやいているのが聞こえてくるわけなんです。実は私も子供たちが小学校の低学年の時には、カゼでもひいて寝ているとき以外は、「お帰りなさい」って一度も言ってやったことがなかったわけなんです。

—伊藤氏—

(4) カキフライ

他の男性は家に帰れば食事はできているし着替えなどもさせてもらったりする。それを聞いて（夫は）不幸だ、不幸だと毎日言うんです。でも私は「定年退職した時にまわりの男性と比べてどっちが幸せかというのは、きっと分かるんだから、我慢なさい」というんです。だんだん分かってきて、いろんなことを積極的に、きのうも私がカキフライを揚げていますと、フライの揚げ方を教えてほしい、などとすり寄ってきたりします（笑）

—飯野氏—

(5) 「私、木よ」

息子が小学1年生の時に、家で誕生会ってのをやったんです。友達が10人ほどやって来ました。たまたまその2、3週間前に学芸会がありクラス全員で劇をやったんですね。それをなんと、我が家で子供たちが再現してくれたんです。感動しました。上手にやったからではないんです。端役の子供たちの、なんと生き生きした目。「私、木よ」って立っているんですが、その目がすごく輝いているんです。「私、草よ」って、こうやって小さくなって、そのまま生き生きしているんです。

—岡本氏—

4 開館 5 周年記念事業

こどもの城 開館 5 周年記念事業実施状況

事業名	日時	場所	内容	備考
【シンポジウム・セミナー】 健全育成シンポジウム	11月5日(月) 13:00~16:00	青山劇場	〈テーマ〉 今、こどもたちは ーこれからの子育てを考えるー 〈講師〉 東京大学名誉教授 木村尚三郎 京都大学教授 河合隼雄 愛育病院小児科部長 岡本 暁 昭和女子大学教授 伊藤セツ NHK記者 飯野奈津子 〈司会〉 朝日新聞編集委員 佐藤洋子 参加者 674人	後援 厚生省 朝日新聞社 協賛 (株)ツムラ
小児科セミナー 〈変わる育児事情〉	11月17日(土) 10:30~17:30	9F 研修室	〈テーマ〉 こどもの生活を考える 〈講師〉 和洋女子大学教授 坂本元子 瀬川小児神経学クリニック院長 瀬川昌也 聖心女子大学名誉教授 岡 宏子 参加者 121人	
【展示】 田沼武能写真展 〈遊ぶ 世界の子ども〉	4月27日(土)~ 5月27日(木)	造形スタジオ	写真家田沼武能氏の世界の子ども の遊ぶ情景の写真107点を展示 入場者 11,300人	後援 ユニセフ (国際連合児童基金東京支所) 日本ユニセフ協会
フランツ・チゼック展 1) 展覧会(1)	11月1日(木) ~30日(金)	ギャラリー	美術教育のパイオニアフランツ・チゼック (1865-1946) に関する資料及び子どもの作品334点を展示 入場者 11,337人	武蔵野美術大学と共催 後援 厚生省, 文化庁, オーストリア大使館, 朝日新聞社, 日本美術教育連合, 全国造形教育連盟
2) 記念シンポジウム	11月11日(日) 13:00~17:00	青山学院大学	〈テーマ〉 こどもの造形性と造形教育について 参加者 330人	武蔵野美術大学と共催
3) 展覧会(2)	11月1日(木) ~30日(金)	造形スタジオ	ウィーンの子どもたちの作品Ⅰ 絵画52点 ウィーンの子どもたちの作品Ⅱ 絵画20点 こどもの城の子どもたちの作品 多数	第5回造形スタジオ展として実施
こどもたちのパソコンソフト作品集	11月1日(木) ~18日(日)	パソコンルーム及び10F廊下	開館以来パソコン教室での作品の展示	
ボランティア活動写真展	11月1日(木)~ 18日(日)	4Fロビー	こどもの城ボランティアの開館以来5年間にわたる活動ぶりを写した写真展 80点	
チルドレンズミュージアムらかの記念カードの展示	11月1日(木) ~12月14日(金)	エントランスホール	アメリカのチルドレンズミュージアム(3か所)から送られてきた5周年を祝うカードを展示 112枚	

V その他の活動

事業名	日時	場所	内容	備考
【催し】 あそびフェスティバル	4月29日(日) ～5月6日(日)	音楽ロビー他 フリーホール ピロティ	キャッスルクエスト やってみよう つくってみよう おもしろピロティ劇場 (6回) ほか、あそびいろいろ	厚生省、(財)全国児童館連合会と共催 協賛 (財)日本児童福祉給食会
ぼくらのサウンド 5周年スペシャル	10月 20日(土)1回 21日(日)2回	青山円形劇場	音楽関係講座・クラブの発表会 (全3回)	
おもしろビデオ館 ＜世界絵本箱＞	11月1日(木) ～4日(日)	音楽スタジオ B	世界に伝わるいろいろな絵本をアニメーション化した作品の上映 (延べ16回)	
人形劇フェア	11月3日(土) 4日(日) 23日(金) 25日(日)	フリーホール	人形劇の観賞と人形作り (延べ10回)	
青山劇場、円形劇場公演 ダイジェスト特集	11月1日(木) ～4日(日)	AVライブラリー	平成元年11月～2年10月の青山劇場及び青山円形劇場公演ダイジェスト版の視聴	
音で遊ぼう Big 5	11月3日(土) 4日(日)	音楽ロビー	一般来館者を対象とする音楽に関する催し (延べ10回)	
開館記念セレモニー	11月3日(土) 14:30～	〃	5周年の祝いの式 理事長のあいさつのあと、マック・マックローも加わって子供たちと歌と踊りを楽しむ行事	上記の「音であそぼう Big 5」に組み込んで実施
世界一周ジャンケンめぐり	11月2日(金) ～4日(日)	屋上 ふしぎが丘 ネット広場	ふしぎが丘を世界に見立てて、いろいろな形のジャンケンを楽しむながら世界旅行をする催し	
【劇場公演】 子午線の祀り	4月4日(水) ～8日(日)	青山劇場	木下順二 作 山本安英の会 公演 公演回数 6回 入場者数 6,531人	
第5回 青山バレエフェスティバル	8月3日(金) ～5日(日)	〃	公演回数 4回 入場者数 2,444人	協賛 高島屋
バレエ・ブリティ シュ・コロンビア	9月28日(金) ～30日(日)	〃	公演回数 4回 入場者数 1,026人	協賛 城西大学
日本のミュージカル 龍の子太郎	11月3日(土) ～15日(木)	〃	松谷みよ子 原作 遠藤啄郎 脚色演出 公演回数 20回 入場者数 13,864人	後援 厚生省、文化庁、朝日新聞社 協賛 (株)ツムラ
第3回 五線譜のなかの動物たち	11月2日(金)～ 4日(日)	青山円形劇場	公演回数 5回 入場者数 1,152人	コンサート

(注) 平成2年10月20日から同年11月30日までの間を開館5周年の記念事業を集中的に行う期間として記念月間の設定をしたが、記念事業は記念月間外でも行われている。本表には、その両方をまとめて記載した。

「こどもの城」講座・クラブに関するアンケート調査結果

「こどもの城」が行う講座・クラブの計画及び運営についての参考とするため、平成2年度に来館者を対象としてアンケートを実施した。

調査方法及び調査結果は、次のとおりである。

<様式>

「こどもの城」講座・クラブについてのアンケート調査のお願い

「こどもの城」では、定期的・継続的に活動に参加したり施設を利用していただくプログラムとして、講座やクラブを実施しています。

ただいま、その講座・クラブの計画や運営についての参考とするため、皆様のご意見や感想をおたずねするアンケート調査を行っております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<年齢と性別の記入のしかた>

・記入者ご自身の講座・クラブのことについてお書きの場合はあなたの年齢、性別の区分に○をつけ、お子様の講座・クラブのことについてお書きの場合はお子様の年齢、性別の区分に○をつけます。

<調査票を出していただく方法>

- ・講座・クラブ受講（入会）中の方 → ご出席（ご利用）の際に担当の部からお渡しした用紙にご記入のうえ、翌週、その部へお出ください。
- ・そのほかの方 → 本日、お帰りまでに記入いただき、1階の出入口においてある「アンケート入れ」と書いてある箱へお入れください。

平成2年7月 こどもの城

1. 年齢 (1) 3歳以下 (2) 4・5歳 (3) 6～8歳 (4) 9～11歳 (5) 12～14歳
(6) 15～17歳 (7) 18～29歳 (8) 30歳以上

2. 性別 (1) 男 (2) 女

3. 住所 A (1) 渋谷区 (2) 港区 (3) 目黒区 (4) 世田谷区 (5) 新宿区
(6) 中野区 (7) 杉並区 (8) 品川区 (9) 東京都のその他の区 ()
(10) 東京都の市町村 ()
B (11) 横浜市 (12) 川崎市 (13) 神奈川県その他の市町村 ()
C (14) 埼玉県 (15) 千葉県 (16) その他のところ ()

4. 「こどもの城」の講座・クラブへの参加について

A 「こどもの城」に講座・クラブがあることを知っていましたか。

- (1) 知っていた (2) 知らなかった

B 今までに「こどもの城」の講座・クラブを受講（入会）したことがありますか。

- (1) 受講（入会）中 (2) 前に受講（入会） (3) ない

C 種目は何ですか。感想はいかがですか。

V その他の活動

(講座・クラブ名)	(ご感想)
.....	

5. 「こどもの城」の講座・クラブについてのご希望、ご感想について

・現在、受講（入会）中の方も、受講（入会）していない方も記入をお願いします。

A これから（も）受講（入会）したいと思いますか。

- (1) ぜひ受講（入会）したい (2) 希望に合う種目があったら受講（入会）したい
 (3) 受講（入会）したいが通えない (4) 受講（入会）の予定はない (5) わからない

B どのような種目の講座やクラブがあったらよいと思いますか。（○は3つ以内）

- | | | | |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ・表示の区分よりも具体的なお考えがありましたら（ ）内にお書きください。 | | | |
| ・今、開設中の種目でも、開設していない種目でもけっこうです。 | | | |
| (1) 体操 | (2) 水泳 | (3) 造形 | (4) 音楽 |
| () | () | () | () |
| (5) 育児 | (6) 健康づくり | (7) 社会福祉 | (8) その他 |
| () | () | () | () |

C 上の「B」の中でいちばん希望の強い種目は何番ですか。（番号は1つ）

(番)

<以下の「D」から「I」は、上の「C」の番号の種目についてご記入ください。>

D 希望する種目を講座とクラブのどちらでやりたいと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|---|---------|
| <u>講座</u> とは定期的に「こどもの城」に来て、一定のカリキュラムに従ったプログラムに参加する活動 | |
| <u>クラブ</u> とは定期的に又は希望するときに「こどもの城」に来て、施設を利用したり指導を受ける活動 | |
| (1) 講座 | (2) クラブ |

E 参加のしかたは、どちらがよいですか。（○は1つ）

- (1) こどもだけで (2) 親と子がいっしょに (3) おとなだけで

F 期間は、どれくらいがいちばんよいですか。（○は1つ）

- (1) 1年 (2) 半年 (3) 3か月 (4) 2か月 (5) 1か月 (6) その他 ()

G 何曜日がいちばん都合がよいですか。（○は1つ）

- (1) 月 (2) 火 (3) 水 (4) 木 (5) 金 (6) 土 (7) 日
 (8) 何曜日でもよい (9) その他 ()

H 開始時間は、どれがいちばん都合がよいですか。（○は1つ）

- (1) 10時 (2) 11時 (3) 12時 (4) 13時 (5) 14時 (6) 15時 (7) 16時
 (8) 17時 (9) 18時 (10) 午前中なら何時でもよい (11) 午後なら何時でもよい
 (12) 何時でもよい (13) その他 ()

5 アンケート調査結果

I 1 回当たりの時間数は、どれくらいがいちばいよいですか。(○は1つ)

(1) 40分 (2) 50分 (3) 1時間 (4) 1時間半 (5) 2時間 (6) その他 ()

J ほかに講座・クラブについてご意見やご希望がありましたらご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

1 調査方法

(1) 調査の時期

平成2年7月に行った。

(2) 調査の対象

「こども活動エリア」を利用する一般来館者と、講座・クラブの受講者(会員)を対象として実施した。

(3) 調査票の様式

別紙様式「アンケート調査のお願い」によって実施した。

(4) 調査票の配布及び回収

ア 一般来館者

調査票の用紙は、7月1日(日)から7月7日(土)までの間(7月2日(月)を除く。)に、アトリウム及びエントランスにおいて10時(平日は13時)から17時30分までの間に入館する一般来館者に配布し、当日退館時にアトリウム及びエントランスにおいて回収した(回収箱を設置)。また、7月28日(土)に追加して実施し、集計に加えることとした。

イ 講座・クラブの受講者(会員)

調査票の用紙は、講座・クラブの担当部が、原則として7月1日(日)から7月7日(土)までの間に講座・クラブに参加するために来館する受講者(会員)に配布し、翌週これを回収する方法により実施した。

(5) 担当部門

ア 調査の企画及び実施の総括

企画部

イ 調査票の配布及び回収

企画部、アトリウム部門
及び講座・クラブ担当部

ウ 実施結果の集計及び取りまとめ

企画部及びコンピュータ部

2 調査結果

(1) 回収し、集計の対象とした調査票は、1,012枚である。

(2) 調査結果の概要は、別掲の資料のとおりである。

(3) 調査結果について特記すべき主な点は、次のとおりである。

<年齢>

年齢は、記入者自身の年齢ではなく、調査票にだれの講座・クラブのことを記入するかによって区分してもらうこととしたので、この調査結果から年齢別の講座・クラブの需要状況を読み取ることができる。

その結果をみると、幼児（5歳以下）が全体の32.7%を占め、これに小学校低学年を加えると53.4%で全体の過半数を超える。一方では、18歳以上が25.6%と、全体の4分の1に達している。

半面、中・高校生（12歳～17歳）は、8.5%と少ない。ただ、これは、この調査の対象を「こどもの城」の来館者としたことから、調査に応じた人の大半が、小学校低学年以下の子を持つ親と小学校高学年本人であった結果であると推察される。

<性別>

性別の区分の考え方も、年齢の場合と同様である。女性が61.1%と男性（34.7%）の2倍近くであった。

<住所>

地元の渋谷区と港区とを合わせると26.2%と最も多く、世田谷区、目黒区がこれに続く。神奈川県は、隣接県の中では9.8%で最も多いが、10%をわずかで下回った。

<講座・クラブを知っていたか>

<受講（入会）したことがあるか>

「こどもの城に講座・クラブがあることを知っていたかどうか」については、2：1（66.4%（672人）：32.7%（331人））で、「知っていた」人の方が多い。一方、現在「受講（入会）中」の人は全体の43.3%（438人）で、これに「前に受講（入会）したことがある」人を加えると47.1%（477人）に達する。したがって、「知っていた」が「受講（入会）したことがない」人は、19.3%（672人－477人＝195人）もいることが分かる。

また、「知らなかった」と答えた人が32.7%（331人）で、住所が遠い人（東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県以外に住んでいる人）の3.9%（39人）を差し引いても28.9%（331人－39人＝292人）に達しており、潜在需要者が多いことをうかがわせている。

なお、「受講（入会）中」と「前に受講（入会）」とを合わせると47.1%、「受講（入会）したことがない」と「無回答」とを合わせると52.9%で、ほぼ同率であることから、この調査結果は、こども活動エリア利用者全体の平均的な意向をおおむね反映しているものと考えることができる。

<これから（も）受講（入会）したいか>

- ① 「ぜひ受講（入会）したい」と「希望に合う種目があれば受講（入会）したい」とを合わせる72.0%にも達し、受講（入会）の意志があるものが7割強を占める。
- ② これを受講（入会）経験の有無別にみると、経験のある人が受講（入会）の意志を持っていることは、継続ないし再受講（入会）に結びついていくことの表れと見られるが、経験のない人でも444人中に245人（55.2%）もあり、半数以上の人が新たに受講（入会）に結びつく可能性を持っていることを示している。

- ③ また、これを住所別にみると、個別の調査客体数が少ないために一概にいえませんが、一般的には「こどもの城」に近いほど受講（入会）希望の率が高いことがうかがえる。

＜希望する講座やクラブの種目＞

- ① この項目では、3 種目以内での複数回答を求めた。その結果、体育（体操と水泳を合わせたもの）が最も多く、924件で全体2,443件の37.8%を占め、次いで音楽が543件、22.2%と多く、これに造形が428件、17.5%と続き、これら3部門で全体2,443件中の1,895件、77.6%を占めている。

なお、これを講座希望者とクラブ希望者に分けてみても、また、年齢別にみても特記するような傾向は見当たらない。

- ② 更に、回答者の中から現在「受講（入会）中でない」人の分を抜き出してみると、全体としてクラブ形式を望む傾向が強い（講座の1.76倍 797件／454件）ことがうかがえるが、種目別では前記①の全体とあまり大きな違いは見受けられない。

- ③ 以上は、現在実施中の講座・クラブのプログラムは体育が最も受講者が多く、次いで音楽であるのに見合っている。

＜希望の強い種目＞

いちばん希望の強い種目でみると、体育、音楽、造形がこの種目の回答者数全体912人中の706人、77.4%を占める。これは、前記の3 種目以内での複数回答の場合とほぼ同じ傾向であるが、水泳と造形のウェイトが前記に比して高くなっている（水泳21.5%、造形18.5%）。

＜講座とクラブのどちらをやりたいか？＞

講座とクラブとがほぼ半数ずつを占める結果となっている。

なお、前記の「現在受講（入会）中でない人」の場合はクラブの方が多いが、全体では特に差がみられない。

＜参加のしかた＞

- ① 「こどもだけ」を希望する人が54.5%（552人）と最も多い。また「親と子が一緒に」が30.7%（311人）もあり、親子ぐるみを希望する人が多い。また、この両方を加えたもの、すなわち、子どもに関するプログラムを希望する人が85.3%（863人）を占めている。
- ② これを年齢別にみると、「子どもだけで」と「親と子が一緒に」との対比では、講座希望者とクラブ希望者との合計で、3 歳以下ではほぼ同率（子66人：親子67人）、4・5 歳では「こどもだけで」の方が2.5倍（子123人：親子49人）、6 歳以上では更に「子どもだけで」の比率が高くなっている。

＜希望する期間＞

1 年が40.6%（411人）、半年が25.1%（254人）、3 か月が19.3%（195人）で、これらの合計が85.0%（860人）に達し、3 か月以上の落ち着いたペースでの受講を望む傾向が強いことがうかがえる。

＜希望する曜日＞

平日は、水曜日が14.4%と最も多く、月曜日が3.9%で最も少ない。また、日曜日は14.7%

と相当多いが、土曜日の方が21.8%で各曜日を通じて最も多い。

＜希望開始時間＞

- ① 全体でみた場合、昼食時間の前後はやや少ない。また、16時以後の時間（16時、17時及び18時）の希望者は、18.2%に及んでいる。
- ② これを年齢別にみると、幼児のうち、3歳以下は午前の希望者が多いのに比し、4・5歳では午後（14時及び15時）が最も多い。

また、小学校低学年以下では17時以後を希望する人はごくまれであり、一方、18歳以上では18時以後の希望者が多くなっている。

なお、6歳以上に午前の希望があるのは、日曜日希望のケースと推察される。

- ③ 次に、住所別にみた場合、個別の客体数が少ないので一概にはいえないが、渋谷区や港区と、東京都のその他の区とを比較すると、前者に比し、後者は午後に希望が集中していることがうかがえる。
- ④ また、希望曜日別でみると、まず、平日の場合、一般に月曜日は18時以後の希望がなく比較的早い時間帯を望んでいるとみられるのに対して、金曜日は遅い時間（18時）を望む傾向がみられる。

土曜日及び日曜日については、ともに遅い時間帯が少なく、日曜日は早い時間帯（午前）の希望が多い。

＜1回の時間＞

- ① 1回当たりの時間数は、全体でみると、1時間が48.6%とほぼ半数を占め、以下1時間半（19.8%）、50分（10.0%）、2時間（9.7%）、40分（8%）と続く。
- ② これを年齢別にみても、一般的には1時間が多い傾向にあるが、12歳～14歳と15歳～17歳（中・高校生）については、それぞれの総数の中では1時間半ないし2時間とする人の比率が高いのが目立っている。

こどもの城事業年報 平成2年度

平成3年11月1日発行

財団法人 日本児童手当協会

理事長 小島 弘仲

〒 150 東京都渋谷区神宮前5-53-1

電話 03 (3797) 5666

印刷所 ヨシダ印刷両国工場